



PERSONAL MEDIA
CORP.

www.personal-media.co.jp



BTRON Specification OS — B-right/V 超漢字V 操作ガイド

本ソフトウェア（プログラム）は、著作権法で保護されています。不慮の事故に備える目的以外に複製することは違法になりますので、ご注意ください。

本書および本書の内容の全部または一部を、電氣的、機械的、光学的、化学的またはその他のいかなる方法によっても無断で書写、複写、再生、または翻訳することは、法律で禁止されています。

本書で説明されている内容は、機能向上のため予告なく変更されることがあります。本品を輸出するとき、または国外に持ち出すときは、相手国によっては、日本国政府の「外国為替及び外国貿易法」で定められた輸出許可などの手続きが必要な場合があります。

Copyright © 1999-2014 by Personal Media Corporation
1-29-1, Nishi-Gotanda, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0031 Japan

All rights reserved. No part of this material may be reproduced in any form or by any means without permission in writing from Personal Media Corporation.



VMware Player - Run any virtual machine on a Windows or Linux PC.

超漢字 V は、VMware Player 上で動作する BTRON 仕様 OS に基づくデスクトップ環境です。

多漢字を特長とした各種のアプリケーションソフトが含まれています。

「GT 書体フォント」

Copyright © 2000, 2001 日本学術振興会

未来開拓学術研究推進事業「マルチメディア通信システムにおける多国語処理の研究」プロジェクト

Copyright © 2001-2005 東京大学多国語処理研究会

TRON は、“The Real-time Operating system Nucleus” の略称です。

BTRON は、“Business TRON” の略称です。また BTRON は、コンピュータの仕様に対する名称であり、特定の製品を指すものではありません。

B-right は、パーソナルメディア株式会社の登録商標です。

超漢字は、パーソナルメディア株式会社の商標です。

VMware は、米国およびその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

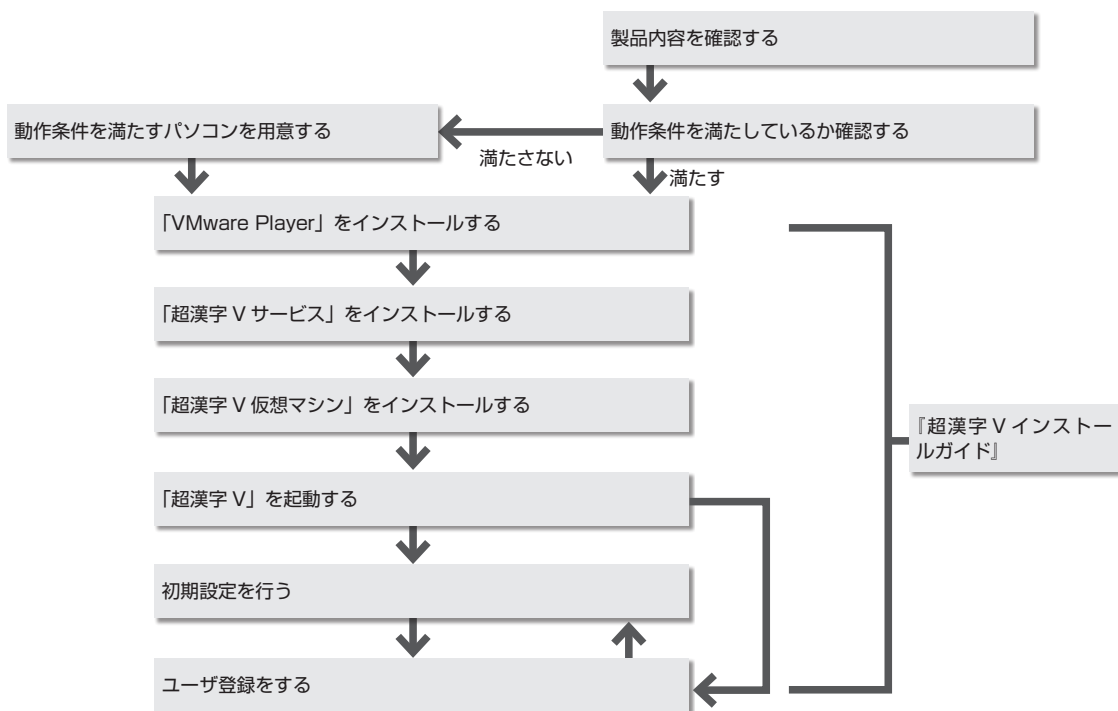
その他の商品名などは、各社の商標または登録商標です。

はじめに

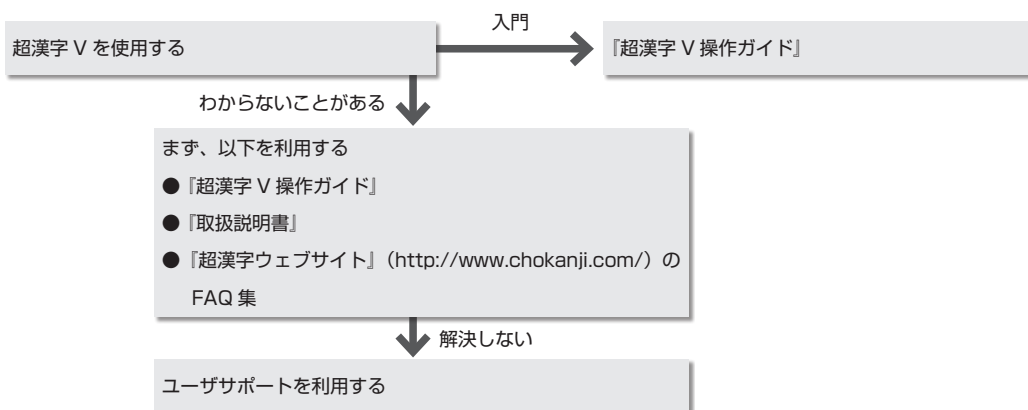
本書『超漢字 V 操作ガイド』では超漢字の基本操作や各種設定の方法をやさしく説明しています。また「超漢字 V」に添付されているアプリケーションを活用して、実際に利用する方法を解説しています。入門書としてもご活用ください。超漢字 V のインストールについては、製品附属の『超漢字 V インストールガイド』で説明しています。

超漢字 V のマニュアルについては、下記のようにご活用ください。

インストール手順



超漢字 V を使用する



動作条件

「超漢字 V」の動作には、以下の条件を満たす、Windows が動作するパソコンが必要です。

■動作条件

- OS : Windows 7 (32 ビット / 64 ビット日本語版)
Windows Vista (32 ビット日本語版)
Windows XP Professional SP2 以降 (32 ビット日本語版)
または Home Edition SP2 以降 (日本語版)
- CPU : 1.3GHz 以上
- メモリ : 最低 1GB、推奨 2GB 以上
- HDD : 1GB 以上の空き容量
- 画面解像度 : 最低 SVGA (800 × 600)
推奨 SXGA (1280 × 1024) 以上
- そのほか : CD-ROM ドライブ (インストール時に使用)
日本語キーボードまたは英語キーボード
マウス
VMware Player (本製品に標準添付)

■注意事項

- 超漢字 V を動作させるために、VMware Player を使い、Windows 上に超漢字 V の実行環境を構築します。
- Windows アプリケーションと同時に使用する場合には、画面解像度 SXGA (1280 × 1024) 以上を推奨します。
- 内蔵の PC カードスロットは利用できません。Windows を経由してご利用ください。
- パラレルポート接続の周辺機器は利用できません。Windows を経由してご利用ください。
- Windows Vista (64 ビット日本語版) には、対応していません。
- Windows XP Professional x64 Edition には、対応していません。

取扱説明書について

「超漢字 V」の取扱説明書の構成は以下のようになっています。

●『超漢字 V インストールガイド』(PDF 形式) ※

超漢字 V のインストール (登録・導入) 方法、はじめに行う設定、利用上の注意について説明しています。インストール前に必ずお読みください。

●『クイックリファレンス』(HTML 形式)

超漢字 V でよく使う操作を簡単に参照できるようになっています。(クイックリファレンスは本書にも掲載しています。)

●『超漢字 V 操作ガイド』(PDF 形式) ※

超漢字 V の基本的な操作や、各種設定の方法をやさしく説明しています。また、超漢字 V に添付されているアプリケーションを活用して、実際に利用する方法を解説しています。入門書としてもご利用ください。

Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [超漢字 V] — [マニュアル] — [操作ガイド (PDF)] を選んでください。

●『取扱説明書』(超漢字 V 電子マニュアル形式 / Microsoft HTML ヘルプ形式、PDF 形式、HTML 形式)

超漢字 V の機能や操作方法についての詳しい解説は、『取扱説明書』をご覧ください。

超漢字 V で利用できる形式と Windows で利用できる形式があります。

使い方は『クイックリファレンス』の「困ったときは」および『操作ガイド』の「基本操作編 第9章 取扱説明書で調べよう」をご覧ください。

なお、取扱説明書の最新版に関しましては、超漢字ウェブサイトをご参照ください。

超漢字 V 取扱説明書

<http://www.chokanji.com/ckv/manual/index.html>

※以下『超漢字 V インストールガイド』を『インストールガイド』、『超漢字 V 操作ガイド』を『操作ガイド』と記します。

本書で用いる記号について

本書『操作ガイド』で使用している記号やマークについて説明します。

『操作ガイド』では、Windows XP の標準の画面構成で超漢字 V を使っているものとして解説しています。お使いの環境によっては、画面表示や Windows での操作が一部異なる場合があります。



注 意

やってはいけないこと、操作を行う前や操作中に注意を要することなどが書かれています。



ポイント

操作が便利になるようなアドバイスや、使い方のコツなどが書かれています。参考にしてみてください。



補 足

操作手順や機能についての補足事項が書かれています。

目次

はじめに	3
------	---

超漢字 V 基本操作編

9

1. アプリケーション全解説 10

1.1 アプリケーションの分類	10
1.2 原紙タイプのアプリケーション	10
1.2.1 キャビネット《仮身一覧》	10
1.2.2 原稿用紙《基本文章編集》	10
1.2.3 画用紙《基本図形編集》	11
1.2.4 ブラウザ用紙《基本ブラウザ》	11
1.2.5 メール管理・メール箱・メール用紙 《超漢字メール》	11
1.2.6 計算用紙《基本表計算》	11
1.2.7 カード用紙《マイクロカード》	11
1.2.8 空書庫《書庫管理》	12
1.2.9 スクリプト用紙《マイクロスクリプト》	12
1.2.10 手帳用紙《電子手帳》	12
1.2.11 原紙箱《原紙一覧》	12
1.2.12 小物箱《小物一覧》	12
1.2.13 通信記録箱《基本通信》	12
1.2.14 プログラミング言語 T 開発環境 《プログラミング言語 T》	12
1.3 小物	13
1.3.1 ユーザ環境設定	13
1.3.2 システム環境設定	13
1.3.3 ネットワーク設定	13
1.3.4 取扱説明書	13
1.3.5 文字検索	13
1.3.6 郵便番号辞書	14
1.3.7 世界文字入力	14
1.3.8 電卓	14
1.3.9 時計	14
1.3.10 トレー	14
1.3.11 ユーザ辞書	14
1.3.12 画面印刷	14
1.3.13 原紙集め	15
1.3.14 バックアップ	15
1.3.15 ファイル変換	15
1.3.16 共有フォルダ参照	15
1.3.17 ねこ	15

2. 超漢字 V をはじめよう 16

2.1 超漢字 V を起動する	16
2.2 超漢字 V を終了する	16
2.2.1 初期ウィンドウを終了する	16
2.2.2 ウィンドウの状態を保持したまま終了する	17
2.3 画面に見えるもの	18
2.3.1 超漢字 V の画面	18
2.3.2 VMware Player の画面	19
2.4 アプリケーションを起動する	21
2.4.1 原紙をドラッグして取り出す	21
2.4.2 原紙をダブルクリックして取り出す	21
2.5 小物を起動する	22
2.5.1 小物メニューから起動する	22
2.5.2 小物箱から起動する	22

3. マウス操作 23

3.1 ポインタ	23
3.1.1 ポインタの名称	23
3.1.2 ホットポイント	23
3.2 マウスの操作	24

4. メニュー操作 25

4.1 メニューの表示	25
4.2 メニューの項目を選ぶ	25
4.3 ON マークがついているメニュー項目	26
4.4 キーボードを使ってメニューを選ぶ	26

5. ウィンドウ操作 27

5.1 ウィンドウを開く	27
5.2 ウィンドウを閉じる	27
5.3 ウィンドウの内容を保存して閉じる	28
5.4 ウィンドウを構成するもの	28
5.5 ウィンドウの基本操作	29
5.5.1 ウィンドウをいちばん前に出す	29
5.5.2 ウィンドウを移動する	29
5.5.3 ウィンドウの大きさを変える	30
5.5.4 ウィンドウを全画面表示にする	30
5.6 ウィンドウのスクロール操作	31
5.6.1 ジャンプスクロール	31
5.6.2 スムーススクロール	31
5.6.3 エリアスクロール	31

6. キーボード操作 32

6.1 主なキーの名前	32
6.2 文字入力の基本操作	33
6.2.1 ひらがなを入力する	33
6.2.2 カタカナを入力する	34
6.2.3 英数字を入力する	34
6.3 漢字を入力する	35
6.3.1 かなを漢字に変換する	35
6.3.2 文節の句切りを変更する	35
6.3.3 変換対象の文節を移動する	36
6.3.4 変換候補を選ぶ	36
6.3.5 変換を取り消す	36

7. 実身・仮身の基礎 37

7.1 実身・仮身とは	37
7.1.1 実身と仮身があらわすもの	37
7.1.2 仮身はいくつでも、どこにでも作れる	37
7.1.3 実身は仮身を使って操作する	38
7.1.4 Windows と比べてみると	38
7.2 実身を作る	38
7.3 仮身に関わる操作	39
7.3.1 仮身の複写	39
7.3.2 仮身の長さを変える	40
7.3.3 仮身を移動する	41
7.3.4 仮身を削除する	41
7.4 実身に関わる操作	42
7.4.1 実身複製	42
7.4.2 元の実身へ保存する	43
7.4.3 新しい実身へ保存する	44
7.4.4 実身名を変更する	45

8. Windows との連携機能 46

8.1 Windows との間で文字列を切り貼りする	46
8.1.1 文字列の切り貼りに関する設定	46
8.1.2 超漢字 V から Windows へ切り貼りする	47
8.1.3 Windows から超漢字 V へ切り貼りする	48
8.2 共有フォルダ参照	49
8.2.1 共有フォルダをネットワークで共有する	49
8.2.2 超漢字 V のファイルを Windows の 共有フォルダに格納する	51
8.2.3 Windows の共有フォルダのファイルを 超漢字 V に取り込む	52
8.3 Windows とユーザ登録辞書を交換する	54
8.3.1 超漢字 V のユーザ辞書の登録単語を Windows に設定する	54
8.3.2 Windows のユーザ辞書の登録単語を 超漢字 V に設定する	54
8.4 Windows に接続されたプリンタで印刷する	56
8.4.1 超漢字 V サービス	56
8.4.2 印刷設定	56

9. 取扱説明書で調べよう-----58

- 9.1 超漢字 V の取扱説明書を使う 58
 - 9.1.1 取扱説明書小物の起動 58
 - 9.1.2 取扱説明書小物の終了 58
 - 9.1.3 目次から調べる 59

- 9.1.4 索引から調べる 60
- 9.1.5 履歴を呼び出す 61
- 9.2 Windows の取扱説明書を使う 62
 - 9.2.1 ヘルプ形式 62
 - 9.2.2 PDF 形式 62
 - 9.2.3 HTML 形式 62

超漢字 V 設定編

63

1. ユーザ環境設定-----64

- 1.1 ユーザ環境設定を起動する 64
- 1.2 かな漢字変換の入力方式を指定する 65
- 1.3 かな漢字変換設定 65
 - 1.3.1 かな漢字変換のキー割り当て 65
 - 1.3.2 ローマ字とかなの対応 66
- 1.4 キー操作 67

2. システム環境設定-----68

- 2.1 システム環境設定を起動する 68
- 2.2 画面サイズを変更する 68
 - 2.2.1 画面サイズ/色数を変更する 68
 - 2.2.2 超漢字 V を全画面で表示する 69
- 2.3 周辺機器を使う 70
 - 2.3.1 キーボードの設定 70
 - 2.3.2 USB フラッシュメモリを使う 71
 - 2.3.3 フロッピーディスクを使う 71

- 2.3.4 CD-ROM を使う 72
- 2.3.5 電源管理 72
- 2.3.6 新機能に関する設定 72
- 2.4 プリンタの設定 73
- 2.5 画面の設定 74
- 2.6 書体 74
- 2.7 パージョン 75

3. ネットワーク設定-----76

- 3.1 VMware Player の設定 76
- 3.2 超漢字のネットワーク設定 76
- 3.3 Windows ホストアドレスの確認 77

4. 超漢字 V のシステムを復旧する-----78

- 4.1 システム CD を使って復旧する 78

超漢字 V 応用編

81

1. 覚えておきたい編集操作-----82

- 1.1 基本的な考え方 82
- 1.2 選択する 82
 - 1.2.1 クリックによる選択 82
 - 1.2.2 ドラッグによる選択 83
 - 1.2.3 選択対象を変更する 83
 - 1.2.4 選択を解除する 84
- 1.3 移動する/複写する 85
 - 1.3.1 移動する 85
 - 1.3.2 複写する 85
 - 1.3.3 移動/複写の方向を拘束する 86
 - 1.3.4 移動/複写中にスクロールする 86
 - 1.3.5 ほかのウィンドウへ移動/複写する 86
- 1.4 変形する 87
 - 1.4.1 大きさを変える 87
 - 1.4.2 大きさを変える方向を拘束する 87
- 1.5 削除する 88

2. 文字検索を使おう-----89

- 2.1 文字検索を使い始める 89
 - 2.1.1 文字検索を起動する 89
 - 2.1.2 文字検索のウィンドウの大きさを変える 90
 - 2.1.3 文字一覧の表示サイズを変える 90
- 2.2 コード一覧から探す 90
- 2.3 漢字を探す 92
 - 2.3.1 基本的な検索 92
 - 2.3.2 画数を指定して検索する 93
- 2.4 漢字検索を使いこなそう 94
 - 2.4.1 マイナス検索 94
 - 2.4.2 かけ算検索 95
 - 2.4.3 カタカナや記号を使った検索 95
 - 2.4.4 検索条件の絞り込み 95
- 2.5 記号を探す 96
 - 2.5.1 基本的な検索 96
 - 2.5.2 構成部品による検索 97
- 2.6 文字の情報を見る 98
 - 2.6.1 検索した文字の情報を見る 98
 - 2.6.2 異体字や関連字の情報を見る 98
 - 2.6.3 ほかのウィンドウの文字の情報を見る 99
- 2.7 探し出した文字を利用する 100
 - 2.7.1 ほかのアプリケーションに複写する 100
 - 2.7.2 ユーザ辞書に登録する 100
 - 2.7.3 原稿用紙に保存する 102
- 2.8 文章に含まれる文字種を調べる 102
- 2.9 区点入力パネルを使う 103

3. 案内状を作ろう-----104

- 3.1 案内文を作成する 104
 - 3.1.1 原稿用紙を用意する 104
 - 3.1.2 原稿用紙をウィンドウに開く 105
 - 3.1.3 表示モードを選ぶ 105
 - 3.1.4 案内文を入力する 106
- 3.2 案内文を整形する 107
 - 3.2.1 文字の大きさを変える 107
 - 3.2.2 文字の位置を変える 107
 - 3.2.3 書体を変える 107
 - 3.2.4 編集した内容を確認する 108
- 3.3 案内文を保存する 108
 - 3.3.1 ウィンドウを閉じる 108
 - 3.3.2 実身の名前を変更する 108
 - 3.3.3 仮身の長さを変える 109
- 3.4 地図を描く準備をする 109
 - 3.4.1 画用紙を用意する 109
 - 3.4.2 画用紙をウィンドウに開く 110
 - 3.4.3 基本図形編集の道具パネル 110
 - 3.4.4 格子点を表示する 110
- 3.5 地図を作成する 111
 - 3.5.1 道の太さを決める 111
 - 3.5.2 道を描く 112
 - 3.5.3 建物やバス停を描く 112
 - 3.5.4 建物やバス停の色を変更する 113
 - 3.5.5 道や建物の名前を書く 113
 - 3.5.6 地図のウィンドウを閉じる 114
- 3.6 案内文に地図を取り込む 114
 - 3.6.1 案内文に地図を複写ドラッグする 114
 - 3.6.2 地図の位置を調整する 115
 - 3.6.3 保存する 115

4. ホームページを見よう-----116

- 4.1 ホームページを閲覧する 116
 - 4.1.1 ブラウザ用紙を用意する 116
 - 4.1.2 ブラウザを起動する 116
 - 4.1.3 URL を直接入力する 117
 - 4.1.4 リンクをたどる 117
- 4.2 ブックマークに登録する 117
- 4.3 ユーザ設定 118
 - 4.3.1 画面の色や文字の大きさを変える 118
 - 4.3.2 書体を変える 118
- 4.4 基本ブラウザを閉じる 118

5. 超漢字メールを使おう-----119

- 5.1 メールを使おう 119
 - 5.1.1 超漢字メールを用意する 119
 - 5.1.2 メール管理の通信設定 120
 - 5.1.3 メール管理の個人設定 120
- 5.2 メールを送信する 121
 - 5.2.1 メール管理を開く 121
 - 5.2.2 メール用紙を取り出す 121
 - 5.2.3 メールを書く 121
 - 5.2.4 メールを送信する 122
- 5.3 メールを受信する 122
- 5.4 受信したメールを読む 123
- 5.5 メールを返信する 123
- 5.6 メールを転送する 124
- 5.7 ファイルを添付する 124
 - 5.7.1 ファイルを添付してメールを送信する 124
 - 5.7.2 受信したメールの添付ファイルを読む 125

6. はがきを印刷しよう-----126

- 6.1 住所録を作成する 126
 - 6.1.1 カード用紙を用意する 126
 - 6.1.2 カードを起動する 126
 - 6.1.3 カードを設計する 127
- 6.2 住所録を入力する 128
 - 6.2.1 データを入力する 128
 - 6.2.2 多漢字を使った住所録の作成 129
 - 6.2.3 カードを追加する 130
 - 6.2.4 カードをめくる 131
- 6.3 はがきのレイアウトを決める 132
 - 6.3.1 レイアウト図形実身を用意する 132
 - 6.3.2 レイアウト図形実身を設定する 132
- 6.4 レイアウト内容を入力する 134
 - 6.4.1 差出人の情報を入力する 134
 - 6.4.2 宛先の情報を入力する 135
- 6.5 はがきを印刷する 136
 - 6.5.1 作成したレイアウトをカードに設定する 136
 - 6.5.2 印刷設定を選ぶ 136
 - 6.5.3 印刷する 137

7. 小遣い帳を作ろう-----139

- 7.1 記録シートを作る 140
 - 7.1.1 計算用紙を用意する 140
 - 7.1.2 基本表計算の画面 140
 - 7.1.3 セルの座標と範囲 141
- 7.2 記録シートを設定する 141
 - 7.2.1 記録シートの大きさを決める 141
 - 7.2.2 罫線を引く 142
 - 7.2.3 日付の表記を設定する 142
 - 7.2.4 金額の表記を設定する 142

- 7.2.5 タイトルを固定する 143
- 7.3 記録シートに値を入力する 143
 - 7.3.1 列のタイトルを入力する 143
 - 7.3.2 セルに値を入力する 144
- 7.4 計算式を入力する 145
 - 7.4.1 計算式を考える 145
 - 7.4.2 計算式を入力する 145
 - 7.4.3 計算式を一度に入力する 146
 - 7.4.4 入力した値を削除する 146
- 7.5 小遣い帳を作る 147
 - 7.5.1 原稿用紙を用意する 147
 - 7.5.2 小遣い帳の雛型を作成する 147
- 7.6 文章の中に記録シートを貼り込む 148
 - 7.6.1 小遣い帳の原紙に記録シートを複写する 148
 - 7.6.2 開いた仮身を表示する 148
 - 7.6.3 仮身の表示を変える 149
- 7.7 小遣い帳を利用する 150
 - 7.7.1 原紙箱を作成する 150
 - 7.7.2 原紙箱に登録する 150
 - 7.7.3 小遣い帳に記入する 150

8. マイクロスクリプトにチャレンジ-----152

- 8.1 マイクロスクリプトとは? 152
 - 8.1.1 台本 152
 - 8.1.2 役者・舞台 153
 - 8.1.3 裏方 153
 - 8.1.4 まとめ 153
- 8.2 プログラムの下準備 153
 - 8.2.1 スクリプト用紙を用意する 153
 - 8.2.2 スクリプト（台本）を用意する 154
 - 8.2.3 スクリプト（台本）を起動する 154
- 8.3 ウィンドウに猫の絵を表示する 155
 - 8.3.1 役者を用意する 155
 - 8.3.2 台本を作る 156
 - 8.3.3 プログラムを実行する 157
- 8.4 ウィンドウの中で猫の絵を移動する 158
 - 8.4.1 座標位置を指定する 158
 - 8.4.2 猫の絵を移動する 158
 - 8.4.3 猫の絵を絶対座標を使って移動する 159
 - 8.4.4 待ち時間を指定する 160
- 8.5 マイクロスクリプトのまとめ 160

9. 世界文字入力を使おう-----161

- 9.1 世界文字入力を起動する 161
- 9.2 修飾記号付きアルファベットを入力する 162
 - 9.2.1 フランス語を入力する 162
 - 9.2.2 スペイン語を入力する 163
 - 9.2.3 ドイツ語を入力する 163
- 9.3 中国語を入力する 164
- 9.4 韓国語を入力する 165

超漢字 V 解説編

167

1. 多漢字を使おう-----168

- 1.1 使える漢字と使えない漢字 168
- 1.2 超漢字での多漢字 169
- 1.3 使える文字の種類 170

2. 超漢字シリーズからのデータ移行方法-----172

- 2.1 操作の手順 172
- 2.2 バックアップ小物の使い方 173
 - 2.2 (A) バックアップファイルの保存 173
 - 2.2 (B) バックアップファイルの復帰 174
- 2.3 ファイル変換 175
 - 2.3 (A) ファイルの出力（超漢字シリーズの操作） 175
 - 2.3 (B) ファイルの入力（超漢字 V の操作） 176
- 2.4 設定ファイルの保存 177
 - 1. ユーザ辞書 177
 - 2.4.1 (A) データの保存（超漢字シリーズの操作） 177
 - 2.4.1 (B) 登録（超漢字 V の操作） 177

- 2. キー割り当て定義ファイル 178
 - 2.4.2 (A) データの保存（超漢字シリーズの操作） 178
 - 2.4.2 (B) 登録（超漢字 V の操作） 178
- 3. ローマ字とかなの対応の定義ファイル 179
 - 2.4.3 (A) データの保存（超漢字シリーズの操作） 179
 - 2.4.3 (B) 登録（超漢字 V の操作） 179
- 4. キー配列変更定義ファイル 180
 - 2.4.4 (A) データの保存（超漢字シリーズの操作） 180
 - 2.4.4 (B) 登録（超漢字 V の操作） 180

3. かな漢字変換-----181

- 3.1 かな漢字変換を使った記号入力 181
- 3.2 ローマ字変換表 182
 - 3.2.1 BTRON-nn 方式／BTRON-n 方式 182
 - 3.2.2 VJE 方式 183
 - 3.2.3 Windows 方式 184

索引-----185

補足見出し一覧-----191

超漢字 V クイックリファレンス-----192

超漢字Ⅴ 基本操作編

アプリケーション全解説

1

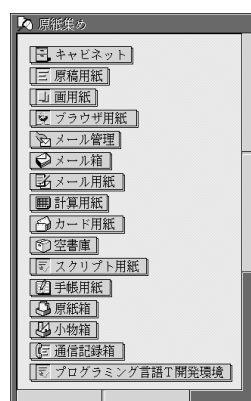
超漢字 V に含まれる全アプリケーションを簡単に解説します。
それぞれのアプリケーションの詳しい使い方については、取扱説明書をご覧ください。

1 アプリケーションの分類

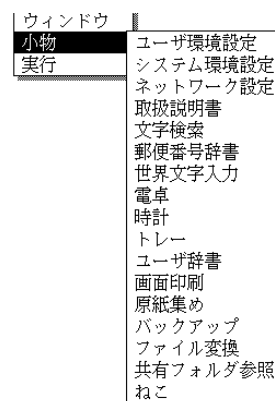
超漢字のアプリケーションは、原紙タイプと小物タイプの 2 つのタイプに分類されます。

原紙タイプのアプリケーションには、基本文章編集、基本図形編集、基本表計算、マイクロカードなどがあります。それぞれのアプリケーションは、原紙箱や原紙集めにある、まっさらなデータ（原紙）を取り出して使うため、原紙タイプとよばれています。ユーザはこの原紙を利用してデータを作成します。

小物は、いわゆるアクセサリやユーティリティソフトに相当するもので、文字検索小物、ユーザ辞書小物、取扱説明書小物などがあります。小物メニューから直接起動することができるので、小物タイプとよばれています。



▲ 原紙タイプ



▲ 小物タイプ

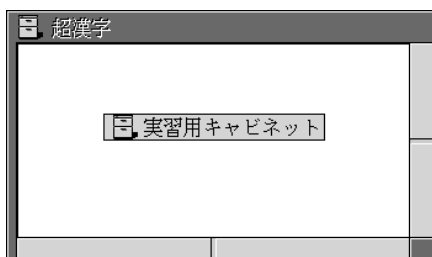
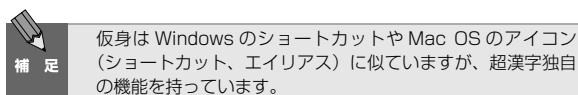
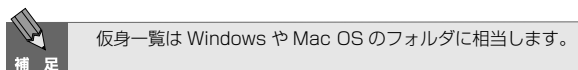
2 原紙タイプのアプリケーション

超漢字で使用可能な原紙タイプのアプリケーションを解説します。
原紙は、原紙箱や原紙集めから取り出して使います。《 》内はアプリケーションの名前です。

1.2.1 キャビネット《仮身一覧》

仮身を保管、整理するためのアプリケーションです。仮身は短冊のように見える横長の長方形で表示されています。

キャビネットの中にさらにキャビネットの仮身を格納するなど、データを入れ子状に管理することもできます。



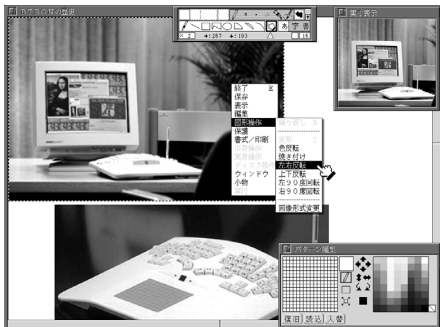
1.2.2 原稿用紙《基本文章編集》

文章を作成するためのワープロソフトです。多漢字を使った文章だけでなく、仮身や図形を埋め込むことができます。(→応用編 第 3 章 案内状を作ろう：p.104)



1.2.3 画用紙《基本図形編集》

直線・長方形・楕円形・自由曲線・多角形などの図形を作成するドロー系の機能と、細かな点で構成される画像を編集するペイント系の機能をあわせ持っています。また、多漢字を含む文字列を入力したり、仮身を置いたりできます。(→応用編 第3章 案内状を作ろう：p.104)



1.2.4 ブラウザ用紙《基本ブラウザ》

インターネット上のウェブサイトを開覧するためのアプリケーションです。基本ブラウザに表示されている文章や図形を、そのまま基本文章編集や基本図形編集のウィンドウにドラッグして利用できます。(→応用編 第4章 ホームページを見よう：p.116)

補足 基本ブラウザはフリーソフトです。

注意 HTML3.2 に準拠していますが、フレームには未対応です。

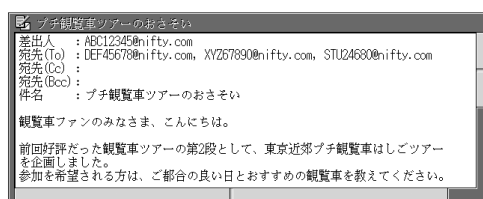
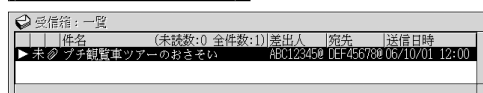
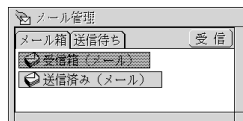


1.2.5 メール管理・メール箱・メール用紙《超漢字メール》

インターネットに接続して、メールを送受信したり、メールを読み書きするためのアプリケーションです。

メール管理を使って、メールの送受信に必要な設定や、メールの送受信を行います。

メールを書くときは、メール用紙を使います。送受信されたメールは、メール箱に格納されます。(→応用編 第5章 超漢字メールを使おう：p.119)



1.2.6 計算用紙《基本表計算》

表計算のアプリケーションです。表を作成したり、計算式に従って自動的に計算させることができます。家計簿や見積書などを作成できます。セルの中に多漢字を含む文字列を入力したり、仮身を置いたりできます。(→応用編 第7章 小遣い帳を作ろう：p.139)

Cellius 860		お見	
価格:	¥36,000	(1.33%値引きしています)	詳細
諸経費:	¥4,500		
消費税:	¥2,025	単価: ¥36	数量:
税込価格:	¥42,525		

1.2.7 カード用紙《マイクロカード》

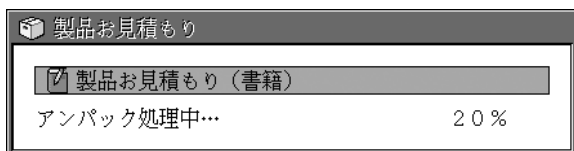
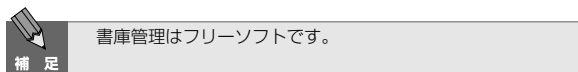
カード型データベースソフトです。カードの中に多漢字を含む文字列を入力したり、仮身を置いたりできます。マイクロカードのデータを使って、はがきや宛名ラベルを印刷することもできます。(→応用編 第6章 はがきを印刷しよう：p.126)

氏名	高崎 秀吉
ふりがな	たかさき ひでよし
郵便番号	555-0032
住所	大阪市西淀川区大和田45-6
建物名	
TEL	06-2022-1
旧姓	

氏名	ふりがな	住所
7 齊藤 正雄	さいとう まさお	東京都目黒区自由が丘50-
8 真田 ひろみ	さなだ ひろみ	東京都豊島区西巣鴨15-5
9 島田 勝次	しまだ かつじ	東京都青梅市沢井61-6
10 高桑 幸一	たかくわ こういち	東京都墨田区墨田94-65
11 高桑 陽子	たかくわ ようこ	埼玉県朝霞市上社65-16
12 高桑 好美	たかくわ よしみ	長野県諏訪郡富士見町25-
13 高桑 健児	たかさき けんじ	東京都調布市小柴42-2
14 高崎 秀吉	たかさき ひでよし	大阪市西淀川区大和田45-
15 高崎 晋也	たかはし しんや	東京都千代田区東神田町45
16 高崎 祐子	たかはし ゆうこ	山梨県甲府市塩原57-5
17 高崎 明子	たかはし あきこ	知念山田町立保木園54-6

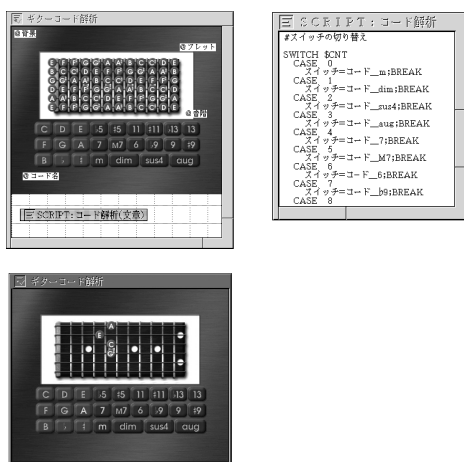
1.2.8 空書庫《書庫管理》

超漢字上のデータを圧縮したり解凍したりできます。圧縮したデータは容量が小さくなるので、メールに添付して送信する際や、データのバックアップを作成する際に便利です。(→解説編 2.2 補足：書庫形式でファイルを移行する：p.174)



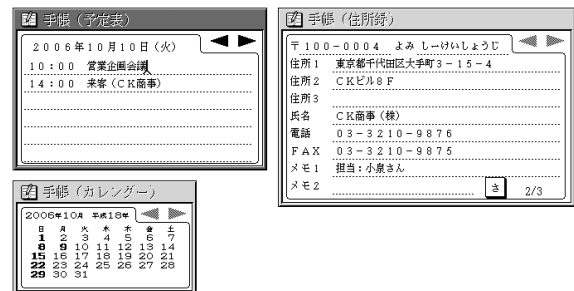
1.2.9 スクリプト用紙《マイクロスクリプト》

オリジナルのアプリケーションを作成するためのプログラミング言語です。ビジュアルの表現に強く、マルチタスクやイベント処理などの豊富な機能をサポートしているので、プレゼンテーションや外部機器制御をはじめとした業務用アプリケーションの開発に適しています。(→応用編 第8章 マイクロスクリプトにチャレンジ：p.152)



1.2.10 手帳用紙《電子手帳》

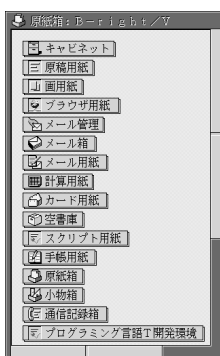
予定表、住所録、カレンダーを装備した電子手帳です。



1.2.11 原紙箱《原紙一覧》

超漢字で使用可能なアプリケーションの原紙を表示します。また、ユーザが作成した原紙 (ユーザ原紙) を登録しておくこともできます。

原紙箱は最初から初期ウィンドウに置かれていますが、原紙箱は仮身なので、仮身を置けるウィンドウであればどこにでも、原紙箱の仮身を複写しておくことができます。よく使うウィンドウに原紙箱の仮身を置いておくとう便利です。



1.2.12 小物箱《小物一覧》

超漢字で使用可能な小物を表示します。小物箱から直接小物を起動できます。小物メニューに表示する小物の種類や並び順をカスタマイズすることもできます。小物箱は最初から初期ウィンドウに置かれていますが、



1.2.13 通信記録箱《基本通信》

パソコン通信用のアプリケーションです。送信側も受信側も基本通信を使っていれば、図形や色付きの文字、多漢字を使った通信ができます。

1.2.14 プログラミング言語 T 開発環境《プログラミング言語 T》

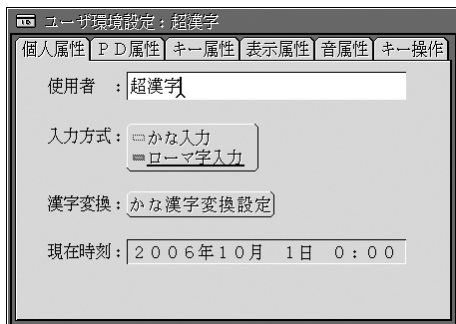
日本語化されたマイクロスクリプトと、コンソール環境で構成されたプログラミング言語環境です。日本語の命令文を使えるので、初心者でも簡単にプログラミングが始められます。

3 小物

超漢字で利用可能な小物を解説します。
小物は、小物メニューから起動する方法と、小物箱から起動する方法があります。

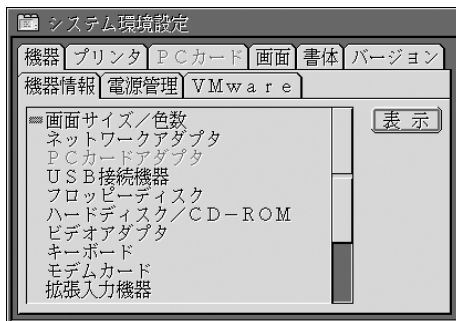
1.3.1 ユーザ環境設定

文字の入力方式や、マウスの操作、表示の設定などを調整します。(→設定編 第1章 ユーザ環境設定:p.64)



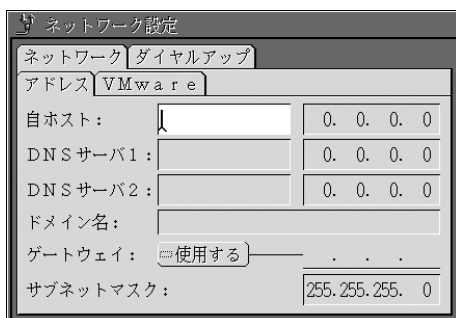
1.3.2 システム環境設定

超漢字に接続されている周辺機器の設定や、画面の設定を行います。また、登録されている書体やアプリケーションを管理します。(→設定編 第2章 システム環境設定:p.68)



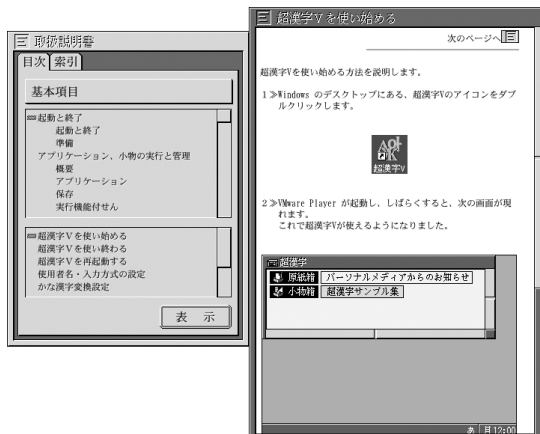
1.3.3 ネットワーク設定

ネットワークに接続するために必要な情報を設定します。(→設定編 第3章 ネットワーク設定:p.76)



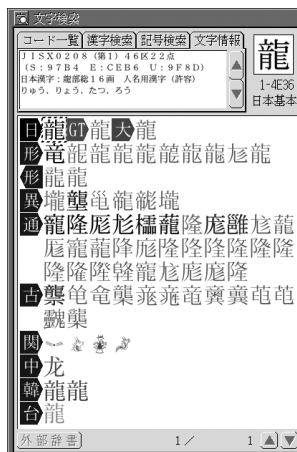
1.3.4 取扱説明書

超漢字の機能を解説した電子マニュアルです。目次と索引から調べたい項目を探すことができます。また、本文中の仮身をダブルクリックして、関連する項目を次々にたどることができます。(→基本操作編 第9章 取扱説明書で調べよう:p.58)



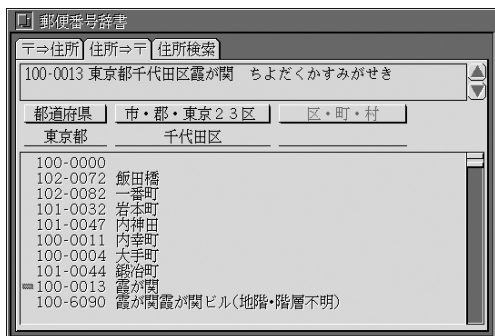
1.3.5 文字検索

超漢字に収録されているすべての文字の中から、目的の文字を探し出し、その文字の情報を閲覧できます。(→応用編 第2章 文字検索を使おう:p.89)



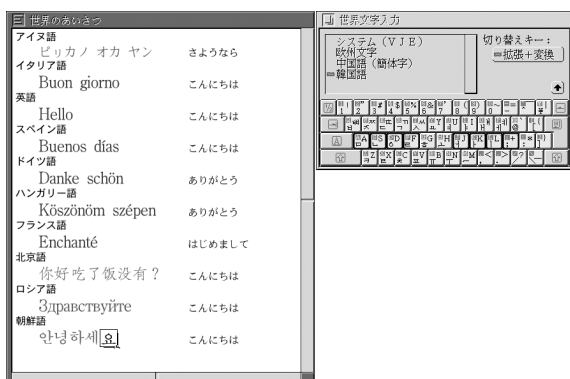
1.3.6 郵便番号辞書

多漢字を使った郵便番号辞書です。住所から郵便番号を検索できます。逆に、郵便番号から住所を検索することもできます。(→応用編 623 補足：郵便番号辞書：p.131)



1.3.7 世界文字入力

通常のかな漢字変換では入力できない文字を入力するための小物です。その言語に対応したキー操作に切り替えて使うことができます。(→応用編 第9章 世界文字入力を使おう：p.161)



1.3.8 電卓

メモリ機能付きの電卓です。ほかのウィンドウから数値をドラッグして持ってきたり、計算結果をほかのウィンドウにドラッグして貼り込むことができます。



1.3.9 時計

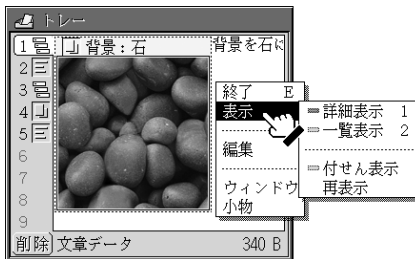
アナログ表示の時計です。



1.3.10 トレー

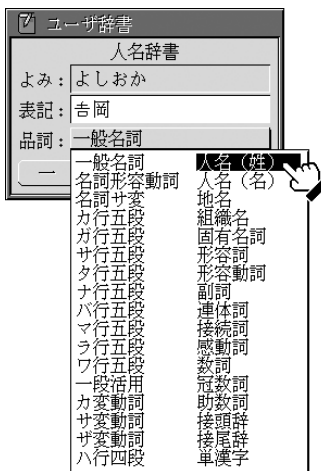
データを移動したり複製したりするときの一時的な格納場所です。

トレーには、文章、図形、仮身など、どんなデータでも最大9件まで格納できます。また、トレーを経由して、Windows との文章（文字列）の交換もできます。



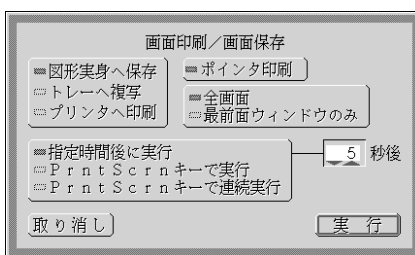
1.3.11 ユーザ辞書

かな漢字変換に使うユーザ辞書を管理します。複数のユーザ辞書を切り替えて利用できます。多漢字を使った人名や地名など、超漢字に収録されているあらゆる文字を使った単語を登録できます。(→応用編 2.7.2 ユーザ辞書に登録する：p.100)



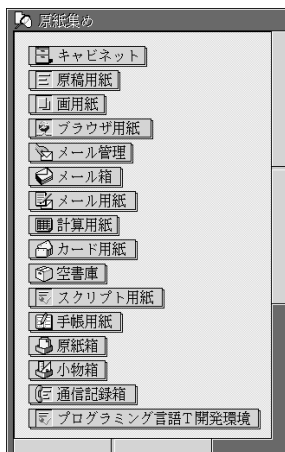
1.3.12 画面印刷

超漢字の画面全体やウィンドウを図形データとして保存したり、プリンタから印刷したりできます。保存や印刷の開始時間を調整することができます。



1.3.13 原紙集め

原紙タイプのアプリケーションを一覧表示します。
「原紙箱」とおなじように、原紙をほかのウィンドウへドラッグして取り出します。メニューから起動できるので、原紙箱を置いたウィンドウがほかのウィンドウに隠れてしまっている場合にも使えます。



1.3.14 バックアップ

超漢字のデータを圧縮して、まとめて保管するためのバックアップデータを作成します。(→解説編 2.2 バックアップ小物の使い方：p.173)



1.3.15 ファイル変換

ハードディスクの Windows 用区画、外部記憶装置、ネットワーク (ftp) などに格納されたデータと、超漢字で作成したデータを、双方向に変換できます。(→解説編 2.3 ファイル変換：p.175)



1.3.16 共有フォルダ参照

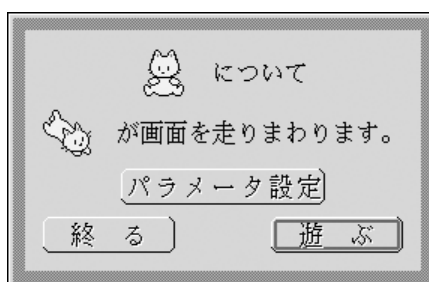
Windows のファイル共有機能で共有設定したフォルダに格納されたデータと、超漢字で作成したデータを、双方向に変換できます。

また、超漢字で作成したデータをそのままアーカイブ形式に変換できるので、書庫管理やバックアップ小物を使わなくても Windows 区画にデータを格納することができます。(→基本操作編 8.2 共有フォルダ参照：p.49)



1.3.17 ねこ

かわいい「ねこ」が画面の中を走り回ります。



超漢字 V をはじめよう

2

超漢字 V の起動と終了の方法や、画面に現れるウィンドウの役割について説明します。

1 超漢字 V を起動する

1. パソコンの電源を入れて、Windows を起動します。
2. デスクトップにある「超漢字 V」のショートカットをダブルクリックします。



Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [超漢字 V] - [超漢字 V] を選んでもかまいません。



3. VMware Player が起動します。
しばらくすると、VMware Player のウィンドウ内に「超漢字 V」が起動します。



ポイント

超漢字 V を起動したときに画面に現れる、「超漢字」というタイトルのついたウィンドウのことを、初期ウィンドウとよびます。

2 超漢字 V を終了する

超漢字 V を終了するには、使用したすべてのウィンドウを閉じてから終了する方法と、ウィンドウの状態を保持したまま終了する方法があります。

2.2.1 初期ウィンドウを終了する



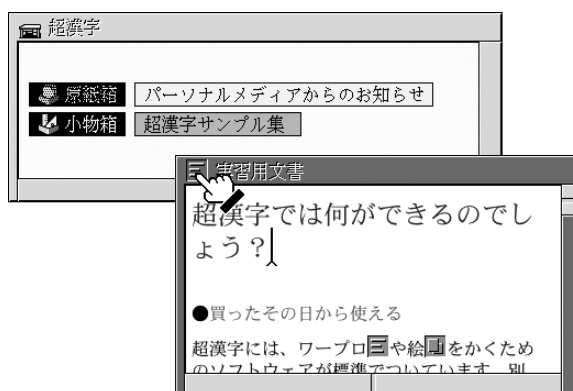
注意

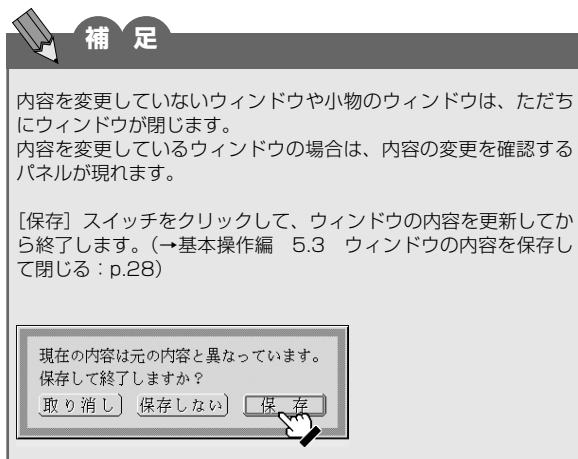
トレイに複写したデータが残っている場合、超漢字 V を終了するとトレイのデータは消去されます。初期ウィンドウを閉じる前に、トレイに残っている内容を確認することをお勧めします。[小物] メニューの [トレイ] を選ぶとトレイ小物が起動します。トレイの詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉 - 〈基本項目〉 - 〈トレイ〉をご覧ください。

1. 初期ウィンドウ以外のすべてのウィンドウを閉じます。
ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。

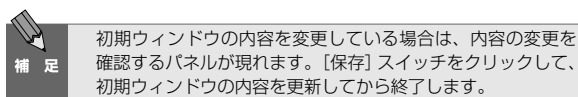
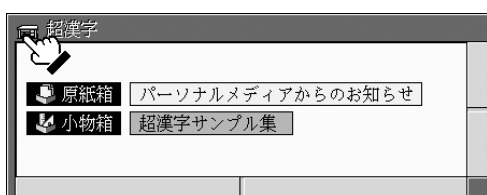


[終了] メニューを選んでも、左 [Ctrl] キーを押しながら [E] キーを押してもかまいません。

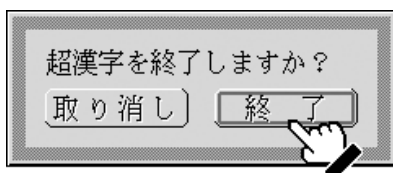




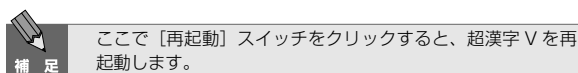
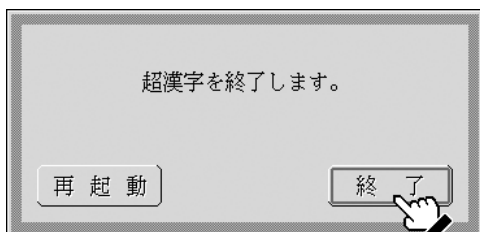
2. 初期ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。



3. 超漢字の終了を確認するパネルが現れます。
【終了】スイッチをクリックします。

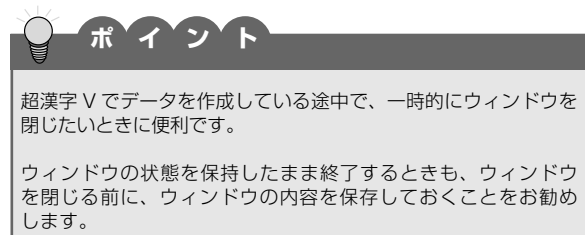


4. 超漢字の終了を知らせるパネルが現れます。
【終了】スイッチをクリックすると、超漢字を終了します。

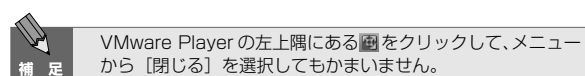


2.2.2 ウィンドウの状態を保持したまま終了する

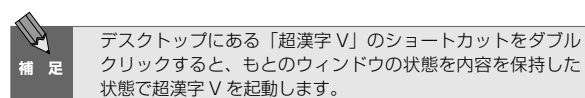
VMware の機能を使って、超漢字 V のウィンドウの状態を保持したまま閉じることができます。



1. VMware Player のウィンドウの右上隅にある **x** をクリックします。



2. 超漢字 V を終了せずに、VMware Player を終了します。

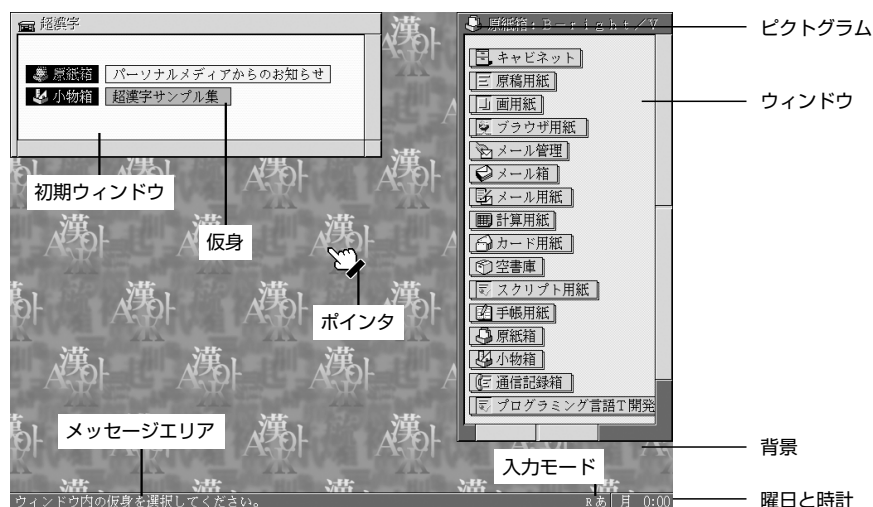


3 画面に見えるもの

2

超漢字Vをはじめよう

2.3.1 超漢字Vの画面



初期ウィンドウ

超漢字を起動したときに最初に現れる「超漢字」というタイトルのウィンドウを初期ウィンドウとよびます。

ウィンドウ

背景の上に表示される四角い枠です。Windowsのウィンドウと同じ役割をします。ウィンドウは同時にいくつでも開くことができます。また、表示する位置や大きさを変更できます。

複数のウィンドウが開いている場合、濃いグレーの枠のウィンドウが、現在操作の対象となっている最前面ウィンドウです。それ以外のウィンドウは薄いグレーの枠で表示されます。

ピクトグラム

ウィンドウの左上端や仮身の左端にある絵文字です。ウィンドウが開いているときにピクトグラムをダブルクリックするとウィンドウを閉じます。

仮身

ウィンドウの中に表示されていて、短冊のような形をしています。仮身にはピクトグラムや実身の名前が表示されています。

ポインタ

マウスを動かすと、それにあわせて画面を移動します。Windowsのマウスカーソルと同じ役割をします。超漢字のポインタは、そのときどきの状況によって、いろいろな形状に変化します。(→基本操作編 3.1 ポインタ：p23)

背景

ウィンドウが表示される場所です。Windowsの壁紙にあたります。

背景の上には、ウィンドウのみ置くことができます。Windowsのデスクトップとは異なり、直接仮身を置くことはできません。

メッセージエリア

画面のいちばん下にあり、ユーザへのメッセージが表示されます。

入力モード

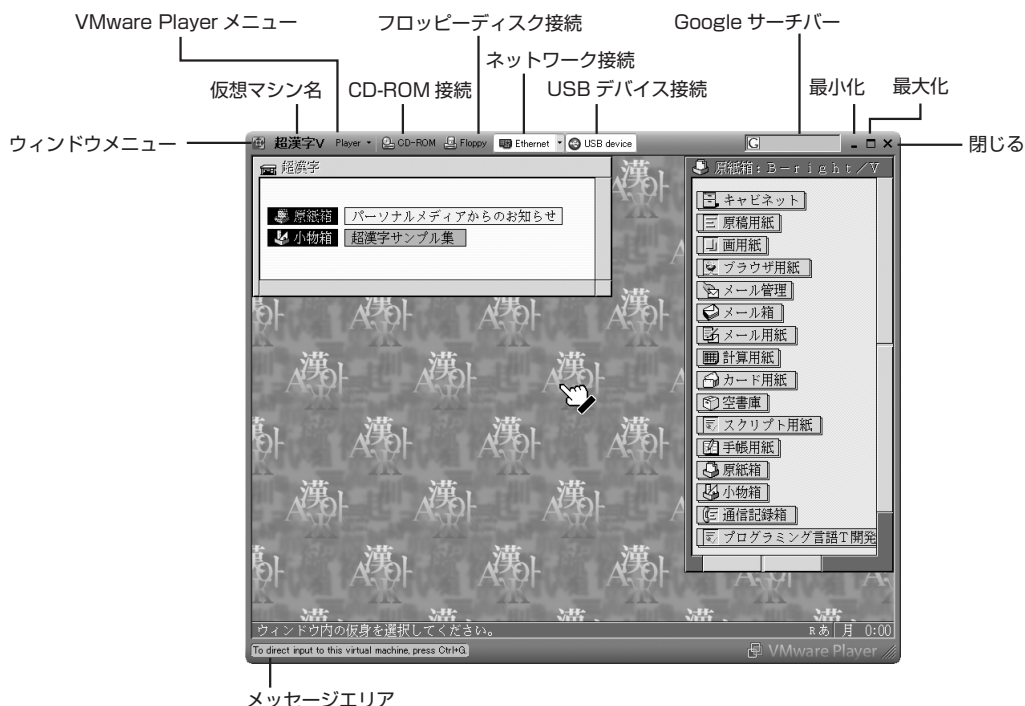
現在入力できる文字の種類を示します。

曜日と時計

現在の曜日と時刻を表示します。

曜日と時計の領域をクリックすると、日付表示に変わります。もう一度クリックすると、元に戻ります。

2.3.2 VMware Player の画面



VMware Player のウィンドウに表示されている内容と、主な設定項目について説明します。

注意

操作ガイドでは、VMware Player 1.0.2 での操作を中心に記述しています。VMware Player 3.x で操作する場合は、取扱説明書 (HTML 形式) の「VMware Player 3.x のウィンドウ」の説明にしたがって、表記の読み替えをしてください。

ウィンドウメニュー

VMware Player のウィンドウの大きさを変更したり、ウィンドウを閉じたりするときに使います。

最小化

VMware Player のウィンドウを最小化します。

最大化

VMware Player のウィンドウを最大化します。画面上部にツールバーが表示されます。[Ctrl] キーを押しながら [Alt] キーを押すと、元のウィンドウサイズに戻ります。

閉じる

VMware Player のウィンドウを閉じます。

注意

VMware Player のウィンドウの大きさを変えても、超漢字 V の画面サイズは変わりません。超漢字 V の画面サイズを変更したい場合は、[小物] メニューの [システム環境設定] で画面サイズを変更します。詳細は「設定編 2.2 画面サイズを変更する」(p.68) をご覧ください。

仮想マシン名

「超漢字 V」と表示されています。

CD-ROM 接続

ここをクリックして接続状態 (スイッチが押された状態) にすると、超漢字 V から CD-ROM に接続します。

フロッピーディスク接続

ここをクリックして接続状態 (スイッチが押された状態) にすると、超漢字 V からフロッピーディスクに接続します。フロッピーディスクをセットしても仮身が表示されない場合は [Insert] キーを押してください。

ネットワーク接続

超漢字 V からネットワークに接続します。常に接続状態 ([Ethernet] スイッチが押された状態) にしておくことをお勧めします。通常は [NAT] を選んでおきます。

USB デバイス接続

USB 接続のフラッシュメモリなどの大容量記憶装置デバイスを接続したときに表示されます。

VMware Player メニュー

VMware Player のヘルプの閲覧や、各種設定を行います。

Help : VMware Player のヘルプ（英文）を表示します。

Upgrade to Workstation : VMware Player を VMware Workstation にアップグレードするためのウェブサイトを開きます。WWW ブラウザが起動します。

About VMware Player : VMware Player のバージョン情報やシステム構成、ライセンスについて表示します。

Preferences : VMware Player の表示や操作についての設定を行うウィンドウを表示します。



Confirm before exiting the application

チェックボックスを ON にすると、VMware Player のウィンドウを閉じるときに確認のパネルが現れます。初期設定では OFF になっています。

When exiting

[Suspend the virtual machine] を選ぶと、VMware Player のウィンドウを閉じるときに、超漢字 V のウィンドウの状態を保持したままです。終了します。（→基本操作編 2.2.2 ウィンドウの状態を保持したまま終了する：p.17）

[Power off the virtual machine] を選ぶと、VMware Player のウィンドウを閉じるときに、超漢字 V のウィンドウもただちに終了します。超漢字 V で保存操作を行っていないデータの内容は失われますのでご注意ください。

初期設定では [Suspend the virtual machine] が選択されています。

Check the web for updates on startup

VMware の起動時にインターネットにアクセスし、VMware のアップデート情報を調べます。

Removable devices

[Show on toolbar] を選ぶと、CD-ROM、フロッピーディスク、ネットワークの接続状況をツールバー（タイトルバー）に表示します。

[Show as menu] を選ぶと、CD-ROM、フロッピーディスク、ネットワークの接続状況をメニューで表示します。VMware Player メニューの右側 [Devices ▼] というメニューが表示されます。

メッセージエリア

[To return to your computer, press Ctrl+Alt.]

[Ctrl] キーを押しながら [Alt] キーを押すと、Windows の画面を操作できるようになります。Windows の画面をクリックしてもかまいません。

[To direct input to this virtual machine, press Ctrl+G.]

[Ctrl] キーを押しながら [G] キーを押すと、超漢字 V の画面を操作できるようになります。超漢字 V のウィンドウをクリックしてもかまいません。



注意

ポインタが超漢字 V の画面からはみ出すと、操作の対象が超漢字 V から Windows に切り替わります。超漢字上で文字を入力できなくなったり操作ができなくなったときは、Windows のカーソルを超漢字 V の画面の上に移動させると超漢字のポインタが現れ、超漢字を操作できるようになります。

Google サーチャバー

超漢字 V では利用できません（VMware 社から提供されている「Browser Appliance」用の機能です）。

4 アプリケーションを起動する

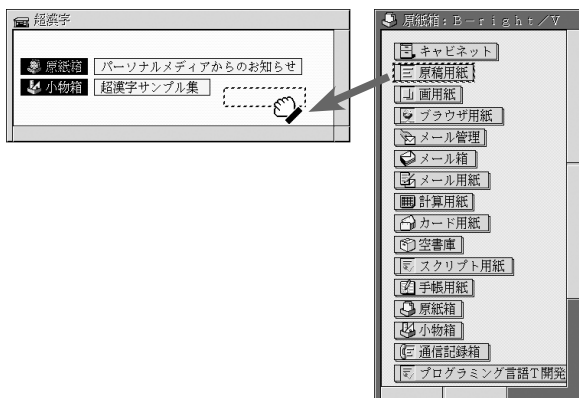
超漢字で新しくデータを作成する場合には、各アプリケーションの原紙を取り出して起動します。アプリケーションを起動するには、原紙をドラッグしてから起動する方法と、原紙をダブルクリックして起動する方法があります。

2.4.1 原紙をドラッグして取り出す

1. 原紙をウィンドウにドラッグします。



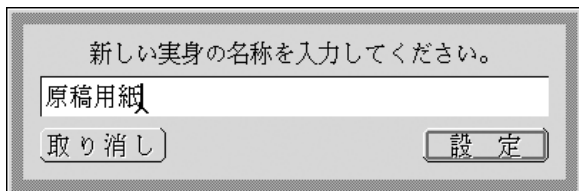
補 足
原紙をドラッグする先は、初期ウィンドウをはじめ、原稿用紙、画用紙など、仮身を置けるウィンドウであれば、どこでもかまいません。



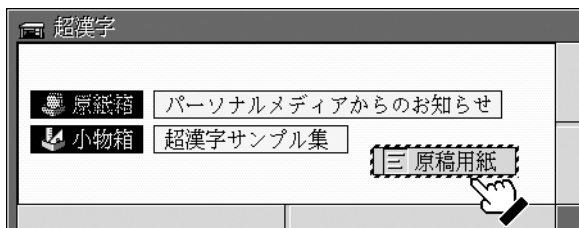
2. 実身名を入力するパネルが現れます。
実身名を入力し、[設定] スイッチをクリックします。



補 足
実身名はあとからでも変更できます。



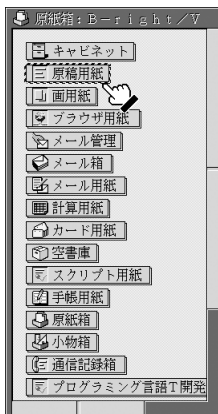
3. 実身が作成され、ウィンドウには仮身が作成されます。
仮身は選択枠（ちらつき枠）で囲まれています。



4. 仮身をダブルクリックして、アプリケーションを起動します。

2.4.2 原紙をダブルクリックして取り出す

1. 原紙をダブルクリックします。



2. 実身名を入力するパネルが現れます。
実身名を入力し、[設定] スイッチをクリックします。



補 足
実身名はあとからでも変更できます。

3. 実身が作成され、自動的にアプリケーションを起動します。
仮身は初期ウィンドウに作成されます。



補 足

原紙箱の自動起動を解除するには

超漢字 V を起動したときに、原紙箱のウィンドウを表示しないようにすることができます。

1. 初期ウィンドウにある「原紙箱」の仮身をクリックします。
原紙箱のまわりが選択枠で囲まれます。
2. マウスを右クリックしてメニューを出し、[保護] メニューの [固定解除] を選びます。
3. マウスを右クリックしてメニューを出し、[仮身操作] メニューの [属性変更] を選びます。
4. 仮身属性変更パネルが現れます。
パネルの下中央にある [自動起動] スイッチをクリックし、インジケータを OFF にします。
5. [設定] スイッチをクリックします。
仮身属性変更パネルが消えます。
6. 原紙箱のまわりが選択枠で囲まれているのを確認します。
マウスを右クリックしてメニューを出し、[保護] メニューの [固定化] を選びます。



注意
設定は次回起動時から有効になります。

5 小物を起動する

小物を起動するには、小物メニューから起動する方法と小物箱から起動する方法があります。

2

超漢字Vをはじめよう

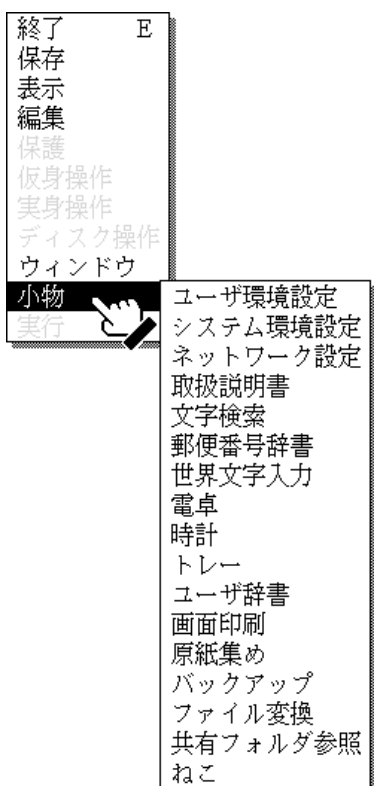
2.5.1 小物メニューから起動する

1. マウスを右クリックしてメニューを出します。



2. ポインタを動かし、[小物] メニューが白黒反転した時点でクリックします。

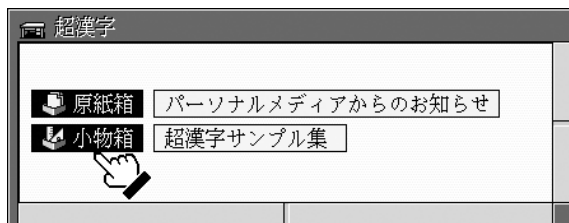
子メニューとして、メニューから起動できる小物の一覧が現れます。



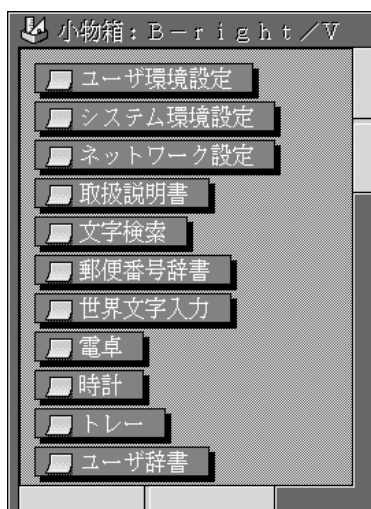
3. 起動したい小物を選んでクリックします。
小物が起動します。

2.5.2 小物箱から起動する

1. 初期ウィンドウにある「小物箱」をダブルクリックします。



2. 小物箱のウィンドウが起動します。



3. 起動したい小物を選んでダブルクリックします。
小物が起動します。

補 足

小物メニューに現れない小物

小物箱には、超漢字Vに登録されているすべての小物の一覧を表示します。小物メニューに現れない小物は、背景が白くなっています。それらは、超漢字Vではほとんど使う必要のない機能や、一度登録が済んでしまうと設定の必要のない機能などです。超漢字Vの標準設定では、以下の小物が非表示になっています。

キー配列変更／ディスク修復／ディスク設定／コンソール／初期設定ガイド／ダイヤルアップ接続／印刷管理／ディスク集め／FD複製

それぞれの小物の機能については、取扱説明書の〈索引〉から小物の名称を探してご覧ください。
また、小物メニューに現れない小物をメニューに登録したい場合は、取扱説明書の〈索引〉—〈こ〉—〈小物〉—〈小物をメニューに出す／出さない〉をご覧ください。

3

超漢字では、画面上のいろいろな操作をマウスを使って行います。この章では、超漢字のマウスの使い方と、ポインタの形と意味について、説明します。

1 ポインタ

超漢字では、ポインタは手の形をしています。
ポインタは、状況によっていろいろな形に変わります。

3.1.1 ポインタの名称

せんたくし 選択指

何かを選択するときのポインタの形です。

ポインタは通常この形をしています。



いどうしゅ 移動手

何かをつかもうとするときのポインタの形です。

ポインタが移動手になるときは、その下にあるものをつかんで動かすことができます。



対象を動かす方向を、上下方向や左右方向に拘束（固定）することができます。このとき移動手のポインタの形は、拘束方向に応じて☞や☜になります。（p.86）

握り

何かをつかんでいる形です。

画面の中のを動かしている間は、この形になります。



対象を動かす方向を、上下方向や左右方向に拘束（固定）することができます。このとき握りのポインタの形は、拘束方向に応じて☞や☜になります。（p.86）

へんけいしゅ 変形手

何かをつまもうとする形です。

ポインタが変形手の時は、その下にあるものをつまんで、形や大きさを変えられます。



対象をつまんで変形する方向を、上下方向や左右方向に拘束（固定）することができます。このとき変形手のポインタの形は、拘束方向に応じて☞や☜になります。（p.87）

つまみ

何かをつまんでいる形です。

画面の中のをの形や大きさを変えている間は、この形になります。



対象をつまんで変形する方向を、上下方向や左右方向に拘束（固定）することができます。このときつまみのポインタの形は、拘束方向に応じて☞や☜になります。（p.87）

しゅうせいせんたくし 修正選択指

選択されている操作の対象を修正するときの形です。



何かが選択されている状態で [Shift] キーを押すと、キーを押している間は、この形になります。たとえば、複数の対象を選択したい場合、2 番目以降の対象は、このポインタを使って選択します。

プリメニュー

メニューから呼び出せる機能の一部を、文字キーを使って呼び出せることを示しています。



左 [Ctrl] キーを押すと、キーを押している間は、この形になります。（→基本操作編 4.4 キーボードを使ってメニューを選ぶ：p.26）

湯飲み

時間のかかる処理をしていて、ユーザーからの新しい指示を受けられないときのポインタの形です。



処理が終わると、ほかの形に変わります。

3.1.2 ホットポイント

手の形をしたポインタのうち、実際に超漢字への指示が有効になる点をホットポイントとよびます。

たとえば、選択指の場合は、ホットポイントは人差し指の先端です。



2 マウスの操作

超漢字では、マウスについているボタンのうち、左ボタンをメインボタン、または単にボタンとよぶことがあります。また、右ボタンをメニューボタンともよびます。

3

マウス操作

プレス

左ボタンを押し続ける操作です。
プレスすると、ポインタの下にあるものをつかみます。



リリース

左ボタンを離す操作です。
リリースすると、それまでつかんでいたものを離します。



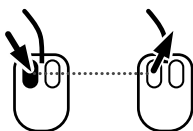
クリック

左ボタンを押してすぐ離す操作です。
Windows の左クリックと同じ操作です。「ボン」と軽く叩くようなタイミングで押せば、クリックになります。
超漢字では、画面上に表示されている何かを選んだり、画面上のスイッチを押したりする操作に使います。



ドラッグ

左ボタンを押し続けたまま（プレス）でマウスを移動し、目的の位置まで来たら左ボタンを離す（リリース）操作です。
Windows のドラッグと同じ操作です。
超漢字では、画面上に表示されている何かをつかんで移動する操作に使います。

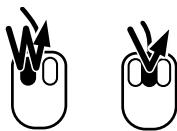


ダブルクリック

左ボタンを2回続けてクリックする操作です。
Windows のダブルクリックと同じ操作です。
超漢字では、ウィンドウを開いたり閉じたりする操作に使います。



スクロールマウスおよび3ボタンマウスの場合は、中央のボタンを単にクリックしてもかまいません。



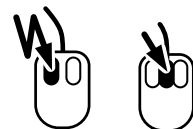
Windows 用のマウスのドライバの設定によっては、超漢字 V で3ボタンマウスの中央のボタンをクリックしても、ダブルクリックにならない場合があります。

クリックプレス

左ボタンをクリックしてすぐにプレスする操作です。



スクロールマウスおよび3ボタンマウスの場合は、中央のボタンを単にプレスしてもかまいません。

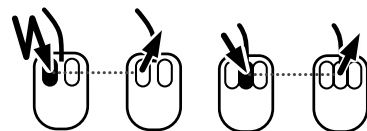


クリックドラッグ

クリックドラッグは、左ボタンをクリックしてすぐにプレスし、そのままドラッグする操作です。
Windows では使われない操作です。
超漢字では、実身複製の操作に使います。



スクロールマウスおよび3ボタンマウスの場合は、中央のボタンを単にドラッグしてもかまいません。



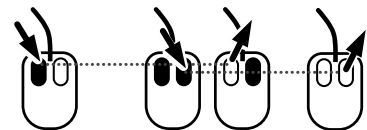
右クリック

右クリックは、右ボタンを押してすぐ離す操作です。
Windows の右クリックと同じ操作です。
超漢字では、メニューを表示したり、表示したメニューを消したりする操作に使います。



複写ドラッグ

複写ドラッグは、ドラッグを終えるときに、右ボタンを押したままで左ボタンを離す操作です。
Windows では使われない操作です。
超漢字では、画面上に表示されている何かを複写（コピー）する操作に使います。



ポイント

クリックドラッグや複写ドラッグと言った、Windows で使わない操作方法は、慣れないうちは難しいかもしれませんが、超漢字のマウスの動きや反応が Windows のときと異なる場合があります。マウスをうまく操作できない場合は、[小物]メニューから[ユーザ環境設定]を選んで、〈PD 属性〉の見出しでボタンの操作性を調整することができます。詳しくは、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈イネーブルウェア〉—〈設定〉—〈マウス〉をご覧ください。

メニュー操作

4

超漢字の多くの機能は、メニューを使って実行します。
メニューの操作は、Windows のスタートメニューや右クリックメニューの操作と似ています。

1 メニューの表示

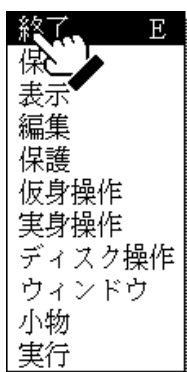
1. マウスの右ボタン（メニューボタン）をクリックします。
メニューが現れます。
2. メニューが出ている状態で、もう一度、右ボタンをクリックします。
メニューが消えます。



メニューが現れている間は、メニューの項目を選ぶか、メニューを消すまでは、ほかの操作はできません。

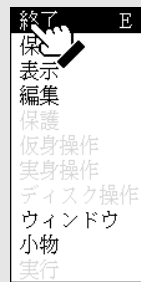


メニューはポインタのあるところに現れます。



補足

メニューの項目の文字が薄く表示されている場合があります。その時点では選ぶことのできない（不能化されている）項目であることを示しています。



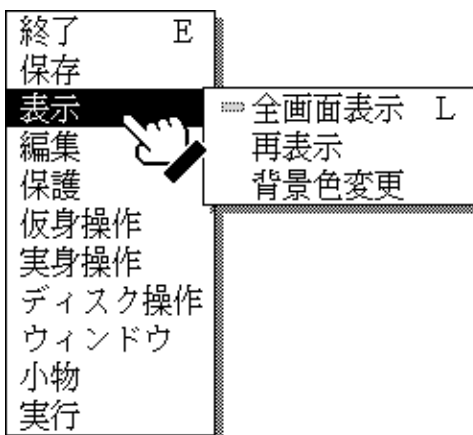
2 メニューの項目を選ぶ

ここでは、例として「表示」メニューの「全画面表示」を選びます。

1. 右ボタン（メニューボタン）をクリックします。
メニューが現れます。
2. メニューの上を、上下をなぞるようにポインタを動かし、選びたい項目をクリックします。

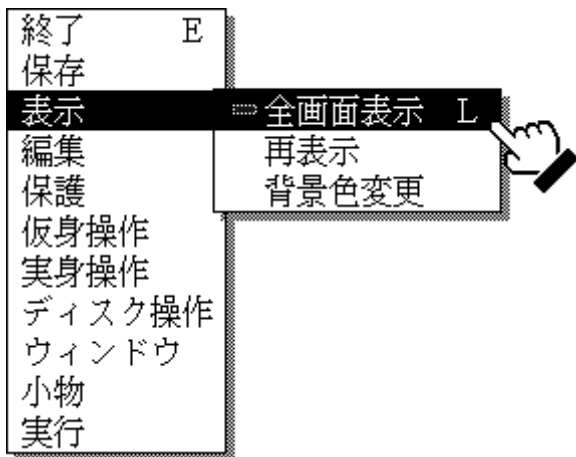


選ばれている項目は白黒反転して表示されます。



クリックした項目に子メニューがない場合は、メニューが消え、選んだ項目がただちに実行されます。

- 子メニューにポインタを移動し、選びたい子メニューの項目をクリックします。



補足 子メニューに対して、最初に現れるメニューを親メニューとよびます。子メニューの項目をクリックするまで、親メニューと子メニューは表示されたままになります。ポインタが親メニューや子メニューからはみ出してもかまいません。

- メニューが消え、選択した子メニューの項目が実行されます。

注意 親メニューの中で間違った項目をクリックしてしまうと、間違った項目が白黒反転して、その子メニューが表示されてしまいます。親メニューの項目を選び直したい場合は、あらためて、目的の親メニューの項目をクリックし直してください。

もう一度「表示」メニューの「全画面表示」を選ぶと、元のウィンドウサイズに戻ります。

補足

メニューが現れる時間を調整する

親メニューを選んでから子メニューが現れるまでの時間を調整することができます。

〔小物〕メニューから〔ユーザ環境設定〕を選んで、〈表示属性〉の見出しで〈メニュー反応時間〉を調整することで、最適なタイミングに設定できます。詳しくは、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈イネーブルウェア〉―〈設定〉―〈画面表示〉をご覧ください。

3 ON マークがついているメニュー項目

子メニューの項目の中には、項目の左側に または のインジケータが付いているものがあります。
 を ON マーク、 を OFF マークとよびます。それぞれ、以下の内容を示しています。

ON () マーク

現在、この項目が選ばれています (ON)。

OFF () マーク

現在、この項目は選ばれていません (OFF)。

4 キーボードを使ってメニューを選ぶ

メニューの項目には、右端に英数字が表示されているものがあります。これをメニュー文字とよびます。メニュー文字を使って、キーボード操作だけでメニューを実行することができます。
Windows のショートカットキーのように使えます。

- 左 [Ctrl] キーを押しながら、メニュー文字キーを押します。
- メニュー項目が実行されます。

メニュー文字についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈付録〉―〈資料〉―〈メニュー文字一覧〉をご覧ください。

補足 たとえば、4.2 の手順 4 の図では、〔全画面表示〕メニューに [L] キーのメニュー文字が割り当てられています。
左 [Ctrl] キーを押しながら [L] キーを押すと、全画面表示が実行されます。

ウィンドウ操作

5

ウィンドウの中には、文書の内容が表示されます。2 つ以上のウィンドウを同時に開いておくこともできます。超漢字のウィンドウ操作は、Windows でのウィンドウ操作と似ていますが、超漢字特有の操作もあります。



補 足

本章で使用している画面のサンプルを、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

1 ウィンドウを開く

仮身をウィンドウに開くときは、仮身そのものをダブルクリックします。

1. 開きたい仮身にポインタをあわせて、ダブルクリックします。



2. 仮身がウィンドウに開きます。



補 足

開いている仮身は網掛けで表示されます。



2 ウィンドウを閉じる

ウィンドウを閉じるには、ピクトグラムをダブルクリックします。

1. 閉じたいウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。



補 足

メニューからもウィンドウを閉じることができます。マウスの右ボタンをクリックして、メニューのいちばん上にある「終了」を選びます。

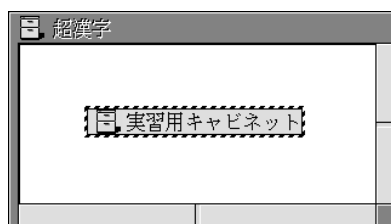


補 足

左 [Ctrl] を押しながら [E] キーを押してもかまいません。



2. ウィンドウが閉じて、仮身の状態に戻ります。

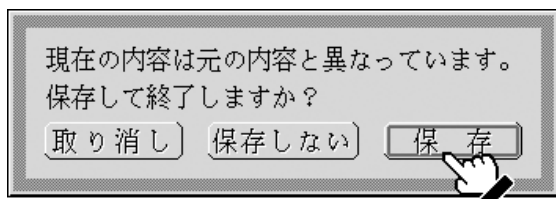


3 ウィンドウの内容を保存して閉じる

ウィンドウの内容を変更した場合には、ウィンドウを閉じるときに以下のようなパネルが現れます。通常は「保存」を選びます。

5

ウィンドウ操作



取り消し

ウィンドウを閉じる、という操作を取り消します。編集した結果はハードディスクに保存されず、パネルが現れる直前の情報を表示した状態に戻ります。ウィンドウを閉じずに編集を続けたい、という場合には、この「取り消し」をクリックします。

保存しない

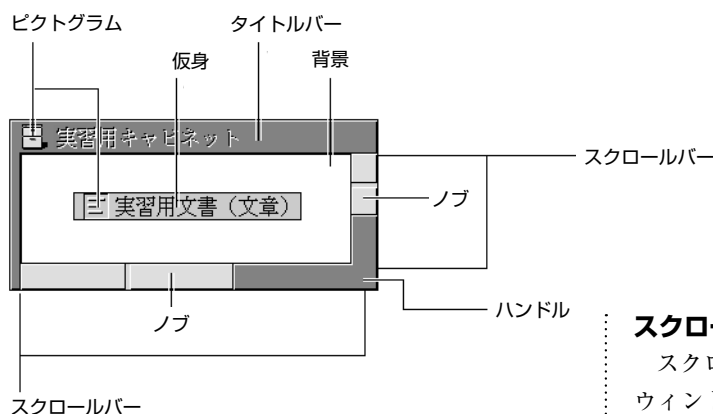
最後に行った保存操作以降の操作（保存操作をしていないときは、ウィンドウを開いてからの操作）がすべて取り消され、編集結果は失われます。もういちど最初から編集をやりなおしたい、という場合には、「保存しない」を選びます。

保存

編集した結果をハードディスクに保存して、ウィンドウを閉じます。ウィンドウを閉じる直前の情報を元の内容に上書きします。編集を完了してウィンドウを閉じる、という場合には、「保存」を選びます。

4 ウィンドウを構成するもの

ウィンドウは以下の部品で構成されています。



タイトルバー

ウィンドウ上部の濃い灰色の部分です。タイトルバーには、ピクトグラムとウィンドウタイトルが表示されています。

ここをドラッグすると、ウィンドウを移動できます。

ピクトグラム

ウィンドウの左上隅、タイトルバーの左端にある絵文字です。ここをダブルクリックすると、ウィンドウを終了できます。

スクロールバー

スクロールバーウィンドウの右辺と下辺にあります。ウィンドウの内容をスクロールするのに使います。

スクロールの発生しないウィンドウでは、スクロールバーは表示されません。

ノブ

スクロールバーの中にある、取っ手の部分です。ノブの大きさは、ウィンドウに表示されている部分が、全体に対してどのくらいの割合かに比例して変化します。

ハンドル

ウィンドウの四隅のうち、右下隅の部分です。ウィンドウの形や大きさを変えるのに使います。

背景

ウィンドウの背景にあたる部分です。「表示」メニューの「背景色変更」を選べと、背景色を変更できます。

5 ウィンドウの基本操作

5.5.1 ウィンドウをいちばん前に出す

ウィンドウをいちばん前に出す（最前面ウィンドウにする）には、そのウィンドウそのものをクリックします。

1. いちばん前に出したいウィンドウをクリックします。



2. クリックしたウィンドウがいちばん前に現れます。

補足 [ウィンドウ] メニューをクリックすると、現在開いているウィンドウタイトルが表示されます。この中からいちばん前に出したいウィンドウを選んでかまいません。

補足 左 [Ctrl] キーを押しながら [W] キーを押すと、[ウィンドウ] メニューの「いちばん後ろへ」が実行されます。その結果、現在の最前面ウィンドウがいちばん後ろにまわり、2 番目のウィンドウがいちばん前に現れます。

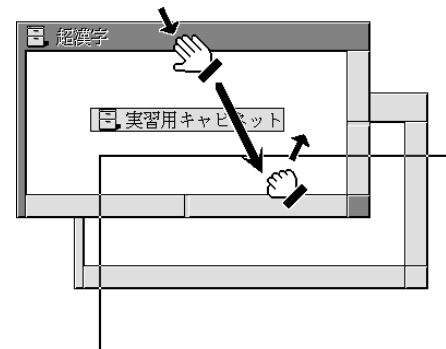


5.5.2 ウィンドウを移動する

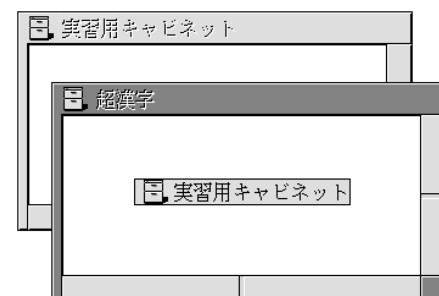
ウィンドウを移動するには、タイトルバーをドラッグします。

1. ウィンドウのタイトルバーをドラッグし、移動したい位置でリリースします。

補足 ドラッグしているときは、ポインタが握りの状態になっています。



2. リリースした位置にウィンドウが移動します。



5.5.3 ウィンドウの大きさを変える

ウィンドウの大きさを変えるには、ハンドルをドラッグします。

5

ウィンドウ操作

1. ウィンドウの右下隅にあるハンドルをドラッグします。
枠が目的の大きさになったらリリースします。



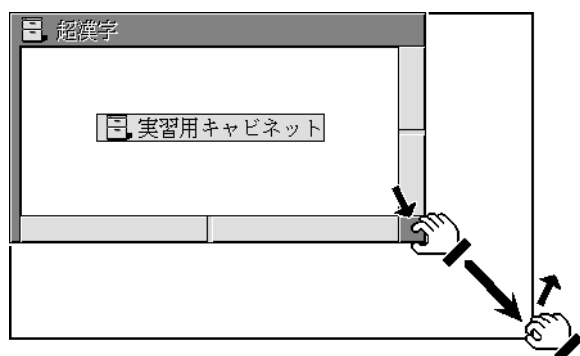
補足

ハンドル以外にも、ウィンドウ四隅のうち、ポインタが変形手の状態になる部分をドラッグしても、ウィンドウの大きさを変えることができます。

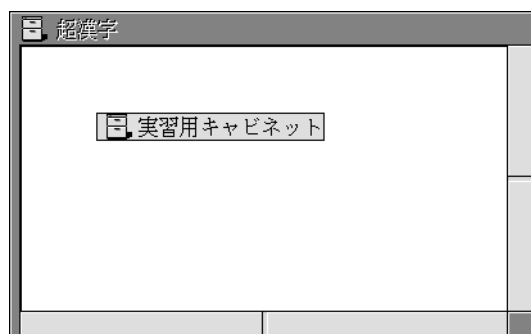


補足

ドラッグしているときは、ポインタがつまみの状態になっています。



2. リリースした位置にハンドルがくるように、ウィンドウの大きさが変わります。



5.5.4 ウィンドウを全画面表示にする

ウィンドウを全画面に広げるには、ハンドルをダブルクリックします。

1. ウィンドウの右下隅にあるハンドルをダブルクリックします。
ウィンドウがただちに全画面に表示されます。



注意

画面の下に表示されているメッセージエリアは、ウィンドウを全画面表示にしても、常に表示されています。



2. もういちどハンドルをダブルクリックすると、元の大きさに戻ります。



ポイント

ハンドル以外にも、ウィンドウ四隅のうち、ポインタが変形手の状態になる部分をダブルクリックしても、ウィンドウを全画面に広げることができます。

〔表示〕メニューの〔全画面表示〕を選んだり、左 [Ctrl] キーを押しながら [L] キーを押しても、ウィンドウを全画面に広げることができます。

また、同じ操作で、いちど全画面に広がったウィンドウを元の大きさに戻すことができます。

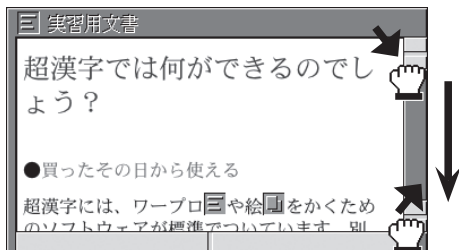
6 ウィンドウのスクロール操作

超漢字には3つの異なったスクロール操作があります。目的に応じて使い分けましょう。

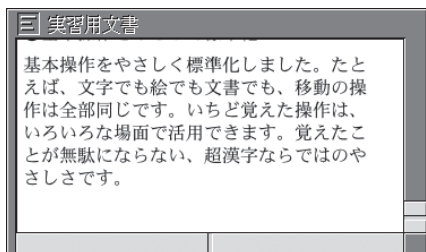
5.6.1 ジャンプスクロール

ジャンプスクロールは、ノブを直接ドラッグして、目的の位置に一挙にジャンプするスクロール方法です。

1. ウィンドウ内の内容を参考にしながら、ノブをドラッグして、目的の位置でリリースします。



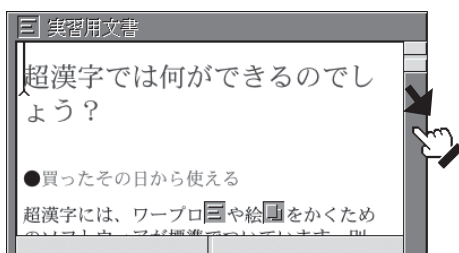
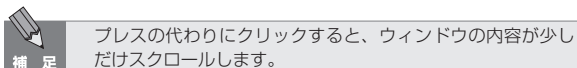
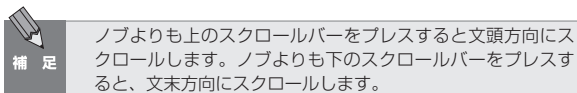
2. ウィンドウの内容が、リリースした位置の内容に変わります。



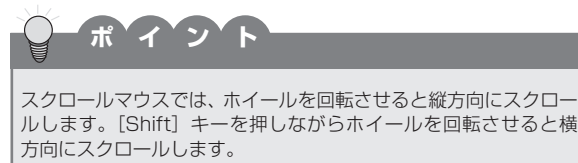
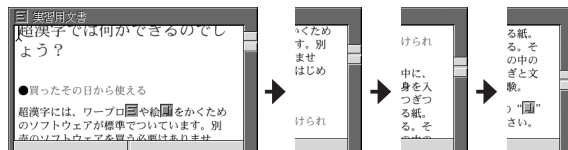
5.6.2 スムーススクロール

スムーススクロールは、スクロールバーをプレスして、少しずつスクロールする方法です。

1. スクロールバーのノブ以外の部分をプレスします。



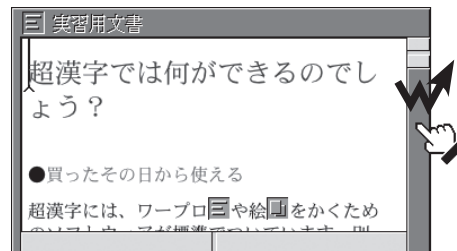
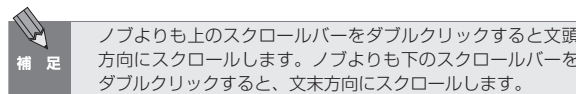
2. ウィンドウの内容が、少しずつスクロールしていきます。



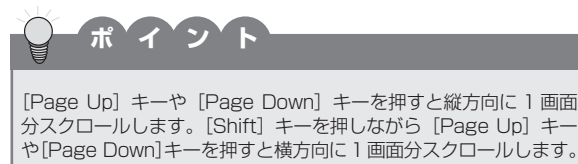
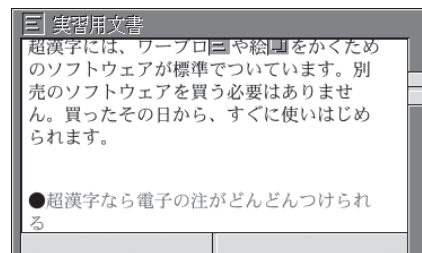
5.6.3 エリアスクロール

エリアスクロールは、スクロールバーをダブルクリックして、1画面分をスクロールする方法です。

1. スクロールバーのノブ以外の部分をダブルクリックします。



2. ウィンドウの内容が1画面分だけスクロールします。



キーボード操作

6

キーボードは、文字を入力したり、超漢字に指示を出したりするときに利用します。



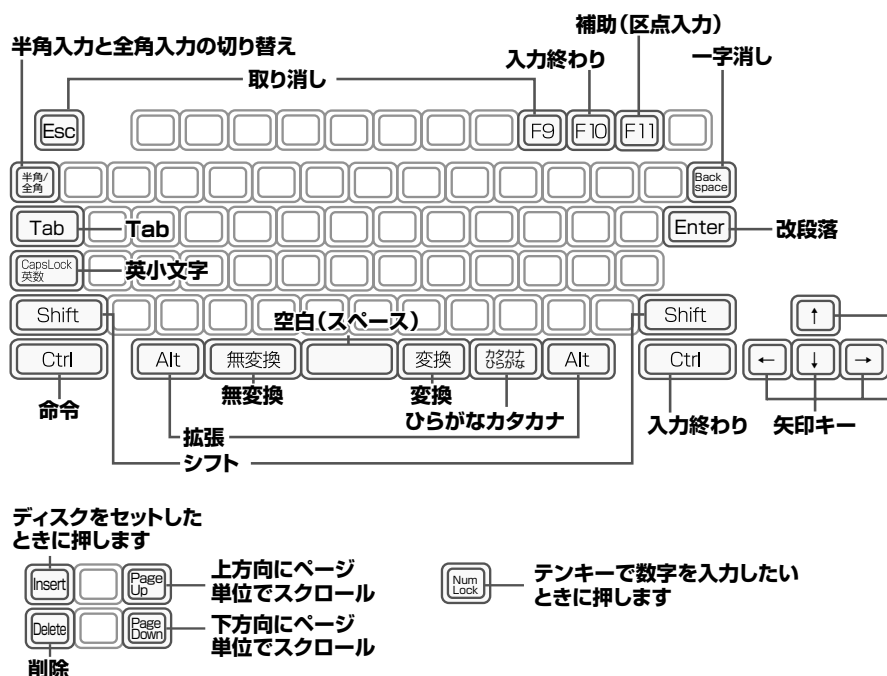
本章で使用している画面のサンプルを、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「操作ガイド」サンプル文書をご覧ください。



注意

操作ガイドにおいては、106 / 109 日本語キーボードでの操作を中心に記述しています。101 / 104 英語キーボード、TRON キーボード「TK1」、μ TRON キーボードで操作する場合は、「取扱説明書」(HTML 形式) の「キーボード対応表」にしたがって、キーの読み替えをしてください。

1 主なキーの名前



【半角／全角】キー

半角入力モードと全角入力モードを切り替えます。

【Tab】キー

Tab を入力します。また、パネルやウィンドウの操作でも使われる場合があります。

【英数】キー

英語モードに切り替えます。

【Shift】キー

場面に応じて機能切り替えを行います。

左【Ctrl】キー

命令キーです。メニュー文字を使ってメニューを実行するときに利用します。

【Alt】キー

場面に応じて拡張機能を実行します。

【無変換】キー

読みを変換せずに確定します。Windows 方式では、ひらがなをカタカナに変換します。

【空白】(スペース) キー

空白(スペース)を入力します。Windows 方式では、読みを漢字に変換します。

【変換】キー

読みを漢字に変換します。

【ひらがなカタカナ】キー

ひらがな入力モードに切り替えます。

右 [Ctrl] キー、[F10] キー

入力終わりを指示します。変換候補を確定します。

[Enter] キー

改段落を入力します。Windows 方式では、変換候補を確定します。

[Backspace] キー

一字消しキーです。カーソルの直前の文字を一字分消します。

[F11] キー

補助キーです。区点入力パネルを呼び出します。

[Insert] キー

ディスクをセットしたときに押します。
(→設定編 2.3.3 フロッピーディスクを使う：p.71)

[Delete] キー

削除キーです。選択範囲を削除します。

[Page Up] キー

上方向にページ単位でスクロールします。

[Page Down] キー

下方向にページ単位でスクロールします。

矢印キー

矢印の方向に移動します。

[Esc] キー、[F9] キー

取り消しキーです。直前の操作を取り消します。

[NumLock] キー

テンキーで数字を入力したいときに押します。

**補 足****アプリケーションの強制終了**

万一アプリケーションが不安定になったり、操作に反応しなくなったりした場合は、[Shift] キーを押しながら [Pause (Break)] キーを押すと、そのアプリケーションを強制的に終了します。

強制終了時には、直前の保存操作以降のデータが失われる場合があります。データを作成しているときは、こまめに保存操作を行うことをお勧めします。

2 文字入力の基本操作

ウィンドウにカーソルが出ているときは、キーボードから文字を入力できます。

ここでは、「初期設定ガイダンス」で、かな漢字変換のキー割り当てを [Windows] に設定した場合のキーボード操作について説明します。

「初期設定ガイダンス」については、本製品附属の『インストールガイド』をご覧ください。

6.2.1 ひらがなを入力する

1. [ひらがなカタカナ] キーを押します。

2. ひらがな入力モードに移行します。

画面右下隅の入力モードの表記が、ローマ字入力の場合は「R あ」に変わります。かな入力の場合は「あ」に変わります。

ローマ字入力の場合

R あ

かな入力の場合

あ

3. かな漢字変換の読み（未確定文字列）として、ひらがなを入力します。

入力後そのまま [Enter] キーを押すと、ひらがなのまま確定されます。

**補 足****画面右下隅に [R] が表示されない場合**

「初期設定ガイダンス」で、かな漢字変換の入力方式を [ローマ字] に指定していても、画面右下隅に [R] が表示されない場合があります。

これは、かな漢字変換の入力方式が、一時的にかな入力の状態になっているためです。

入力方式を一時的に切り替えたい場合は、[Alt] を押しながら [ひらがなカタカナ] キーを押します。

ローマ字入力に戻りたいときは、[Alt] キーを押しながら [ひらがなカタカナ] キーを押します。もう一度 [Alt] + [ひらがなカタカナ] キーを押すと、かな入力に切り替わります。

次回超漢字を起動したときには、「初期設定ガイダンス」で設定した入力方式が有効になります。

「初期設定ガイダンス」で設定した入力方式を確認する方法は、「設定編 1.2 かな漢字変換の入力方式を指定する」(p.65) をご覧ください。

6.2.2 カタカナを入力する

1. [Shift] キーを押しながら [ひらがなカタカナ] キーを押します。

2. カタカナ入力モードに移行します。
画面右下隅の入力モードの表記が、ローマ字入力の場合は [R ア] に変わります。かな入力の場合は「ア」に変わります。

ローマ字入力の場合



かな入力の場合



3. かな漢字変換の読み（未確定文字列）として、カタカナを入力します。
入力後そのまま [Enter] キーを押すと、カタカナのまま確定されます。



補 足

あとからカタカナに変換する

ひらがな入力モードで読みを入力したあとで、カタカナに変換して確定することができます。

- (1) 入力モードの表記がローマ字入力の場合は [R あ]、かな入力の場合は [あ] の状態で、かな漢字変換の読み（未確定文字列）を、ひらがなで入力します。
- (2) [無変換] キーを押すと、カタカナに変換されます。[Enter] キーを押して確定します。

6.2.3 英数字を入力する

1. [英数] キーを押します。
2. 英数入力モードに移行します。
入力モードの表記が、ローマ字入力の場合は [Ra] に変わります。かな入力の場合は「a」に変わります。

ローマ字入力の場合



かな入力の場合



3. 直接英数字（小文字）で入力できます。



補 足

英数字の大文字を入力する

[Shift] キーを押しながら [英数] キーを押すと、英数字を大文字にした状態で、直接入力することができます。
入力モードの表記が [RA] または [A] に変わります。
[英数] キーを押すと、小文字の入力に切り替わります。



補 足

英数字を半角幅で入力する

メールアドレスやインターネットの URL などを入力するときには、英数字を半角幅で入力します。

以下の方法で、半角モードに切り替えます。

- (1) 英数字を入力する前に、[半角/全角] キーを押します。
- (2) 半角入力モードに移行します。
入力モードの表記が [Rab] または [ab] になります。入力モードが大文字の場合は [RAB] または [AB] になります。
- (3) 直接半角の英数字で入力できます。
- (4) もう一度 [半角/全角] キーを押すと、全角入力モードに戻ります。

3 漢字を入力する

6.3.1 かなを漢字に変換する

1. [ひらがなカタカナ] キーを押します。
2. ひらがな入力モードに移行します。
画面右下隅の入力モードの表記が、ローマ字入力の場合は「R あ」に変わります。かな入力の場合は「あ」に変わります。
3. かな漢字変換の読み（未確定文字列）として、ひらがなを入力します。
ここでは「日本語入力」と入力しています。
カーソルの位置に読みが入力されます。

ローマ字入力

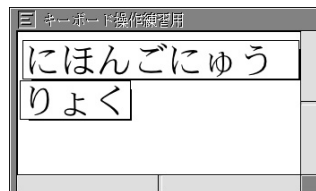
[n] [i] [h] [o] [n] [g] [o] [n] [y] [u] [u] [r] [y]
[o] [k] [u]

かな入力

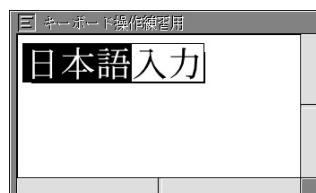
[に] [ほ] [ん] [こ] [] [に] [Shift] + [ゆ] [う] [り]
[Shift] + [よ] [く]



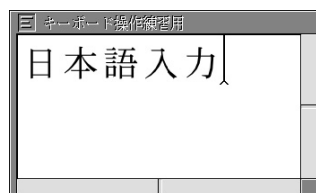
[Shift] + [ゆ] は、[Shift] キーを押しながら [ゆ] キーを押すことを示します。



4. [空白]（スペース）キーを押します。
読みが漢字に変換されます。



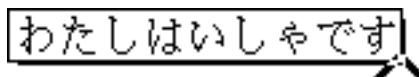
5. 正しく変換されていれば、[Enter] キーを押します。
変換結果が確定されます。



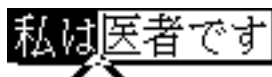
6.3.2 文節の句切りを変更する

1. [ひらがなカタカナ] キーを押して、ひらがな入力モードに移行します。

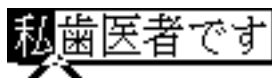
2. 読みを入力します。



3. [空白]（スペース）キーを押すと、読みが文節に区切られ、漢字に変換されます。
白黒反転している部分が、変換対象の文節です。



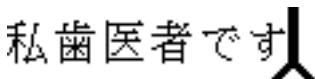
4. 文節の句切りが間違っている場合には、カーソルを移動して文節の長さを調節します。
[Shift] キーを押しながら [←] キーを押すと、文節の句切りが左方向に 1 文字分移動します。



補足 [Shift] + [→] キーを押すと、文節の句切りが右方向に 1 文字分移動します。

補足 縦書きのときは、[Shift] + [↑] キーを押すと上方向に、[Shift] + [↓] キーを押すと下方向に文節の句切りが移動します。

5. 正しく変換されていれば、[Enter] キーを押します。
変換結果が確定されます。



補足 [Enter] を押さずに、続けて次の読みを入力しても変換結果が確定されます。

6.3.3 変換対象の文節を移動する

6.3.2 の手順 1 から 4 までを操作した状態にします。

私歯医者です

5. [→] キーを押すと、変換対象の文節が右方向に移動します。
白黒反転している部分が変換対象の文節です。

私歯医者です

 補 足 [←] キーを押すと、変換対象の文節が左方向に移動します。

 補 足 縦書きのときは、[↑] キーを押すと上方向に、[↓] キーを押すと下方向に変換対象の文節が移動します。

6.3.4 変換候補を選ぶ

1. 変換対象が正しく変換されていない場合は、正しい変換候補が現れるまで [空白] (スペース) キーを押します。

私歯医者です

2. 変換候補が変わります。

私敗者です

3. さらに [空白] (スペース) キーを何度か押すと、変換候補が一覧表示されたウィンドウが現れます。ウィンドウの中では、現在選択されている候補が白黒反転して表示されています。

私歯医者です

1. 歯医者です
2. 敗者です
3. 配車です
4. 廃車です
5. 拝謝です
6. はいしゃです

△▽ 1/6

 補 足 候補一覧ウィンドウ右下に表示されている「1/6」は、候補の総数 6 のうち 1 番目の候補が選択されていることを示しています。

4. [空白] (スペース) キーを押すと、ウィンドウの下方向に候補が移動します。
正しい候補を選びます。

 補 足 候補総数が多い場合は、別の候補一覧ウィンドウに切り替わります。

6.3.5 変換を取り消す

1. 変換を取り消して、読みの状態に戻したいときは、[Backspace] キーまたは [Esc] キーを押します。

私は医者です

2. 変換対象が、元の読みの状態に戻ります。

わたしは医者です

 補 足 この状態でもう一度 [Backspace] キーを押すと、カーソルの直前の読みが 1 文字分削除されます。

 補 足 この状態でもう一度 [Esc] キーを押すと、すべての変換が取り消されます。さらに [Esc] キーを押すと、読みの入力を取り消され、すべての読みが削除されます。

補 足

逆変換

変換中に、[Shift] キーを押しながら [空白] (スペース) キーを押すと、ウィンドウの上方向に候補が移動します。これを逆変換とよびます。

逆変換は、[空白] (スペース) キーを余計に押して行きすぎてしまったときに、すぐに前の候補に戻ることができるので便利です。

補 足

BTRON 方式のかな漢字変換

BTRON 方式のかな漢字変換は、主に以下の点が Windows 方式と異なります。

変換： [変換] キー
カタカナの変換：[Shift] + [無変換] キー
変換候補の確定：右 [Ctrl] キー
文節の区切り変更
左方向：[↓] キーまたは [Shift] + [←] キー
右方向：[↑] キーまたは [Shift] + [→] キー
変換を取り消した時のカーソル位置：読み文字列の末尾に移動

かな漢字変換の操作性は、「キー割り当て定義ファイル」によって定められています。詳細は取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈起動と終了〉―〈準備〉―〈キー割り当て定義ファイル〉をご覧ください。

なお、超漢字 V に登録可能なキー割り当て定義ファイルは「超漢字サンプル集」の「日本語入力支援」に収録されています。

実身・仮身の基礎

7

実身と仮身は超漢字の大きな特長の1つです。超漢字では、実身／仮身モデルというネットワーク構造でデータを管理しています。この実身と仮身を使いこなして、超漢字の特長を十分に引き出してください。



本章で使用している画面のサンプルを「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

1 実身・仮身とは

7.1.1 実身と仮身があらわすもの

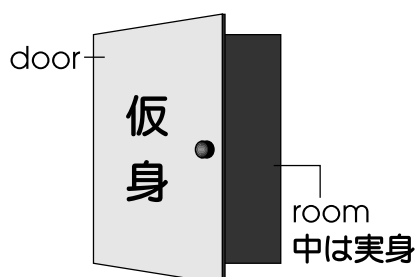
超漢字では、データ本体そのものを^{じっしん}実身とよびます。いっぽう^{かしん}仮身は、実身进行操作するための入り口です。短冊のような形をしていて、実身をウィンドウに開いたり、実身の名前を表示したりします。

仮身は必ず1つの実身を指しています。

実身・仮身をWindowsでたとえるならば、実身はファイルであり、仮身はそのウィンドウを開いたりファイルの名前を表示したりするためのタイトルバーの部分だけを取り出したもの、だと言えます。

もう少し身近な例で説明すると、実身とはユーザが作ったデータが入ったモノや部屋であり、そのモノを閲覧したり編集したりするための入り口が仮身である、と表現できます。

実身を閲覧したり編集したりするためには、必ず入り口となる仮身をトントンと叩いて（ダブルクリックして）入り口をあける（ウィンドウを開く）必要があります。



7.1.2 仮身はいくつでも、どこにでも作れる

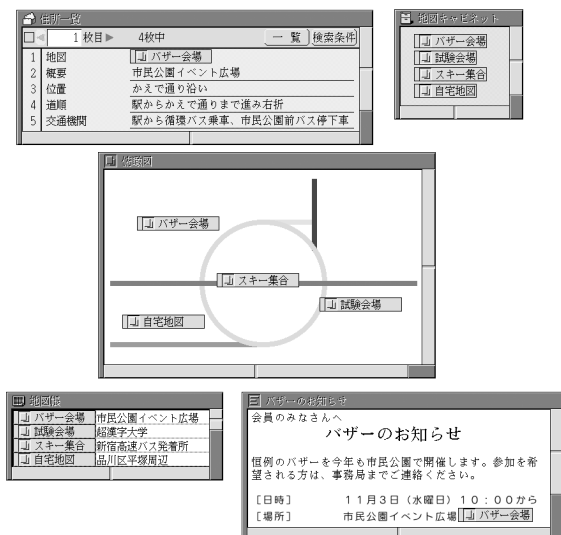
仮身は、文章や図形など、実身の中に自由に置くことができます。仮身を含んだ文章や図形は、ふつうの文章や図形と同じように、仮身を含んだままで移動や複写ができます。移動や複写をしたあとでも、中に含まれる仮身をダブルクリックしてウィンドウに開くことができます。

仮身の仮身枠やピクトグラムなどを非表示にして、実身名だけを表示するように仮身属性を設定すれば、ふつうの文字のように見える仮身を作ることができます。ちょうど、インターネットのウェブサイト（ホームページ）のハイパーリンクと同じように見える仮身を作ることになります。

また、仮身は、仮身の複写という操作で、いくつでも作ることができます。つまり、1つの実身进行操作するための入り口を、いくつでも、好きな場所に置くことができるのです。

次の図では、「バザー会場」という1つの実身を指す仮身が、いろいろな実身に置かれていることを示しています。仮身が置かれているどのウィンドウからでも、「バザー会場」の実身をウィンドウに開くことができます。

必要なときに、どこからでもすぐに実身に入れるように、いろいろな場所に仮身を置くと便利です。



7.1.3 実身は仮身を使って操作する

実身は、必ず仮身を使って操作されます。仮身は実身への入り口であると同時に、実身进行操作する手がかりにもなります。

たとえば、マウスを使って実身を複製（コピー）するときには、その実身を指す仮身に対して、クリックドラッグという操作をします。これは、実身複製という「実身」に対する複製の操作を、それを指す「仮身」を手がかりにして操作している、と説明できます。

ある実身に含まれる仮身を検索する「実身仮身検索」や、実身に含まれる仮身を一覧にする「仮身参照」の操作でも、どの「実身」に対して処理をするかを示すために、その実身を指す「仮身」を選択します。これも、実身の手がかりとして仮身が使われている例になります。

7.1.4 Windows と比べてみると

Windows を使い慣れている方のために、超漢字の実身／仮身モデルを、Windows のファイルシステムと比較しながら、技術的な点も含めて説明しましょう。

Windows では「ショートカット」というアイコンを使って、そのショートカットの場所とは別の場所にあるファイルを開いたり、ファイル名の代わりに指定したりすることができます。このショートカットが超漢字の「仮身」、ファイルそのものが「実身」にあたります。

Windows のショートカットは、参照先のファイルが「ドライブ名＋フォルダ名＋ファイル名」という形式で固定的に記述されているために、参照先のファイルを移動できない、参照先のファイルの移動に追従できない、という欠点があります。このため、別のディスクを接続したり、参照先のファイル名を変更したりして、参照関係が崩れてしまうと、もう元のファイルにはアクセスできなくなってしまいます。

いっぽう、超漢字の実身／仮身モデルでは、ファイル（実身）の所在は OS が管理し、ファイルはハードディスク内のある特定の箇所に集められています。超漢字のウィンドウのどこに仮身を作成したとしても、その仮身の参照先を意識する必要はありません。

また、実身はファイル名（実身名）ではなく、ファイル毎に個別に割り当てられた ID を使って管理されています。Windows はフォルダの中に、同じ名前のファイルを保存することができませんが、超漢字では、同じファイル名の実身をいくつ作成しても、上書きされたり内容が置き換わったりする心配がありません。この ID は実身名を変更しても変わりませんので、仮身がどこにあっても、またいくつあっても、実身と仮身の参照関係は常に保たれます。

2 実身を作る

新しく実身を作成する場合、超漢字では「原紙を取り出す」という操作を行います。

1. マウスを右クリックしてメニューを出し、[小物]メニューの[原紙集め]を選びます。

原紙集めのウィンドウが現れます。



補足

原紙集めのウィンドウには、超漢字に登録されているアプリケーションを起動するための原紙の一覧（実身の雛型にあたり）が置かれています。

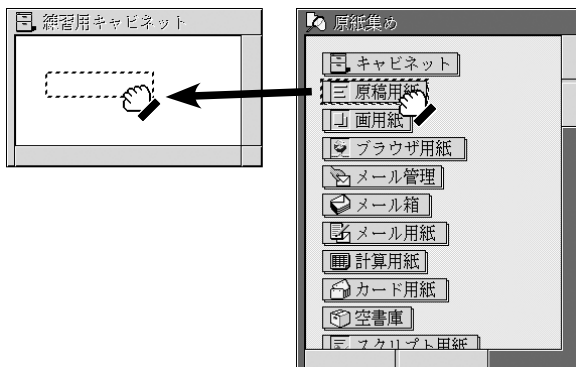
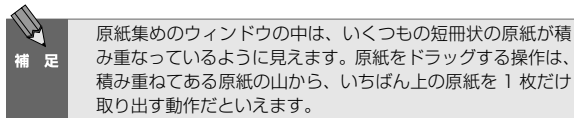


補足

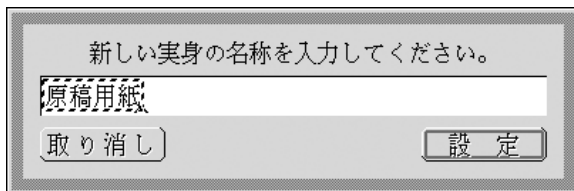
初期ウィンドウにある「原紙箱」の仮身をダブルクリックしてもかまいません。



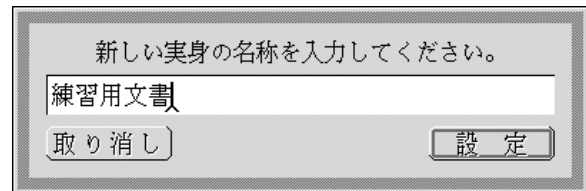
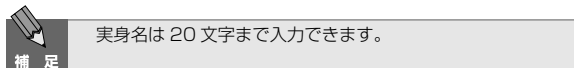
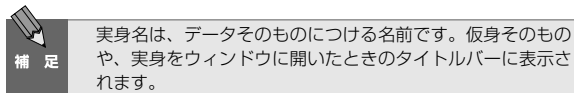
2. 新しくデータを作成するための原紙を、ウィンドウにドラッグします。



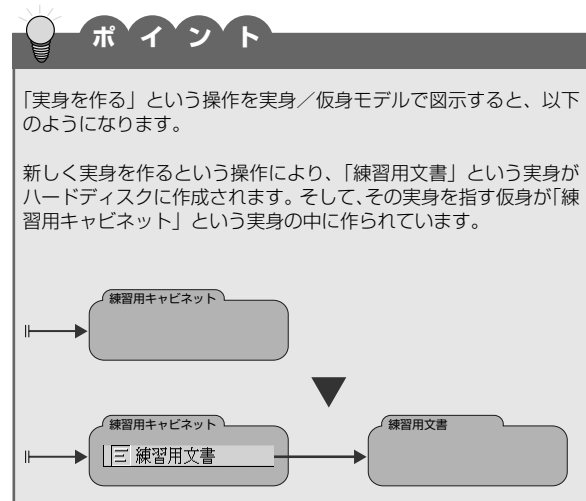
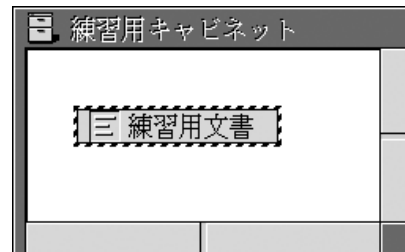
3. 実身名を入力するパネルが現れます。



4. 実身名を入力して、[設定] スイッチをクリックします。
ここでは「練習用文書」と入力します。



5. ウィンドウに仮身が置かれ、新しい実身が作成されます。



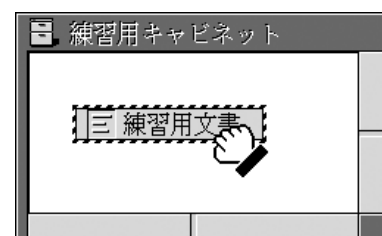
3 仮身に関わる操作

7.3.1 仮身の複写

1つの実身に対して、仮身はいくつでも作ることができます。

仮身を複写して増やす操作を仮身の複写とよびます。仮身の複写には、複写ドラッグの操作を使います。

1. 複写したい仮身をプレスします。
ポインタが握り☞になります。



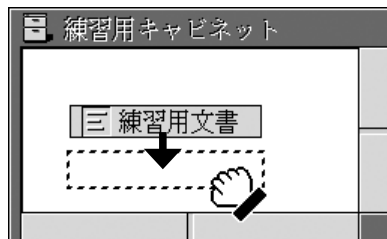
2. 複写したい仮身をウィンドウにドラッグします。



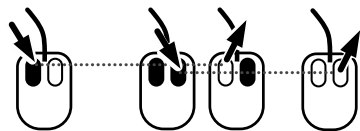
補足 ドラッグする先は、同じウィンドウ内でも、別のウィンドウ内でも、どちらでもかまいません。



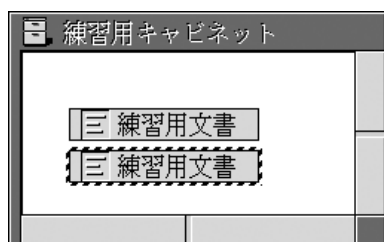
補足 下の図では、同じウィンドウ内にドラッグしています。



3. 複写したい仮身を置きたい場所で、左ボタンをプレスしたままで右ボタンもプレスします。右ボタンをプレスした状態で左ボタンをリリースし、最後に右ボタンをリリースします。



4. 仮身が複写されました。



ポイント

「仮身の複写」という操作を実身／仮身モデルで図示すると、次のようになります。

仮身の複写という操作により、「練習用文書」を指す仮身が「練習用キャビネット」という実身の中に新しく作られます。このとき、「練習用文書」の実身を指す仮身のみが増えていて、「練習用文書」という実身は増えていません。

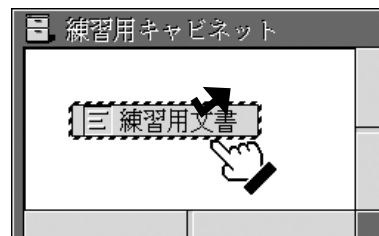
つまり、どちらの「練習用文書」の仮身を開いても、同じ実身を起動させることができます。

7.3.2 仮身の長さを変える

原紙から取り出した直後の仮身には、ピクトグラムと実身名が表示されています。

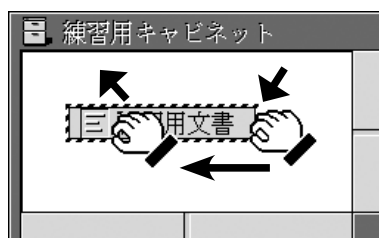
ウィンドウの変形操作と同じ操作で、仮身の長さを変えることができます。

1. 長さを変えたい仮身をクリックします。
クリックした仮身が選択枠で囲まれます。

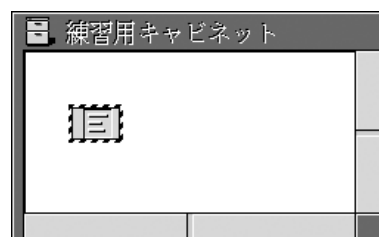


2. 仮身の右下隅へポインタを移動します。
ポインタが変形手  になります。

3. 仮身の右下隅でプレスして、左右にドラッグします。
適当な長さになったらリリースします。



4. 仮身の長さが変わりました。



補足

仮身の中に実身を表示する

仮身の右下隅でプレスして上下にドラッグすると、仮身の中に実身の内容を表示させることができます。この状態を開いた仮身とよびます。

開いた仮身は、[仮身操作] メニューの[開く]を選んででも作ることができます。

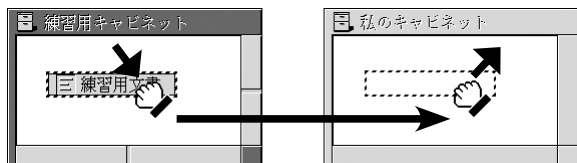
開いた仮身を閉じる場合は、[仮身操作] メニューの[閉じる]を選びます。

7.3.3 仮身を移動する

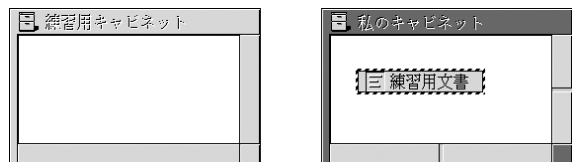
仮身を、ウィンドウ内の別の場所や、別のウィンドウに移動することができます。

ウィンドウの移動操作と同じ操作で、仮身を移動することができます。

1. 移動したい仮身をプレスします。
ポインタが握りになります。
2. プレスしたまま、移動先へドラッグして、リリースします。



3. 仮身が移動されました。



4. それぞれのウィンドウで [保存] メニューの [元の実身へ] を選びます。
内容の変更を確認するパネルが現れるので、[保存] スイッチをクリックします。

5. 仮身が移動された状態で保存されます。

ポイント

「仮身の移動」という操作を実身／仮身モデルで図示すると、次のようになります。

仮身の移動という操作により、「練習用文書」を指す仮身は、「練習用キャビネット」という実身の中から「私のキャビネット」という実身の中に移動します。

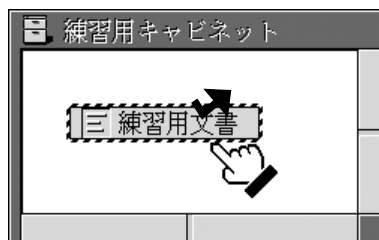
「練習用キャビネット」を指す仮身を置く実身（ウィンドウの内容）のみが変わっていて、「練習用文書」という実身そのものは、最初に作成された状態から変わらずに、同じ場所に保存されています。

7.3.4 仮身を削除する

不要になった仮身を削除することができます。

仮身を削除した結果、1つの実身を指すための仮身がすべてなくなると、その実身も自動的に削除されます。

1. 削除したい仮身をクリックします。
クリックした仮身が選択枠で囲まれます。



2. [Delete] キーを押します。

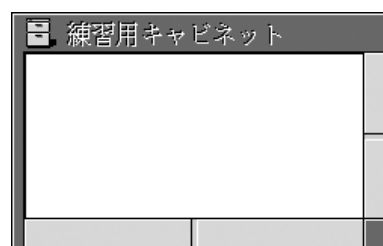
補足 [編集] メニューの [削除] を選んでもかまいません。

3. 仮身がただちに削除されます。

補足 仮身を削除した直後であれば、[編集] メニューの [取り消し] を選ぶか、[Esc] キーを押すことによって、直前の仮身の削除操作を取り消し、仮身を復活させることができます。

4. [保存] メニューの [元の実身へ] を選びます。
変更を確認するパネルが現れるので、[保存] スイッチをクリックします。

5. 仮身がウィンドウから削除されます。



注意

保存操作をせずにウィンドウを閉じようとする、変更を確認して閉じるパネルが現れます。[保存] を選ぶと、仮身を削除した状態を保存して終了します。[保存しない] を選ぶと、仮身の削除操作を取り消します。次回ウィンドウを開くといったん削除された仮身が復活しています。



ポイント

7

実身・仮身の基礎

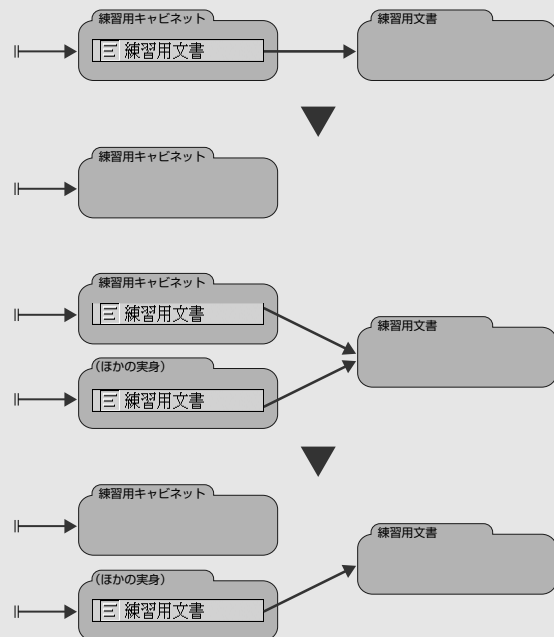
「仮身の削除」という操作を実身／仮身モデルで図示すると、次のようになります。

仮身の削除という操作により、「練習用文書」を指す仮身が「練習用キャビネット」という実身の中から削除されています。

「練習用文書」を指す仮身がなくなったので、「練習用文書」という実身も自動的に削除されています。

「練習用文書」を指す仮身がほかにもあるときには、実身は削除されません。

右の図では、「練習用キャビネット」という実身の中から、「練習用文書」を指す仮身を削除しても、ほかの実身に「練習用文書」を指す仮身があるので、「練習用文書」という実身は削除されずに残っています。



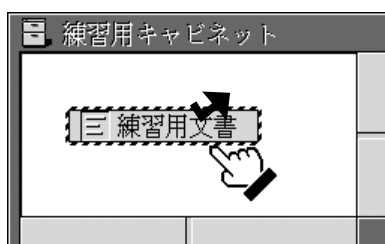
4 実身に関わる操作

7.4.1 実身複製

データを複製したり、バックアップを残しておきたいときなどは、同じ内容の実身をもう1つ作っておくことができます。

同じ内容の実身を増やす操作を実身複製とよびます。

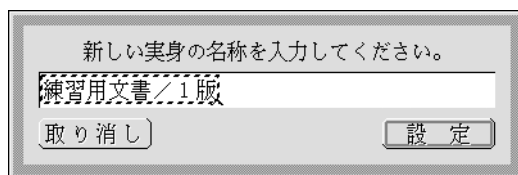
1. 複製したい実身を指す仮身をクリックします。
クリックした仮身が選択枠で囲まれます。



2. マウスを右クリックしてメニューを出し、[実身操作] メニューの [実身複製] を選びます。

補足 仮身をクリックドラッグしてもかまいません。

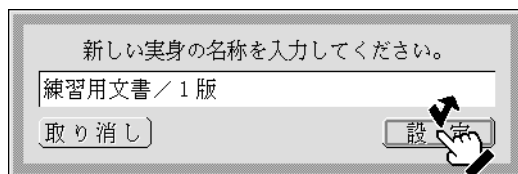
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。



4. 実身名を入力して、「設定」スイッチをクリックします。

補足 実身名は 20 文字まで入力できます。

補足 複製するデータの实身名を、複製元の実身名と同じ名称にすることもできます。



5. 実身の複製が作成されます。
複製を指す仮身が、複製元の実身を指す仮身の近くに現れます。

補足 仮身をクリックドラッグして実身複製をした場合、複製を指す仮身はドラッグ先のウィンドウに現れます。



ポイント

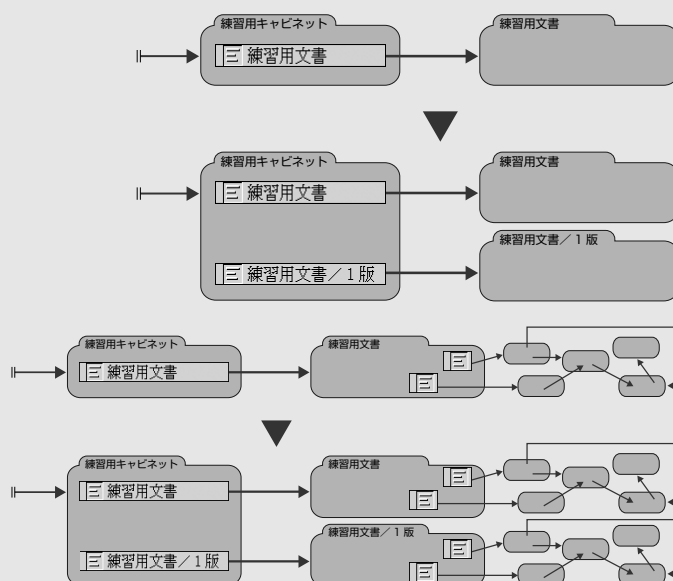
「実身複製」という操作を実身／仮身モデルで図示すると、次のようになります。

実身複製という操作により、「練習用文書／1版」という実身がハードディスクに作成されます。そして、その実身を指す仮身が「練習用キャビネット」という実身の中に作られています。

つまり、新しい実身が1つ増えており、「練習用文書」と「練習用文書／1版」の仮身は、それぞれ別の実身を指しています。

また、実身複製では、複製した実身に仮身が含まれている場合、その仮身が指す実身も複製されます。これが再帰的に繰り返された結果、複製する実身を頂点とした実身仮身ネットワーク全体が一挙に複製されます。

「7.3.1 仮身の複写」(p.39)と「実身複製」がどのように違うのか、両方の図を比較して、しっかりと理解しておきましょう。



7

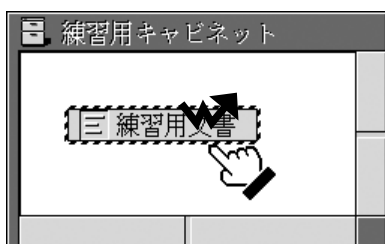
実身・仮身の基礎

7.4.2 元の実身へ保存する

実身の内容を編集したあとに、その実身の内容を更新して保存することができます。この操作を元の実身へ保存するとよびます。

停電など万一のトラブルで編集中的数据が失われるように、操作の節目で元の実身へ保存する習慣をつけておくといでしょう。

1. 複製したい実身を指す仮身をダブルクリックします。



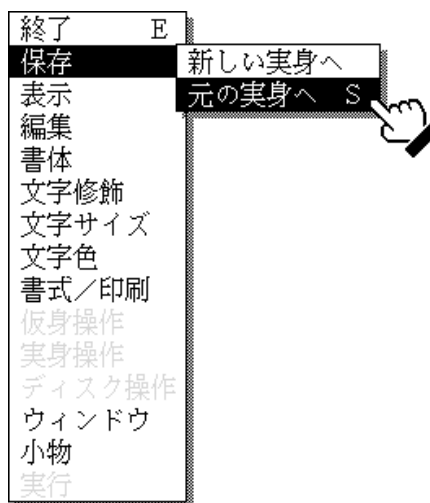
2. ウィンドウが開きます。



3. マウスを右クリックしてメニューを出し、[保存]メニューの[元の実身へ]を選びます。



左 [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してもかまいません。



4. 内容の変更を確認するパネルが現れます。
[保存] スイッチをクリックします。

5. ウィンドウの内容が元の実身に更新されます。
このまま編集を続けることができます。



この状態でウィンドウを閉じると、内容の変更を確認するパネルは現れません。ただちにウィンドウが閉じられます。



ポイント

「元の実身へ保存」という操作は、Windows の「上書き保存」にあたります。

7.4.3 新しい実身へ保存する

7

実身・仮身の基礎

編集中的実身の内容を、新しく実身を作って保存することができます。この操作を新しい実身へ保存するとよびます。

元の実身の内容を上書きせずに残しておきたい場合や、編集作業の段階を残しておきたい場合などに便利です。

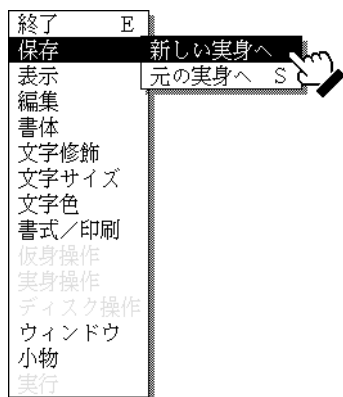
1. 複製したい実身を指す仮身をダブルクリックします。



2. ウィンドウが開きます。

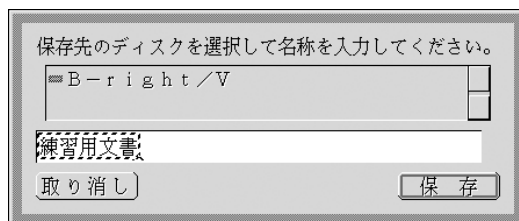


3. マウスを右クリックしてメニューを出し、[保存]メニューの[新しい実身へ]を選びます。



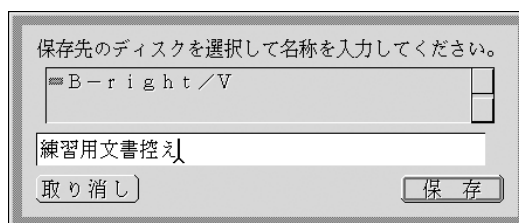
4. 保存先と、新しく作成する実身の实身名を指定するパネルが現れます。

補足 超漢字Vのデータを保存するディスクは [B-right/V] と表示されます。

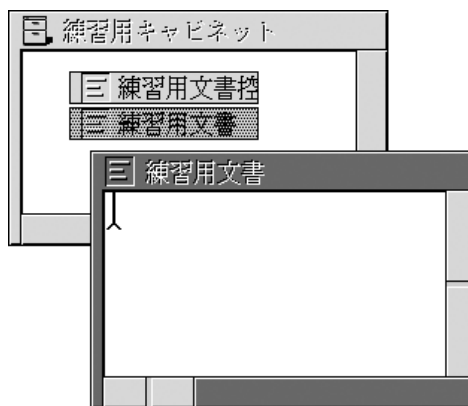


5. 保存先を確認し、実身名を入力して、[保存]スイッチをクリックします。

補足 実身名は 20 文字まで入力できます。



6. 実身の複製が作成され、複製を指す仮身が、複製元の実身を指す仮身の近くに現れます。



ポイント

「新しい実身へ保存」という操作は、Windows の「名前を付けて保存」に似ています。

Windows では、「名前を付けて保存」を実行した以後は、ウィンドウの内容が名前を付けて保存した新しいファイルの内容として変更されます。

いっぽう、超漢字では、新しい実身に保存しても、ウィンドウの内容は引き続き元の実身の内容として編集されます。



ポイント

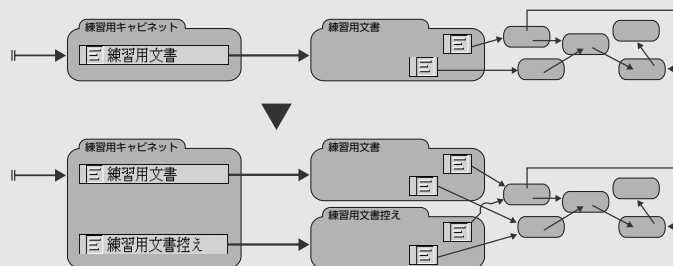
「新しい実身へ保存」という操作を実身／仮身モデルで図示すると、次のようになります。

新しい実身に保存という操作により、「練習用文書控え」という実身が作成され、その実身を指す仮身が「練習用キャビネット」という実身の中に作成されています。

つまり、新しい実身が1つ増えており、「練習用文書」と「練習用文書控え」の仮身は、それぞれ別の実身を指しています。

「新しい実身へ保存」では、複製した実身に仮身が含まれている場合でも、最上位の実身のみを複製します。複製した実身に含まれる仮身は、仮身の複写となり、実身仮身ネットワークは複製されません。その実身以下の実身仮身ネットワークは、複製元の実身仮身ネットワークと同じものを指しているところが、実身複製と異なります。

「7.4.1 実身複製」(p.42)と「新しい実身へ保存」がどのように違うのか、両方の図を比較して、しっかりと理解しておきましょう。



7

実身・仮身の基礎

7.4.4 実身名を変更する

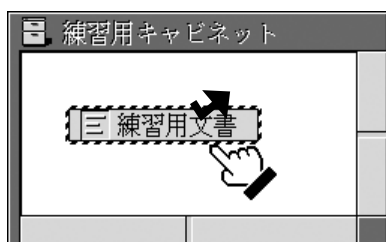
仮身やウィンドウのタイトルバーに表示される実身名を変更できます。



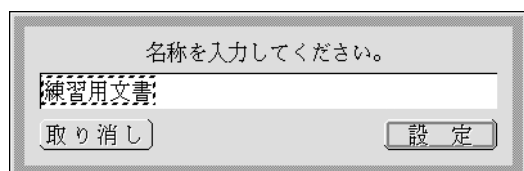
注意

実身名を変更すると、変更した仮身だけでなく、その実身を指すすべての仮身に表示されている実身名が、新しい実身名に変更されます。

1. 変更したい実身名を表示している仮身をクリックします。
クリックした仮身が選択枠で囲まれます。



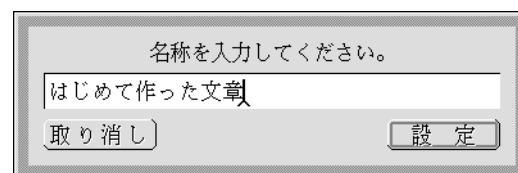
2. マウスを右クリックしてメニューを出し、[実身操作] メニューの [実身名変更] を選びます。
新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。



3. 実身名を入力して、[設定] スイッチをクリックします。



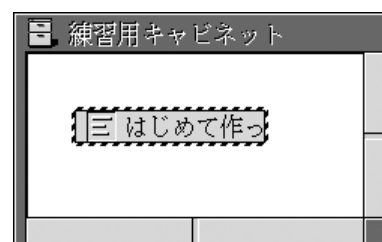
実身名は 20 文字まで入力できます。



4. 実身名が変更されました。



「7.3.2 仮身の長さを変える」(p.40)を参考にして、実身名が表示される長さに調整してもよいでしょう。



Windows との連携機能

8

超漢字 V は Windows 上で動作するため、超漢字 V のウィンドウと Windows のアプリケーションとを、マウスのクリック操作だけで簡単に切り替えることができます。また、超漢字 V と Windows との連携機能が強化され、超漢字 V で作成したデータを今まで以上に有効に活用できます。



本章で使用している画面のサンプルを「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

1 Windows との間で文字列を切り貼りする

超漢字 V のトレイ機能を使った「コピー&ペースト」の操作で、超漢字 V と Windows とで文字列の切り貼りができます。超漢字 V で作成した中国の簡体字やハングルを含む文章を Windows で編集したり、Windows 上の文書に含まれる難読漢字を超漢字 V の文字検索で調べたりできます。

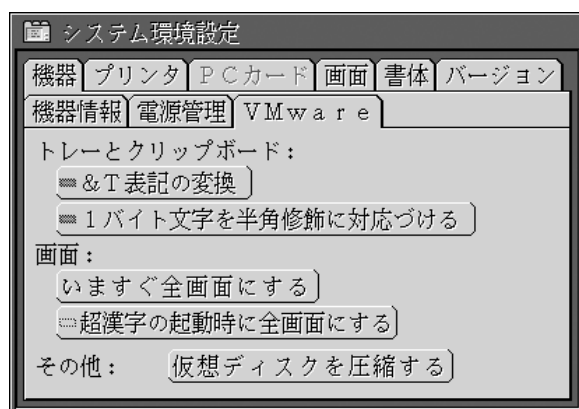


文字サイズ、文字色、太字修飾などの書式情報は交換できません。

8.1.1 文字列の切り貼りに関する設定

文字列の切り貼りに関する設定は、システム環境設定で行います。

1. [小物] メニューの [システム環境設定] を選びます。
システム環境設定のウィンドウが現れます。
2. 〈機器〉—〈VMware〉の見出しをクリックします。
〈トレイとクリップボード〉の見出しで、文字列の切り貼りに関する設定をします。



&T 表記の変換

超漢字 V から Windows に文字列をコピーする際に、Windows では表示できない文字の扱いについて設定します。

ON () : Windows では表示できない文字は「&Txxxxxx;」というテキスト形式 TRON コードに変換されます。

OFF () : Windows では表示できない文字は代替文字 (□または・) に置き換えられます。

1 バイト文字を半角修飾に対応づける

Windows と超漢字 V とで文字列をコピーする際の、1 バイト文字 (半角英数字) の扱いについて設定します。

ON () : 1 バイト文字を半角幅で表示します。

OFF () : 1 バイト文字を全角幅で表示します。



補足

標準設定はいずれも ON () になっています。設定はただちに有効になります。



補足

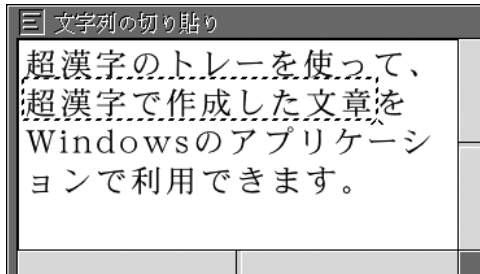
トレイとクリップボード

コピーした文字列やデータを一時的に保管しておく場所を、超漢字ではトレイ、Windows ではクリップボードとよびます。超漢字のトレイは小物メニューから起動し、コピーした内容を確認することができます。トレイには、文章、図形、仮身など、どんなデータでも最大 9 件まで格納できます。いっぽう、Windows のクリップボードは最新のデータを 1 件のみ格納します。(アプリケーションによってはクリップボードの内容を表示したり、複数のデータを格納したりできるものもあります)。

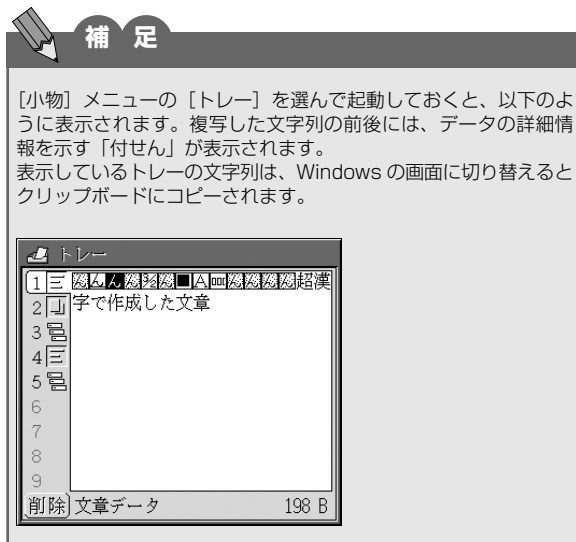
8.1.2 超漢字 V から Windows へ切り貼りする

超漢字 V でコピーした文字列を、Windows に貼り付けます。

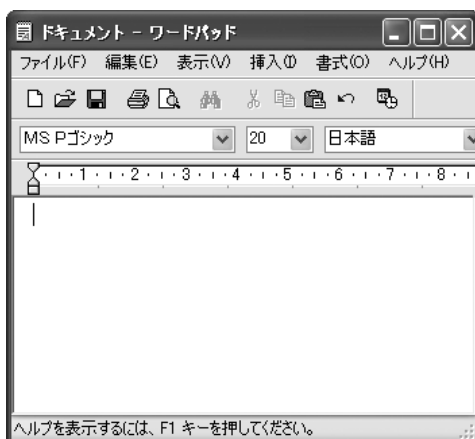
1. 超漢字 V のアプリケーションのウィンドウで、文字列を選択します。



2. [編集] メニューの [トレーへ複写] を選びます。文字列がトレーに複写 (コピー) されます。



3. Windows のアプリケーションのウィンドウをクリックして、画面を切り替えます。ここでは、あらかじめワードパッドを起動し、文字サイズを 20 ポイントに指定しています。

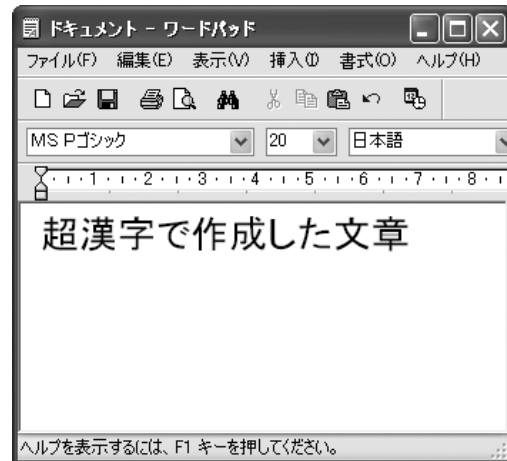


4. 文字列を貼り付けたい位置にカーソルを移動し、右クリックして [貼り付け] を選びます。超漢字 V でコピーした文字列が、Windows のアプリケーションに貼り付けられます。



補足

[編集] メニューの [貼り付け] を選んでも、[Ctrl] キーを押しながら [V] キーを押してもかまいません。



ポイント

超漢字 V から Windows へ文字列を切り貼りするしくみを簡単に説明すると、次のようになります。

超漢字 V のアプリケーション

↓ トレーへ複写

トレー

↓ 画面の切り替え、文字の変換

クリップボード

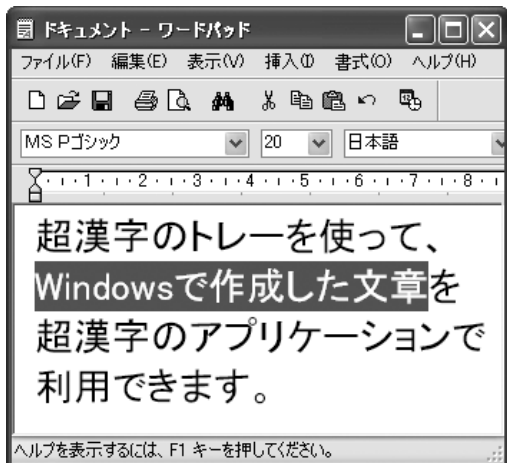
↓ 貼り付け

Windows のアプリケーション

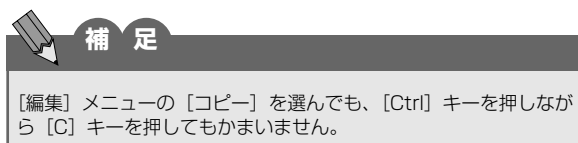
8.1.3 Windows から超漢字 V へ切り貼りする

Windows でコピーした文字列を、超漢字 V に貼り付けます。

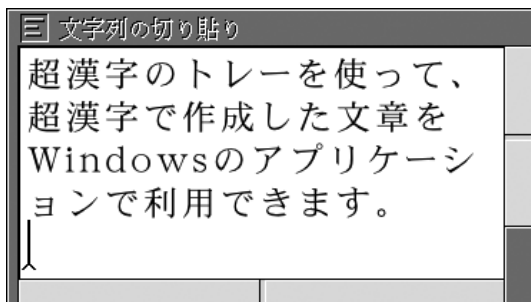
1. Windows のアプリケーションのウィンドウで、文字列を選択します。



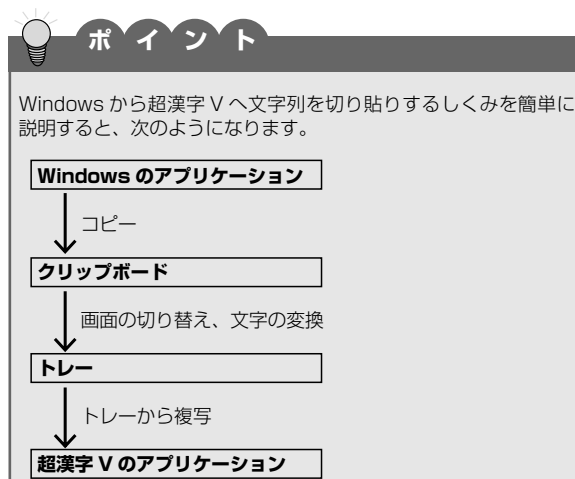
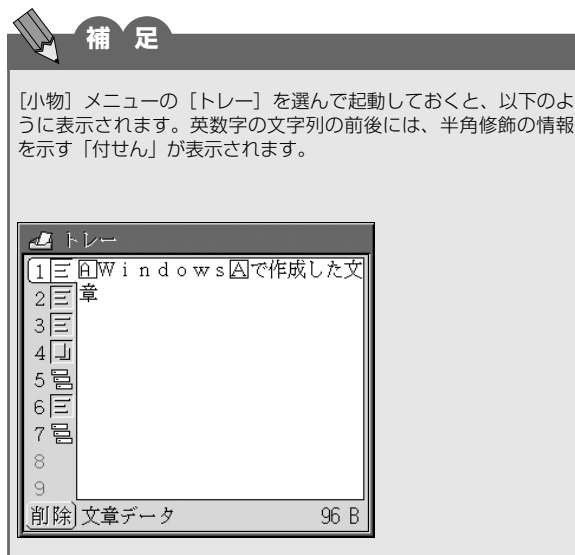
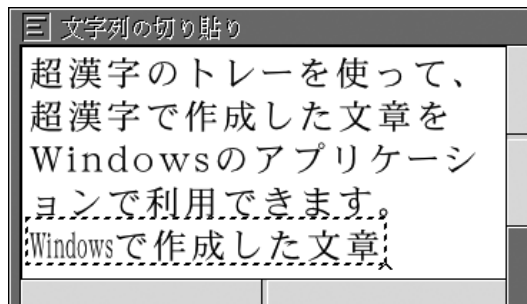
2. 右クリックして [コピー] を選びます。



3. 超漢字 V のウィンドウをクリックして、画面を切り替えます。
4. 文字列を貼り付けたい位置にカーソルを移動します。



5. 【編集】メニューの [トレから複写] を選びます。
Windows でコピーした文字列が、超漢字 V のアプリケーションに貼り付けられます。
システム環境設定の〈トレとクリップボード〉の設定 (p.46) により、英数字は半角幅で表示されます。



2 共有フォルダ参照

Windows の「共有フォルダ」の機能を使って、Windows と超漢字 V との間でファイルの交換ができます。文章や図形のファイルを相互にやりとりできるほか、超漢字 V で作成した文書のバックアップを Windows のディスクに保存しておくこともできます。



注意

超漢字 V の「共有フォルダ参照」機能は、超漢字 V と Windows との間でファイルを交換するために SMB (Server Message Block) というネットワーク通信規約を使用しています。共有フォルダをインターネット経由の不正なアクセスから保護するために、あらかじめ以下のいずれかの方法でセキュリティ対策をしておくことをお勧めします。

1. Windows ファイアウォールを有効にする
2. ファイアウォール機能のあるセキュリティソフトを使う
3. ルータ経由でインターネットに接続する

なお、Windows 上でウイルス対策ソフトやセキュリティソフトが動作していると、共有フォルダ参照の機能が有効にならない場合があります。

超漢字 V から Windows の共有フォルダへ接続する際に「サーバとの通信でエラーが発生しました。」というメッセージが表示される場合は、まず、以下の点をご確認ください。

- ・ Windows ファイアウォールの設定
- ・ ウィルス対策ソフト/セキュリティソフトでのファイアウォールの設定

共有フォルダへ接続できない場合の詳細な対応方法については、Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [超漢字 V] - [マニュアル] - [セキュリティソフトの設定] をご覧ください。また最新の情報を超漢字 V ウェブサイトのユーザサポートページ (<http://www.chokanji.com/support.html>) に掲載しておりますのであわせてご覧ください。



注意

共有フォルダは、ほかのユーザーアカウントや、同じネットワークに接続されているほかのユーザからも閲覧できます。重要なデータや個人情報が含まれたデータを取り扱う際には十分ご注意ください。

共有フォルダ参照を使って共有フォルダに格納したファイルは、マイドキュメントなど、共有設定されていないフォルダに移動して保存しておくことをお勧めします。

8.2.1 共有フォルダをネットワークで共有する

■ Windows 側の設定

1. Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[マイ コンピュータ] を選びます。
2. <このコンピュータに保管されているファイル> の「共有ドキュメント」のフォルダのアイコンを確認します。

- A. 手のひらの上にアイコンが載っているデザインの場合は、「共有ドキュメント」はネットワーク上で共有されています。「超漢字 V の設定」(p.50) へお進みください。



共有ドキュメント

- B. 通常のフォルダと同じデザインの場合は、「共有ドキュメント」がネットワーク上で共有されていません。手順 3 へお進みください。



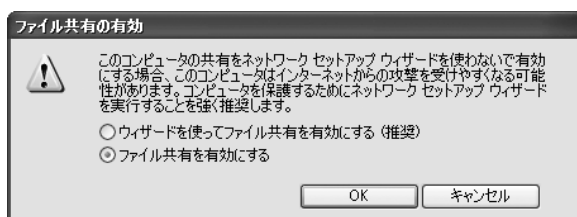
共有ドキュメント

3. 「共有ドキュメント」のアイコンを選んで右クリックし、[共有とセキュリティ] を選びます。共有ドキュメントのプロパティ画面が現れます。



4. 〈ネットワーク上での共有とセキュリティ〉にある「危険を認識した上で、ウィザードを使わないでファイルを共有する場合はここをクリックしてください。」をクリックします。
このメッセージが表示されていない場合は、手順6へお進みください。

5. ファイル共有を有効にするか確認するパネルが現れるので、[ファイル共有を有効にする]を選んで[OK]をクリックします。



6. [ネットワーク上でこのフォルダを共有する]をONにし、〈共有名〉を入力します。
共有名はここでは「共有ドキュメント」とします。
[ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する]をONにします。



7. [OK] をクリックすると、共有ドキュメントのフォルダの共有が有効になります。



共有ドキュメント



補足

Windows の共有フォルダについての詳細は、Windows のマニュアルやヘルプで「共有フォルダ」や「共有ドキュメント」の項目をご確認ください。

■超漢字 V の設定

1. [小物] メニューの [ネットワーク設定] を選びます。
ネットワーク設定小物が起動します。
2. 〈ネットワーク〉－〈VMware〉の見出しをクリックします。
〈アドレス〉欄の [自動設定] が ON (■) になっていることを確認します。



3. ネットワーク設定のウィンドウを閉じます。

ネットワーク設定についての詳細は「設定編 3.3 Windows ホストアドレスの確認」(p.77) をご覧ください。



補足

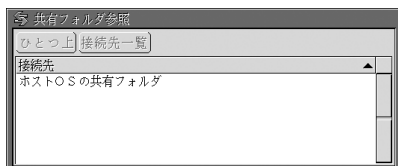
自動設定で取得される Windows ホストアドレス (IP アドレス) の値は、たとえば以下の手順で確認することができます。

1. Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] を選びます。
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
3. 〈コントロールパネルを選んで実行します〉の「ネットワーク接続」をクリックします。
4. 「VMware Network Adapter VMnet8」を選ぶと、エクスプローラーの「詳細」欄に IP アドレスが表示されます。

8.2.2 超漢字VのファイルをWindowsの共有フォルダに格納する

超漢字Vで作成したファイルをWindows用に変換して格納します。

1. 超漢字Vの画面で[小物]メニューの[共有フォルダ参照]を選びます。
共有フォルダ参照のウィンドウが現れます。



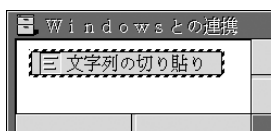
2. 「ホスト OS の共有フォルダ」をダブルクリックします。
「共有ドキュメント」や「SharedDoc」など、Windowsで共有設定されているフォルダ名が表示されます。



注意

ここでフォルダ名が表示されない場合は、8.2.1 (p.49) の手順に従って、共有フォルダの設定を有効にしてください。

3. ファイルを格納したい共有フォルダの名称をダブルクリックします。
ここでは「共有ドキュメント」をダブルクリックします。
4. 超漢字Vで作成したファイルを共有フォルダ参照にドラッグします。

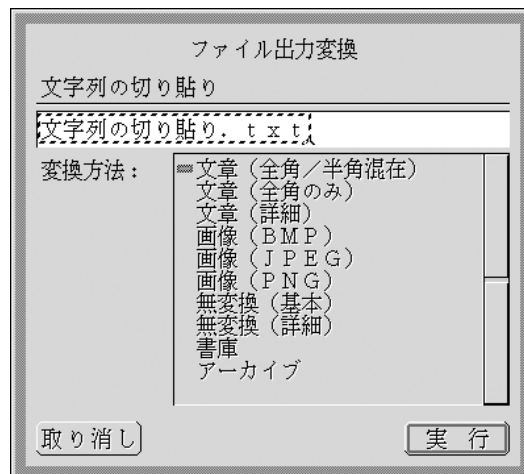


5. ファイル出力変換パネルが現れます。
ファイル名と変換方法を確認します。

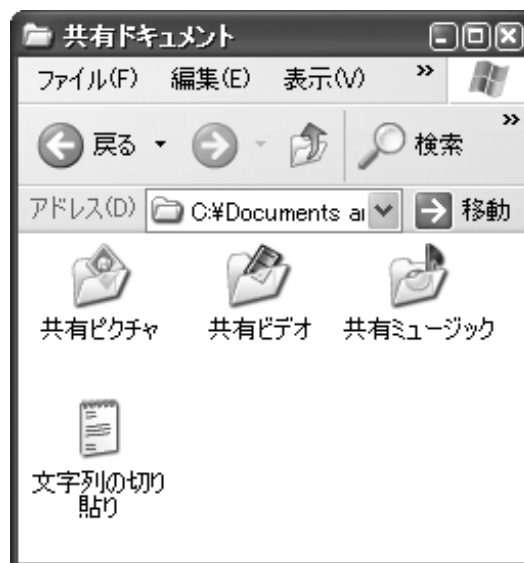


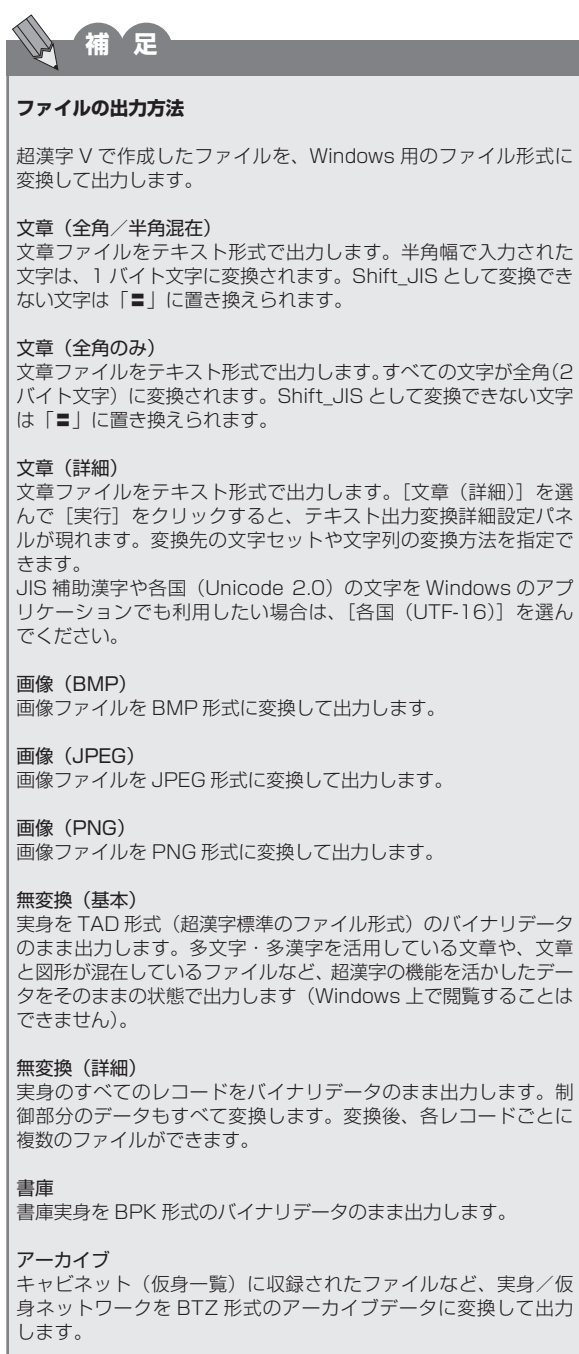
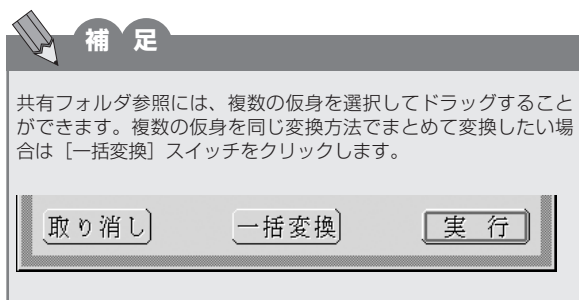
補足

選択した変換方法に合わせて拡張子（ファイルの種別）は自動的に切り替わります。



6. [実行] をクリックします。
指定した形式で変換されたファイルがWindowsの共有フォルダに格納されます。

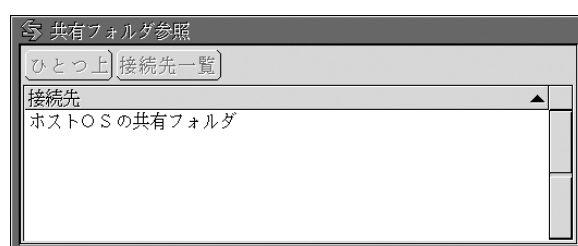




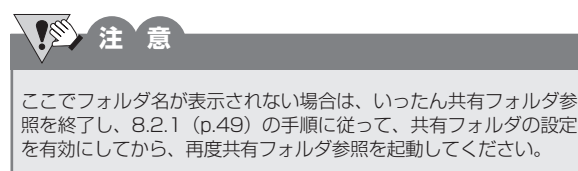
8.2.3 Windows の共有フォルダのファイルを 超漢字 V に取り込む

Windows で作成したファイルを超漢字用に変換して取り込みます。

1. Windows の共有フォルダ（「共有ドキュメント」など）に、作成したファイル（テキスト形式の文章や画像ファイル）を格納します。
ここでは、「共有ピクチャ」 — 「Sample Pictures」にある「Blue hills.jpg」を取り込むことにします。
2. 超漢字 V の画面で [小物] メニューの [共有フォルダ参照] を選びます。
共有フォルダ参照のウィンドウが現れます。

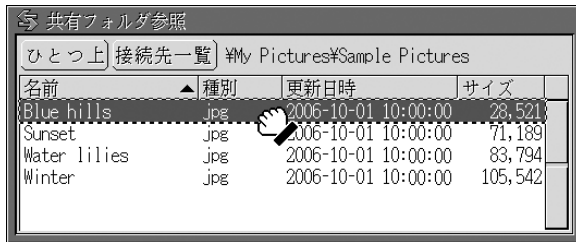


3. 「ホスト OS の共有フォルダ」をダブルクリックします。
「共有ドキュメント」や「SharedDoc」など、Windows で共有設定されているフォルダ名が表示されます。

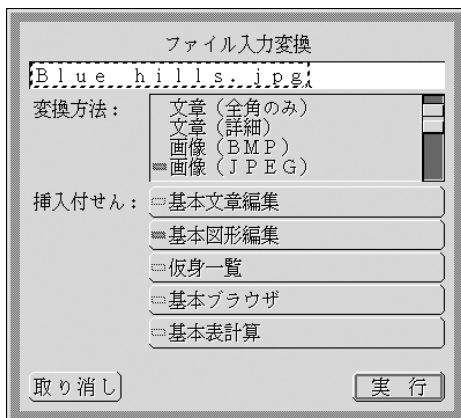
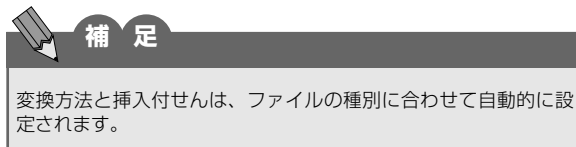


4. ファイルを格納してある共有フォルダの名称をダブルクリックします。
ここでは「共有ドキュメント」 — 「My Pictures」 — 「Sample Pictures」のフォルダ名を順にダブルクリックします。

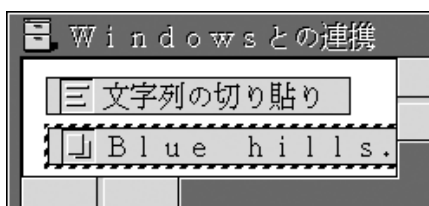
5. 超漢字Vに取り込みたいファイルを選んで、ほかのウィンドウにドラッグします。
ここでは、「Windowsとの連携」のウィンドウにドラッグしています。



6. ファイル入力変換パネルが現れます。
ファイル名を入力し、変換方法、挿入付せんを確認します。



7. [実行] スイッチをクリックします。
画像ファイルの場合は、さらに画像入力変換詳細設定パネルが現れます。
8. 変換する形式を指定して[実行] スイッチをクリックします。
指定した形式で変換されたファイルの仮身がドラッグしたウィンドウに現れます。



補足

ファイルの入力方法

Windows のファイル形式を超漢字標準のファイル形式である TAD 形式に変換して取り込みます。

文章（全角／半角混在）

テキスト形式の文章ファイルを変換します。半角（1 バイト文字）で入力された文字は、半角修飾を付けて変換されます。文字セットは自動的に判別されます。

文章（全角のみ）

テキスト形式の文章ファイルを変換します。すべての文字が全角に変換されます。文字セットは自動的に判別されます。

文章（詳細）

テキスト形式の文章ファイルを変換します。[文章（詳細）] を選んで [実行] をクリックすると、テキスト入力変換詳細設定パネルが現れます。変換元の文字セットや文字列の変換方法を指定できます。変換元文字セットは、特に指定のない場合は [日本語（自動判別）] を選んでおきます。

画像（BMP）

BMP 形式の画像ファイルを変換します。

画像（JPEG）

JPEG 形式の画像ファイルを変換します。

画像（PNG）

PNG 形式の画像ファイルを変換します。

無変換（基本）

Windows のファイルをバイナリデータとして変換せずに取り込みます。超漢字で作成した TAD 形式のファイルを入力する際に指定します。

無変換（詳細）

Windows のファイルをバイナリデータとして変換せずに取り込みます。[実行] スイッチをクリックし、表示されたパネルで変換方法の詳細を指定します。

書庫

BPK 形式の書庫ファイルを変換します。主にインターネット上で公開されている超漢字用のフリーソフトを取り込む際に利用します。

アーカイブ

BTZ 形式のアーカイブデータを変換し、実身／仮身ネットワークを展開します。

3 Windows とユーザ登録辞書を交換する

超漢字 V では、ユーザ辞書小物に登録されているユーザ辞書を、Windows の日本語入力システム「Microsoft IME スタンダード 2002」に取り込める形式に変換して保存することができます。共有フォルダ参照機能を使ってユーザ辞書を Windows のフォルダにコピーすれば、Windows のかな漢字変換に登録することができます。また、Windows のかな漢字変換のユーザ辞書をテキスト形式で保存すれば、共有フォルダ参照機能を使って超漢字 V に取り込み、ユーザ辞書小物に登録することができます。



補 足

「Microsoft IME スタンダード 2002」の使い方については、Windows のマニュアルやヘルプをご覧ください。

8.3.1 超漢字 V のユーザ辞書の登録単語を Windows に設定する

超漢字 V のユーザ辞書に登録されたユーザ登録単語を、「Microsoft IME スタンダード 2002」に移行する方法を説明します。

1. [小物] メニューの [ユーザ辞書] を選び、ユーザ辞書小物を起動します。
2. [辞書] メニューで Windows に移行したい辞書を選びます。
ここでは [基本ユーザ辞書] を選んだものとします。
3. [保存] メニューの [新しい実身へ (MS-IME 形式)] を選びます。
パネルが現れるので、実身名を入力して [保存] スイッチをクリックします。
ここでは「基本ユーザ辞書」のままとしています。
初期ウィンドウに「基本ユーザ辞書」の仮身が現れます。



補 足

MS-IME 形式を選んで保存すると、品詞名称が「Microsoft IME スタンダード 2002」に取り込める形式に変換されます。

4. [小物] メニューの [共有フォルダ参照] を選んで起動します。
5. 「ホスト OS の共有フォルダ」 - 「共有ドキュメント」を順にダブルクリックして、「基本ユーザ辞書」の仮身を共有フォルダ参照のウィンドウにドラッグします。
6. ファイル出力変換パネルが現れます。
実身名を入力し、〈変換方法〉欄で [文章 (詳細)] を指定して [実行] スイッチをクリックします。

テキスト出力変換詳細設定パネルで次の設定を選び、[実行] をクリックします。

変換先文字セット：UTF-16

半角・比例ピッチを 1 バイト文字に変換：ON

文字セット範囲外文字を &T 表記に変換：ON

改行コード：CR + LF

「共有ドキュメント」に「基本ユーザ辞書」のファイルが出力されます。

7. Windows の IME ツールバーの「ツール」のアイコンをクリックし、[辞書ツール] を選びます。
ユーザ辞書に登録されている単語の一覧が表示されます。
8. [ツール] メニューの [テキストファイルからの登録] を選び、「共有ドキュメント」内にある「基本ユーザ辞書」を選んで [開く] をクリックします。

「基本ユーザ辞書」の登録単語が追加されます。

8.3.2 Windows のユーザ辞書の登録単語を超漢字 V に設定する

「Microsoft IME スタンダード 2002」に登録されたユーザー登録単語を超漢字 V のユーザ辞書に移行する方法を説明します。

1. IME ツールバーの「ツール」のアイコンをクリックし、[辞書ツール] を選びます。
ユーザ辞書に登録されている単語の一覧が表示されます。
2. [ツール] メニューの [一覧の出力] を選び、ファイルを出力するフォルダを指定します。
ここでは、「共有ドキュメント」を指定しています。

3. ファイル名を入力します。
ここでは、ファイル名を「Windows ユーザ辞書」と入力しています。
4. ファイルの種類が「Microsoft IME 形式テキスト (*.txt)」になっていることを確認します。
[開く] または [保存] をクリックすると、ユーザ辞書がテキスト形式で出力されます。
5. 超漢字Vのウィンドウで、[小物] メニューの [共有フォルダ参照] を選んで起動します。
6. 「ホスト OS の共有フォルダ」－「共有ドキュメント」を順にダブルクリックして、「Windows ユーザ辞書」をほかのウィンドウ（初期ウィンドウなど）にドラッグします。
7. ファイル入力変換パネルが現れるので、実身名を入力し、〈変換方法〉が [文章（全角／半角混在）]、〈挿入付せん〉が [基本文章編集] になっているのを確認して [実行] をクリックします。
「Windows ユーザ辞書」の仮身が現れます。
8. [小物] メニューの [ユーザ辞書] を選び、ユーザ辞書小物を起動します。
「Windows ユーザ辞書」の仮身をユーザ辞書のウィンドウにドラッグします。
9. 確認のパネルが現れるので、[登録] をクリックします。

「Windows ユーザ辞書」がユーザ辞書に登録されます。



注意

超漢字のユーザ辞書に登録できる読みは1つの単語につき10文字まで、表記は30文字までです。読みや表記の制限を超える単語は登録できません。

ユーザ辞書の詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉－〈基本項目〉－〈ユーザ辞書〉をご覧ください。

4 Windows に接続されたプリンタで印刷する

「超漢字 V サービス」をインストールすることにより、Windows のプリンタ用ソフトウェア（ドライバ）を利用して、超漢字 V で作成した文書を印刷できます。

超漢字 V 単独ではサポートされていないプリンタも利用できるようになるほか、プリンタの機能に依存した両面印刷や印刷モードなどを Windows 上で設定することにより、超漢字からの印刷に有効に活用できます。

8.4.1 超漢字 V サービス

超漢字 V サービスは、Windows と超漢字の連動性を高める機能を備えています。

超漢字 V サービスの印刷機能によって、Windows に接続されたプリンタを使って、超漢字 V で作成した文書を印刷することができます。

超漢字 V サービスがインストールされていない場合は、本製品附属の『インストールガイド』の「2.2.2

超漢字 V サービスをインストールする」(p.11) の手順に従ってインストールしてください。



補 足

超漢字 V サービスはインストール時にスタートアップに登録されますので、通常は Windows を起動した際に自動的に起動します。

超漢字 V サービスが起動していない場合は、超漢字 V で印刷を実行する前に、Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [超漢字 V] — [ユーティリティ] — [超漢字 V サービス] を選んで起動してください。

超漢字 V サービスの起動中は、タスクバーにアイコンが表示されます。



「超漢字 V サービス」についての詳細は、Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [超漢字 V] — [ユーティリティ] — [超漢字 V サービス ヘルプ] をご覧ください。

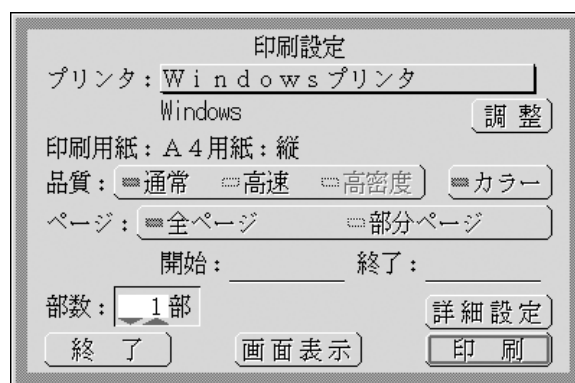
8.4.2 印刷設定

超漢字 V で作成した文書を印刷するときは、あらかじめ Windows にプリンタを接続し、電源を入れておきます。

1. 印刷したい原稿用紙などのウィンドウを開いた状態で [書式 / 印刷] メニューの [印刷] を選びます。

印刷設定パネルが現れます。

印刷設定パネルの表示中は、タスクバーのアイコンが青と緑に点滅します。



補 足

アプリケーションによっては、印刷したい実身を指す仮身をクリックして選択し、[実行] メニューの [基本印刷] を選んでも印刷設定パネルを表示させることができます。

2. <プリンタ> 欄が [Windows プリンタ] になっていることを確認します。

3. [印刷] スイッチを押すと、印刷を開始します。



補 足

「調整」スイッチをクリックすると、Windows 側に「プリンタの設定」画面が現れます。

印刷に利用するプリンタの機種を選択して、プロパティ画面でレイアウトや用紙を設定できます。設定が完了したら [OK] をクリックして超漢字のウィンドウに戻ります。

「プリンタの設定」画面が超漢字 V のウィンドウの背後に隠れてしまった場合は、タスクバーの「プリンタの設定」をクリックすると、最前面に表示されます。

超漢字 V でサポートしているプリンタについては、従来どおり超漢字で設定した印刷機能も利用できます。詳しくは、取扱説明書の〈索引〉—〈ふ〉—〈プリンタ（機種の設定）〉をご覧ください。



注 意

Windows 上でウイルス対策ソフトやセキュリティソフトが動作していると、Windows に接続されたプリンタで印刷できない場合があります。

超漢字 V サービスが起動している状態で「書式／印刷」メニューの「印刷」を選んだときに、「ホスト OS 上の超漢字 V サービスに接続できません。（超漢字 V サービスが動作していないか、ファイアウォール等によりアクセスが遮断されています）印刷処理を中断します。」というメッセージが表示される場合は、セキュリティソフトの設定を変更することにより、印刷機能を利用できるようになります。

詳細な対応方法については、Windows の「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」—「超漢字 V」—「マニュアル」—「セキュリティソフトの設定」をご覧ください。また、最新の情報を超漢字ウェブサイトのユーザサポートページ (<http://www.chokanji.com/support.html>) に掲載しておりますのであわせてご覧ください。



補 足

Windows プリンタの再登録

超漢字 V では、あらかじめ Windows プリンタが利用できるように設定されています。

もし、Windows プリンタの設定を変更してしまったり削除してしまったりした場合には、「設定編 2.4 プリンタの設定」(p.73)の手順で再登録できます。

取扱説明書で調べよう

9

超漢字 V の機能や操作についての詳細は、取扱説明書で説明しています。超漢字 V を操作していてわからないことがあったら、まず取扱説明書で調べるとよいでしょう。取扱説明書には、超漢字上で利用できるものと Windows 上で利用できるものがあります。内容は同一ですので、必要に応じて使い分けてください。

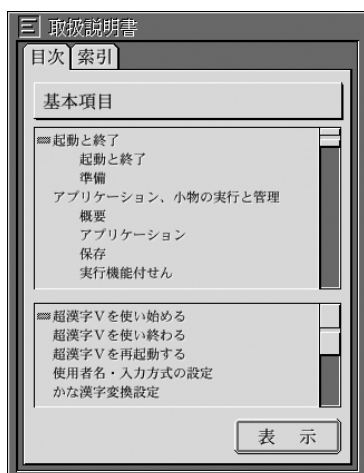
1 超漢字 V の取扱説明書を使う

超漢字 V の取扱説明書は、[小物] メニューから起動します。取扱説明書小物は、超漢字 V のほかのアプリケーションと同時に開いておくことができます。

取扱説明書小物には、目次から調べる方法と、索引から調べる方法があります。

9.1.1 取扱説明書小物の起動

1. [小物] メニューの [取扱説明書] を選びます。
取扱説明書小物のウィンドウが現れます。



2. [表示] スイッチをクリックすると、インジケータが ON (■) になっている項目を説明するウィンドウが開きます。

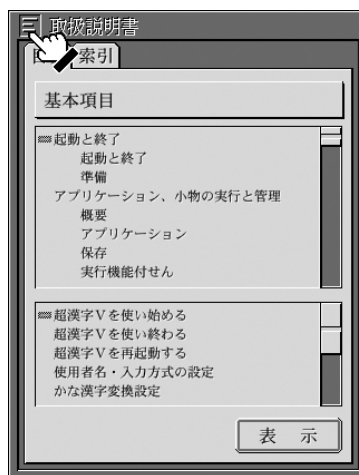


説明のウィンドウの中には仮身 (■) が埋め込まれています。 (■) をダブルクリックすると、新しくウィンドウが開いて参照先の説明が表示されます。

項目を説明するウィンドウは、同時に 3 つまで開くことができます。4 つ目のウィンドウを開くと、1 つ目のウィンドウが自動的に閉じます。

9.1.2 取扱説明書小物の終了

1. ピクトグラムをダブルクリックします。



2. 取扱説明書小物のウィンドウが閉じます。



補 足

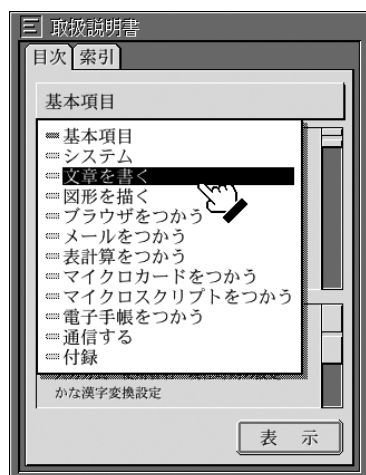
項目を説明するウィンドウが開いている状態で、取扱説明書小物のウィンドウを閉じても、項目を説明するウィンドウは閉じません。説明を読み終わったら、それぞれのウィンドウのピクトグラムをダブルクリックして閉じてください。

9.1.3 目次から調べる

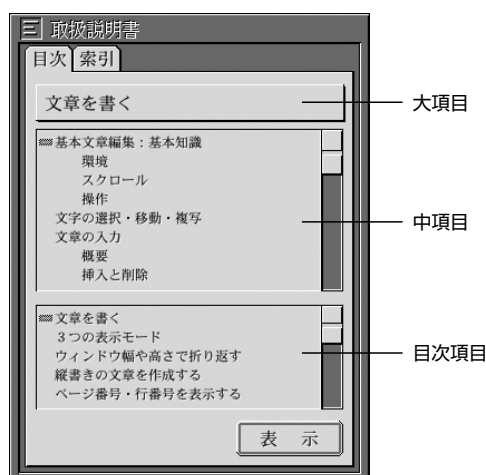
〈目次〉の見出しで、項目を順にたどって調べたい項目を選びます。

目次には、上から〈大項目〉〈中項目〉〈目次項目〉の3段階の目次があります。

大項目は、主にアプリケーション別に分類されています。〈大項目〉をプレスすると、ポップアップセレクトが表示されます。たとえば、原稿用紙（基本文章編集）に関する説明は、大項目の〈文章を書く〉を選ぶと表示されます。

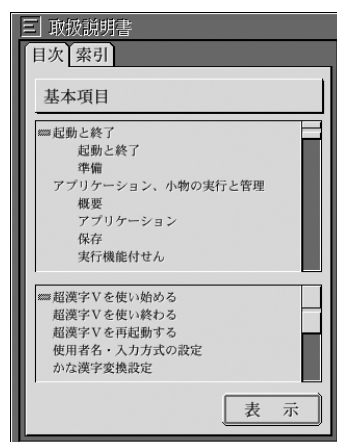


中項目欄には、大項目に対する章節の見出しが表示されます。さらに目次項目欄には中項目に対する詳細な目次が表示されます。選ばれている中項目や目次項目のインジケータがON (■) になっています。

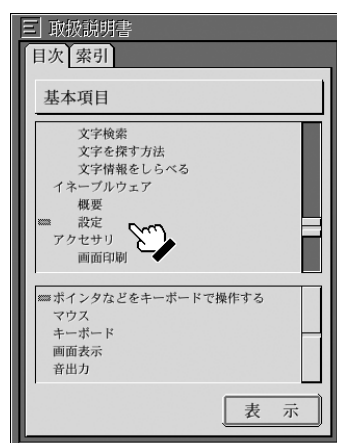


たとえば、p.24の「Qポイント」で参照している〈目次〉－〈基本項目〉－〈イネーブルウェア〉－〈設定〉－〈マウス〉を調べる場合は、以下の手順で操作します。

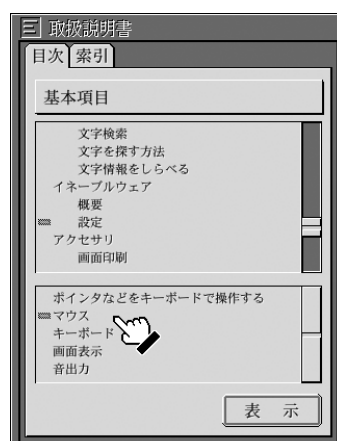
1. 〈目次〉の見出しで、大項目が〈基本項目〉になっているのを確認します。



2. 中項目欄をスクロールして、〈イネーブルウェア〉内の〈設定〉をクリックします。



3. 目次項目欄の〈マウス〉をクリックします。



4. [表示] スイッチをクリックします。
 〈マウス〉について説明するウィンドウが現れます。

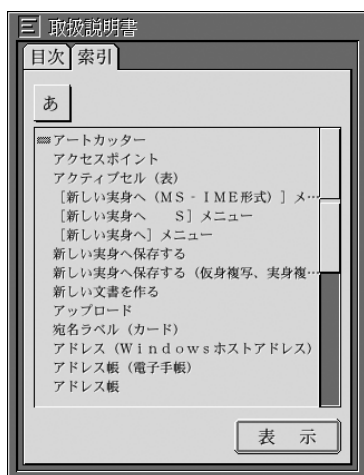


9.1.4 索引から調べる

〈索引〉の見出しでは、項目の名称やキーワードから調べることができます。

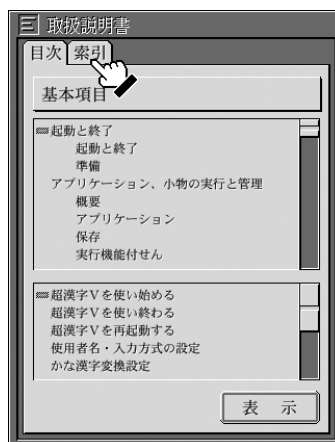
索引の見出し文字は、50音とアルファベット、数字と記号類に分類されています。

索引項目欄には、見出し文字に対する索引項目が一覧表示されます。

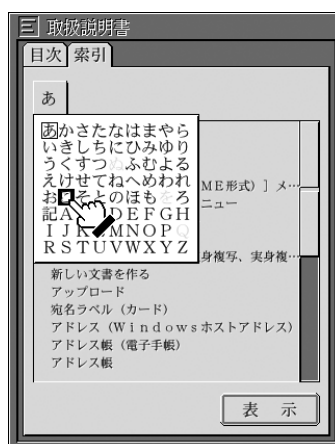


たとえば、p.22の「補足」で参照している〈索引〉－〈こ〉－〈小物〉－〈小物をメニューに出す／出さない〉を調べる場合は、以下の手順で操作します。

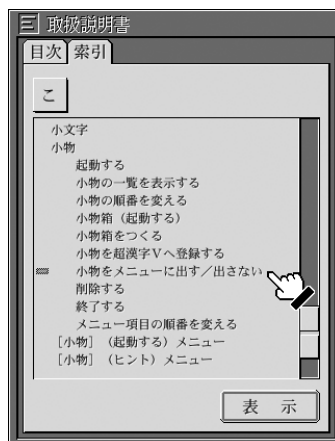
1. 〈索引〉の見出しをクリックします。



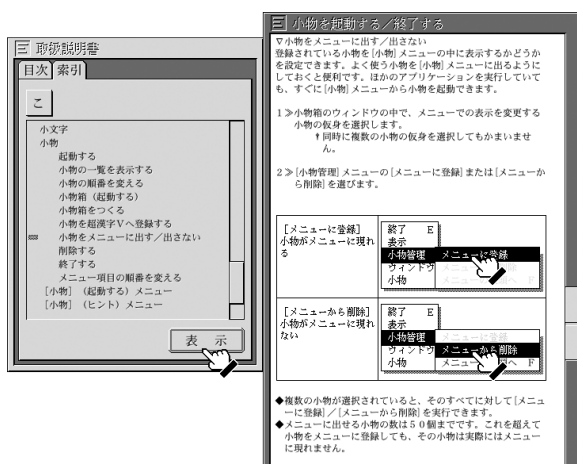
2. 索引の見出し「あ」をプレスして、[こ]を選びます。
 索引項目欄の表示が切り替わります。



3. 索引項目欄をスクロールして、〈小物〉内の〈小物をメニューに出す／出さない〉をクリックします。



4. [表示] スイッチをクリックします。
ウィンドウが現れ、〈小物をメニューに出す／出さない〉の見出しが表示されます。



注意

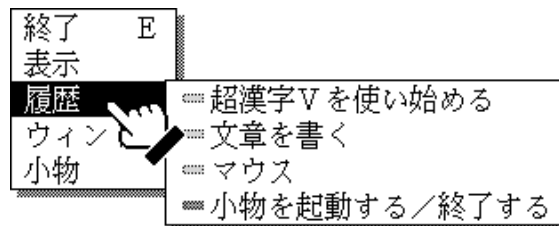
索引項目によっては、頭出し位置が前後したり、ページの先頭が表示される場合があります。また、索引項目を説明するウィンドウがすでに開いている場合は、同じウィンドウ内の別の索引項目を選んでも、頭出しされず、ウィンドウが最前面に現れます。

9.1.5 履歴を呼び出す

取扱説明書を起動してから今までに開いた説明のウィンドウの履歴をたどることができます。

一度調べた内容を、もう一度確認したいときに便利です。

1. 取扱説明書のウィンドウが最前面に表示されている状態で、[履歴] メニューを選びます。
取扱説明書小物を起動してから今までに開いた説明のウィンドウの履歴が、子メニューとして表示されます。



2. 子メニューの中から、閲覧したい項目を選びます。
選んだウィンドウが再び表示されます。

ウィンドウの履歴は、超漢字を終了するまで記憶されます。取扱説明書小物をいったん閉じた場合でも、再び起動すれば以前の履歴をそのまま利用できます。

2 Windows の取扱説明書を使う

超漢字 V の取扱説明書の内容を、Windows のアプリケーションを利用して閲覧することができます。Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [超漢字 V] - [マニュアル] を選ぶと、3 種類の取扱説明書のメニューが表示されます。目的や使い勝手の好みに応じて使い分けるとよいでしょう。

9

取扱説明書で調べよう

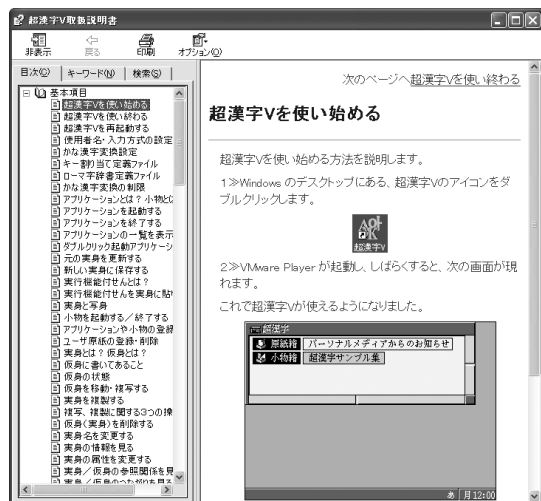
9.2.1 ヘルプ形式

Windows のアプリケーションに附属されているヘルプと同じ形式で、超漢字 V の取扱説明書を表示します。

〈目次〉は、取扱説明書小物の〈目次〉にあたる機能です。

〈キーワード〉は、取扱説明書小物の〈索引〉にあたる機能です。

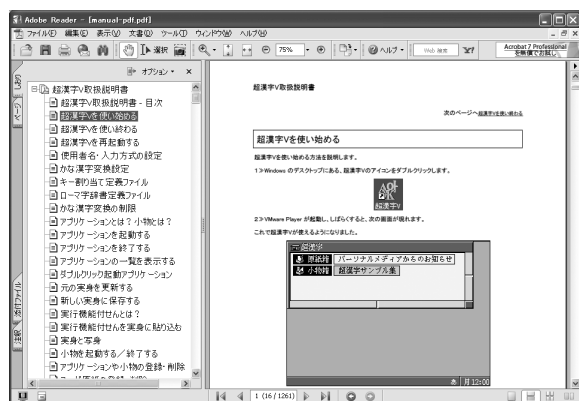
〈検索〉は、特定の語句や見出しを含む項目を本文中から検索します。



9.2.2 PDF 形式

取扱説明書を PDF 形式で収録しています。説明の内容を印刷して確認したい場合に適しています。

[編集] メニューの [検索] を選ぶと、語句を指定した検索ができます。

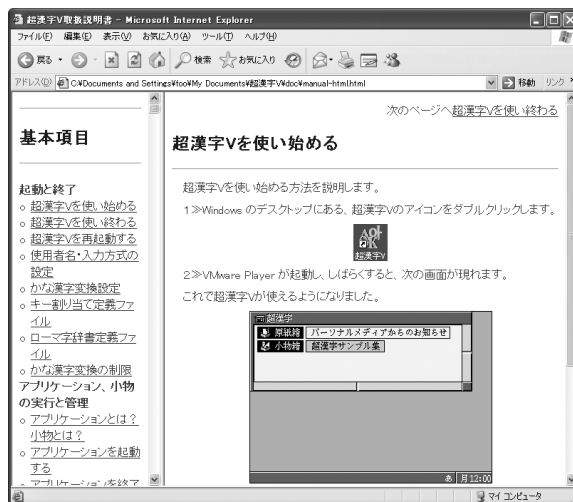


9.2.3 HTML 形式

取扱説明書をウェブブラウザで表示します。

目次や索引のページから、リンクをたどって閲覧します。

よく使う項目をブラウザの「お気に入り」や「ブックマーク」に登録しておくことができます。



注意

「お気に入り」や「ブックマーク」の登録方法はブラウザにより異なります。詳しくはお使いのブラウザのマニュアルやヘルプをご覧ください。

超漢字V 設定編

ユーザ環境設定

1

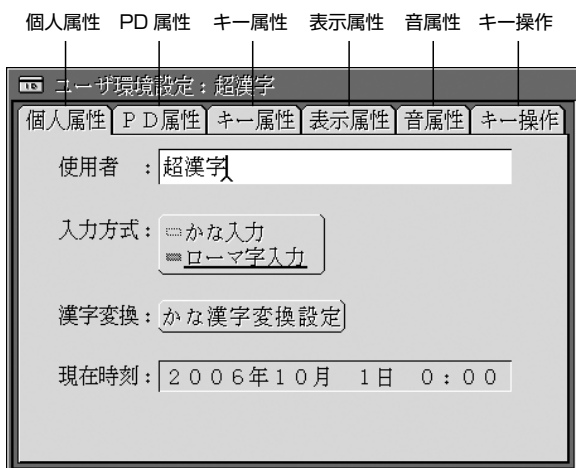
ユーザ環境設定では、文字の入力方式、キーボードやマウスの操作感、画面の見やすさなど、ユーザの好みや使い方に関わる設定を行います。ここでは、主に「初期設定ガイダンス」で設定される項目について説明します。そのほかの項目については、取扱説明書をご覧ください。



「初期設定ガイダンス」については、本製品付属の『インストールガイド』をご覧ください。

1 ユーザ環境設定を起動する

1. [小物]メニューの[ユーザ環境設定]を選びます。
ユーザ環境設定小物のウィンドウが現れます。



個人属性

使用者の名前、入力方式、かな漢字変換、現在時刻の設定をします。

PD 属性

マウスや電子ペンの操作感を設定します。

キー属性

キーボードの操作感を設定します。

表示属性

ウィンドウ、ポインタ、メニューなどの表示方法を設定します。

音属性

キーボードやマウスを操作したときの音やブザー音を設定します。

キー操作

メニュー文字（ショートカットキー）のキー割り当てを設定します。



補 足

〈個人属性〉の設定についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈起動と終了〉―〈準備〉―〈使用者名・入力方式の設定〉をご覧ください。



補 足

〈PD 属性〉〈キー属性〉〈表示属性〉〈音属性〉の設定についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈イネーブルウェア〉―〈概要〉―〈イネーブルウェアの設定の方法〉をご覧ください。



補 足

イネーブルウェア

イネーブルウェアとは、コンピュータをあらゆる人にとって使いやすいものにするための仕様です。ユーザとコンピュータの間にある障害を取り除き、さまざまなことを可能に（enable）することが目的です。

イネーブルウェアは、身体に障害を持つユーザの補助機能というだけではありません。荷物を持ったまま片手で操作する、電車の中で手が震える、騒音で警告音が聞き取れないなど、身体の障害だけでなく、コンピュータを操作する周囲の環境に問題がある場合もあります。コンピュータを操作するうえで発生するこれらの問題を「ユーザとコンピュータとのインターフェイスのミスマッチ」という観点で総合的にとらえ、そのミスマッチを補う手段を提供しようというのが、TRON のイネーブルウェアの考え方です。

2 かな漢字変換の入力方式を指定する

〈入力方式〉欄で、かな漢字変換の入力方式を指定します。

「初期設定ガイダンス」の〈かな漢字変換の入力方式〉欄で設定した方式が有効になっています。



補 足

変更した入力方式は、ただちに有効になります。

かな入力

キーボードに刻印されているひらがなを直接押して入力できます。

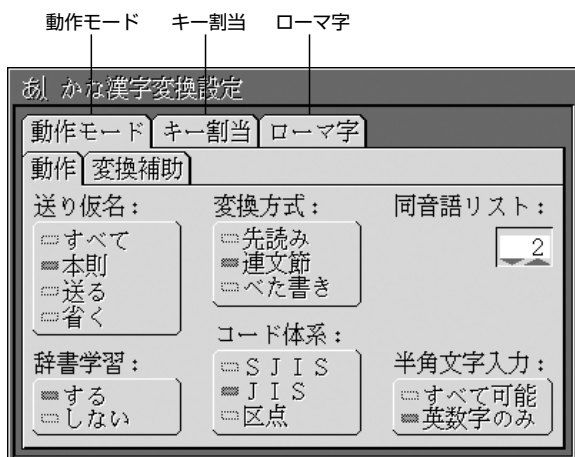
ローマ字入力

キーボードに刻印されているアルファベットを押して、ひらがなをローマ字読みで入力できます。

入力方式：☐ かな入力
☒ ローマ字入力

3 かな漢字変換設定

〈漢字変換〉欄の[かな漢字変換設定]スイッチをクリックすると、かな漢字変換設定のウィンドウが開きます。



動作モード

かな漢字変換の動作と変換効率を設定します。

キー割当

かな漢字変換のキー割り当て定義ファイルを設定します。

ローマ字

ローマ字とかなの対応に関する定義ファイルを設定します。



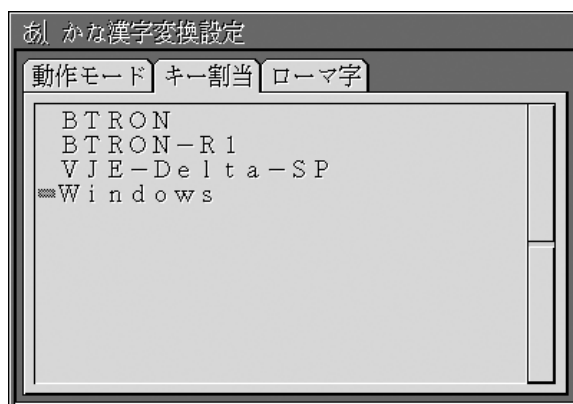
補 足

〈動作モード〉についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈起動と終了〉—〈準備〉—〈かな漢字変換設定〉—〈動作モードの設定〉をご覧ください。

1.3.1 かな漢字変換のキー割り当て

〈キー割当〉の見出しをクリックすると、かな漢字変換のキー割り当て定義ファイルを変更できます。

「初期設定ガイダンス」の〈かな漢字変換キー〉欄で設定した方式が有効になっています。



変更したいキー割り当て定義をクリックすると、インジケータがON (■) になります。



補 足

変更した入力方式は、ただちに有効になります。

〔BTRON〕方式と〔Windows〕方式では、主に、変換の操作と変換候補の確定の操作に以下の違いがあります。

	BTRON 方式	Windows 方式
変換	[変換]	[空白] (スペース)
カタカナの変換	[Shift] + [無変換]	[無変換]
変換候補の確定	右 [Ctrl]	[Enter]
文節の区切り変更	[Shift] + [←] / [→] [Shift] + [←] / [→] または [↑] / [↓]	[Shift] + [←] / [→] [Shift] + [←] / [→]
文節の選択	[←] / [→]	[←] / [→]
変換を取り消したとき のカーソル位置	読み文字列の末尾に 移動	取り消した対象文字 列の末尾に移動

そのほか〔VJE-Delta-SP〕方式、〔BTRON-R1〕方式も選ぶことができます。

キー割り当て定義ファイルの詳細については、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈起動と終了〉—〈準備〉—〈キー割り当て定義ファイル〉をご覧ください。



補 足

キー割り当て定義ファイルのサンプルを製品中の「超漢字サンプル集」の「日本語入力支援」内に収録しています。



補 足

〔BTRON-R1〕方式

〔BTRON-R1〕方式は、初期設定ガイダンスからは設定できません。〔BTRON-R1〕方式をお使いの方は、初期設定ガイダンスでは〔BTRON〕方式を選んでおき、初期設定ガイダンスの設定を終えたあとで、かな漢字変換設定を起動して〔BTRON-R1〕方式を選んでください。

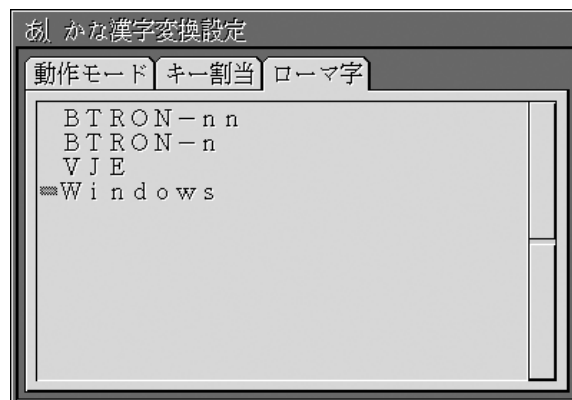
〔BTRON〕方式と〔BTRON-R1〕方式では、以下の違いがあります。

	BTRON 方式	BTRON-R1 方式
変換時の最初の対象 文節	先頭の文節	変換文字列の末尾の 文節
変換を取り消したとき のカーソル位置	読み文字列の末尾に 移動	取り消した対象文字 列の末尾に移動

1.3.2 ローマ字とかなの対応

〈ローマ字〉の見出しをクリックすると、ローマ字辞書定義ファイルを変更できます。拗音（^{ようおん}や、ゆ、よ）、促音（っ）、小書きのかな（あ、わ）などを含むかなの入力方法が異なります。

「初期設定ガイダンス」の〈ローマ字入力〉欄で設定した方式が有効になっています。



変更したいキー割り当て定義をクリックすると、インジケータがON (■) になります。



補 足

変更した入力方式は、ただちに有効になります。

入力方法の違いについての詳細は、「解説編 3.2 ローマ字変換表」(p.182) をご覧ください。

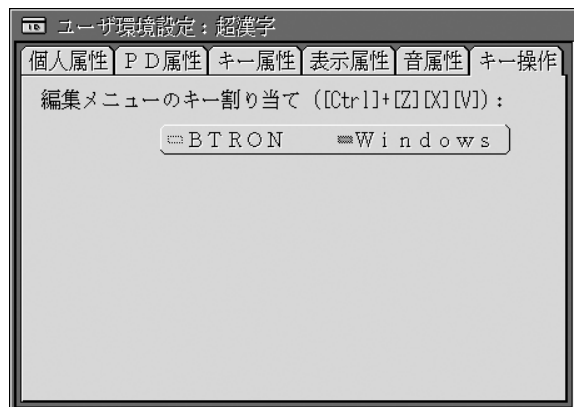
設定が終わったら、かな漢字変換設定のピクトグラムをダブルクリックしてウィンドウを閉じます。

4 キー操作

ユーザ環境設定小物の〈キー操作〉の見出しをクリックすると、編集メニューのキー割り当ての設定を変更できます。

Windows のショートカットキーにあたる機能のことを、超漢字ではメニュー文字とよんでいます。ここでは「編集」メニューに割り当てられているメニュー文字の設定を変更できます。

「初期設定ガイダンス」の〈[Ctrl] + [Z] [X] [V] の割り当て〉欄で設定した方式が有効になっています。



変更したいキー割り当て定義をクリックすると、インジケータが ON (ON) になります。

補 足

変更した入力方式は、ただちに有効になります。

「BTRON」方式と「Windows」方式では、編集メニューのキー割り当てに次の違いがあります。

	BTRON 方式	Windows 方式
トレーへ移動	左 [Ctrl] + [V]	左 [Ctrl] + [X]
トレーへ複写	左 [Ctrl] + [C]	左 [Ctrl] + [C]
トレーへ複写 (コンソール小物)	左 [Ctrl] + [V]	左 [Ctrl] + [B]
トレーから複写	左 [Ctrl] + [Z]	左 [Ctrl] + [V]
トレーから移動	左 [Ctrl] + [X]	左 [Ctrl] + [Z]

補 足

メニュー文字についての詳細は、「基本操作編 4.4 キーボードを使ってメニューを選ぶ」(p.26) および取扱説明書の〈目次〉―〈付録〉―〈資料〉―〈メニュー文字一覧〉をご覧ください。

注 意

コンソール小物は、Windows の「コマンドプロンプト」にあたります。初期ウィンドウの「小物箱」から起動することができますが、システムの内部を直接操作できるため、知識のある方以外は起動しないでください。システムに必要なファイルを削除・変更してしまうとシステムが破壊されますのでご注意ください。

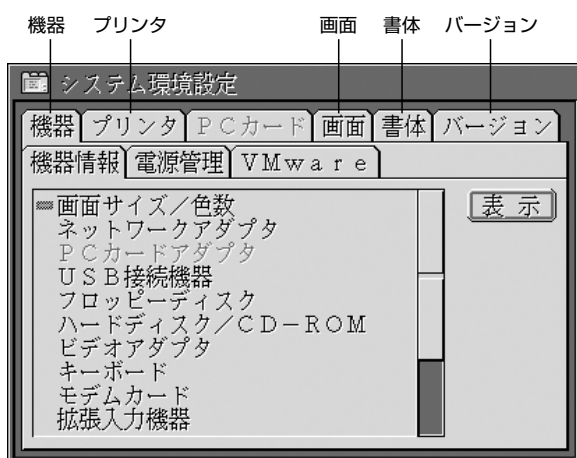
システム環境設定

2

システム環境設定では、周辺機器の設定、アプリケーションの登録と削除、画面や書体の設定など、超漢字のシステムに関する設定を行います。

1 システム環境設定を起動する

[小物] メニューの [システム環境設定] を選ぶと、システム環境設定小物のウィンドウが現れます。



注意

超漢字 V では内蔵の PC カードスロットに対応していないため、〈PC カード〉の見出しを選ぶことはできません。

機器

パソコンに接続されている周辺機器の設定、電源管理、VMware Player の操作に関連する設定を行います。

プリンタ

プリンタに関する設定を行います。

画面

背景画面、スクリーンセーバー、ウィンドウ配色、ウィンドウ書体の切り替えや登録を行います。

書体

書体の登録や削除、各種設定を行います。

バージョン

アプリケーションの追加や削除、バージョンの管理を行います。

2 画面サイズを変更する

2.2.1 画面サイズ/色数を変更する

超漢字 V は、Windows 上のソフトウェアと同時に使えるように、起動時の画面サイズを小さめの SVGA (800 × 600 : 1677 万色) に設定してあります。

お使いのディスプレイの画面解像度に合わせて、好みの画面サイズに変更することができます。

ここでは、超漢字 V の画面サイズを XGA (1024 × 768 : 1677 万色) に変更する方法を説明します。

1. 初期ウィンドウ以外のウィンドウを閉じます。
2. [小物] メニューの [システム環境設定] を選びます。

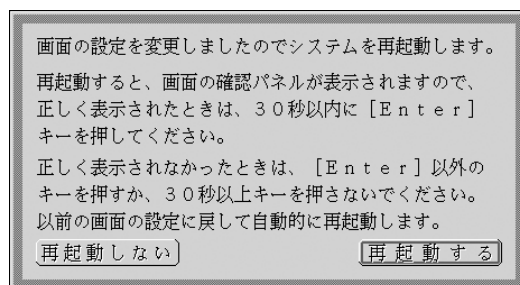
3. 〈機器〉－〈機器情報〉の見出しで [画面サイズ/色数] を選び、[表示] スイッチをクリックします。



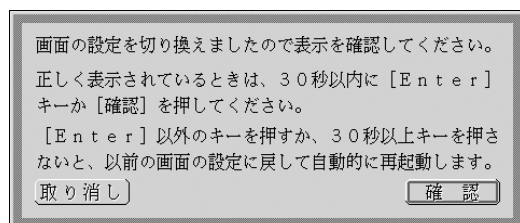
4. 現れたパネルで、画面サイズを選びます。
[1024×768:1677万色]をON()にします。



5. [設定] スイッチをクリックすると、超漢字 V を再起動することを確認するパネルが現れます。
[再起動する] スイッチをクリックします。



6. 再起動後に画面が正しく表示されていれば、30秒以内に [Enter] キーを押すか [確認] スイッチをクリックすると、変更した画面サイズが適用されます。
正しく表示されなかった場合は、[Enter] キー以外のキーを押すか、30秒以上キーを押さないでくと、変更前の画面サイズに戻ります。



補 足

超漢字 V の画面サイズをディスプレイサイズよりも大きい値を設定した場合は、VMware Player にスクロールバーが現れます。画面から隠れた部分は、VMware Player のウィンドウをスクロールすると表示されます。

画面サイズ/色数の変更についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉—〈システム〉—〈画面サイズ/色数〉—〈画面サイズ/色数の設定〉をご覧ください。

2.2.2 超漢字 V を全画面で表示する

Windows のアプリケーションと併用せず、超漢字 V の機能だけを利用したい場合には、超漢字 V のウィンドウを全画面化 (最大化) して使うことができます。

VMware Player のメニューで [最大化] を選ぶか、ツールバーの右上隅の  をクリックすると、超漢字 V のウィンドウを画面いっぱいに表示させることができます。Windows のタスクバーも消えます。

超漢字 V の画面解像度がディスプレイサイズよりも小さい場合は、超漢字 V の画面の周囲が黒く表示されます。

2.2.1 の手順に従って、画面サイズをディスプレイサイズと同じ大きさに設定すると、あたかも超漢字 V を単独で起動させているように表示させることができます。

画面上部には、VMware Player のツールバーが表示されます。

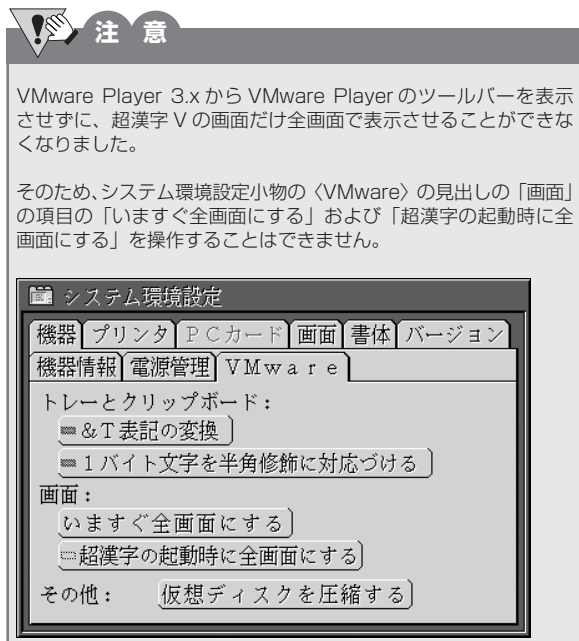
ツールバーの左端にある画鋏マークをクリックすると、ツールバーを隠しておくか ()、常に表示させておくか () を指定できます。

 をクリックすると、元のウィンドウサイズに戻ります。

 **補 足** [Ctrl] キーを押しながら [Alt] キーを押してもかまいません。

注 意

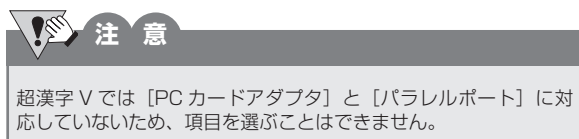
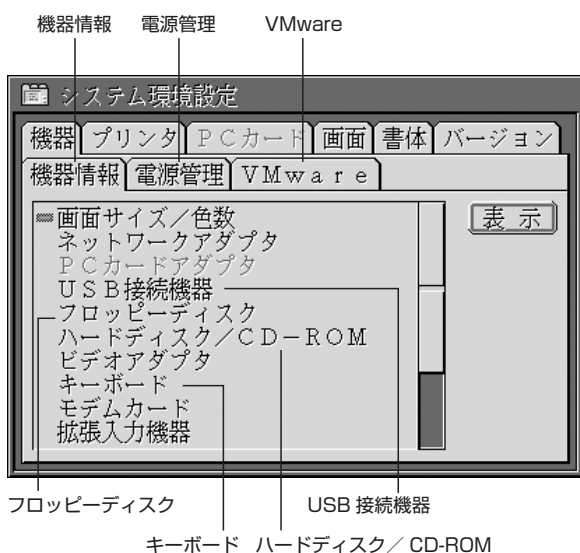
超漢字 V の画面サイズをディスプレイサイズよりも大きい値に設定して全画面で表示させると、表示が乱れる場合があります。



3 周辺機器を使う

ここでは、周辺機器の設定の中でも、超漢字 V で利用する機会の多い項目を中心に解説します。そのほかの項目については、取扱説明書の〈目次〉— 〈システム〉の各項目をご覧ください。

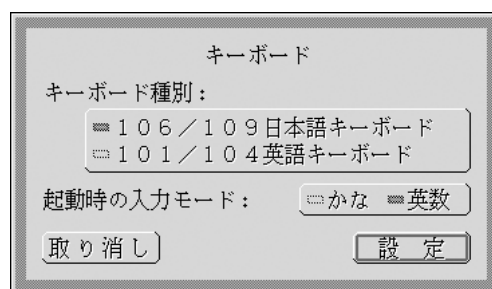
周辺機器や画面に関する設定は、〈機器〉の見出しで行います。



2.3.1 キーボードの設定

〈機器情報〉の見出しで [キーボード] を選び、[表示] スイッチをクリックすると、キーボードの種別と起動時の入力モードを指定できます。

「初期設定ガイダンス」の〈起動時の入力モード〉欄で設定したモードが有効になっています。



英語キーボードをお使いの方は [101 / 104 英語キーボード] を ON (ON) にして、[設定] スイッチをクリックしてください。

2.3.2 USB フラッシュメモリを使う

超漢字 V で USB フラッシュメモリなどの大容量記憶装置デバイス（以下 USB メモリ）を使用することができます。

USB メモリをセットすると、VMware Player のツールバーに USB デバイス接続のスイッチが現れます。



補 足

超漢字 V を起動する前に Windows 側で USB メモリに接続していた場合は、超漢字 V の起動直後から USB デバイス接続のスイッチが表示されています。

ツールバーのスイッチを押して接続状態にします。

接続状態：  USB device

切断状態：  USB device

※実際の表示とは異なります。

USB メモリが認識されたあとで「小物」メニューの「ファイル変換」を選ぶと、ファイル変換が起動します。「Win 基本区画」をダブルクリックすると、USB メモリの内容が表示され、USB メモリとファイルを交換することができます。

USB メモリを外すと、USB デバイス接続のスイッチが消えます。



注 意

Windows 側で USB メモリとのファイルのコピーを実行している間は、VMware Player のツールバーのスイッチを押さないでください（Windows と VMware Player によるエラーメッセージが表示されます）。

また、超漢字 V で USB メモリに接続している間は、Windows 側では USB メモリを使用できません。Windows 側で USB メモリを使いたい場合は、VMware Player のツールバーのスイッチを押して、切断状態にしてからご利用ください。



補 足

システム環境設定の「機器情報」の見出しで「USB 接続機器」を選び、「表示」スイッチをクリックすると、USB 接続のリムーバブルデバイスなどの接続状況を確認するパネルが現れます。USB 接続のマウスやキーボードなどの周辺機器は、このパネルには表示されません。

「表示更新」をクリックすると、最新の接続状況を表示します。「確認」スイッチをクリックしてパネルを閉じます。



補 足

ファイル変換小物

ファイル変換は、超漢字の実身と Windows のファイルを相互に変換することができます。CD-ROM や USB メモリに格納されたファイルをやりとりするときに利用します。

また、ネットワークを使って、超漢字と FTP サイトとのファイルの交換ができます。

ファイル変換についての詳細は、「解説編 2.3 ファイル変換」(p.175) および取扱説明書の「目次」―「システム」―「ファイル変換」―「Windows ファイルとのやりとり」の各項目をご覧ください。

2.3.3 フロッピーディスクを使う

超漢字 V でフロッピーディスクを利用するときは、まず超漢字 V の画面を最前面に表示します。

VMware Player のツールバーにある「Floppy」のスイッチをクリックして接続状態にしてから、フロッピーディスクをセットします。

接続状態：  Floppy

切断状態：  Floppy

フロッピーディスクが認識されると、「DOS 形式のディスクです。ファイル変換を起動しますか?」というパネルが現れるので、「ファイル変換」をクリックします。

ファイル変換小物が起動して、フロッピーディスクとデータを交換することができます。



注 意

「フォーマット」を選ぶと、フロッピーディスクのデータがすべて消去され、超漢字用にフォーマットされます。



補 足

システム環境設定の「機器情報」の見出しで「フロッピーディスク」を選び、「表示」スイッチをクリックすると、フロッピーディスクの検出方法を指定できます。

フロッピーディスク

ディスクの検出方法：

☒ 自動（周期的にチェックする）

☐ [Insert] キーを押す

ドライブ動作モード：

取り消し
設定

自動（周期的にチェックする）

フロッピーディスクがセットされたときに、自動的に認識します。

[Insert] キーを押す

フロッピーディスクをセットして [Insert] キーが押されると認識します。

「設定」スイッチをクリックすると、設定内容がシステムに反映されます。

「自動（周期的にチェックする）」を ON() にしている場合、フロッピーディスクドライブの音がカタカタと鳴る場合があります。これは超漢字がフロッピーディスクの出し入れを周期的にチェックしているためです。音が気になる場合は、「[Insert] キーを押す」を ON() にして使用してください。

2.3.4 CD-ROMを使う

超漢字 V で CD-ROM を利用するときは、まず超漢字 V の画面を最前面に表示します。

VMware Player のツールバーにある [CD-ROM] のスイッチをクリックし、接続状態にしてから CD-ROM をセットします。

接続状態：  CD-ROM

切断状態：  CD-ROM

CD-ROM をセットしたあとで、[小物] メニューの [ファイル変換] を選ぶと、ファイル変換が起動します。

「CD-ROM」をダブルクリックすると、CD-ROM の内容が表示されます。超漢字 V で利用したいデータをドラッグして取り込むことができます。

注意

お使いのパソコンに CD-ROM ドライブが複数接続されている場合には、VMware Player はそのうちの 1 つだけを認識します。CD-ROM をドライブにセットしても超漢字 V で認識されない場合は、もう一方のドライブにセットし直してみてください。

補足

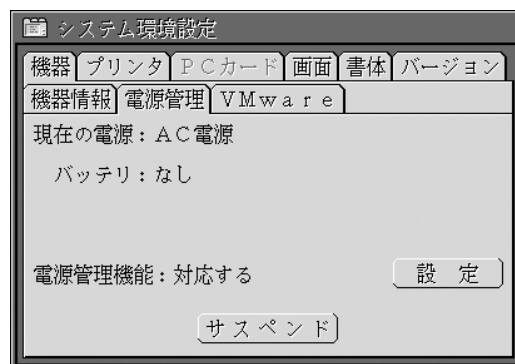
システム環境設定の〈機器情報〉の見出しで [ハードディスク / CD-ROM] を選び、[表示] スイッチをクリックすると、超漢字 V のハードディスク (VMware Player で認識している仮想マシンのハードディスク) と CD-ROM ドライブの検出方法を指定できます。超漢字 V では、特に設定を変更する必要はありません。[取り消し] をクリックしてパネルを閉じます。



2.3.5 電源管理

〈電源管理〉の見出しでは、電源管理に関する設定を行います。

超漢字 V では、設定を変更する必要はありません。

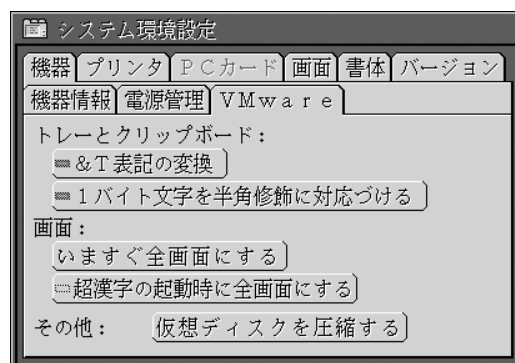


補足

[サスペンド] スイッチをクリックすると、超漢字 V のウィンドウの状態を保持したまま、ただちに超漢字 V を終了します。

2.3.6 新機能に関する設定

〈VMware〉の見出しでは、超漢字を VMware Player 上で動作させるために、新たに追加された機能に関する設定を行います。



〈トレイとクリップボード〉の見出しで、文字列の切り貼りに関する設定をします。

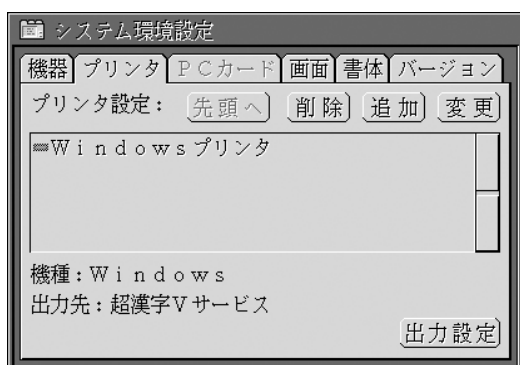
詳しくは「基本操作編 8.1 Windows との間で文字列を切り貼りする」(p.46) をご覧ください。

〈その他〉の見出しでは、仮想ディスクの圧縮に関する操作をします。

詳しくは「取扱説明書」(HTML 形式) の「仮想ディスクを圧縮する」をご覧ください。

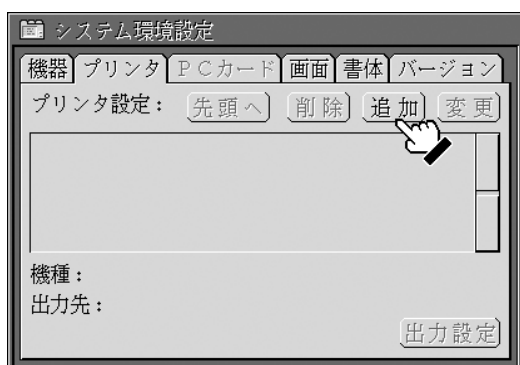
4 プリンタの設定

超漢字 V では、Windows に接続されているプリンタが利用できるように、あらかじめ設定されています。

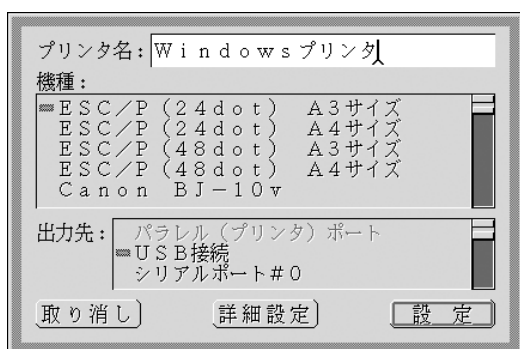


もし、Windows プリンタの設定を削除してしまった場合には、以下の手順で再び登録できます。

1. [小物] メニューの [システム環境設定] を選びます。
2. 〈プリンタ〉の見出しをクリックします。
3. 〈プリンタ設定〉の見出しで [追加] をクリックします。



4. パネルが現れるので、〈プリンタ名〉欄に「Windows プリンタ」と入力します。



5. 〈機種〉欄をいちばん下までスクロールして [Windows] を選びます。

〈出力先〉欄では自動的に [超漢字 V サービス] が選ばれるので、[設定] をクリックします。



6. システム環境設定のウィンドウに、登録したプリンタ名が現れます。



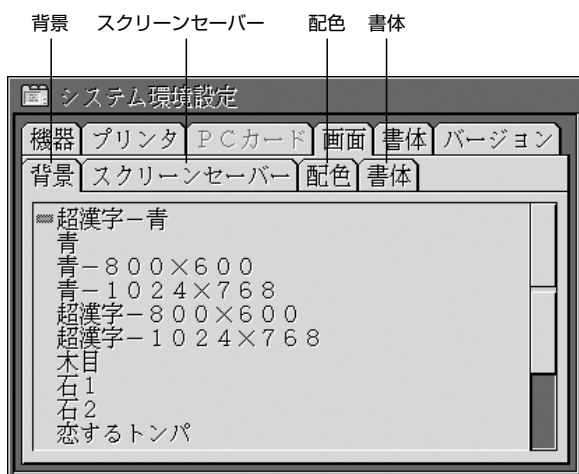
注意

超漢字 V から Windows に接続されているプリンタで印刷するときは、Windows 上で「超漢字 V サービス」を起動しておく必要があります。
Windows のタスクバーに超漢字 V サービスのアイコンが表示されているかをお確かめください。
超漢字 V サービスはインストール時にスタートアップに登録されますので、通常は Windows を起動した際に自動的に起動します。

超漢字 V サービスが起動していない場合は、超漢字 V で印刷を実行する前に、Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [超漢字 V] — [ユーティリティ] — [超漢字 V サービス] を選んで起動してください。

5 画面の設定

〈画面〉の見出しでは、背景画面、スクリーンセーバー、ウィンドウの配色や書体を切り替えることができます。それぞれの見出しで、設定の名称をクリックすると、設定はただちに反映されます。また、ユーザが作成した設定を登録して利用することができます。詳しくは、取扱説明書の〈目次〉－〈基本項目〉－〈アクセサリ〉の各項目をご覧ください。



背景

背景画面の登録や設定の切り替えを行います。(→取扱説明書〈画面の背景を変える〉)

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーの登録や設定の切り替えを行います。(→取扱説明書〈画面の焼き付きを防ぐ〉)

配色

超漢字 V のウィンドウ、パネル、メニューなどの配色の設定の登録や設定の切り替えを行います。(→取扱説明書〈画面の配色を変える〉)

書体

超漢字 V のウィンドウタイトル、メニュー、仮身などの表示に使われる書体の設定の登録や設定の切り替えを行います。(→取扱説明書〈画面の書体を変える〉)

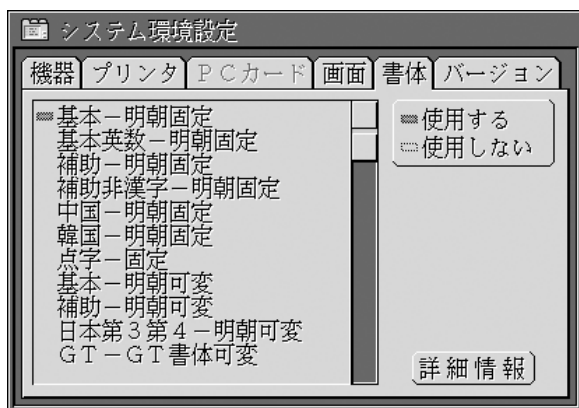


補足

製品中の「超漢字サンプル集」の「画面アクセサリ」にシステム環境設定に登録されている設定ファイルを収録しています。

6 書体

〈書体〉の見出しでは、書体(フォント)を登録したり、書体の設定を変更したりできます。超漢字 V には、複数の書体があらかじめ登録されています。



超漢字 V に書体を登録するときは、書体の実身をシステム環境設定の〈書体〉の見出しにドラッグします。

ここでは、「超漢字サンプル集」に収録されている「アーヴ文字」の書体を登録する方法を説明します。



注意

アーヴ文字は、小説家森岡裕之氏による小説「星界シリーズ」の舞台で使用するアーヴ文字の文字および数字のセットです。ご利用にあたっては、手順 5 で起動する「アーヴ文字」の本文をご覧ください。利用条件をご確認ください。

1. システム環境設定の〈書体〉の見出しをクリックして、書体の一覧を表示させます。
システム環境設定のウィンドウが手順 2 以降で操作するウィンドウに隠れないように、画面の右端に移動しておきます。
2. 初期ウィンドウの「超漢字サンプル集」の仮身をダブルクリックします。
3. 〈使いこなしに役立つソフトやデータ集〉の「フリーソフト・フリーデータ集」の仮身をダブルクリックします。

4. ウィンドウをスクロールして、〈●やりたいことから探す〉の〈文章入力支援〉の中にある「アーヴ文字を追加する」の仮身をダブルクリックします。
5. 「アーヴ文字」の仮身をダブルクリックし、ウィンドウをスクロールして、本文の最後にある「ath-Koganei 可変」の仮身をシステム環境設定にドラッグします。
6. アーヴ文字の書体がシステムに登録されます。

超漢字 V に登録できる書体についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈多文字／多書体〉—〈書体〉—〈書体を登録する〉をご覧ください。

7 バージョン

〈バージョン〉の見出しでは、アプリケーションの登録と削除の操作や、バージョン管理を行います。詳しくは、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈アプリケーション、小物の実行と管理〉—〈登録・削除〉—〈アプリケーションや小物の登録・削除〉をご覧ください。



超漢字 V にアプリケーションを登録するときは、アプリケーションの実身をシステム環境設定の〈バージョン〉の見出しにドラッグします。

〈バージョン〉の見出しは、超漢字 V の別売ソフトや「超漢字サンプル集」に収録されているフリーソフトを登録する場合にも使用します。詳しくは、各ソフトに附属されている取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク設定

3

超漢字 V では、Windows 環境でインターネットに接続されていれば、VMware Player のネットワーク機能を経由して、超漢字 V からインターネットに接続できるしくみになっています。ここで説明するネットワーク設定の内容は、Windows 側でインターネットに接続されていることが前提になっています。Windows のインターネットの設定については、Windows 付属のマニュアルやヘルプ、プロバイダから提供されている設定内容などをご確認ください。

1 VMware Player の設定

超漢字 V からインターネットに接続するためには、VMware Player のネットワーク接続が有効になっている必要があります。

VMware Player のツールバーの [Ethernet] スイッチが押された状態になっていれば接続可能です。ネットワークは常に接続状態にしておきます。



[Ethernet] スイッチの右側にある [▼] をクリックすると、VMware Player のネットワーク接続方法の一覧が表示されます。通常は [NAT] が選ばれた状態にしておきます。



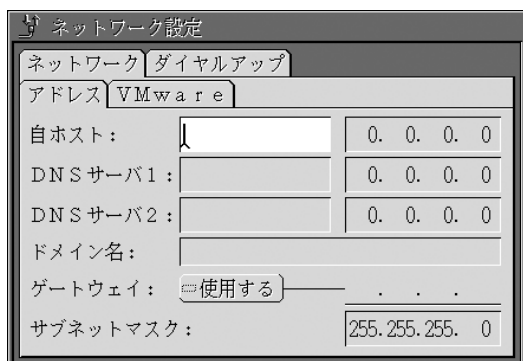
[Ethernet] スイッチをクリックすると、超漢字 V でのインターネット接続が切断されます (Windows 側の接続は切断されません)。間違えてスイッチを押してしまった場合は、もう一度 [Ethernet] スイッチを押すと再び接続されます。

また、NAT 以外の接続方法を選ぶと、超漢字 V でネットワークを利用する機能が正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

2 超漢字のネットワーク設定

超漢字 V からインターネットに接続したり、Windows の共有フォルダに接続するための設定を行います。

1. [小物] メニューの [ネットワーク設定] を選びます。
ネットワーク設定小物のウィンドウが現れます。



ネットワーク

アドレス

超漢字 V では、Windows の LAN 接続機能を使って接続します。通常は空欄でかまいません。

VMware

共有フォルダ参照を使ってファイルの交換をする際に必要なホストアドレスを取得します。

(→ 3.3 Windows ホストアドレスの確認: p.77)

ダイアルアップ

超漢字 V では、ダイアルアップでインターネットに接続する場合は、Windows のダイアルアップ機能を使って接続します。ここでダイアルアップの設定をする必要はありません。

3 Windows ホストアドレスの確認

Windows ホストアドレスの値は、共有フォルダ参照と Windows のプリンタを使った印刷機能に利用されます。超漢字 V の起動時に、自動的に取得します。



注意

共有フォルダ参照で Windows の共有フォルダに接続できない場合や、Windows に接続されたプリンタを使って印刷できない場合には、まず [自動設定] が ON (ON) になっているかどうかをご確認ください。

1. [小物] メニューの [ネットワーク設定] を選びます。

ネットワーク設定小物が起動します。

2. <ネットワーク> – <VMware> の見出しをクリックします。

<アドレス> 欄の [自動設定] が ON (ON) になっていることを確認します。

[自動設定] が OFF (OFF) になっている場合は、クリックして ON (ON) にします。



補足

自動設定で取得される Windows ホストアドレス (IP アドレス) の値は、たとえば以下の手順で確認することができます。

1. Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] を選びます。
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
3. <コントロールパネルを選んで実行します> の「ネットワーク接続」をクリックします。
4. 「VMware Network Adapter VMnet8」を選ぶと、エクスプローラバーの「詳細」欄に IP アドレスが表示されます。

エクスプローラバーの「詳細」が表示されない場合は、「VMware Network Adapter VMnet8」を選んだ状態で右クリックし、[状態] メニューを選びます。<サポート> の見出しをクリックすると、IP アドレスが表示されます。

ネットワーク設定の詳細は、取扱説明書の〈索引〉 – 〈ね〉 – 〈ネットワーク設定小物〉をご覧ください。

超漢字 V でネットワークを利用する機能を、次の各章で解説していますので、あわせてご覧ください。

● 超漢字と Windows とのファイルの交換

基本操作編 8.2 共有フォルダ参照 (p.49)

● Windows に接続されたプリンタを使った印刷

基本操作編 8.4 Windows に接続されたプリンタで印刷する (p.56)

応用編 6.5 はがきを印刷する (p.136)

● インターネット

応用編 第4章 ホームページを見よう (p.116)

● メール

応用編 第5章 メールを使おう (p.119)

超漢字 V のシステムを復旧する

4

万一超漢字 V が起動しなくなってしまった場合の対処方法について説明します。

1 システム CD を使って復旧する

超漢字 V のシステムは非常に安定していますが、超漢字 V が起動しなくなった場合は、本製品附属の「システム CD」
(^{グレー}灰色のレーベル) を使って超漢字 V を再登録することにより、起動できるようになる場合があります。



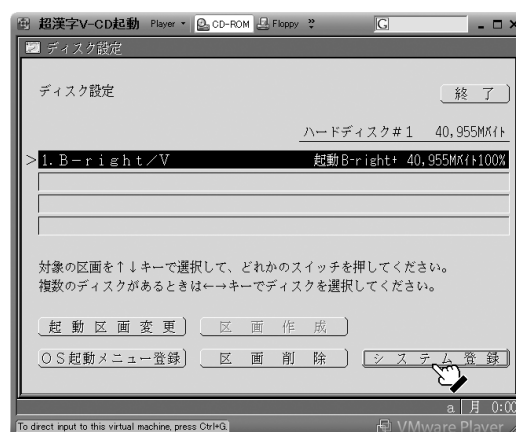
注 意

システム CD がないと、超漢字 V で作成したデータを保存した状態での復旧ができません。システム CD は、紛失しないように大切に保管しておいてください。

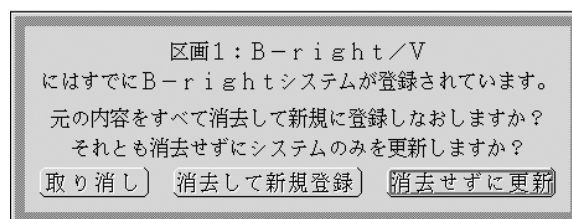
1. Windows を起動し、「システム CD」をドライブにセットします。
2. Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [超漢字 V] - [ユーティリティ] - [超漢字 V-CD 起動] を選びます。
VMware Player が起動し、しばらくして超漢字 V の「ディスク設定」画面が現れます。



3. [B-right/V] が選択されている（白黒反転している）のを確認して、画面右下の[システム登録]スイッチをクリックします。



4. システムの更新を確認するパネルが現れます。
[消去せずに更新] スイッチをクリックします。

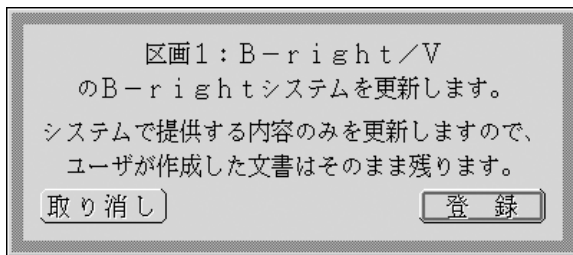


注 意

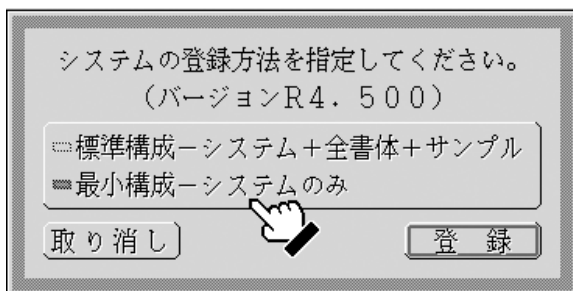
ここで[消去して新規登録]を選ぶと、それまでに超漢字 V で作成したデータや設定内容がすべて削除されます。必ず[消去せずに更新]を選んでください。
ただし、[消去せずに更新]を選んだ場合でも、システム環境設定の設定内容や書体の設定は削除されます。あらかじめご了承ください。

5. システムで提供する内容のみを更新することを確認するパネルが現れます。

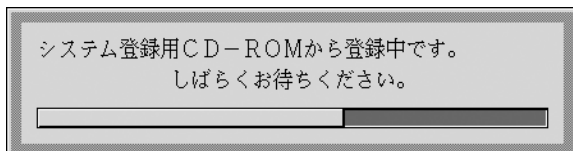
[登録] スイッチをクリックします。



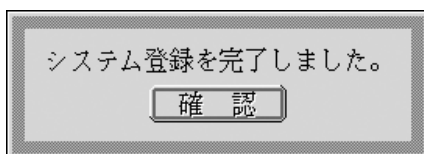
6. システムの登録方法を指定するパネルが現れます。[最小構成—システムのみ] をクリックして選びます。



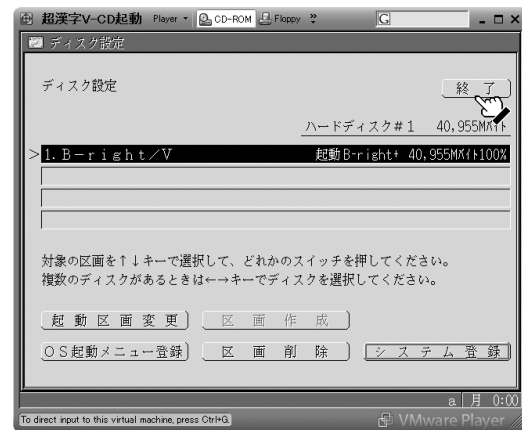
7. [登録] スイッチをクリックします。
システムの再登録を開始します。



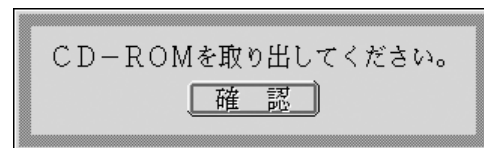
8. システム登録を完了を知らせるパネルが現れたら、[確認] スイッチをクリックします。



9. 画面右上の[終了] スイッチをクリックします。



10. パネルが現れるので、CD-ROM を取り出して[確認] スイッチをクリックします。



11. 超漢字 V が再起動されます。

超漢字 V が正常に起動されれば、復旧は完了です。

以上の方法を試しても超漢字 V が起動しない場合は、TRON サポートセンターまでお問い合わせください。お問い合わせ方法は本製品附属の『インストールガイド』の「ユーザサポートについて」(p.45) をご覧ください。

超漢字V 応用編

覚えておきたい編集操作

1

この章ではマウスやキーボードを使って、操作対象を編集する方法を説明します。

1 基本的な考え方

超漢字の操作は原則として、まず操作対象を選び、次に処理を選ぶという2つのステップに統一されています。仮身、文章、図形、ウィンドウなど、別々の対象を操作するときにも、同じ手順を踏みます。

1. 操作したい対象を選択します。
2. 選択されたものに対して、メニューやポインタを使って指示します。

これが操作のもっとも基本的な考え方です。選択の対象がどんなものでも、同じ操作で選択することがで

きます。

また、移動する、複製する、大きさを変える（変形する）といった基本操作も、操作対象の種類に関係なく、まったく同じ操作でできます。これを BTRON 作法とよびます。

最小限の基本操作である BTRON 作法を習得するだけで、いろいろな場面に有効活用できるのが、超漢字の特長です。

2 選択する

1.2.1 クリックによる選択

クリック操作を使って対象を選択します。主に、図形や仮身を選択するときに使う操作です。

1. 選択したい対象をクリックします。

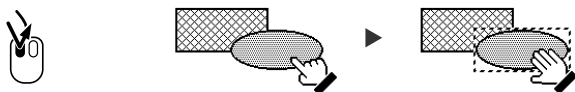
補足 選択できる対象の上では、ポインタは選択指^①になっています。

補足 すでに別のものが選択されていた場合は、その選択は解除されます。

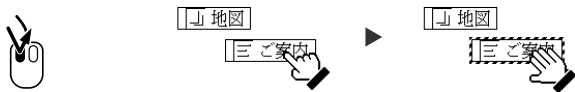
2. クリックした対象が選択され、ちらちらと点滅する枠に囲まれます。
この枠を**選択枠**とよびます。また、この状態を**選択状態**にあるといいます。

補足 選択枠はちらつき枠ともよばれます。

図形



仮身



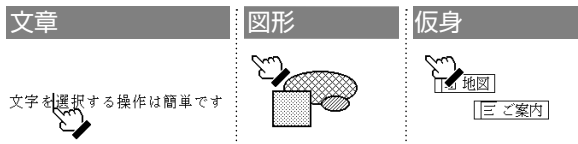
ポイント

クリックによる選択は、選択する対象が1個だけのときや、対象の境界が見分けられるときに便利です。

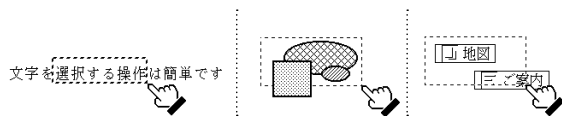
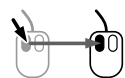
1.2.2 ドラッグによる選択

ドラッグ操作を使って選択します。主に、文章を選択するときに使う操作です。図形や仮身を選択するときにも使います。

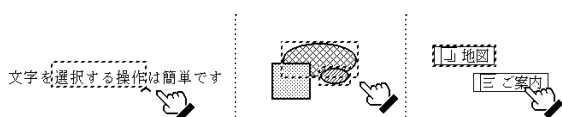
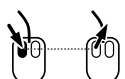
1. ポインタの形が選択指のときに、選択対象の外側でプレスします。



2. そのままドラッグし、選択したい対象をすべて囲みます。
最初にプレスした位置と、ポインタを結ぶ線を対角線とする、選択枠が現れます。



3. 選択枠の中に選択したい対象が完全に入ったところで、リリースします。
選択枠の中に完全に入っているすべての対象が、同時に選択されます。



補足 選択枠から少しでもはみ出しているものは、選択対象になりません。



ポイント

ドラッグによる選択は、複数の対象を一度に選択するときや、対象の境界がはっきりしないときに便利な方法です。

図形や仮身の場合、重なって完全に隠れてしまっている対象も選択できます。

1.2.3 選択対象を変更する

何かが選択されている状態のときに選択対象を増やしたり、減らしたりする操作です。文章の場合は、選択されている文字の範囲が変わります。

1. [Shift] キーを押しながら、クリックによる選択、またはドラッグによる選択をします。



[Shift] キーを押すと、ポインタが修正選択指に変わります。

選択対象によって、選択状態は以下のように変わります。

文章

選択領域がある場合、選択領域の範囲が伸縮します。



カーソルが表示されている場合、カーソルの位置からクリック地点までが、選択領域になります。



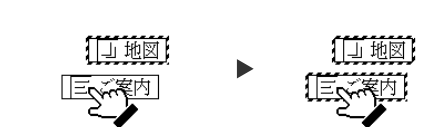
仮身、図形

それまで選択されていないものは、新しく選択対象に追加されます。

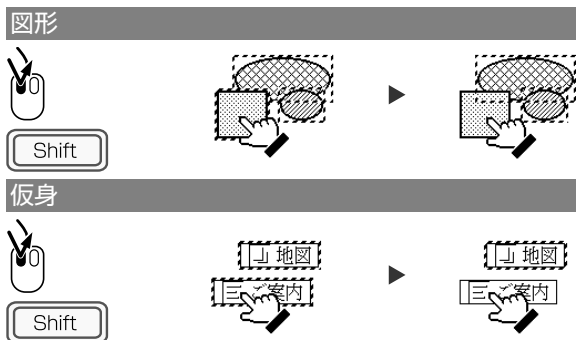
図形



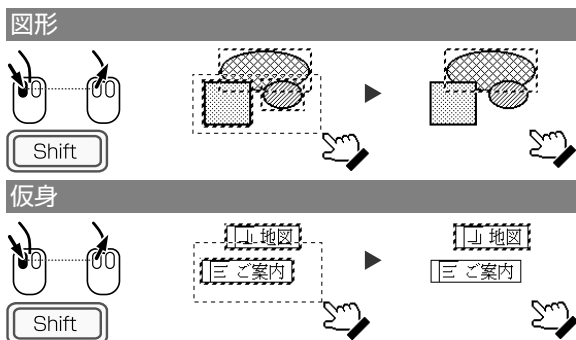
仮身



すでに選択されているものは、選択が解除されます。



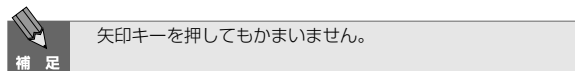
ドラッグ操作でも、すでに選択されているものは、選択が解除されます。



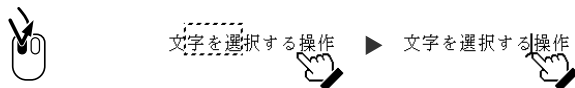
1.2.4 選択を解除する

文章の選択を解除します。

1. 選択枠以外の部分をクリックします。



2. 選択が解除されます。



ポイント

図形や仮身の選択を解除するには以下の3つの方法があります。

A. 新しく選択する
選択状態にあるもの以外を選択すると、それまで選択されていたものが解除されます。

The diagram shows a hand clicking a new shape, which replaces the previous selection.

B. 何もないところでクリックする
ウィンドウの中で、何もないところをクリックすると、すべての選択状態が解除されます。

The diagram shows a hand clicking in an empty area, which removes all selections.

C. もう一度選択する
[Shift] キーを押しながら、すでに選択されているものを選択すると、選択状態が解除されます。

The diagram shows a hand clicking a shape that is already selected while the Shift key is pressed, which removes the selection.

3 移動する／複写する

選択されている対象を、現在の場所から別の場所に動かすことを「移動する」といいます。いっぽう、選択されている対象を現在の場所にそのまま残し、別の場所に対象と同じものをもう1つ作ることを「複写する」といいます。

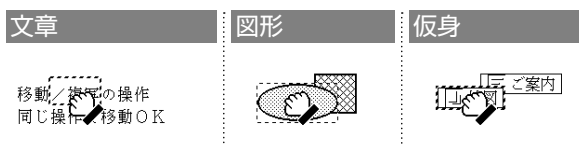
1.3.1 移動する

文字、図形、仮身、およびウィンドウを移動します。

1. 移動したい対象を選択します。

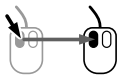
2. 選択対象をプレスします。

ポインタが移動手から握りに変わります。

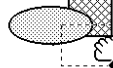


3. 対象を移動したい位置までドラッグします。

ポインタの動きに合わせて、対象がちょうど収まる大きさの選択枠が移動します。

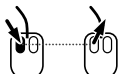


移動
の操作
同じ操作で移動OK



4. 移動先でリリースします。

その地点に選択対象が移動します。



移動の操作
同じ操作で移動／複写OK



補足 移動の直後に、[編集]メニューの[取り消し]を選ぶか、[Esc]キーを押すと、移動操作が取り消されます。ただし、ウィンドウの移動を取り消すことはできません。



ポイント

複数の対象を選択すると、それらすべてを一度に移動できます(ウィンドウ操作は除きます)。

移動の対象は、いちばん前に表示されている必要はありません。ほかのものが上に重なっていても、見えている部分をプレスすれば移動できます。

1.3.2 複写する

文字、図形、および仮身を複写します。複写ドラッグの操作を使います。

手順1から3までは1.3.1の移動操作と同じです。

1. 複写したい対象を選択します。

2. 選択対象をプレスします。

3. 対象を複写したい位置までドラッグします。



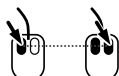
補足 複写元と同じ場所に複写したい場合でも、必ず少しだけドラッグします。複写終了後、移動して位置を調整してください。

4. 複写先で右ボタンをプレスします。

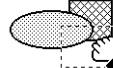
左ボタンと右ボタンの両方が押されている状態になります。



補足 右ボタンを押す代わりに、左 [Ctrl] キーを押してもかまいません。



移動／複写の操作
同じ操作で移動OK



5. 右ボタンを押したまま、左ボタンだけをリリースします。

その地点に選択対象が複写されます。複写を確認してから右ボタンをリリースします。



移動／複写の操作
同じ操作で移動／複写OK



補足 複写の直後に、[編集]メニューの[取り消し]を選ぶか、[Esc]キーを押すと、複写操作が取り消されます。



ポイント

複数の対象を選択すると、それらすべてを一度に複写できます。

複写の対象は、いちばん前に表示されている必要はありません。ほかのものが上に重なっていても、見えている部分をプレスすれば複写できます。

1.3.3 移動／複写の方向を拘束する

図形や仮身、ウィンドウを移動したり複写したりする方向を、水平（横）方向、または垂直（縦）方向に拘束（固定、制限）することができます。

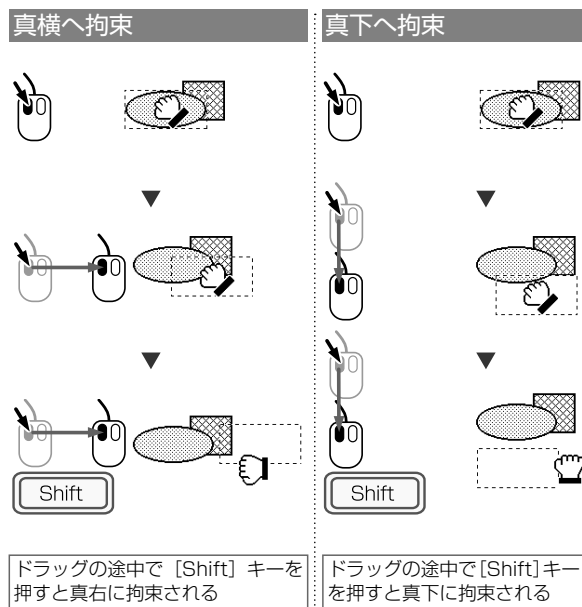
1. 対象をドラッグしながら、[Shift] キーを押します。
[Shift] キーを押した直後のドラッグ方向によって、ドラッグ方向が拘束されます。
2. [Shift] キーを押したまま、リリースします。
リリースした場所に対象が移動／複写されます。

縦方向へドラッグ

選択棒が、垂直方向に拘束されます。このとき、ポインタの握りの形は  になります。

横方向へドラッグ

選択棒が、水平方向に拘束されます。このとき、ポインタの握りの形は  になります。



ポイント

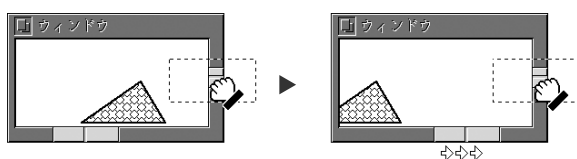
[Shift] キーを押すときに、ドラッグ操作をいったん止める必要はありません。

たとえば、真下に動かしたい場合は、最初は、だいたい右の方向へドラッグを始めます。ドラッグの途中で [Shift] キーを押すと、その直後から、真下に選択棒が拘束されます。

1.3.4 移動／複写中にスクロールする

ウィンドウの中に表示されていない場所に文章や図形、仮身を移動したり複写したりしたい場合があります。ドラッグしながらウィンドウをスクロールさせて目的の場所を表示し、その後、移動／複写の操作を行います。

1. ドラッグしているときに、握り  のポインタを、タイトルバーやスクロールバーなどの上に持っていくます。
2. ポインタを置いたタイトルバーやスクロールバーの方向が見えるようにスクロールします。



タイトルバーの上に置く：

上方向にスクロールします。

下辺のスクロールバーの上に置く：

下方向にスクロールします。

左辺のウィンドウ枠の上に置く：

左方向にスクロールします。

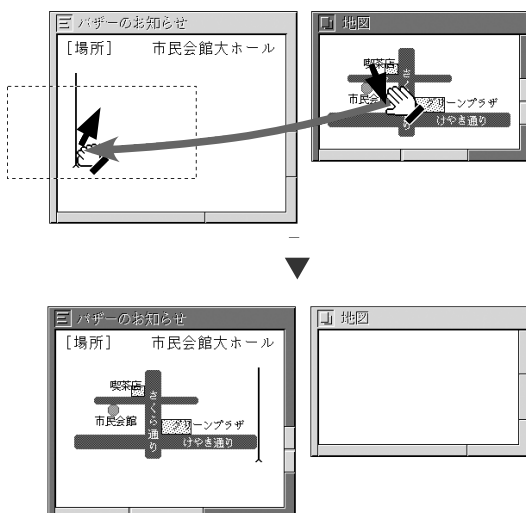
右辺のスクロールバーの上に置く：

右方向にスクロールします。

3. 移動／複写したい場所までスクロールしたら、ウィンドウの中にポインタを戻し、移動／複写の操作をします。

1.3.5 ほかのウィンドウへ移動／複写する

仮身、文章、および図形は、ほかのウィンドウへ移動／複写することができます。操作方法は、ウィンドウ内の移動／複写操作と同じです。



4 変形する

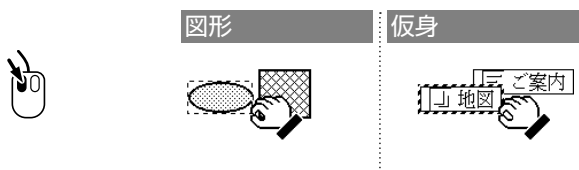
図形や仮身、ウィンドウは、ポインタを操作して大きさや形を変えることができます。



図形、ウィンドウには大きさを変更できないものもあります。

1.4.1 大きさを変える

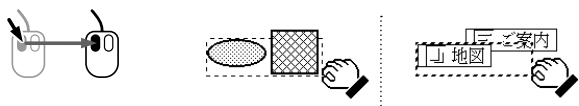
1. 大きさを変えたい対象を選択します。
2. 選択対象の四隅のいずれかをプレスします。
ポインタの形が変形手からつまみに変わります。



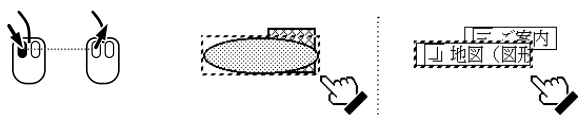
3. 目的の大きさや形になるまでドラッグします。
ポインタの動きにあわせて、選択枠の大きさが変わります。



移動／複製と同様に、形を変えながら、スクロールすることができます。



4. 目的の大きさや形になったところでリリースします。
選択枠の大きさや形に変わります。



変形の直後に、[編集]メニューの[取り消し]を選ぶか、[Esc]キーを押すと、操作が取り消されます。ただし、ウィンドウの変形は、取り消せません。



ポイント

複数の図形や仮身を選択した場合は、それらすべての大きさが、比率を変えずにいっぺんに変わります。

形を変える対象は、いちばん前に出ている必要はありません。ほかのものが上に重なっていても、見えている部分をプレスすれば形を変えることができます。



仮身を縦方向に大きくすると、開いた仮身になります。

1.4.2 大きさを変える方向を拘束する

大きさを変える方向を、水平（横）方向、または垂直（縦）方向に拘束（固定、制限）することができます。

1. 選択対象の四隅のいずれかをドラッグしながら、[Shift]キーを押します。
[Shift]キーを押した直後のドラッグ方向によって、ドラッグ方向が拘束されます。

2. [Shift]キーを押したままで、リリースします。
拘束された選択枠の大きさや形に変わります。

縦方向へドラッグ

選択枠が、垂直方向に拘束されます。このとき、ポインタのつまみの形はになります。

横方向へドラッグ

選択枠が、水平方向に拘束されます。このとき、ポインタのつまみの形はになります。

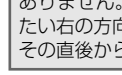
斜め方向へドラッグ

選択枠が、対角線方向に拘束されます（相似変形）。



ウィンドウは、斜め方向には拘束できません。

真横へ拘束



相似になるように形を変える



ポイント

[Shift]キーを押すときにドラッグ操作をいったん止める必要はありません。たとえば、真右に動かしたい場合は、最初は、だいたい右の方向へドラッグを始めます。途中で[Shift]キーを押すと、その直後から、真右に選択枠が拘束されます。

1

覚えておきたい編集操作

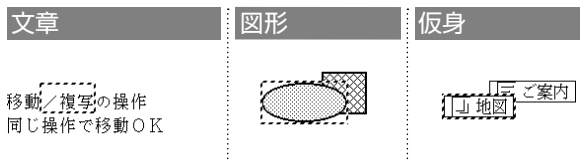
5 削除する

不要な文章、図形、仮身を削除できます。

1. 削除したい対象を選択します。

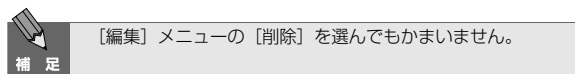
1

覚えておきたい編集操作



2. [Delete] キーを押します。

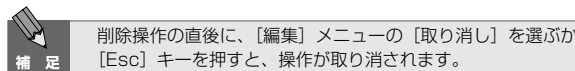
選択されていたものが消えます。



移動の操作
同じ操作で移動OK



ご案内



文字検索を使おう

2

漢字を入力したいときに、読みからの変換ではうまく漢字に変換できないことがあります。また、世界各国の文字や記号類なども、標準のかな漢字変換では入力できません。かな漢字変換で入力できない文字を使いたい場合には、文字検索小物を使います。入力したい文字の読み、およその画数、部首、区点コードなどを指定して、文字を探し出すことができます。



ポイント

超漢字の文字検索のポイントは「電話で相手に漢字や文字を伝えるように検索できる」ことです。正確な部首や総画数、読みがわからなくても、文字の見た目から検索できるのが特長です。



ポイント

たくさんの文字を検索したり、文字の情報を調べたりする場合は、文字検索を複数起動しておくくと便利です。

たとえば、片方を検索用、もう片方を文字情報用として、検索用のウィンドウで調べた結果を文字情報のウィンドウにドラッグすると、1つのウィンドウの中で見出しを切り替えなくても文字情報をみることができます。



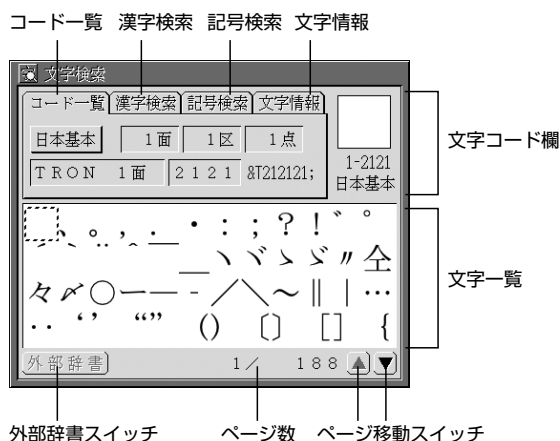
補足

本章で使用している画面のサンプルと完成品を、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「操作ガイド」サンプル文書をご覧ください。

1 文字検索を使い始める

2.1.1 文字検索を起動する

1. [小物] メニューの[文字検索] を選びます。
2. 文字検索小物のウィンドウが現れます。



コード一覧

漢字や文字をコード番号を使って探します。

漢字検索

漢字を読み、画数、部首および構成部品などから探します。

記号検索

記号や英数字を名称、構成部品、字種、分類から探します。

文字情報

漢字や記号の文字情報と、異体字や関連する文字を表示します。

文字コード欄

現在選択している文字と、その文字のコード番号を表示します。

文字一覧エリア

検索結果の一覧や異体字の情報を表示します。

外部辞書スイッチ

別売の「超漢字康熙字典」や「超漢字岩波新漢語辞典」の起動中に、「外部辞書」スイッチをクリックすると、選択している漢字の該当ページを表示します。

ページ数

総ページ数と現在表示中のページ番号を表示します。

ページ移動スイッチ

[▲] / [▼] スイッチをクリックすると、文字一覧の前後のページを表示します。

2

文字検索を使おう

2.1.2 文字検索のウィンドウの大きさを変える

検索結果や文字の一覧を画面にたくさん表示させたいときは、文字検索のウィンドウの大きさを変えます。

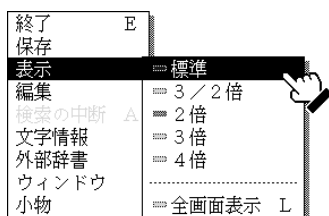
以下のいずれかの方法で、ウィンドウの大きさを変えることができます。

1. [表示] メニューの [全画面表示] を選ぶか、左 [Ctrl] キーを押しながら [L] キーを押す。
2. ウィンドウの四隅のいずれかをつまんで、ドラッグする。

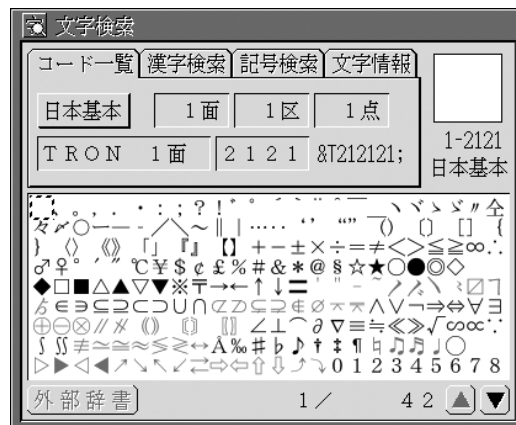
2.1.3 文字一覧の表示サイズを変える

文字一覧エリアに表示される文字の大きさを変えることができます。

1. [表示] メニューの [標準] を選びます。



2. 文字の大きさが小さくなり、文字一覧にはたくさんの文字が表示されます。



水色で表示されている文字は、JIS 第3水準に収録されている文字です。

最初に起動したときは、[2倍] で表示されています。画面に一度にたくさんの文字を表示させたいときには、[標準] や [3/2倍] を選びます。細かい字形の違いを大きな文字で比較したいときには、[3倍] や [4倍] を選ぶとよいでしょう。



変更したウィンドウの大きさや文字の表示サイズは、次回起動時にも有効です。文字検索を複数起動している場合は、最後に閉じたウィンドウの状態が保存されます。

2 コード一覧から探す

手持ちの辞書などで、文字の区点番号やコード番号がわかっている場合は、区点コードの一覧から探すことができます。文字検索を起動して、<コード一覧>の見出しをクリックします。



文字種

選択された文字種の一覧を表示します。

文字コード

選択されている文字種に対応する文字コードを表示します。

TRONコード

TRONコードの面と文字コードを表示します。

テキスト形式 TRONコード

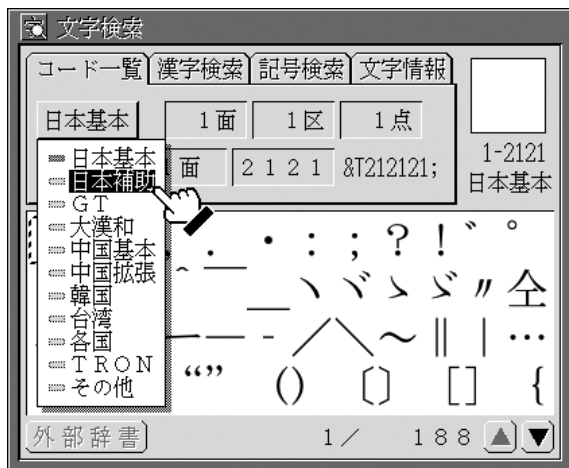
TRONコードを「&Txxxxxx;」という形式で表示します。「xx」は面を、「yyyy」は文字コードを示します。多漢字に対応していない環境で TRONコードの情報を表現するときに利用します。

この欄をつかんで、ほかのウィンドウにドラッグすると、テキスト形式 TRONコードを簡単に入力できます。

それでは、実際にコード一覧で文字を探してみましょう。

ここでは、「頼」の旧字体の「頼」(補助漢字 72 区 4 点)を探します。

1. [日本基本] と表示されている箇所をプレスして、一覧を表示する文字種を選びます。
ここでは [日本補助] を選びます。



日本基本 (JIS 第 1 水準～第 4 水準) : JIS X 0213 を区点番号順に表示します。
 日本補助 (補助漢字) : JIS X 0212 を区点番号順に表示します。
 GT (GT 書体) : GT 番号順に表示します。
 大漢和 (大漢和辞典) : 本巻と補巻に収録されている漢字を大漢和番号順に表示します。
 中国基本 : GB 2312 を区点番号順に表示します。
 中国拡張 : GB 18030 を区点番号順に表示します。
 韓国 : KS X 1001 を区点番号順に表示します。
 台湾 : 第一字面と第二字面の一覧を文字コード順に表示します。
 各国 (Unicode) : Unicode Ver.2.0 をコード番号順に表示します。
 TRON : TRON コード順に表示します。
 その他 : i モード絵文字やトンパ文字、変体仮名などの一覧と文字コードを表示します。

注意

【その他】を選ぶと、子項目のポップアップセレクトが表示されます。そのなかの【濁点仮名】と【住基仮名】については、「T フォント」を登録すると表示できるようになります。詳しくは TRON 文字収録センター (<http://charcenter.t-engine.org/>) をご覧ください。

2. 「1 区」と表示されている項目をクリックします。

補足 [Tab] キーを押して入力できる項目を選んでかまいません。

3. [▼] を 6 回押すか、キーボードから「72」と入力します。

補足 入力欄に [▼] / [▲] が表示される場合は、[▼] / [▲] をクリックするか、またはキーボードから値を直接入力して設定します。[▼] / [▲] が表示されない場合は、キーボードから直接値を入力して設定します。

補足 [▼] / [▲] が表示される項目については、[無変換] / [変換] キーを押しても設定できます。



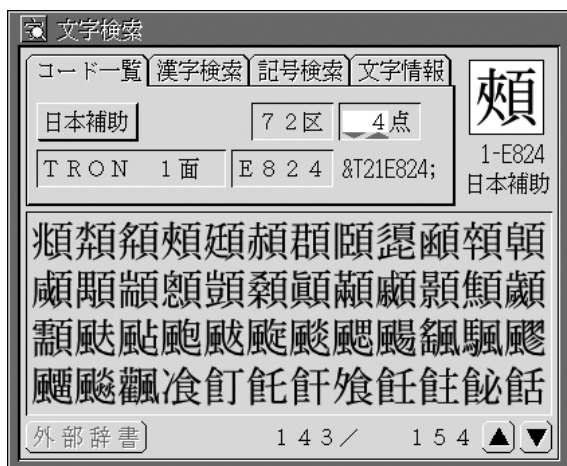
4. 「1 点」と表示されている項目をクリックします。文字一覧に補助漢字の 72 区の文字の一覧が表示されます。

5. [▲] を 3 回押すか、キーボードで「04」と入力します。



6. 項目の設定が終了したら、右 [Ctrl] キーを押します。文字コード欄に「頼」が表示され、「頼」を含む文字の一覧が、文字一覧エリアに表示されます。

補足 設定が終了した項目と別の項目を選択してもかまいません。



補足

Unicode 番号の指定

Unicode の番号は、資料によって「U+0020」や「0x0020」のように記載されています。

文字検索で Unicode に収録されている文字を探したい場合は、文字種で「各国」を選び、文字コードは下 4 桁の英数字 (U+ や 0x のうしろ) を入力します。英文字には大文字小文字の区別はありません。

たとえば、文字種で各国を選び、文字コード欄に「270C」と入力すると、ピースマーク (ピクトリーハンド) が表示されます。

3 漢字を探す

超漢字に収録されている漢字を、漢字検索機能を利用して検索します。
読み、画数、構成部品などをキーにして探すことができます。

2

文字検索を使おう

2.3.1 基本的な検索

はじめに、漢字検索機能の基本的な使い方を説明します。

例として「超」を検索してみましょう。

1. 〈漢字検索〉の見出しをクリックします。
〈漢字検索〉の画面に切り替わります。



検索キー入力欄

ここに検索条件を入力します。

部首一覧

「部首一覧」スイッチを ON (■) にすると、漢字の部首一覧を表示します。画面右下隅の [▲] / [▼] スイッチをクリックすると、前後のページの部首一覧を見ることができます。

黒丸数字の一覧には、よく使われる部首や構成部品を集めています。白丸数字の一覧は、康熙字典や一般的な漢和辞典の部首の分類に沿っています。

部首を選んで検索キー欄にドラッグすると、部首一覧は消えます。

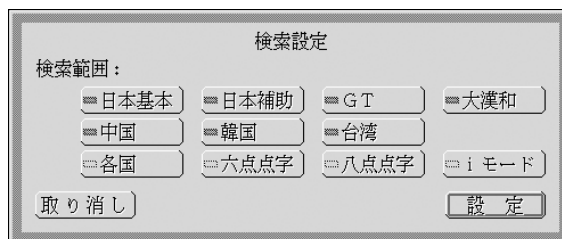
検索設定

検索範囲を設定するパネルを表示します。

検索する必要のない文字種を OFF (■) に設定しておくと、検索設定パネルで検索対象の文字種をあらかじめ限定することができます。文字種を限定すると検索の速度が向上します。探している漢字の文字種があらかじめわかっているときには、必要な文字種だけを選んで検索するとよいでしょう。



[各国] [六点点字] [八点点字] [i モード] のスイッチがありますが、漢字検索では利用しません。ここでは OFF (■) にしてあります。



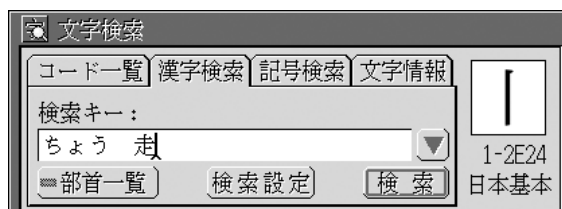
検索

「検索」スイッチを押すと、検索を開始します。

2. 検索キー入力欄をクリックして、カーソルを表示させます。
検索条件として「ちょう」「」（空白）「走」と入力します。



複数の検索条件を空白で区切って入力できます。



読み

漢字の読みがわかっている場合は、読みをひらがなで入力します。ここでは、検索キーに「ちょう」と入力します。



漢字の読みだけを入力すると、同じ読みを持つ漢字がすべて表示されます。「そう」や「けい」など、同じ読みの漢字がたくさんある場合には、構成部品や画数などのほかの条件と組み合わせで絞り込み検索ができます。

構成部品

漢字や文字を、検索する漢字を構成する部品の1つとみなして検索します。構成部品は、かな漢字変換でキーボードから入力するか、部首一覧からドラッグします。たとえば、キーボードから「走」と入力するか、「部首一覧」の⑦の項にある「走」を選んでドラッグします。

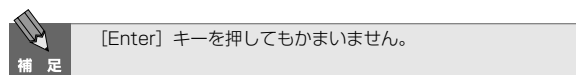


補 足

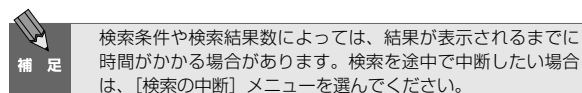
漢字部首辞書

よく使う部首を、ユーザ辞書に登録しておくと、かな漢字変換でキーボードから入力できるようになります。製品中の「超漢字サンプル集」に「漢字部首辞書」を収録しています。代表的な部首の読みを登録してありますので、ご活用ください。

3. [検索] スイッチをクリックします。



「ちょう 走」(「ちょう」と読んで「走」を構成部品にもつ文字) という条件を満たす文字が、ウィンドウの下半分の文字一覧エリアに表示されます。
検索結果は文字種ごとに色分けされています。



ポイント

構成部品による検索の場合、漢字を構成しているすべての部品を入力する必要はありません。

たとえば、飯盒炊爨の「爨」は上半分の構成部品が複雑なので、検索キーには下半分の「林 大 火」と入力するだけで検索できます。

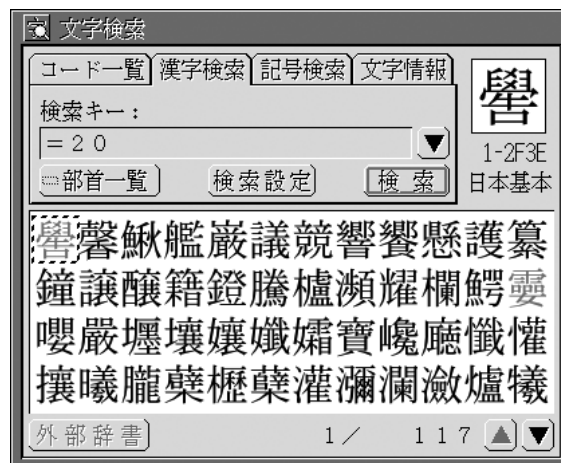
読み方がわからない漢字や、画数が多い漢字でも、目立つ部品を中心に入力することで、簡単に見つけ出すことができます。

2.3.2 画数を指定して検索する

検索条件として、漢字の総画数や構成部品の画数を指定することができます。

総画数を使った検索は、数字の前に「=」を入力します。

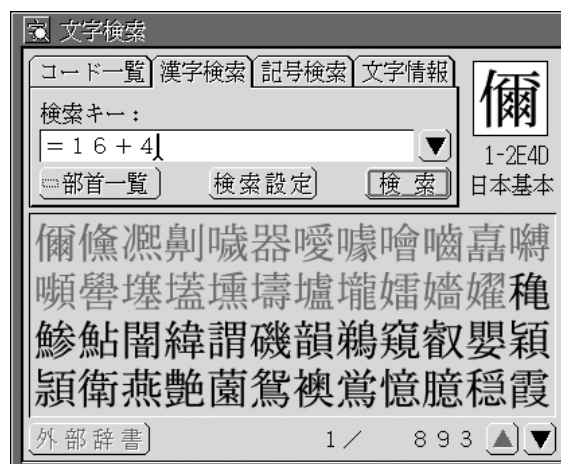
たとえば、検索キーに「= 20」と入力すると、総画数が 20 画の漢字が検索されます。



画数が多かったり字形が複雑だったりして正確な総画数が判断できない場合は、「+」「-」「~」などを使って、画数の範囲を広げて検索できます。

たとえば、調べたい漢字の総画数が 16 画から 20 画の間にある場合は、以下のいずれの検索条件でも検索することができます。

- 「= 16 + 4」
- 「= 20 - 4」
- 「= 18 ± 2」
- 「= 18 + - 2」
- 「= 16 ~ 20」



数字だけを入力すると、構成部品の画数とみなして検索します。

たとえば検索キーに「20」と入力すると、20画の構成部品を含む漢字が検索されます。



4 漢字検索を使いこなそう

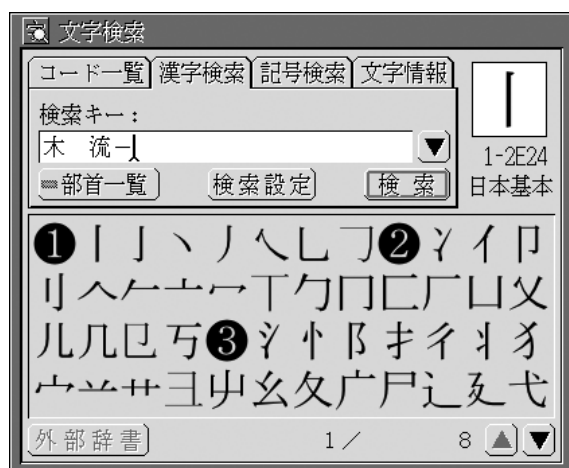
2.4.1 マイナス検索

ある漢字の一部を使って別の漢字を探したい場合には、「-」（マイナス）を使って、不要な部分を除くという検索条件を指定できます。

例として「梳」を検索してみましょう。

「梳」と同じ旁を持つ漢字に「流」があります。この「流」から「汙」（さんずい）を除きます。

1. 検索キーに「木」「」（空白）「流」「-」（マイナス）と入力します。



2. 部首一覧の「汙」（さんずい）を選んで、検索キー欄の「-」のうしろにドラッグします。

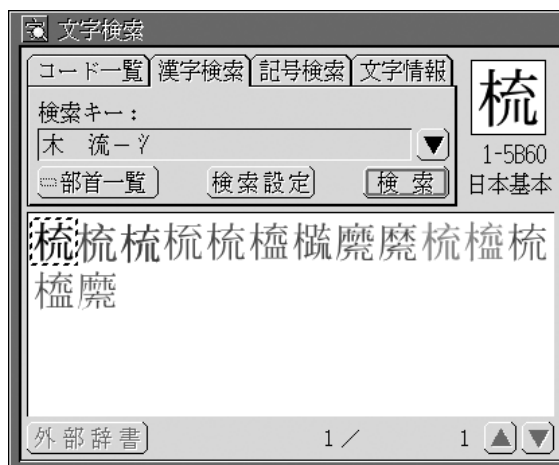
補足 部首一覧が表示されていない場合は「部首一覧」をクリックして、インジケータをON (●) にしてから「汙」を選びます。

補足 部首一覧から部首を入力すると、部首一覧の表示はOFF (○) になります。



3. 「検索」スイッチをクリックします。

「木 流 -汙」（木と「流」から「さんずい」を除いた部分を構成部品にもつ文字）という条件を満たす文字が、文字一覧エリアに表示されます。



2.4.2 かけ算検索

同じ構成部品が複数ある漢字は、「×」または「＊」を使って、かけ算のように検索条件を指定できます。

たとえば、「協」は「力」が3つ含まれています。また「器」には「口」が4つ含まれています。そこで以下のように検索条件を指定できます。

協：「十 力×3」または「十 力*3」

器:「大 口×4」または「大 口*4」

 **補 足** 検索条件や検索結果数によっては、結果が表示されるまでに時間がかかる場合があります。検索を途中で中断したい場合は、「検索の中断」メニューを選んでください。

2.4.3 カタカナや記号を使った検索

漢字の代わりにカタカナや記号を入力して、そのカタカナや記号に似た部品を含む漢字を検索することができます。

たとえば、以下のように検索条件を指定できます。

江：「シ エ」

佗：「イ　ウ　ヒ」

勞：「ツ　ワ　カ」

私：「禾 厶」

桶：「木　マ　用」

朴：「木 ト」

祐：「ネ 右」

𠂔：「占 ※」

2.4.4 検索条件の絞り込み

文字検索で漢字を検索する方法は1つではありません。複数の検索条件を指定することで、効率の良い検索を実行できます。また、漢字の構成部分による完全一致検索を実行できます。

たとえば「鰻」という字は

うなぎ

魚漫一江

魚 日 四 又

魚 = 22

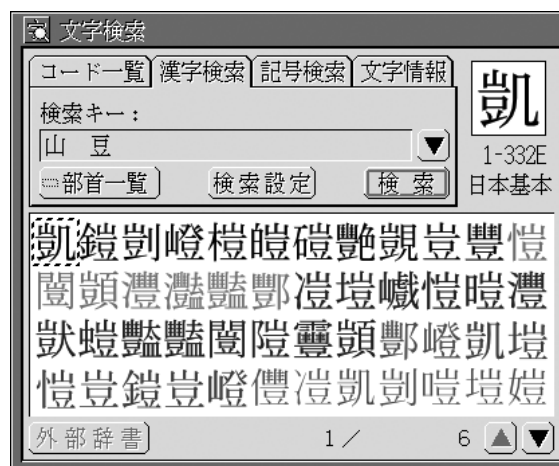
など、いずれの検索条件でも探し出すことができます。

探したい文字にあわせて、検索方法を使い分けたり組み合わせたりしてみましょう。

また、検索条件のうしろに「。」(ピリオド)や「。」(句点)を入力すると、入力した構成部分のみで構成される漢字だけを検索します。さらに検索条件を絞り込むことができます。

 補 足

たとえば、「山 豆」と入力すると、「山」と「豆」を含む文字を検索します。



いっぽう「山 豆 .」または「山 豆 。」と入力した場合は、「山」と「豆」だけで構成される文字を検索します。



5 記号を探す

世界各国の文字や記号を探す場合は、記号検索機能を利用します。

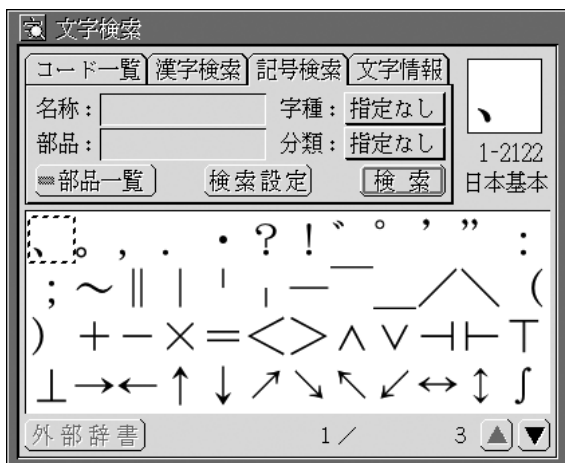
2.5.1 基本的な検索

2

文字検索を使おう

記号検索の例として、ハートマークを検索してみましょう。

1. 〈記号検索〉の見出しをクリックします。
〈記号検索〉の画面に切り替わります。



名称入力欄

英数文字や記号の名称を入力します。複数の名称を空白で区切って指定できます (AND 検索)。

部品入力欄

英数文字や記号の構成部品を入力します。複数の構成部品を空白で区切って指定できます (AND 検索)。

字種

字種の指定をして絞り込みます。地域や文字の成り立ちをもとに、12項目に分かれています。

指定なし：すべて

ラテン：ラテン

キリル：キリル、アルメニア、グルジア

ギリシア：ギリシア、コプト

アラビア：アラビア

ヘブライ：ヘブライ

インド：オリヤ、カンナダ、グジャラーティ、タミル、テルグ、デーヴァナーガリー、ベンガル、マラヤーラム、グルムキー

タイ：タイ、ラオス

ハングル：ハングル、ハングルを含む記号

中国：チベット、ボボモフォ、杭州、中国、台湾、トンパ

日本：仮名を含む記号、平仮名、片仮名、変体仮名

その他：ローマ、点字、ホツマ、アーヴ

分類

文字の種類を指定して絞り込みます。

指定なし：すべて

大小文字：大文字・小文字の区別のあるアルファベット、国際音声字母 (IPA) など

文字一般：大文字・小文字の区別のない文字。平仮名、片仮名、ハングル、アジア系の言語など

数字：数字と数字の含まれる記号など

記号一般：句読点、かぎ括弧、算術記号、漢字など

発音記号：声調記号、修飾記号など

図形：絵文字、矢印、罫線など

単位：単位記号、通貨など

部品一覧

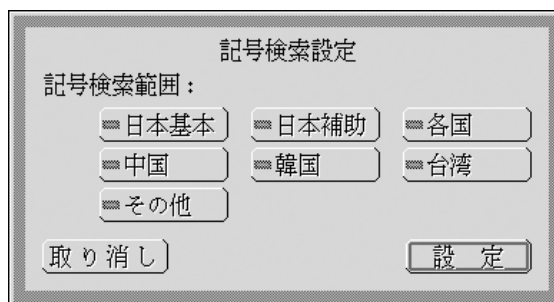
〔部品一覧〕スイッチを ON (■) にすると、よく使われる記号の部品一覧を表示します。画面右下隅の [▲] / [▼] スイッチをクリックすると、前後のページの部品一覧を見ることができます。

部品を選んで検索キー欄にドラッグすると、部品一覧は消えます。

検索設定

検索範囲を設定するパネルを表示します。

標準ではすべての文字種から検索を行います。検索設定パネルで検索する文字種を限定することができます。文字種を限定すると検索の速度が向上します。探している漢字の文字種があらかじめわかっている場合は、必要な文字種だけを選んで検索するとよいでしょう。



検索

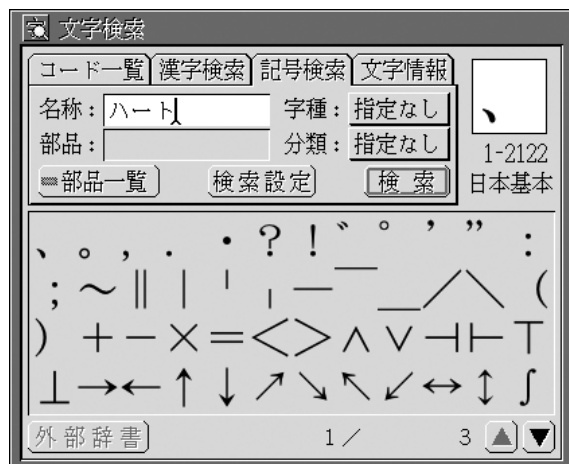
〔検索〕スイッチを押すと、検索を開始します。

補足 [名称] [部品] [字種] [分類] の4つの検索条件をすべて満たすものが検索されます (AND 検索)。

補足 すべての項目を入力しなくても検索できます。

2. 検索条件を入力します。
名称欄に「ハート」と入力します。

 複数の名称を空白で区切って、絞り込むことができます。



3. [検索] スイッチをクリックします。
名称に「ハート」を含む文字が、文字一覧エリアに表示されます。
検索結果は文字種ごとに色分けされています。

 検索条件や検索結果数によっては、結果が表示されるまでに時間がかかる場合があります。検索を途中で中断したい場合は、[検索の中断] メニューを選んでください。



2.5.2 構成部品による検索

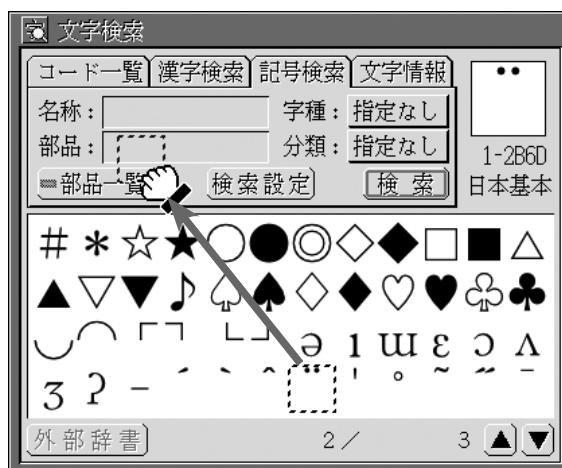
記号検索でも、記号の一部を構成部品とみなして検索できます。

例として、ドイツ語や中国語のピンインなどで使われる「ü」を検索してみましょう。

 漢字検索と異なり、マイナス検索（-）、完全一致指定（.）、総画数指定（≡）などの機能はありません。「-」、「.」、「≡」も絞り込み検索の構成部品の1つとして利用できます。

1. 部品一覧が表示されていない場合は [部品一覧] をクリックして、インジケータを ON (■) にします。
2. 右下隅の [▼] を 1 回クリックします。
ページ数が「2 / 3」になります。
3. 部品一覧の「ü」を選んで、部品欄にドラッグします。

 部品一覧から部品を入力すると、部品一覧の表示は OFF (■) になります。



4. 続けて、部品欄に「 」(空白)「u」と入力します。

名称: 字種: 指定なし
部品: " u" 分類: 指定なし

5. [検索] スイッチをクリックします。
「ü」と「û」を含む文字が、文字一覧エリアに表示されます。



6. 左から 5 番目の「ü」をクリックして選択します。
「ü」が文字コード欄に表示されます。

6 文字の情報を見る

文字情報画面では、探し出した文字の情報をすることができます。

2.6.1 検索した文字の情報を見る

2

文字検索を使う

1. 情報を見たい文字を選択した状態で、〈文字情報〉の見出しをクリックします。

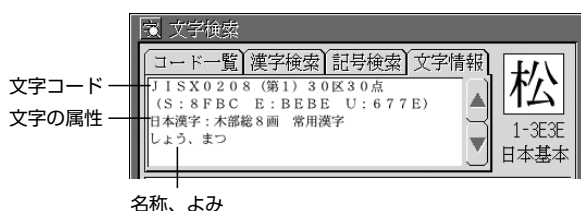


2. 〈文字情報〉画面に切り替わります。

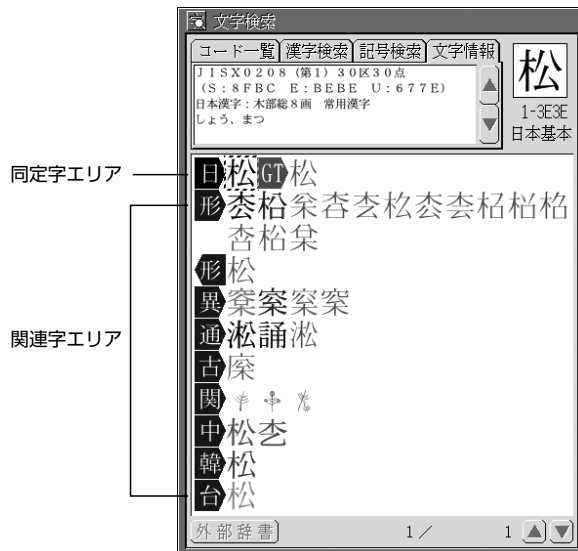


3. 文字情報が 1 画面に表示されるように、ウィンドウの設定を変更します。
[文字情報] メニューの [文字サイズ小] を選びます。

4. 文字情報がすべて表示されます。



5. 異体字や関連字が 1 画面に表示されるように、ウィンドウの大きさを広げます。
ウィンドウの四隅のいずれかをつまんで、ドラッグします。



同定字エリア

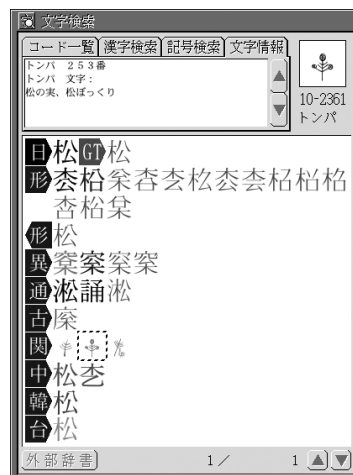
文字種同士で同じ文字とみなされる文字が並んで表示されます。

関連字エリア

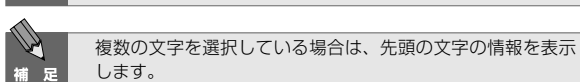
同定字エリアの文字と関連する文字が、関連の種類とともに表示されます。

2.6.2 異体字や関連字の情報を見る

1. 関連字エリアの文字をクリックします。
選択した文字についての文字情報を表示します。



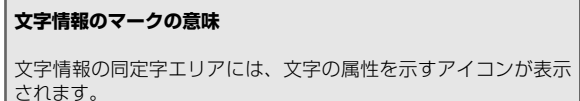
- 補 足** ほかのウィンドウで【編集】メニューの【トレーへ複写】を選んで、文字情報画面で【編集】メニューの【トレーから複写】を選んででもかまいません。トレーの詳細内容については、取扱説明書の〈目次〉－〈基本項目〉－〈トレー〉をご覧ください。



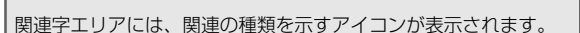
2 文字検索を使おう

- 補 足

文字情報のマークの意味



- | 同 定 字 エ リ ア (1 段 目) | |
|-----------------------|--------------------|
| 日 | 日本基本1面(JIS第1・第2水準) |
| 3 | 日本基本1面(JIS第3水準) |
| 4 | 日本基本2面(JIS第4水準) |
| 補 | 日本補助 |
| GT | GT書体フォント |
| 大 | 大漢和 |
| 中 | 中国(中国基本/中国拡張) |
| 韓 | 韓国 |
| 台 | 台湾 |
| 各 | 各国 |
| 他 | iモード/陰陽五行/トンパなど |

99

7 探し出した文字を利用する

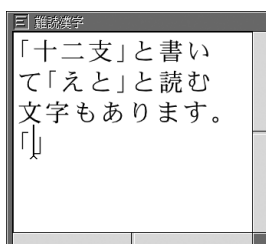
2.7.1 ほかのアプリケーションに複写する

文字検索で探し出した文字を、ほかのアプリケーションで利用します。

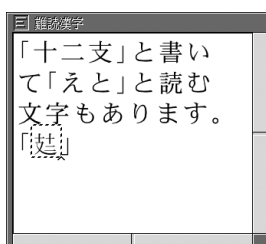
1. 文字検索のウィンドウの文字をクリックして選択します。
コード一覧、漢字検索、記号検索、文字情報のいずれの画面からでも選択できます。
クリックした文字が選択枠で囲まれ、文字コード欄に表示されます。



2. [編集] メニューの [トレーへ複写] を選びます。
トレーに選択した文字が複写されます。
3. 文字を利用したいウィンドウを最前面に出します。
挿入したい位置をクリックします。
クリックした位置にカーソルが現れます。



4. [編集] メニューの [トレーから移動] を選びます。
カーソルの直前に文字が挿入されます。



補足

[編集] メニューの [トレーから複写] を選べば、複数の箇所でも利用できます。トレーの詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉→〈基本項目〉→〈トレー〉をご覧ください。

補足

文字を利用したいウィンドウの位置が画面に見えていないときは、選択した文字をプレスして、挿入位置までドラッグしてもかまいません。

補足

補足

Windows のアプリケーションに複写する

Windows 上で利用できる文字であれば、ほぼ同様の手順で Windows のアプリケーションにも文字を複写できます。

1. 文字検索で検索した文字を選んで、[編集] メニューの [トレーへ複写] を選びます。
2. 文字を使いたい Windows のアプリケーションにウィンドウを切り替えます。
3. Windows のアプリケーションの [編集] メニューの [貼り付け] を選びます。
4. 超漢字で検索した文字が、Windows のアプリケーションに複写されます。

Windows 上で表現できない文字は、テキスト形式 TRON コードに変換して複写することもできます。

詳しくは「基本操作編 8.1 Windows との間で文字列を切り貼りする」(p.46) をご覧ください。

2.7.2 ユーザ辞書に登録する

標準のかな漢字変換辞書には、通常利用する範囲では十分な語彙が登録されていますが、それでも専門的な単語などは変換できないことがあります。

そこで、ユーザが「読み」と「漢字」のペアを登録することによって、かな漢字変換の候補にできるようにするのがユーザ辞書です。ユーザ辞書に、人名や略称などのよく使う単語を登録しておくことで、漢字入力の効率を高めることもできます。

また、文字検索で検索した文字をユーザ辞書に登録すると、かな漢字変換で入力できるようになります。

よく使う文字は、ユーザ辞書に登録しておくくと便利です。

例として「森鷗外」の「鷗外」をユーザ辞書に登録してみましょう。

ここでは、あらかじめ「鷗」を検索してあるものとします。漢字検索の検索キーで「かもめ」と指定したり、「鷗」の文字情報を表示したりすれば、「鷗」を検索できます。

1. [小物] メニューの [ユーザ辞書] を選びます。
ユーザ辞書小物が現れます。

2. よみ欄に、登録する文字の読みを入力します。
ここでは「おうがい」と入力します。

補足 読みは 10 文字まで入力できます。用言（活用する語）は語幹の読みを入力します。

補足 読みには、ひらがな（ゐ、ゑ、わの 3 字を除く）、長音記号（ー）、数字、アルファベットが入力できます。

3. 文字検索で検索した文字を選んで、表記欄にドラッグします。
「鷗」が入力されます。

補足 文字検索で [編集] メニューの [トレイへ複写] を選んでから、ユーザ辞書の <表記> 欄をクリックして [編集] メニューの [トレイから移動] を選んでもかまいません。

4. 表記を追加します。
「鷗」のうしろに「外」と入力します。

補足 用言（活用する語）は語幹の表記を入力します。

補足 表記は 30 文字まで入力できますが、文字の種類によっては 30 文字よりも少なくなることがあります。詳しくは「解説編 第 1 章 多漢字をしよう」(p.168) をご覧ください。

5. 品詞欄をプレスして、[人名 (名)] を選びます。

6. [登録] スイッチをクリックします。
「鷗外」がユーザ辞書に登録され、入力した内容が消えます。

7. 登録した内容を確認します。
[一覧] スイッチをクリックします。
ユーザ辞書の登録単語の一覧が表示されます。

補足 ここで [削除] スイッチをクリックすると、選択した単語を削除できます。

8. [終了] スイッチをクリックして、パネルを閉じます。

9. ユーザ辞書のピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。

ユーザ辞書の詳しい内容については、取扱説明書の <目次> - <基本項目> - <ユーザ辞書> をご覧ください。

2.7.3 原稿用紙に保存する

文字検索のウィンドウ内に表示されている検索結果やコード一覧を、原稿用紙（基本文章編集）に保存できます。

2



文字情報画面の表示内容は保存できません。

1. [保存] メニューの [1 ページ] または [全ページ] を選びます。

保存先のディスクと、保存先となる実身の名称を入力するパネルが現れます。



ページ数は、ウィンドウ下に表示されています。



[1 ページ] を選んだ場合、文字一覧エリアに表示されている文字だけを保存します。ウィンドウの大きさや表示文字サイズによって、保存される文字数が変わります。

2. 保存先のディスクを確認し、下段で原稿用紙の名称を入力します。

3. [保存] スイッチをクリックします。

初期ウィンドウに設定した名称の仮身が現れます。ウィンドウを開くと、保存した文字の一覧が表示されます。



保存操作を複数回実行した場合、仮身は初期ウィンドウに重ねて作成されます。いちばん上の仮身を選んで移動させると、その直前に保存した実身の仮身が現れます。

文字検索を使う

8 文章に含まれる文字種を調べる

〈漢字検索〉の画面に原稿用紙（基本文章編集）の仮身をドラッグすると、その実身に含まれる文字を抽出し、文字種別に色分けして表示します。

JIS 第3水準・第4水準と JIS 補助漢字の両方に含まれている漢字を混在して使っていないか、Windows 用のデータに変換した際に表示できない文字がないかなどを確認できます。

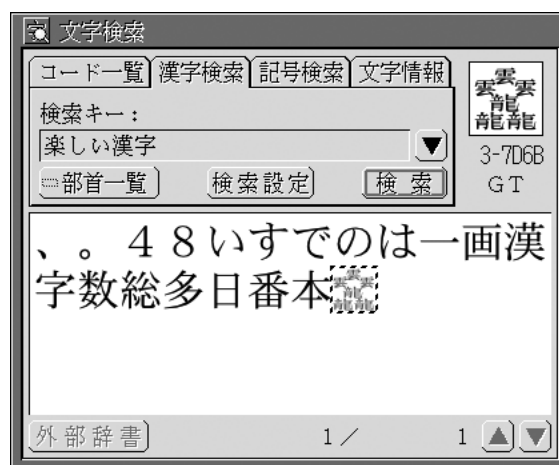
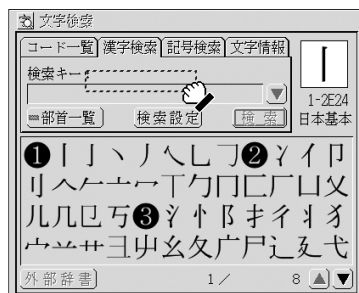
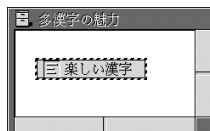
ここでは、2.6.4 (p.99) で例示した文章に含まれる文字を調べます。

1. 〈漢字検索〉の見出しをクリックします。
2. [検索設定] スイッチをクリックします。
3. 調べたい文字種を ON (■) にします。[各国] [六点点字] [八点点字] [i モード] を ON (■) にすると、抽出の対象になります。
4. ほかのウィンドウにある、原稿用紙（基本文章編集）の仮身をドラッグします。

ドラッグした仮身の実身に含まれる文字が抽出され、文字一覧エリアに表示されます。

検索キーには実身名が表示されます。

抽出した文字に GT 書体が含まれていることがわかります。



文章に含まれる仮身や図形は無視されます。

9 区点入力パネルを使う

入力したい文字の文字コードがあらかじめわかっている場合は、区点入力パネルを使って文字を直接入力することができます。

文字を入力する場面に応じて、文字検索小物と区点入力パネルを使い分けるとよいでしょう。



区点入力パネルを利用できる文字種は、「日本基本」「日本補助」「GT」「大漢和」「中国」「韓国」「台湾」「各国」「iモード」「六点點字」「八点點字」です。

1. ウィンドウにカーソルが表示されている状態で、[F11] キーを押します。

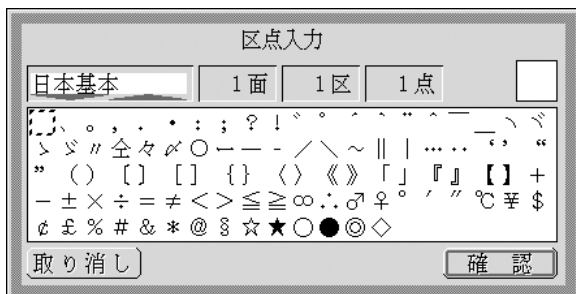
区点入力のパネルが現れ、パネルの中に候補が表示されます。



[Alt] キーを押しながら [英数] キーを押してもかまいません。



[Shift] + [F11] キーを押すと、カーソル位置にポップアップ形式の区点入力パネルが現れます。カーソル付近の文字が隠れることなく使用できます。



2. 文字種や文字コードの欄をクリックして、文字コードを指定します。

指定した文字を含む漢字の一覧がパネルの中に現れます。



文字種と文字コードは [Tab] キーと [無変換] / [変換] キーを押して操作してもかまいません。

3. 下半分の一覧から、入力したい文字をクリックして選びます。



矢印キーを押しても操作できます。

4. [Enter] キーを押します。
選択した文字が入力されます。

2

文字検索をしよう

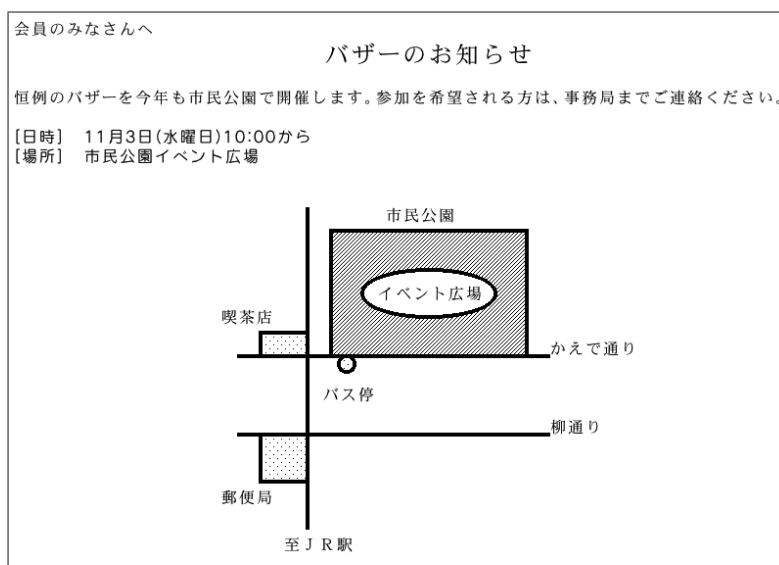
案内状を作ろう

超漢字のアプリケーションを使って案内状を作ってみましょう。
基本文章編集で案内文を、基本図形編集で地図を別々に作り、最後に 1 つの文章にまとめて仕上げます。



本章で使用している画面のサンプルと完成品を、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。
詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」—「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

ここでは、「バザーのお知らせ」という以下のような案内状を作ってみます。



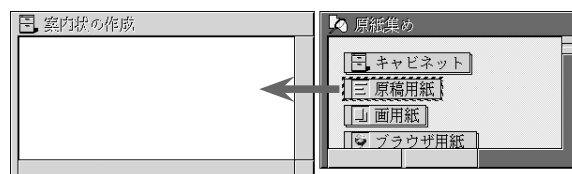
1 案内文を作成する

まず、「バザーのお知らせ」の文章の部分を作成します。
ここでは、「初期設定ガイダンス」でかな漢字変換のキー割り当てを [Windows] に設定していることを前提にして、操作を説明します。
「初期設定ガイダンス」については、本製品附属の『インストールガイド』をご覧ください。

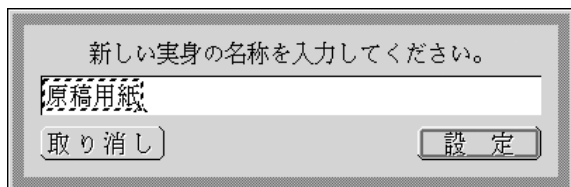
3.1.1 原稿用紙を用意する

最初に文章を書くための原稿用紙を用意します。

1. [小物] メニューの [原紙集め] を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「原稿用紙」という原紙が入っています。
2. 「原稿用紙」の原紙をプレスして、ほかのウィンドウへドラッグし、そこでリリースします。
ここでは、「案内状の作成」のウィンドウにドラッグしています。



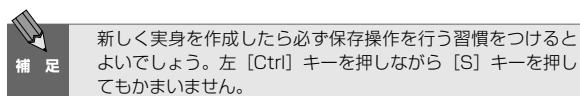
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。
作成する実身の名称は、ここではそのまま「原稿用紙」とします。



4. [設定] スイッチをクリックします。
ウィンドウに「原稿用紙」の仮身が現れます。



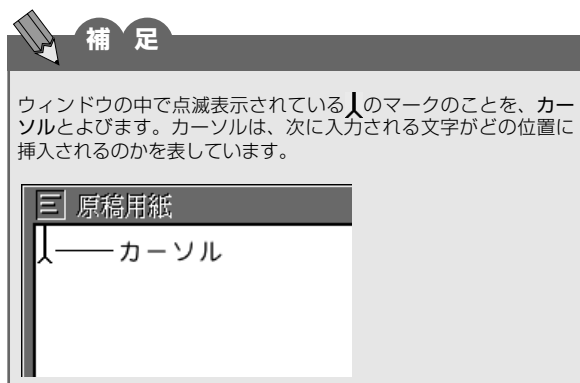
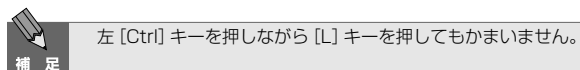
5. ここで忘れずに、「原稿用紙」の実身を「案内状の作成」の中に保存しておきましょう。
[保存] メニューの [元の実身へ] を選び、現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。
6. 「原稿用紙」の実身と、これを参照する「原稿用紙」の仮身がハードディスクに保存されます。



3.1.2 原稿用紙をウィンドウに開く

「原稿用紙」をウィンドウに開いて、文章を書き始める準備をします。

1. 「原稿用紙」の仮身をダブルクリックします。
「原稿用紙」のウィンドウが開きます。
2. [表示] メニューの [全画面表示] を選びます。
ウィンドウが全画面に広がります。



3.1.3 表示モードを選ぶ

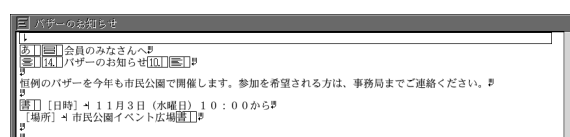
基本文章編集には、文章を書くために3つの表示モードが用意されています。

文字を入力したり、整形したりするという基本的な機能には変わりありませんが、作業の種類によって表示モードを使い分けることができます。

表示モードは、[表示] メニューを使って切り替えます。() 内はメニュー文字を使ったキーボード操作です。(→基本操作編 4.4 キーボードを使ってメニューを選ぶ：p.26)

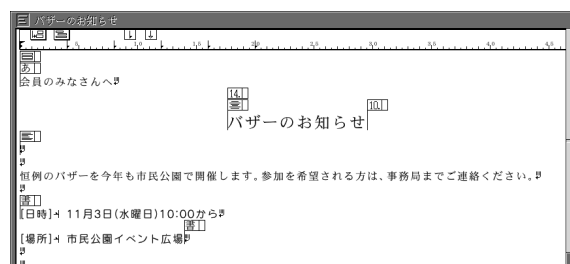
原稿モード (左 [Ctrl] + [1] キー)

レイアウトを意識せずに文章を入力するときに使います。表示や応答が速く、下書きに適しています。



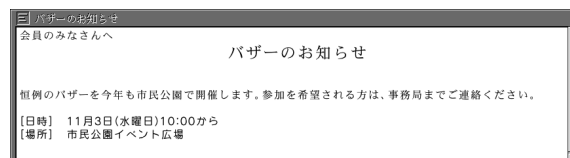
詳細モード (左 [Ctrl] + [2] キー)

文字の大きさや書体、位置などのレイアウトを含めて、細かく調整するときに使います。



清書モード (左 [Ctrl] + [3] キー)

作成した文書が思ったとおりにできているかを確認するときに使います。紙に印刷した結果に近い表示になります。「原紙集め」ウィンドウから原紙「原稿用紙」を取り出した直後にウィンドウ状態に開くと、この清書モードになっています。



本章では各モードの特徴を学習するため、原稿モードから作業を始めます。

1. [表示] メニューの [原稿モード] を選びます。
2. 表示モードが、清書モードから原稿モードに切り替わります。

3.1.4 案内文を入力する

さっそく文章を入力しましょう。
まず「会員のみなさんへ」という文を入力します。

3

案内文を作ろう



ポイント

ひらがなを入力する方式として、かな入力方式とローマ字入力方式の2種類があります。「初期設定ガイド」やユーザ環境設定小物で、入力方式を切り替えられます。(→設定編 1.2 かな漢字変換の入力方式を指定する：p.65)
また、[Alt] キーを押しながら、[ひらがなカタカナ] キーを押すと、一時的にかな入力方式とローマ字入力方式を交互に切り替えられます。

漢字は、かな漢字変換という機能を使って入力します。
まず読みをひらがなで入力し、次に変換という操作をして漢字の候補を出します。そして、候補の中から正しい漢字を選ぶ、という手順を繰り返します。

1. 「かいいんの」という読みを入力します。



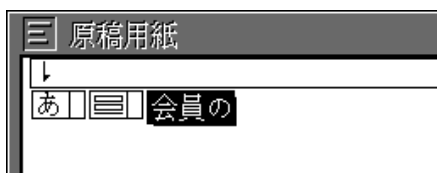
間違ったキーを押してしまったら、[Backspace] キーを押します。最後に入力した読みを消すことができます。

2. [空白] (スペース) キーを押します。

「会員の」という表示になれば成功です。
「改印の」など同音異義語に変換された場合は、さらに[空白] (スペース) キーを押します。キーを押すたびに、同じ読みに対する別の候補が表示されます。

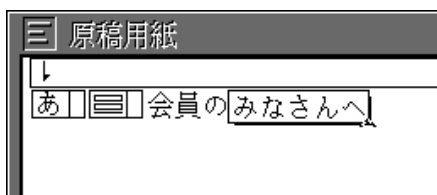


[Shift] キーを押しながら[空白] (スペース) キーを押すと、逆の順番に候補が現れます。



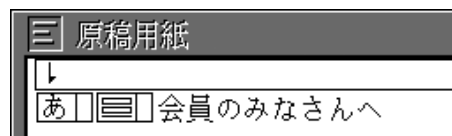
3. 「みなさんへ」を入力します。

「み」を入力した瞬間に、「会員の」という候補が文書の中に入力されます。このことを候補が確定するといいます。



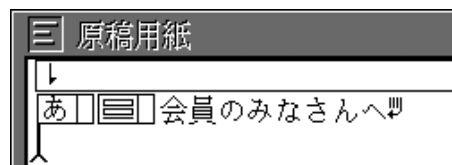
いったん確定された候補は、読み状態に戻すことはできません。[Backspace] キーで誤った入力を削除したあとで、もう一度入力してください。

4. 「みなさんへ」は漢字に変換する必要がありません。このようなときは、[Enter] キーを押して、かなのままで文字を確定させます。



5. 1行目が入力できました。次の行に移ります。
行を変更するときには[Enter] キーを押します。

6. 1行目の右端に改段落マークが入り、カーソルが2行目の左端に移ります。



7. 続いて、以下の文章を入力します。

バザーのお知らせ



恒例のバザーを今年も市民公園で開催します。参加を希望される方は、事務局までご連絡ください。



[日時] 11月3日(水曜日) 10:00 から

[場所] 市民公園イベント広場



補足

英数字の入力

「[日時]」から始まる行以降には「[、]」、「11」などの英数記号が出てきます。
英数文字や記号を入力したいときは、[英数] キーを押して、英数入力モードに切り替えます。

現在の入力モードは、画面右下の表示で確かめることができます。画面右下にある入力モードの表示が「あ」から「a」に替わります。これは、ひらがな入力モードから英数字(小文字)の入力モードに切り替わったことを示しています。[ひらがなカタカナ] キーを押すと、入力モードの表示が「あ」に戻り、元のひらがな入力モードに戻ります。(→基本操作編 6.2 文字入力の基本操作：p.33)



補足

タブの入力

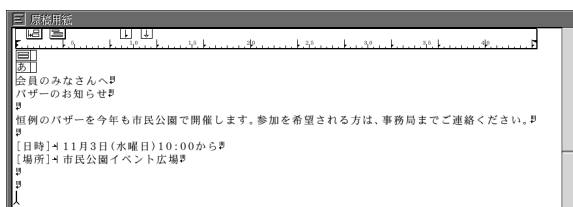
「[日時]」の直後にある(タブ)マークは[Tab] キーを押して入力します。Tabは、文字の挿入位置を一度に移動するときを使う特殊な文字です。

2 案内文を整形する

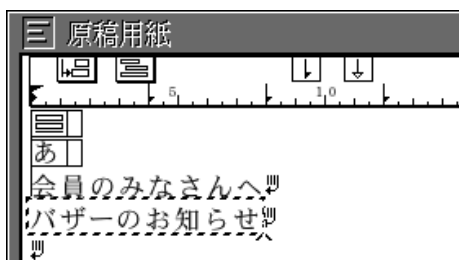
下書きが完成したら、詳細モードを使って体裁を整えます。
まずは、案内状のタイトル「バザーのお知らせ」という部分の文字を大きくして、行の真ん中にそろえましょう。

3.2.1 文字の大きさを変える

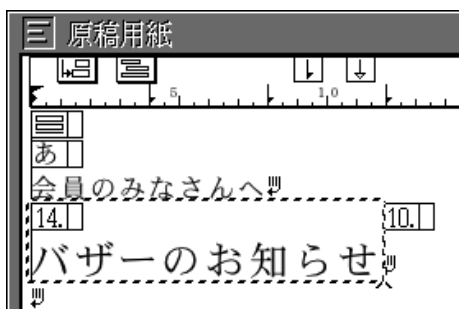
1. [表示] メニューの[詳細モード]を選びます。
詳細モードで表示されます。詳細モードは、文章の体裁を整えるのに適しています。



2. 文字列「バザーのお知らせ」を選択します。
選択枠で囲まれます。



3. [文字サイズ] メニューの[14 (3/2倍)]を選びます。
「バザーのお知らせ」の文字サイズが、10ポイント(標準)から14ポイントの大きさになります。



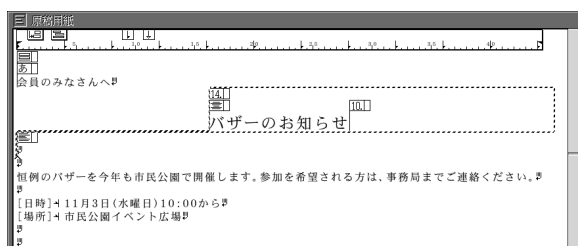
3.2.2 文字の位置を変える

続いて、この文字列が行の中央にくるようにしましょう。

「バザーのお知らせ」を選択した状態にしておきます。選択が解除されている場合は、もう一度「バザーのお知らせ」を選択してください。

1. [書式/印刷] メニューの[行そろえ]を選び、さらに[中央そろえ]を選びます。
画面の真ん中あたりに文字列が移動します。

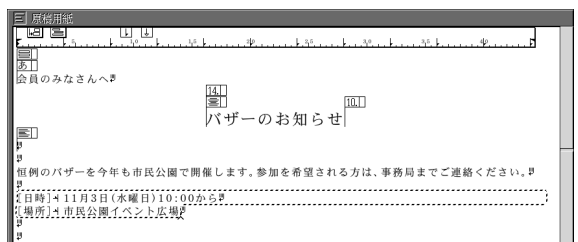
補足 [中央そろえ] は、印刷時の用紙（ここではA4縦）を基準に中央を計算します。開いているウィンドウの大きさによっては、必ずしも画面の中央にくるとはかぎりません。



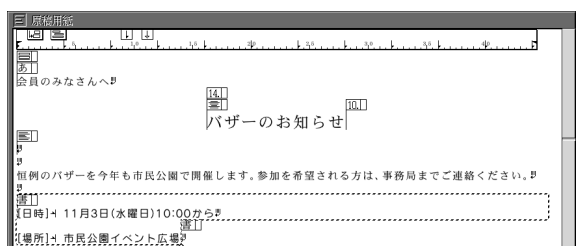
3.2.3 書体を変える

次に「[日時]」と「[場所]」の2行を目立つように書体を変えてみましょう。
標準の書体は明朝体になっています。

1. 「[日時]」から「市民公園イベント広場」までの2行を選択します。
選択枠で囲まれます。



2. [書体] メニューの[SS丸ゴシック体]を選びます。
選択されている2行の書体が、明朝体からSS丸ゴシック体に変わります。



3

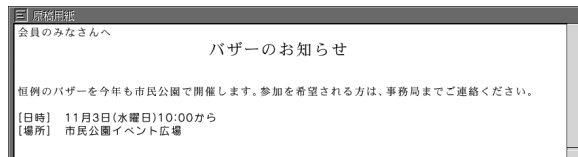
案内状を作ろう

3.2.4 編集した内容を確認する

案内文の入力と整形が終わりました。

表示モードを印刷結果に近い清書モードにしてみましょう。このモードは、文章の表示にも適したモードです。

1. [表示] メニューの [清書モード] を選びます。
清書モードで表示されます。

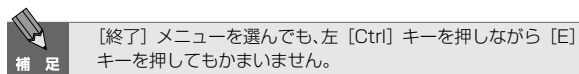


3 案内文を保存する

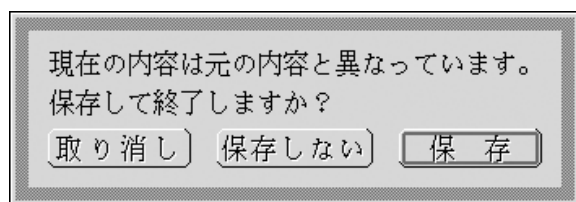
これで、「バザーのお知らせ」の案内文が完成しました。ひとまず保存してウィンドウを閉じておきます。

3.3.1 ウィンドウを閉じる

1. ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。



2. 現在の内容を保存するか確認するパネルが現れます。



保存

編集した結果をハードディスクに保存して、ウィンドウを閉じます。

保存しない

ウィンドウを開いてから行ったすべての操作を取り消して終了します。文書は、ウィンドウを開く前の状態に戻ります。

取り消し

ウィンドウを閉じるという操作を取り消します。

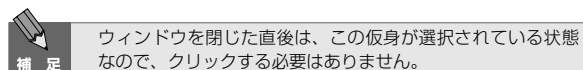
3. [保存] スイッチをクリックします。
ウィンドウが閉じます。

3.3.2 実身の名前を変更する

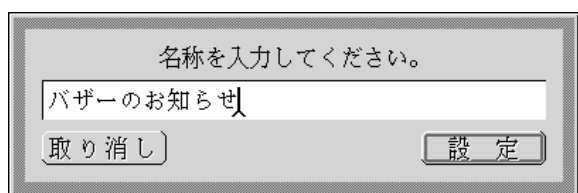
「原稿用紙」という実身の名前では、あとで内容を思い出すことができません。

実身の内容をうまく表すような名前に変更しておきましょう。

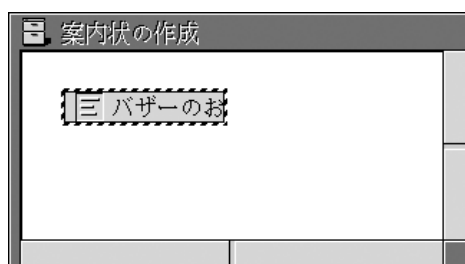
1. 「原稿用紙」の仮身をクリックします。
仮身の周りに選択枠が表示され、仮身が選択されます。



2. [実身操作] メニューの [実身名変更] を選びます。
名称を入力するパネルが現れます。
3. 名称として「バザーのお知らせ」と入力します。
最後は、[Enter] キーで確定します。



4. [設定] スイッチをクリックします。
実身の名前が「バザーのお知らせ」に変わりました。



3.3.3 仮身の長さを変える

実身の名前をすべて表示されるようにします。

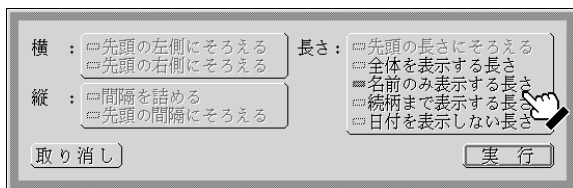
1. 「バザーのお知らせ」の仮身をクリックします。
仮身の周りに選択枠が表示され、仮身が選択されます。

2. 「編集」メニューの「整頓」を選びます。



左 [Ctrl] キーを押しながら [D] キーを押してもかまいません。

3. キャビネット（仮身一覧）の中の仮身を整頓するためのパネルが現れます。
「名前のみ表示する長さ」をクリックして、「実行」スイッチを押します。



4. 実身の名前がすべて表示されました。



補足

キャビネットの中の仮身を整頓する「編集」メニューの「整頓」を選ぶと、キャビネット（仮身一覧）に格納されている仮身の位置や長さを調整することができます。複数の仮身を選択している場合は、仮身の位置や長さを先頭の仮身に合わせて整列させることができます。

4 地図を描く準備をする

ここからは、バザーが開催される市民公園の周辺地図を描いていきます。
最初に、地図を描くための準備をします。

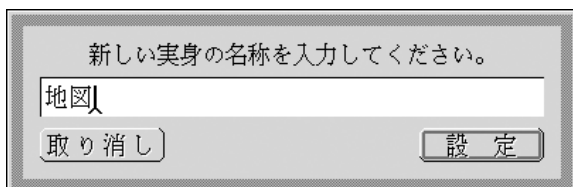
3.4.1 画用紙を用意する

図を描くときは、「画用紙」の原紙を取り出します。



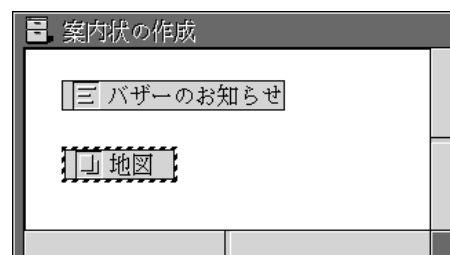
文章を書くための「原稿用紙」の原紙を取り出す操作と同じです。

1. 「小物」メニューの「原紙集め」を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。
2. 「画用紙」の原紙をプレスし、そのままほかのウィンドウまでドラッグし、そこでリリースします。
ここでは「案内状の作成」のウィンドウにドラッグします。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。
名称を「地図」と入力します。



4. 「設定」スイッチをクリックします。

「地図」という名前の仮身がウィンドウの中に現れます。



5. ここで忘れずに「地図」の実身を保存しておきましょう。

「保存」メニューの「元の実身へ」を選び、現れたパネルで「保存」スイッチをクリックします。

6. 「地図」の実身とこれを参照する「地図」の仮身がハードディスクに保存されます。



新しく実身を作成したら保存操作をする習慣をつけるとよいでしょう。

3.4.2 画用紙をウィンドウに開く

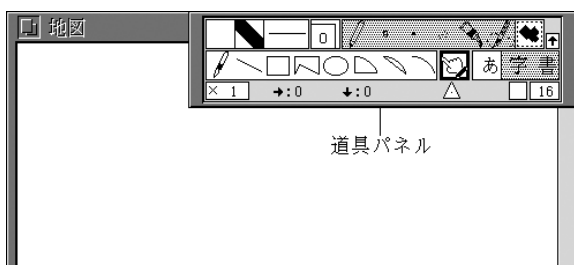
1. 「地図」の仮身をダブルクリックします。
ウィンドウが開きます。
2. 「表示」メニューの「全画面表示」を選びます。
ウィンドウが全画面に広がります。

3

案内状を作ろう



補足 左 [Ctrl] キーを押しながら [L] キーを押してもかまいません。



3.4.3 基本図形編集の道具パネル

画用紙のウィンドウを開くと、ウィンドウの右上に、以下の図のような小ウィンドウが表示されています。これを道具パネルとよびます。

この道具パネルを使って、図を描く道具を選択したり、パターンや線の太さなどを指定できます。



補足 各機能の詳細については、取扱説明書をご覧ください。〈索引〉―〈と〉―〈道具パネル〉で、道具パネルの説明が表示されます。

直線、曲線、多角形、円形など、さまざまな線を描くための道具のことをテンプレートとよびます。これらのテンプレートを使って地図を描いてみましょう。



ポイント

道具パネルは、編集をしているときは常に「地図」ウィンドウより前に表示されます。後ろに隠れることはありません。道具パネルが邪魔な場合は、道具パネルの左右にある濃い枠の部分をドラックして、道具パネルを適当な位置に移動しましょう。

編集が終わったら、道具パネルを隠しておいてもかまいません。「表示」メニューの「道具パネル表示」を選ぶか、左 [Ctrl] キーを押しながら [Q] キーを押すと、道具パネルを非表示にすることができます。

3.4.4 格子点を表示する

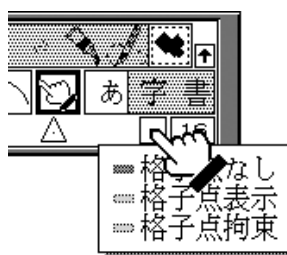
図形はウィンドウ内の好きな位置に描くことができます。地図の場合は、等間隔に図形を配置したり、水平や垂直な直線を正確に描けた方が便利です。このような場合、図形の位置を格子点に拘束する機能を使うと、方眼紙を使うように図形を描くことができます。

1. 格子点表示マークをプレスします。

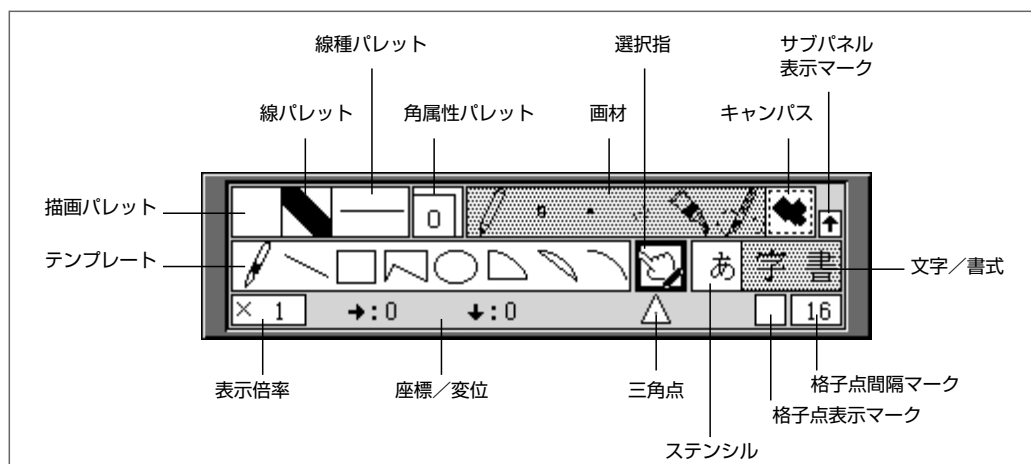
以下のような選択肢が現れます。



補足 プレスしている間現れている選択肢の表示をポップアップセレクトとよびます。



道具パネル

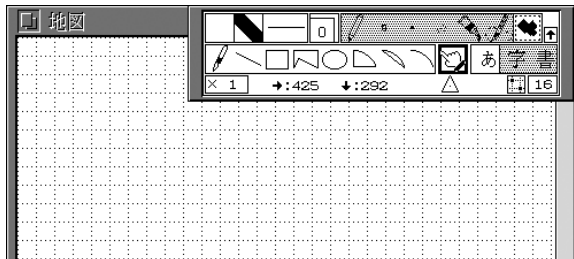


2. 項目のいちばん下にある「格子点拘束」の上までポインタをドラッグして、リリースします。



プレスしたままでポインタを動かす操作になります。

格子点表示マークがに変化します。これは、格子点拘束の状態になったという意味です。
「地図」ウィンドウの中には、格子が表示されます。



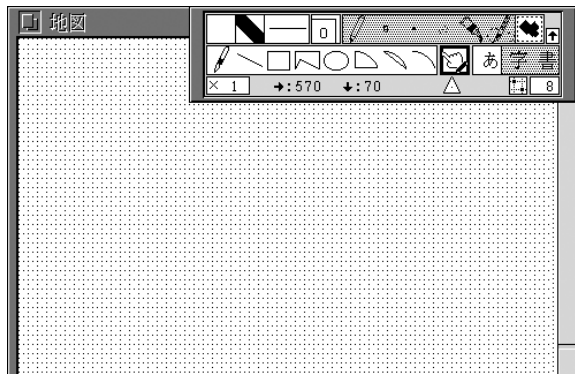
3. 格子点表示マークの右とりにある格子点間隔マークをプレスします。
格子点の間隔を設定する選択肢が現れます。

4. 「8 ドット」の上までポインタをドラッグして、リリースします。



プレスしたままでポインタを動かす操作になります。

格子点間隔マークがに変化します。これは、格子点間隔が8 ドットに設定されていることを示しています。
ウィンドウ内の格子が細かくなっています。



ポイント

格子点拘束の状態になっていると、図形の描き始めと描き終わりの位置は、格子の交点の位置と一致するように強制的に補正されます。平行・垂直な直線を描いたり、等間隔の図形を描いたりするときに便利です。

5 地図を作成する

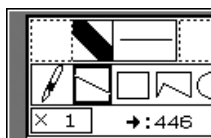
図形を操作する手順は、基本的に、以下の2つのステップを順に実行します。
ステップ2で指定可能な処理として移動、複写、変形、削除があります。

1. 目的の図形を選択します。
2. 選択された図形に対して処理を指定します。

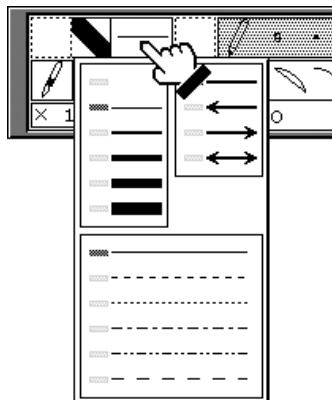
3.5.1 道の太さを決める

いよいよ、直線を使って道を描きます。

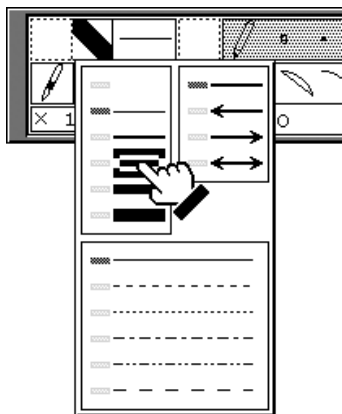
1. 道具パネルの中にある直線のテンプレートをクリックします。
直線のテンプレートが、以下の図のように太い四角の枠で囲われます。



2. 次に直線の太さを決めます。道具パネルの中の線種パレットをプレスします。
線種のポップアップセレクトが現れます。線の種類が3つのグループに分かれて表示されます。それぞれ左上が線の太さ、右上が矢印の有無と方向、下が線の種類を表します。



3. 太さ 3 (上から 4 番目の選択肢) の上までドラッグし、そこでリリースします。
線種パレットの表示が設定した太さになります。

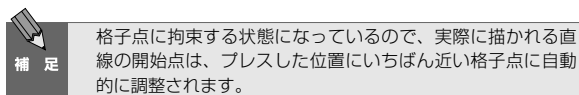


3.5.2 道を描く

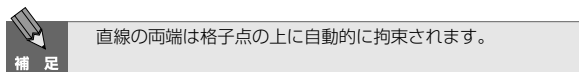
続いて、ウィンドウの中に直線で道を描きます。
直線は、両端の 2 点を指定することによって描きます。

1. 「地図」のウィンドウの中にポインタを移動します。
ポインタが十字マーク [+] に変わります。図形を描く時の開始点、終了点は、この十字の交差した点が基準になります。

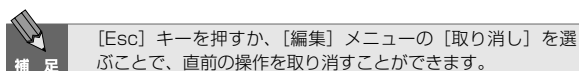
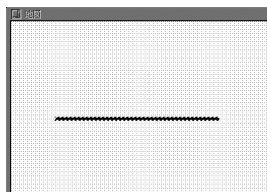
2. 道が始まる位置で、プレスします。



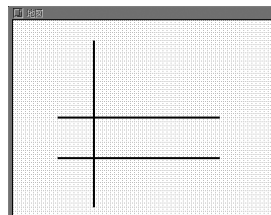
3. プレスしたまま、ドラッグします。
プレスしている間は、画面上でゴムを引っばっているような状態の、仮の直線が表示されます。これを見ながら、実際に描かれる図形の位置を確認できます。



4. 直線を描き終わりたい位置で、リリースします。
直線が確定します。



5. 続けて以下の図のように、交差する道を描いてみましょう。



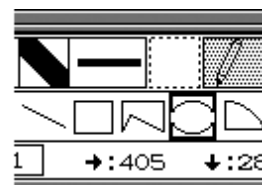
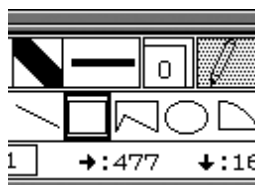
ポイント

図形は描いたあとから位置や大きさを自由に変更できます。最初からあまり正確に描くことにこだわらず、まず描いてみましょう。位置がずれていた、大きさが合わなかったら、「応用編 第 1 章 覚えておきたい編集操作」(p.82) を参考にして、あとから調整すればよいでしょう。

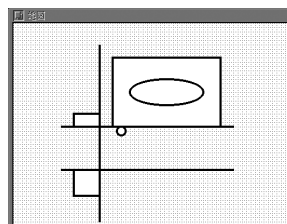
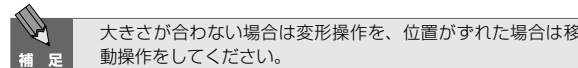
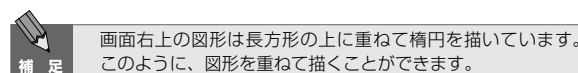
3.5.3 建物やバス停を描く

次に、直線で道を描いたのと同じ要領で、長方形で建物や公園を、円でバス停や広場を描いてみましょう。

1. 長方形を描くときは長方形のテンプレート  を、円を描くときは楕円のテンプレート  をクリックします。
クリックしたテンプレートは太い四角の枠で囲まれます。



2. 以下の図のように 3 つの長方形と 2 つの円を描いてみましょう。
長方形は、対角線の両端を決めることによって大きさを指定します。
円は、円に外接する長方形を指定します。



3.5.4 建物やバス停の色を変更する

道を描く際に、あらかじめ太さを設定した後で直線を引きましたが、図形は描き終わったあとでも、いつでも線の太さ、線のパターン（色）、内部のパターン（色）、角の丸めを設定することができます。

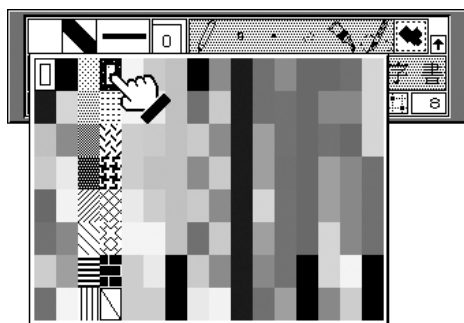
図形に対するこのような性質を属性とよびます。属性の変更も以下の2つのステップを順に操作します。

1. 目的の図形を選択します。
2. 選択された図形に対して属性を指定します。

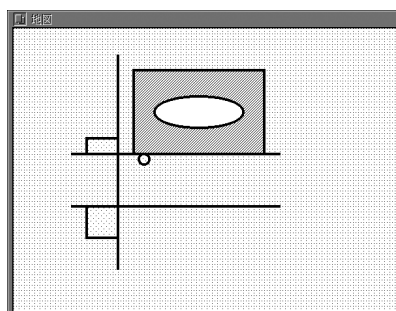
先に描いた長方形と円について、内部のパターンを変更してみましょう。図形の内部は描画パレットを使って指定します。

1. 道具パネルの中にある選択指マークをクリックします。
ポインタの形が「+」から選択指に戻ります。
2. 属性を変更する図形を選択します。
3. 道具パネルの左上にある描画パレットをプレスして、パターンを選びます。

 描画パレットは、ポップアップセレクトアになっています。
補 足



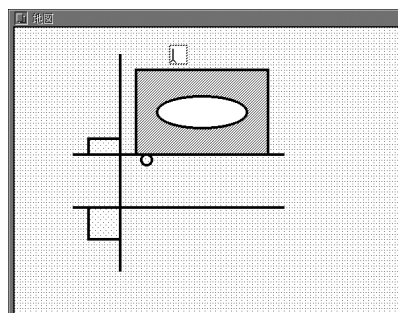
3. 選択されていた図形の内部の色・パターンが、指定したものに変わります。
以下の図のように長方形と円について内部のパターンを設定してみましょう。



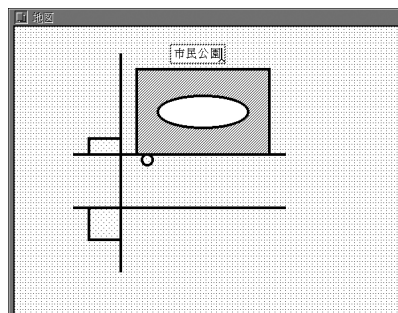
3.5.5 道や建物の名前を書く

最後に、地図の中に道や建物の名前を書き入れましょう。

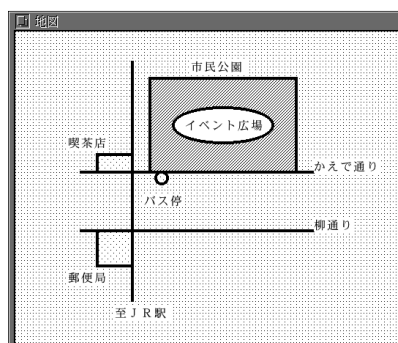
1. 道具パネルの中にあるステンシルをクリックします。
2. ウィンドウの中にポインタを移動します。
ポインタがカーソルに変わります。
3. 右上にある長方形の上方でクリックします。
斜線の枠とその中にカーソルが表示されます。
この枠の中に文字を入力します。



4. 「市民公園」と入力します。



5. 同じ手順で、「喫茶店」「郵便局」「至 JR 駅」「バス停」「かえで通り」「柳通り」「イベント広場」という名前を、以下の図のようにそれぞれ入力します。



6. 道具パネルの中にある選択指マークをクリックします。

ポインタの形が、カーソルから選択指に戻ります。



補足

「イベント広場」は長方形と楕円の上に重ねて入力します。このように、図形に重ねて文字を入力できます。



補足

入力位置がずれた場合は移動操作をしてください。

3.5.6 地図のウィンドウを閉じる

地図が完成したので、ひとまずウィンドウを閉じましょう。

1. 「地図」ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。



補足

「終了」メニューを選んでかまいません。

2. 現れたパネルで「保存」スイッチをクリックします。

「地図」ウィンドウの内容が保存され、ウィンドウが閉じます。

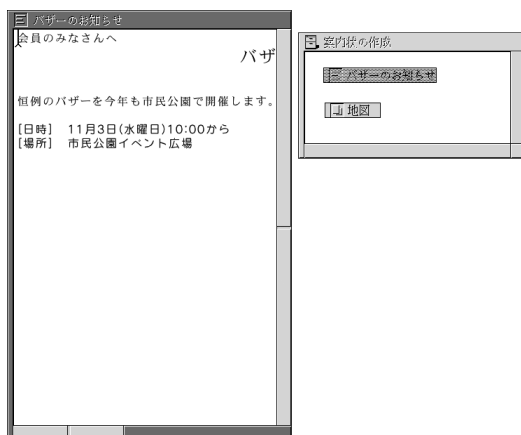
6 案内文に地図を取り込む

別々に作成した「バザーのお知らせ」の案内文と会場の地図を 1 つにして、案内状を完成させます。

文章「バザーのお知らせ」の中に、バザー会場の「地図」の図形を取り込んでみましょう。文章のデータと図形のデータを簡単に組み合わせることができるのが、超漢字の特長の 1 つです。

3.6.1 案内文に地図を複製ドラッグする

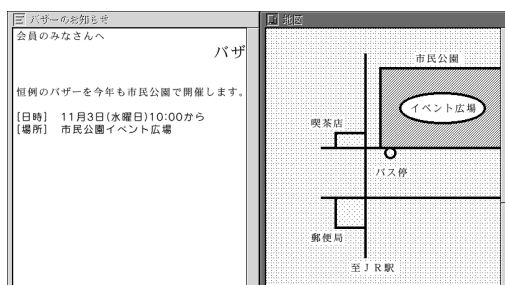
1. 「バザーのお知らせ」の仮身をダブルクリックしてウィンドウに開きます。
以下の図のように画面全体のおよそ半分ぐらいになるまでウィンドウを変形します。



ポイント

案内状の作成のウィンドウが「バザーのお知らせ」のウィンドウのうしろに隠れてしまった場合は、「ウィンドウ」メニューの「案内状の作成」を選ぶといちばん前に現れます。

2. 続いて、「地図」の仮身をダブルクリックしてウィンドウに開き、「バザーのお知らせ」と並べられるように、ウィンドウの大きさを変形します。

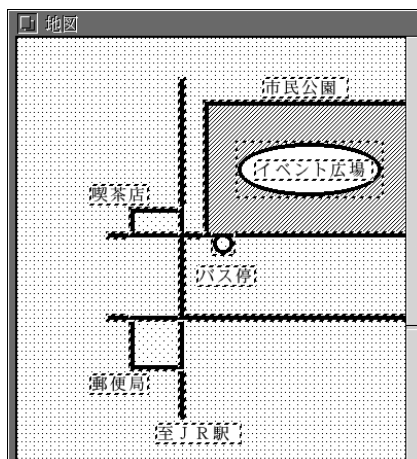


3. 「地図」ウィンドウがいちばん前（濃いグレーの枠）に出ていることを確認して、「編集」メニューの「すべて選択」を選びます。
すべての図形が選択枠で囲まれます。

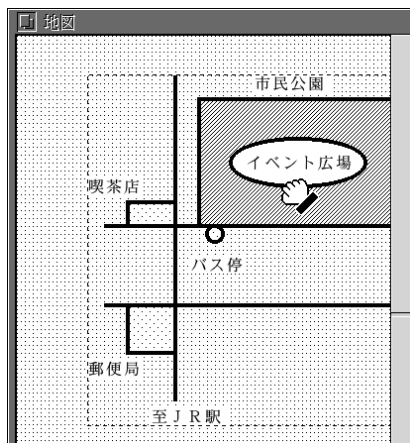


補足

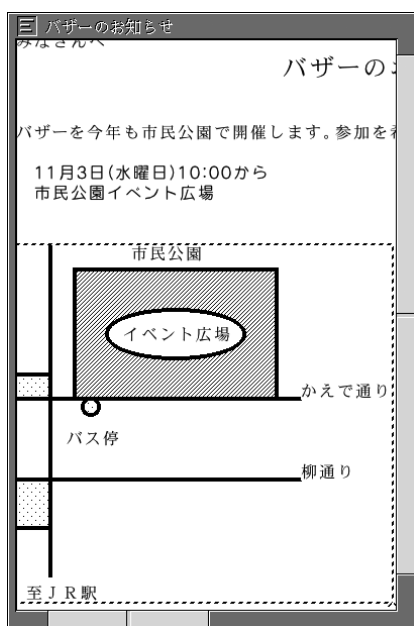
左 [Ctrl] キーを押しながら [A] キーを押してもかまいません。



4. 選択されているいずれかの図形にポイントを重ねると移動手 $\rightarrow$ になるので、そこでプレスします。ポイントが握り $\rightarrow$ に変わります。それまで各図形の周りに表示されていた選択枠が、選択されているすべての図形を囲むような1つの大きな枠になります。これは、地図全体が握られていることを意味します。



5. 「バザーのお知らせ」のウィンドウに複写ドラッグします。プレスしたまま「バザーのお知らせ」のウィンドウまでドラッグして、案内文の下の方で右ボタンをプレスしてから左ボタンをリリースします。
6. 地図が「バザーのお知らせ」のウィンドウの中に複写されます。

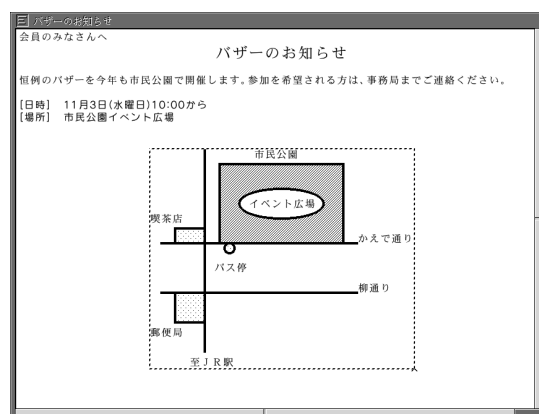


トレーを使って複写することもできます。手順3で「すべて選択」を選んだあとで「編集」メニューの「トレーへ複写」を選び、「バザーのお知らせ」のウィンドウで「編集」メニューの「トレーから複写」を選んでください。

3.6.2 地図の位置を調整する

地図がウィンドウの左に寄っています。以下の手順で画面の中央にそろえましょう。

1. 「バザーのお知らせ」のウィンドウで、[表示]メニューの[全画面表示]を選びます。
2. 地図をクリックして選択します。
3. [書式/印刷]メニューの[行そろえ]を選び、さらに[中央そろえ]を選びます。印刷したときに中央に配置されるように、地図が移動します。



3.6.3 保存する

これで地図入りの「バザーのお知らせ」の文書が完成しました。

ウィンドウの内容をハードディスクに保存しておきましょう。

1. [保存]メニューの[元の実身へ]を選びます。内容の変更を確認するパネルが現れるので、[保存]スイッチをクリックします。
2. ウィンドウの内容が実身に保存されました。



編集を終えるときはピクトグラムをダブルクリックするか、[終了]メニューを選んで、ウィンドウを閉じます。

以上で案内状の作成は終了です。

この章で使用した基本文章編集、基本図形編集にはまだまだ紹介できなかった機能がたくさんあります。詳しくは取扱説明書の〈目次〉—〈文章を書く〉および〈図形を描く〉をご覧ください。

ホームページを見よう

4

超漢字 V からインターネットに接続してホームページを閲覧できます。
本章は、Windows 側でインターネットに接続されていることを前提に説明を進めます。



超漢字 V のネットワークの設定方法は「設定編 第3章 ネットワーク設定」(p.76) をご覧ください。また基本ブラウザの使い方についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉－〈ブラウザをつかう〉をご覧ください。

1 ホームページを閲覧する

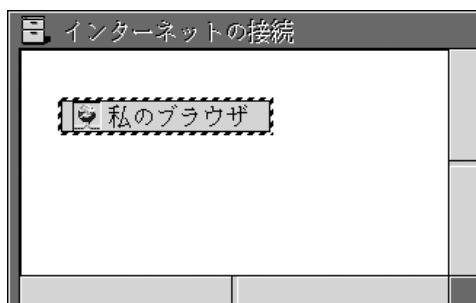
ホームページを閲覧する場合は、「基本ブラウザ」を使います。



基本ブラウザはフリーソフトです。
HTML3.2 に準拠していますが、フレームには対応していません。

4.1.1 ブラウザ用紙を用意する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「ブラウザ用紙」という原紙が入っています。
2. 「ブラウザ用紙」をほかのウィンドウへドラッグして、リリースします。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。
作成する実身の名前は、ここでは「私のブラウザ」と入力します。
4. [設定] スイッチをクリックします。
ウィンドウに「私のブラウザ」の仮身が現れます。



5. ここで忘れずに保存しておきましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存] スイッチをクリックします。



左 [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してもかまいません。

4.1.2 ブラウザを起動する

1. 「私のブラウザ」の仮身をダブルクリックします。
2. 基本ブラウザのウィンドウが現れます。
「ブラウザ用紙」の原紙は、あらかじめ「超漢字ウェブサイト」が閲覧できるように設定されています。しばらくすると、ホームページの画面が現れます。



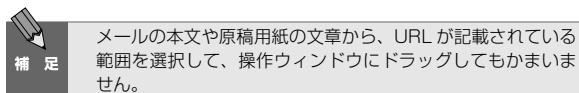
注意

基本ブラウザでインターネットに接続できない場合は、VMware Player のツールバーにあるネットワーク接続が接続状態になっているかをご確認ください。(→設定編 3.1 VMware Player の設定 : p.76)

4.1.3 URL を直接入力する

1. 操作ウィンドウに見たいホームページのURL を直接入力します。

ここでは、パーソナルメディアのホームページのURL を入力しています。

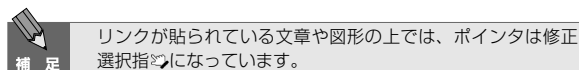


2. [Enter] キーを押します。
指定したホームページに移動します。

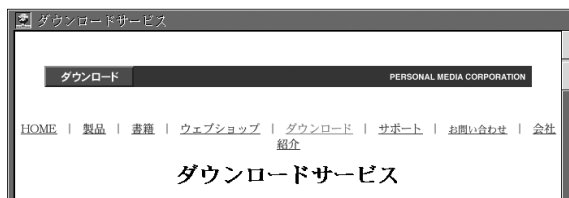


4.1.4 リンクをたどる

1. リンクをクリックします。



2. リンクされているホームページに移動します。



2 ブックマークを登録する

よく見るサイトや検索サイトのブックマークを保存しておくことができます。

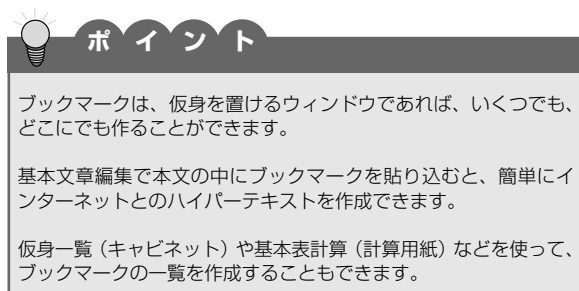
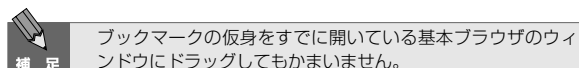
1. 操作ウィンドウの [新規ブックマーク] をプレスします。
ポインタが握り☞に変わります。



2. [新規ブックマーク] をほかのウィンドウヘドラッグします。
3. ウィンドウにブックマークの仮身が現れます。
そのページのタイトルが実身名になります。



4. 新しいブックマークの仮身をダブルクリックすると、基本ブラウザのウィンドウが開き、そのホームページが表示されます。



3 ユーザ設定

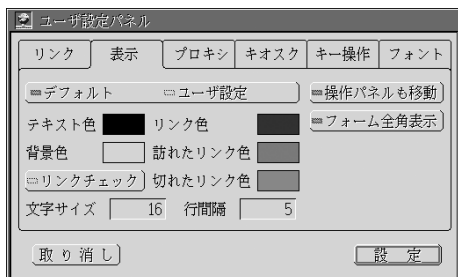
基本ブラウザに表示される画面の色や文字の大きさ、書体を変更することができます。
[表示] メニューの [ユーザ設定] を選ぶと、ユーザ設定のウィンドウが現れます。

4

ホームページを見よう

4.3.1 画面の色や文字の大きさを変える

1. 〈表示〉の見出しをクリックします。
表示に関する設定の画面が現れます。



2. 文字色の設定欄で、[ユーザ設定] をクリックしてインジケータを ON (■) にします。
〈テキスト色〉、〈背景色〉、〈リンク色〉、〈訪れたリンク色〉、〈切れたリンク色〉のそれぞれの色の上でプレスすると、表示色を自由に変更できます。

補足 「切れたリンク色」は [リンクチェック] を ON (■) にしているときのみ有効になります。[リンクチェック] を ON にすると、そのページにあるリンク先がアクセスできるかどうかをチェックします。リンク先にアクセスできない場合に、「切れたリンク色」で表示されます。



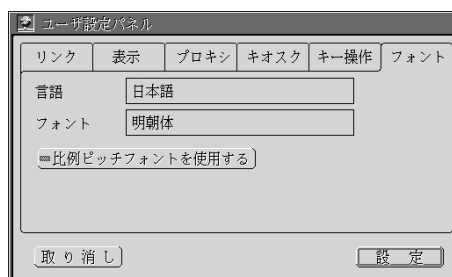
3. 文字の大きさを変えたい場合は、〈文字サイズ〉の欄をクリックして、本文の表示に使われる文字サイズをドット数で指定します。
同様に、〈行間隔〉の欄をクリックすると、行間隔をドット数で指定できます。



4. [設定] スイッチを押すと、変更した内容がウィンドウに反映されます。

4.3.2 書体を変える

1. 〈フォント〉の見出しをクリックします。
書体に関する設定の画面が現れます。



2. 〈フォント〉欄の [明朝体] と書かれているポップアップセレクタをプレスして、好みの書体を選びます。



3. [設定] スイッチを押すと、変更した内容がウィンドウに反映されます。

4 基本ブラウザを閉じる

1. 基本ブラウザのピクトグラムをダブルクリックします。
2. 基本ブラウザのウィンドウが閉じます。

超漢字メールを使おう

5

この章では、超漢字Vでメールを送受信する方法や、インターネットのウェブサイトを開覧する方法を説明します。本章は、Windows側でインターネットに接続されていることを前提に説明を進めます。



超漢字Vのネットワークの設定方法は「設定編 第3章 ネットワーク設定」(p.76)をご覧ください。また超漢字メールの使い方についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈メールをつかう〉をご覧ください。

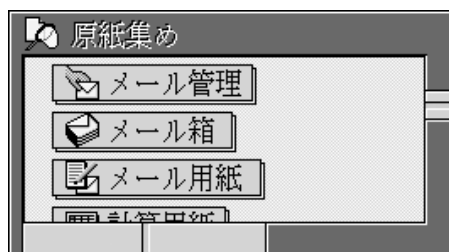
5

超漢字メールを使おう

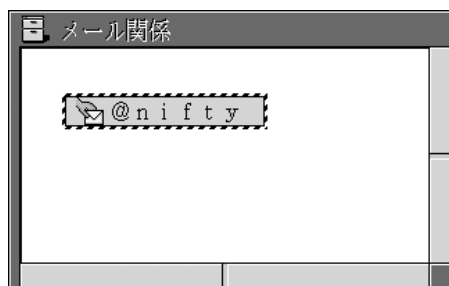
1 メールを使おう

超漢字Vでメールを送受信するときは、「超漢字メール」を使います。
超漢字メールには、以下のような特長があります。

- ・ 日本語以外の複数の文字セット（韓国語、中国語、修飾記号付きアルファベット）に対応しており、扱える文字セットが豊富です。
- ・ 添付ファイルの送受信が行えます。超漢字の実身をそのまま添付ファイルとして送ることができます。
- ・ メールを作成するための「メール用紙（メール編集）」、メールを読むための「メール箱（メール閲覧）」、そしてメールの送受信を行う「メール管理」と機能ごとにアプリケーションが分かれています。（メール箱は、メールを振り分けして保管できます。）
- ・ APOP、SMTP 認証に対応しています。
- ・ 基本表計算やマイクロカードを使って作成したアドレス帳から、簡単にメールアドレスを挿入することができます。



3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。メール管理の名前を入力して、[設定] スイッチをクリックします。
作成する実身の名前は、ここでは「@nifty」という名前にしています。
4. ウィンドウに「@nifty」という名前のメール管理の仮身が現れます。



5.1.1 超漢字メールを用意する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
原紙集めのウィンドウが現れます。
2. 「メール管理」の原紙を、ほかのウィンドウにドラッグします。



メール管理の原紙がウィンドウに表示されていないときは、ウィンドウをスクロールして、メール管理の原紙がウィンドウ内に表示されるようにしてください。

5.1.2 メール管理の通信設定

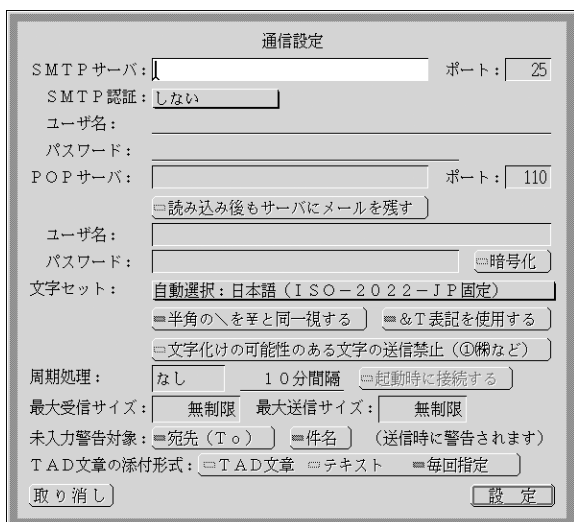
1. メール管理の仮身をダブルクリックします。
メール管理のウィンドウが現れます。



メールを送受信するための設定をしていないので、ウィンドウには「不通」と表示されています。



2. [設定] メニューの [通信設定] を選びます。
通信設定のパネルが現れます。



3. SMTP サーバ、POP サーバ、ユーザ名、パスワードを設定します。

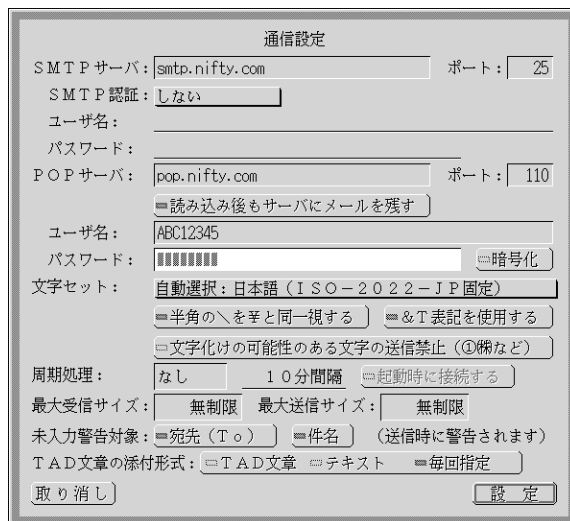
たとえば、次図のように入力します（実際の設定とは異なりますのでご注意ください）。



プロバイダから指定されている設定内容を入力してください。Windows のメールソフトの設定内容を参考にしてもよいでしょう。



Windows のメールソフトでもメールを受信したい場合など、超漢字メールでメールを受信したあとも、POP サーバにメールを残しておく場合には、「読み込み後もサーバにメールを残す」を ON (■) にします。



4. [設定] スイッチをクリックします。
通信設定のパネルが閉じます。

5.1.3 メール管理の個人設定

1. [設定] メニューの [個人設定] を選びます。
個人設定のパネルが現れます。



2. メールアドレスを入力します。



たとえば、以下の画面例のように入力します。



3. [設定] スイッチをクリックします。
個人設定のパネルが閉じます。

メール管理のウィンドウから「不通」の表示が消えていれば、設定完了です。



各設定項目の詳細については、取扱説明書の〈目次〉—〈メールをつかう〉—〈リファレンス〉—〈メール管理の詳細〉をご覧ください。

2 メールを送信する

それでは、実際にメールを送信してみましょう。

5.2.1 メール管理を開く

1. メール管理の仮身をダブルクリックします。
メール管理のウィンドウが現れます。
2. 〈送信待ち〉の見出しをクリックします。
〈送信待ち〉の画面が現れます。

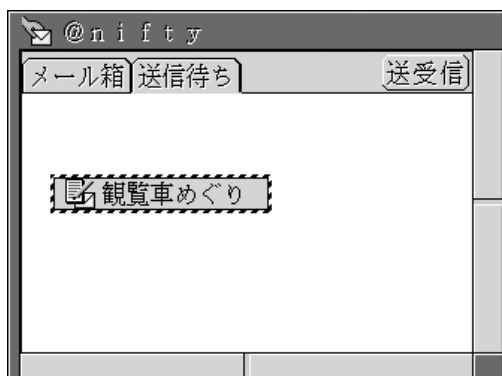


5.2.2 メール用紙を取り出す

1. [小物] メニューの [原紙集め] を選びます。
原紙集めのウィンドウが現れます。
2. 「メール用紙」の原紙をメール管理の〈送信待ち〉画面にドラッグします。
メール用紙の名前を入力するパネルが現れます。
3. メール用紙の名前を入力して、[設定] スイッチをクリックします。

補足 メール用紙の実名は送信するメールの内容には影響しません。

4. メール用紙が〈送信待ち〉の画面に現れます。



5.2.3 メールを書く

1. メール用紙の仮身をダブルクリックします。
メール用紙のウィンドウが現れます。

補足 あらかじめメール管理の個人設定のパネルで設定したメールアドレスが差出人欄に挿入されています。この差出人でよいかどうかを確認してください。メールアドレスが間違っている場合は、メール管理の個人設定パネルを開いて、正しいメールアドレスに修正してください。

観覧車ツアー
差出人 : ABC12345@nifty.com
宛先 (To) :
宛先 (Cc) :
宛先 (Bcc) :
件名 :

2. 宛先 (To,Cc,Bcc)、件名を設定します。
宛先は半角英数文字で入力します。入力モードを [英数] キーを押し、さらに [半角/全角] キーを押して、画面右下隅の入力モードを [ab] にします。

補足 複数のアドレスを書くときは、カンマ (,) で区切ります。

観覧車ツアー
差出人 : ABC12345@nifty.com
宛先 (To) : XYZ67890@nifty.com, STU24680@nifty.com
宛先 (Cc) :
宛先 (Bcc) :
件名 : 観覧車ツアーのおさそい

補足 はじめて超漢字メールでメールの送信をする場合は、いきなり他人に送信せずに、まず自分宛にメールを送ってみることをおすすめします。
「宛先 (To)」の欄に、差出人と同じメールアドレスを入力しておくと、送信したメールを受信することができます。

3. 本文を作成します。
「件名」の下を 1 行空けて、本文を書き始めます。

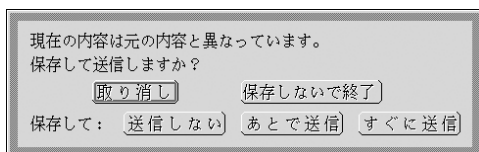
観覧車ツアー
差出人 : ABC12345@nifty.com
宛先 (To) : XYZ67890@nifty.com, STU24680@nifty.com
宛先 (Cc) :
宛先 (Bcc) :
件名 : 観覧車ツアーのおさそい
来週の日曜日に 3 大観覧車はしごツアーを企画しました。
葛西臨海公園「ダイヤと花の大観覧車」
パレットタウン「大観覧車」
よこはまコスモワールド「コスモクロック21」
余裕があればモザイクモール港北チルコポルトの赤い観覧車にも足を伸ばしたいと思います。
まずは仮出欠をお送りください。
企画部

5.2.4 メールを送信する

1. [終了/送信] メニューを選びます。

以下のパネルが現れます。

補足 左 [Ctrl] キーを押しながら [E] キーを押してもかまいません。



保存しないで終了

編集中のメールの内容を保存しないで終了します。〈送信待ち〉の画面には、編集前の状態の仮身が残ります。

取り消し

終了するという操作自体を取り消します。

〈保存して〉

すぐに送信

編集中のメールの内容を保存し、ただちにメールが送信されます。

あとで送信

〈送信待ち〉の画面に編集中のメールの内容を保存してウィンドウを閉じます。[通信] メニューから[送信のみ] を選ぶと、メールが送信されます。

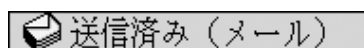
送信しない

〈送信待ち〉の画面に編集中のメールの内容を保存してウィンドウを閉じます。仮身の左下隅に小さな「●」が表示され、メールの送信操作を実行しても送信されなくなります。編集したメールを、草稿やテンプレートとして保存しておくときに使います。

2. [すぐに送信] スイッチをクリックします。

ただちにメールが送信され、〈送信待ち〉の画面から仮身が消えます。

このとき送信した内容は、〈メール箱〉の見出しにある「送信済み」のメール箱に保存されます。



注意

超漢字メールでメールが送受信できない場合は、VMware Player のツールバーにあるネットワーク接続が接続状態になっているかをご確認ください。(→設定編 3.1 VMware Player の設定: p.76)

3 メールを受信する

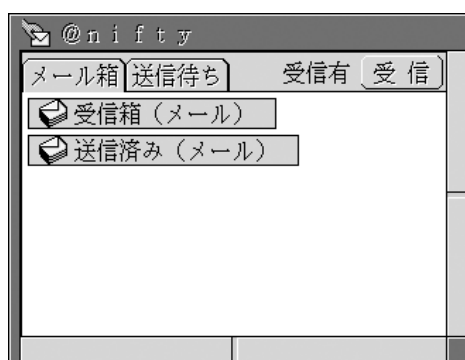
1. メール管理のウィンドウの右上にある[受信] スイッチをクリックします。

補足 メール管理のウィンドウで [通信] メニューの [受信のみ] を選んでもかまいません。

2. メールが受信されます。

補足 受信したメールがあるときは、メール管理のウィンドウに「受信有」と表示されます。

補足 「受信有」の表示を消すには、「受信有」の文字そのものをクリックしてください。



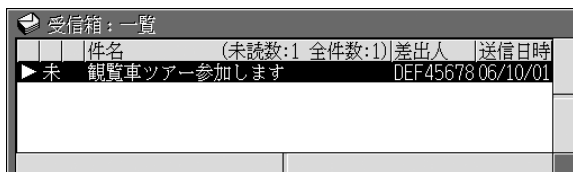
4 受信したメールを読む

1. メール管理のウィンドウにある「受信箱」の仮身をダブルクリックします。
「受信箱：一覧」のウィンドウが現れます。

 現在選ばれているメールは、白黒反転して表示されます。

 未読メール（まだ読んでいないメール）の場合は、件名の前に「未」の文字が表示されます。

 [空白]（スペース）キーで次の未読メールへ移動できます。



2. 読みたいメールをダブルクリックします。
「(件名) 受信箱:本文」のウィンドウが現れます。

 [Enter] キーを押しても、本文ウィンドウを開いて前面に表示させることができます。



3. メールを読み終えたら、[終了] メニューを選びます。
受信箱のウィンドウが閉じます。

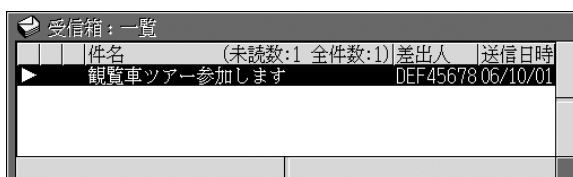
 「受信箱：一覧」の [終了] メニューを選んでも、「(件名) 受信箱：本文」の [終了] メニューを選んでも、両方の受信箱のウィンドウが同時に閉じられます。
左 [Ctrl] キーを押しながら [E] キーを押してもかまいません。

 **ポイント**
本文ウィンドウだけを閉じたい場合は、本文ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックします。

5 メールを返信する

1. メール管理のウィンドウにある「受信箱」の仮身をダブルクリックします。
「受信箱：一覧」のウィンドウが現れます。

 現在選ばれているメールは、白黒反転して表示されます。

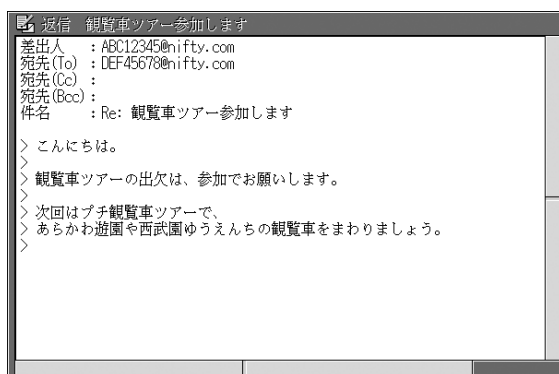


2. 返信したいメールをクリックして選びます。
3. [メール] メニューの [返信作成] を選びます。
返信作成用のメール用紙のウィンドウが現れます。

 左 [Ctrl] キーを押しながら [R] キーを押してもかまいません。

 返信作成用にはあらかじめ、差出人、宛先、件名、本文の引用が挿入されています。宛先や件名に間違いがないか、よく確認してください。

 返信件名や、本文引用記号などは、メール管理から [設定] メニューの [環境設定] で設定できます。詳細は取扱説明書の〈目次〉－〈メールをつかう〉－〈リファレンス〉－〈メール管理の詳細〉をご覧ください。



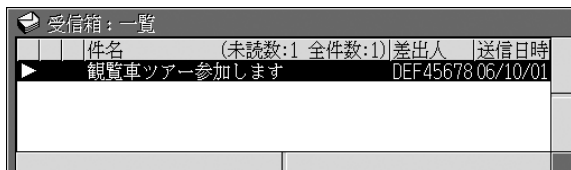
4. 返信作成用のメール用紙のウィンドウで、返信の内容を作成します。
5. 「5.2.4 メールを送信する」(p.122) と同じ手順で、返信の内容を送信します。

6 メールを転送する

5

超漢字メールを使う

1. メール管理のウィンドウにある「受信箱」の仮身をダブルクリックします。
「受信箱：一覧」のウィンドウが現れます。



2. 転送したいメールをクリックして選びます。
3. [メール] メニューの[転送作成]を選びます。
返信作成用のメール原紙のウィンドウが現れます。
転送されるメールは「message」という名前のメール箱の中に入っています。
「message」のメール箱をダブルクリックしてウィンドウに開くことにより、転送されるメールの内容を確認することができます。



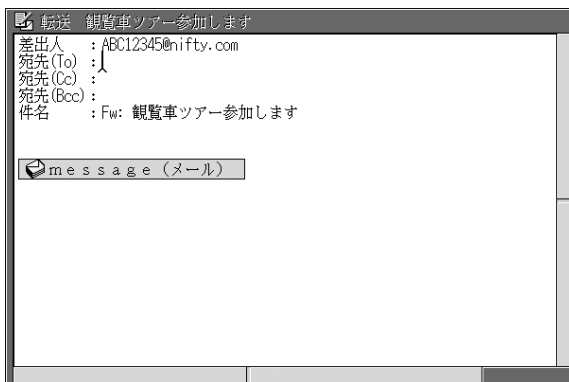
あらかじめ、差出人、件名、転送する本文（「message」のメール箱）が挿入されています。



本文を入力する場合は、「message」のメール箱よりも上の領域に入力してください。



転送件名の生成方法は、メール管理から[設定]メニューの[環境設定]で設定できます。詳細は取扱説明書の〈目次〉－〈メールをつかう〉－〈リファレンス〉－〈メール管理の詳細〉をご覧ください。



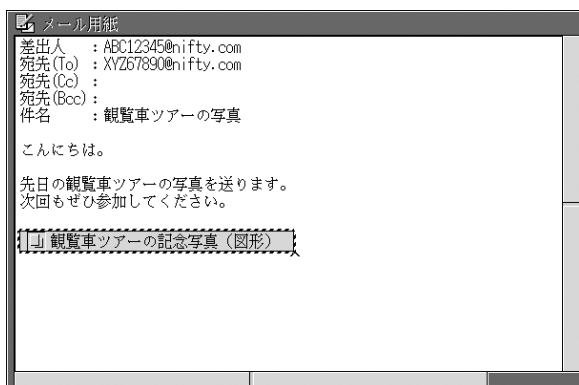
4. 転送先のメールアドレスを「宛先 (To)」欄に入力し、「5.2.4 メールを送信する」(p.122)と同じ手順で、転送の内容を送信します。

7 ファイルを添付する

5.7.1 ファイルを添付してメールを送信する

メールの送信先でも超漢字メールを使っている場合は、超漢字の実身を添付ファイルとして送信することができます。

1. 添付したい実身を指す仮身を、メール用紙のウィンドウにドラッグします。
仮身がメール用紙の本文の末尾に現れ、選択枠で囲まれます。

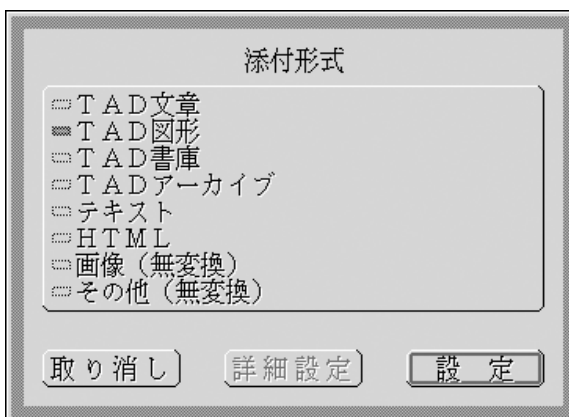


2. [編集] メニューの[添付形式]を選びます。
添付形式のパネルが現れます。

文章実身 (TAD 文章)、図形実身 (TAD 図形)、書庫実身 (TAD 書庫) の場合は、あらかじめ適切な添付形式が選ばれます。



添付形式の詳細は、取扱説明書の〈目次〉－〈メールをつかう〉－〈リファレンス〉－〈添付形式について〉をご覧ください。



3. 適切な添付形式に ON () マークをつけて「設定」スイッチをクリックします。

添付形式のパネルが閉じます。



複数の添付文書があるときは、この処理を繰り返します。文書が添付されたメール用紙も、通常のメール用紙の場合と同じように「終了／送信」メニューを選択して送信処理を行います。

5.7.2 受信したメールの添付ファイルを読む

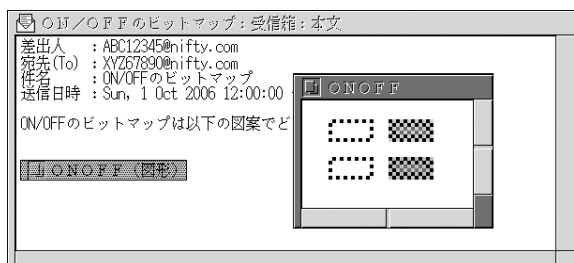
添付ファイルを含んだメールを受信すると、以下のように表示されます。



添付ファイルは仮身の形で表示されます。



添付ファイルが超漢字の実身である場合は、この仮身をダブルクリックして、その場でウィンドウに開いたり、別のウィンドウにドラッグしたりすることができます。



添付ファイルの仮身から開いたウィンドウで編集した結果は、保存されない場合があります。

添付ファイルの内容を編集したい場合は、必ず別のウィンドウに実身複製してから、編集を行ってください。

次のような場合、添付ファイルの編集結果は保存されません。

- ・ メール箱の一覧ウィンドウからドラッグ、またはトレイを使ってメールを移動または複製したとき。
- ・ メールを転送したとき。
- ・ メール箱の実身が書き込み禁止であるとき。メールの送受信処理中など、一時的に書き込み禁止になっている場合も含まれます。



超漢字以外のアプリケーションで作成された添付ファイルは、超漢字では内容を確認できません。Windows のファイル形式の添付ファイルを受信した場合は、「共有フォルダ参照」や「ファイル変換」を使って、Windows 上で確認できるようなファイルに変換するか、メールそのものを転送して、Windows のメールソフトで受信して内容を確認してください。

はがきを印刷しよう

6

超漢字の多漢字機能を使って、はがきの宛名を印刷してみましょう。送り先の住所録は、カード型データベースのマイクロカードを使って作成します。宛名の印刷書式（レイアウト）は、基本図形編集を使って作成します。本章は、Windows 側でプリンタに接続されていることを前提に説明を進めます。



超漢字 V のプリンタの設定方法は「設定編 2.4 プリンタの設定」(p.73) をご覧ください。



本章で使用している画面のサンプルと完成品を「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際にお役立てください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」－「操作ガイド」サンプル文書をご覧ください。

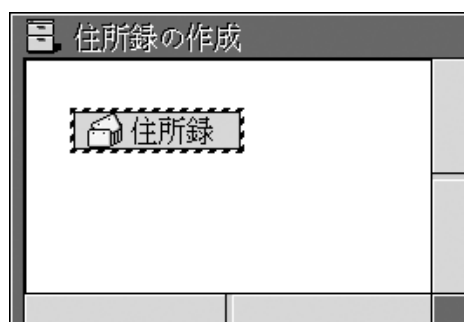
1 住所録を作成する

マイクロカードは、カード型データベースのアプリケーションです。1 画面が情報カードの 1 枚に対応しています。たとえば、住所録を作成する場合は、1 画面に 1 件分の情報を書き込みます。

6.1.1 カード用紙を用意する

最初に、宛名と住所を管理するためのカード用紙を用意します。

1. [小物] メニューの [原紙集め] を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「カード用紙」という原紙が入っています。
2. 「カード用紙」の原紙をプレスして、そのままほかのウィンドウへドラッグし、そこでリリースします。
ここでは、「住所録の作成」のウィンドウにドラッグします。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。
ここでは名称を「住所録」と入力します。
4. [設定] スイッチをクリックします。
「住所録」という名前の仮身がウィンドウの中に現れます。



5. ここで忘れずに「住所録」の実身を保存しておきましょう。

[保存] メニューの [元の実身へ] を選び、現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。



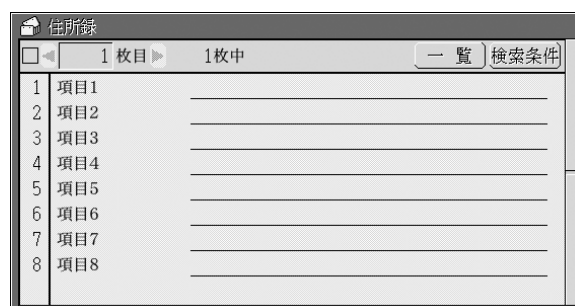
新しく実身を作成したら必ず保存操作を行う習慣をつけるとよいでしょう。



左 [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してもかまいません。

6.1.2 カードを起動する

1. 「住所録」の仮身をダブルクリックします。
マイクロカードのウィンドウが現れます。この画面をカードウィンドウとよびます。



- 画面右上の「一覧」スイッチをクリックします。
入力した内容の一覧を表示するウィンドウが現れます。この画面を一覧ウィンドウとよびます。

補足 [表示] メニューの「一覧表示」を選んでも、左 [Ctrl] キーを押しながら [Q] キーを押してもかまいません。

住所録：一覧

	項目1	項目2	項目3	項目4
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

- 一覧ウィンドウのタイトルバーをつかんで、カードウィンドウが表示される位置へドラッグして移動します。

住所録

1 枚目 1 枚中

一覧 検索条件

1	項目1	
2	項目2	
3	項目3	
4	項目4	
5	項目5	
6	項目6	
7	項目7	
8	項目8	

住所録：一覧

	項目1	項目2	項目3	項目4
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

6.1.3 カードを設計する

起動したカードには、何も入力されていません。
新しいデータベースを作るときは、まずはじめにカードの設計をします。

- 「画面」メニューの「設計画面」を選びます。
カードウィンドウが設計画面に切り替わります。

補足 左 [Ctrl] キーを押しながら [F] キーを押してもかまいません。

住所録

印刷書式: 中止 設定

項目名	種類	最大文字数	一覧表示幅	書体
1. 項目1	文字	20	8	明朝体
2. 項目2	文字	20	8	明朝体
3. 項目3	文字	20	8	明朝体
4. 項目4	文字	20	8	明朝体
5. 項目5	文字	20	8	明朝体
6. 項目6	文字	20	8	明朝体
7. 項目7	文字	20	8	明朝体
8. 項目8	文字	20	8	明朝体

項目名

項目の名前を入力します。項目名は最大8文字まで設定できます。項目数は最大64項目まで設定できます。

種類

ポップアップセクタをプレスして、項目が格納するデータの種類の選びます。

文字：データを文字列として扱います。

数値：データを数字として扱います。

仮身：仮身を格納します。

最大文字数

その項目に格納できるデータの最大の文字数を設定します。

文字：最大500文字まで設定できます。

数値：最大20桁まで設定できます。

仮身：実身名の表示幅として最大30文字まで設定できます。1項目につき1つの仮身を格納できます。

一覧表示幅

一覧ウィンドウでカードの内容を一覧表示したときの表示幅を設定できます。

入力した情報をすべて表示したい場合は、最大文字数と同じ値を設定します。すべての項目を1画面に納めて表示したい場合は、小さい値を設定します。「0」を入力するか空欄にすると、その項目は一覧ウィンドウに表示されません。

書体

ポップアップセクタをプレスして、その項目を表示する書体を選びます。

- 住所録に必要な項目を設定しましょう。

「項目1」が選択枠で囲まれている状態で「氏名」と入力し、項目名を書き換えます。

補足 「項目1」が選択枠で囲まれていないときは、「項目1」の欄をダブルクリックして選択します。

3. 「項目 2」をダブルクリックで選択し、「ふりがな」と入力します。
- 同様に、「項目 3」を「郵便番号 1」、「項目 4」を「郵便番号 2」、「項目 5」を「住所」、「項目 6」を「建物名」に書き換えます。

6



郵便番号は、官製はがきの記入欄にあわせて、2 項目に分けてあります。

4. 不要な項目を削除します。
- 「項目 7」をダブルクリックで選択し、[Delete] キーを押します。
- 続けて、「項目 8」をダブルクリックで選択し、[Delete] キーを押します。



注意

項目名を空欄にすると、項目が削除されます。すでにその項目に情報が入力されている場合は、その情報も削除されますので、ご注意ください。

5. 〈最大文字数〉と〈一覧表示幅〉を設定します。
- たとえば、以下のように設定します。

1. 氏名： 最大文字数 10、一覧表示幅 7
2. ふりがな： 最大文字数 15、一覧表示幅 10
3. 郵便番号 1： 最大文字数 3、一覧表示幅 3
4. 郵便番号 2： 最大文字数 4、一覧表示幅 4
5. 住所： 最大文字数 30、一覧表示幅 20
6. 建物名： 最大文字数 20、一覧表示幅 15

6. 〈種類〉と〈書体〉はそのままにしておきます。
- これで、カードの設計が完了しました。

7. カードウィンドウの右上にある「設定」スイッチをクリックします。
- 設計内容が設定され、カードウィンドウが設計画面からカード画面に切り替わります。
- カードウィンドウと一覧ウィンドウに設定した項目名が表示されています。



ここで「中止」スイッチをクリックすると、設計内容が取り消され、最初の状態に戻ります。

2 住所録を入力する

6.2.1 データを入力する

設計した住所録のカードに、データを入力してみましょう。

1. カード画面で、「氏名」の右にある下線の上をクリックします。
- カーソルが現れます。

2. 氏名を入力します。
- 例として「高橋 一郎」と入力します。

3. 「ふりがな」の右にある下線の上をクリックして、カーソルを移動します。
- ふりがなを入力します。



[Tab] キー、[↓] キー、[Enter] キーを押しても、カーソルを移動できます。

4. 同様に、郵便番号、住所、建物名を入力します。
たとえば、次の図のように入力します。
(住所、郵便番号は実際のものではありません。)

1	氏名	高橋 一郎
2	ふりがな	たかはし いちろう
3	郵便番号1	123
4	郵便番号2	4567
5	住所	東京都足立区丘の上1-1-1
6	建物名	丘の上ハイツ301

ポイント
番地を「-」(マイナス)ではなく「-」(ハイフン)で区切ると、ハイフンを縦書きで印刷できます。

6.2.2 多漢字を使った住所録の作成

マイクロカードは、超漢字の特長の1つである多漢字・多文字機能に対応しています。

文字検索で検索した人名や地名の異体字を、マイクロカードに入力して利用することができます。

ここでは、高橋さんの「高」を「𠂔」に置き換えてみます。

1. [小物] メニューの [文字検索] を選んで、文字検索小物を起動します。
2. <文字情報> の見出しをクリックします。
3. カードウィンドウの氏名欄の「高」を選択枠で囲み、文字検索のウィンドウにドラッグします。
「高」の文字情報と異体字の情報が表示されます。

1	氏名	高橋 一郎
2	ふりがな	たかはし いちろう
3	郵便番号1	123

コード一覧 漢字検索 記号検索 文字情報

GT 60969番 (U: 9AD9)
日本語: 高部能 11画
こう、たかい、たか、たかめる、たかまる

日高GT高太高
形高高高高高
形𠂔
異 𠂔 𠂔

外部辞書 1 / 3

4. 罫欄にある「高」をクリックして選択し、[編集]メニューの [トレーへ複写] を選びます。

補足 トレーの詳しい内容については、取扱説明書の <目次> — <基本項目> — <トレー> をご覧ください。

コード一覧 漢字検索 記号検索 文字情報

GT 60969番 (U: 9AD9)
日本語: 高部能 11画
こう、たかい、たか、たかめる、たかまる

日高GT高太高
形高高高高高
形𠂔
異 𠂔 𠂔

外部辞書 1 / 3

5. カードウィンドウの氏名欄にカーソルを移動し、「高」を削除します。
「高」を選択枠で囲んで [Delete] キーを押すか、「高」の右側にカーソルを移動して [Backspace] キーを押します。

6. [編集] メニューの [トレーから移動] を選びます。
「高」がマイクロカードに入力されます。

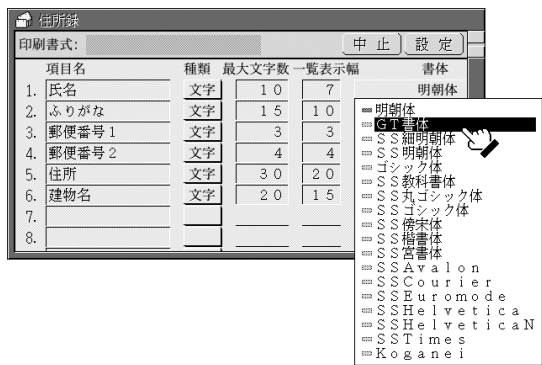
補足 文字検索のウィンドウで選択した文字を、カードウィンドウに直接ドラッグして複写してもかまいません。

1	氏名	高橋 一郎
2	ふりがな	たかはし いちろう
3	郵便番号1	123

7. 「高」は GT 書体を利用しているので、氏名欄の表示を GT 書体に変更し、見た目をそろえます。
[画面] メニューの [設計画面] を選びます。

補足 ここで書体を GT 書体に変更しても、文字コードは変わりません。表示するデザインのみが変更されます。
氏名や住所に GT 書体を使っていない場合は、書体を変更しなくてもかまいません。

8. 氏名の項目の〈書体〉のポップアップセレクトアをプレスして、[GT 書体] を選びます。



9. [設定] スイッチをクリックして、カード画面に戻ります。
氏名の項目が GT 書体で表示されます。



注意

「高」は 3 文字分のデータ量を必要とします。そのため、みかけ上入力できる文字数は、設定した最大文字数よりも少なくなります。詳しくは、「解説編 第 1 章 多漢字を使う」(p.168)をご覧ください。

6.2.3 カードを追加する

最初に用意されるカードは 1 枚のみです。2 枚目以降は、カードの枚数を増やしてから入力します。

1. [カード] メニューの [新規] を選びます。



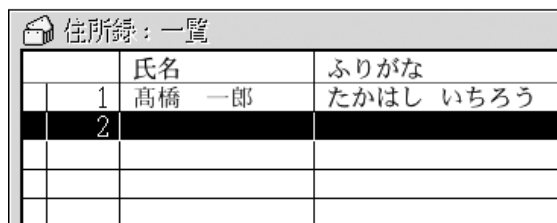
左 [Ctrl] キーを押しながら [N] キーを押してもかまいません。

2. 新しいカードが追加されます。

現在表示されているカードの直後に新しいカードが 1 枚追加され、カードウィンドウに表示されます。

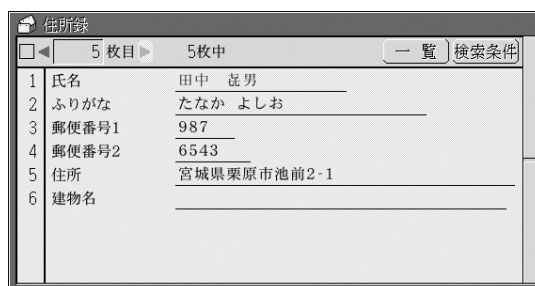
画面左上のカード枚数には、「2 枚目」と表示されます。

一覧ウィンドウは、2 番目の行が白黒反転して表示されています。



3. 2 枚目のデータを入力します。

3 枚目以降のデータもカードを追加して入力します。



ポイント

[カード] メニューの [複製] を選ぶと、現在表示されているカードと同じ内容のカードが 1 枚追加されます。共通するデータの多いカードを作成する場合に便利です。

4. データの入力が終わったら、必ず「住所録」を保存しておきましょう。

[保存] メニューの [元の実身へ] を選び、現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

郵便番号辞書

郵便番号辞書小物を使うと、住所から郵便番号を調べたり、郵便番号から住所を調べることができます。地名を正確な字形で表示することもできます。

調べた住所は、ドラッグ操作や複写操作でほかのウィンドウに入力することができるので、住所録を作成するときに便利です。

【小物】メニューの「郵便番号辞書」を選ぶと、郵便番号辞書小物が起動します。

■郵便番号から住所を調べる

1. 〈〒⇒住所〉の見出しで、〈〒〉欄に郵便番号を入力します。
郵便番号は、上3桁もしくは7桁で指定します。ハイフンは省略してもかまいません。
2. 「検索」スイッチを押すと、該当する住所が表示されます。

■住所から郵便番号を調べる

1. 〈住所⇒〒〉の見出しで「都道府県」「市・郡・東京23区」「区・町・村」のポップアップセレクトを順に選んで、住所を絞り込みます。
2. 画面右のノブをつかんで郵便番号の一覧をスクロールさせて、該当する住所を探します。

■あいまい住所検索

1. 〈住所検索〉の見出しに、住所の一部を入力します。住所の漢字がわからないときは、その読みを入力してもかまいません。
2. 「検索」スイッチを押すと、入力した内容が含まれる住所の一覧が表示されます。

検索した住所をクリックすると、画面上の枠に選択した住所が表示されます。

郵便番号辞書の「編集」メニューの「検索結果をトレイへ」を選んでから、カードウィンドウの住所欄にカーソルを移動し、[トレイから移動]を選ぶと、検索結果が複写されます。枠内の住所をつかんで、カードウィンドウにドラッグしてもかまいません。

郵便番号辞書の詳細は、取扱説明書の〈索引〉－〈ゆ〉－〈郵便番号辞書〉をご覧ください。

6.2.4 カードをめくる

前後のカードを参照したり、入力したカードの内容を修正したりする場合は、カードをめくる操作をします。

カードを順番にめくる場合は、カードウィンドウ左上の◀/▶スイッチを押します。

任意のカードを表示させたい場合は、◀/▶スイッチの間にあるページ数入力欄にページ数を入力して、右[Ctrl]キーを押します。

右[Ctrl]キーを押す代わりに、カードウィンドウのほかの場所をクリックしてもかまいません。

補 足

カードの順番を入れ替える

入力されたカードの順番を入れ替えることができます。

一覧ウィンドウで行をプレスしてドラッグすると、リリースした位置にカードが移動します。

氏名	ふりがな	郵便番号
1 高橋 一郎	たかはし いちろう	123
2 田中 健之介	よしたけ りゅうのすけ	111
3 鈴木 健之介	すずき けんすけ	456
4 田中 健之介	たなか けんすけ	897
5 田中 健之介	たなか けんすけ	987

また、「編集」メニューの「並べ替え」を選ぶと、選択したキー（項目）を中心に、データを一度に並べ替えることができます。

詳しくは、取扱説明書の〈目次〉－〈マイクロカードをつかう〉－〈並べ替える〉をご覧ください。

3 はがきのレイアウトを決める

次に、マイクロカードに入力したデータをはがきに印刷する準備を行います。

印刷する内容のレイアウトは、基本図形編集を使って作成します。この印刷用の実身を「レイアウト図形実身」とよびます。レイアウト図形実身をキャビネット（仮身一覧）に格納すると、複数の設定を選択して利用できます。このキャビネットを「レイアウトキャビネット」とよびます。

6

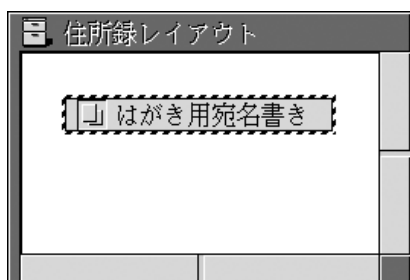
はがきを印刷しよう

6.3.1 レイアウト図形実身を用意する

1. 「原紙集め」のウィンドウにある「キャビネット」をほかのウィンドウへドラッグします。
ここでは、「住所録の作成」のウィンドウにドラッグしています。
2. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。名称を「住所録レイアウト」と入力して、[設定]スイッチをクリックします。
「住所録レイアウト」という名前の仮身がウィンドウの中に現れます。これがレイアウトキャビネットになります。



3. ここで忘れずに「住所録レイアウト」の実身を保存しておきましょう。
[保存]メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。
4. 「住所録レイアウト」の仮身をダブルクリックしてウィンドウに開きます。
5. 「原紙集め」ウィンドウにある「画用紙」を、「住所録レイアウト」のウィンドウへドラッグします。
6. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れます。名称を「はがき用宛名書き」と入力して、[設定]スイッチをクリックします。
「はがき用宛名書き」という名前の仮身がウィンドウの中に現れます。これがレイアウト図形実身になります。

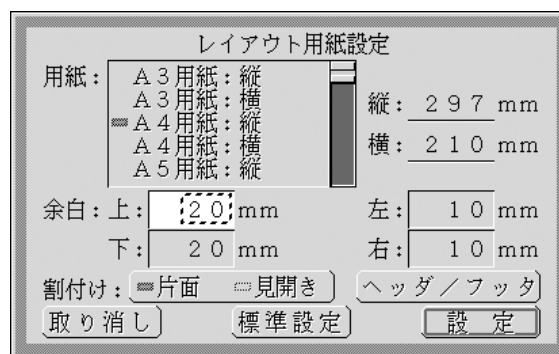


7. 「はがき用宛名書き」の実身も保存しておきましょう。

[保存]メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

6.3.2 レイアウト図形実身を設定する

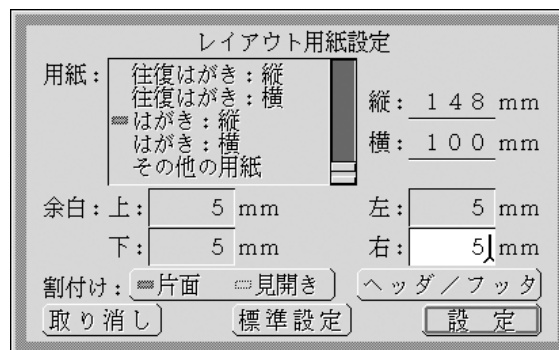
1. 「はがき用宛名書き」の仮身をダブルクリックしてウィンドウに開きます。
2. [書式/印刷]メニューの[用紙設定]を選びます。
レイアウト用紙設定パネルが現れます。



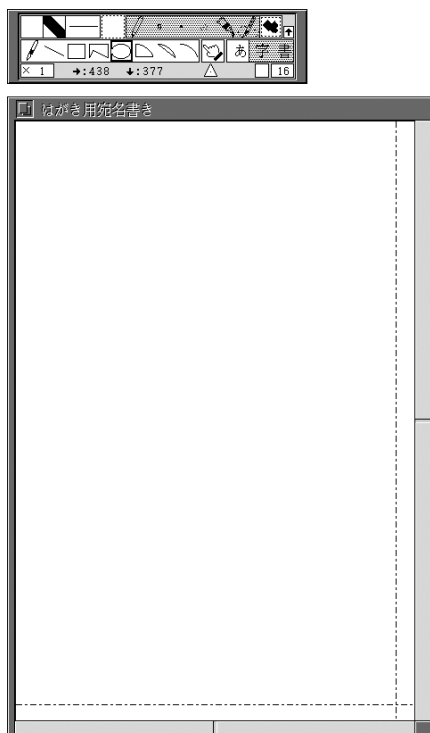
3. 用紙のサイズを設定します。
〈用紙〉の一覧をスクロールして、[はがき：縦]をクリックします。
パネル右側の〈縦〉と〈横〉の数値がはがきサイズに変わります。
4. 〈余白〉の各欄に以下の値を入力します。
上：5mm 下：5mm 左：5mm 右：5mm



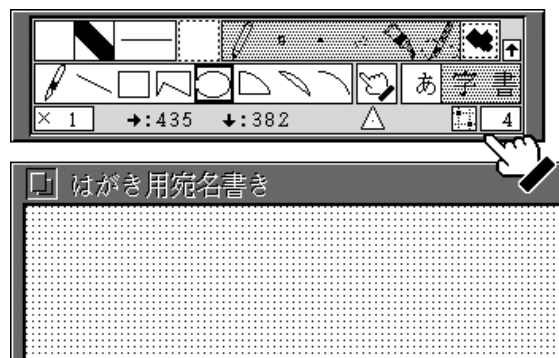
補 足
余白に設定できる大きさは、印刷するプリンタによって異なります。詳しくはプリンタに付属する取扱説明書をご覧ください。



5. [設定] スイッチをクリックします。
設定に合わせて用紙枠が表示されます。
6. 用紙枠が表示されるように、ウィンドウの大きさを調節します。
この用紙枠を目安にレイアウトを作成します。



7. 道具パネルの格子点表示マークをプレスして [格子点拘束] を選びます。
続いて、格子点間隔マークをプレスして [4 ドット] を選びます。



8. ここで忘れずに「はがき用宛名書き」の実身を保存しておきましょう。
[保存] メニューの [元の実身へ] を選び、現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

これで、レイアウト図形実身の準備は終わりました。



補 足

はがきサイズに設定した画用紙のテンプレートを製品中の「超漢字サンプル集」—「『操作ガイド』サンプル文書」に収録しています。実身複製してご利用ください。

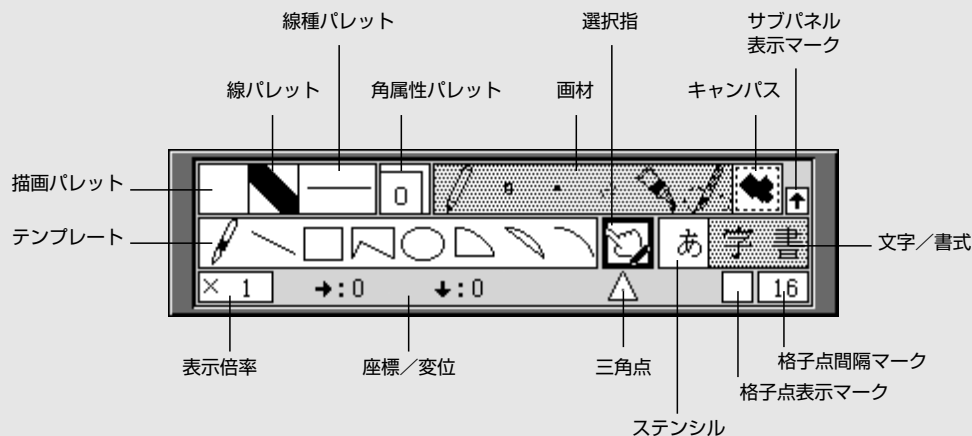


補 足

道具パネル

基本図形編集では、道具パネルを使って、図を描く道具を選択したり、パターンや線の太さなどを指定できます。

基本図形編集の使い方は、「応用編 第3章 案内状を作ろう」(p.104)でも解説しています。あわせてご覧ください。



4 レイアウト内容を入力する

レイアウト図形実身の中に入力する内容は、大きく 2 種類に分けられます。

1 つは、記述した内容がそのまま印刷される入力方法です。もう 1 つは、カードに入力されている情報に置き換えて印刷される入力方法です。

たとえば、はがきの宛名書きの場合、差出人の住所や名前は、入力した内容がそのまま印刷されるようにします。いっぽう、宛先の住所や名前は、カードに入力されている情報を呼び出して 1 枚ずつ印刷されるようにします。

ここでは、例として以下の図のように入力する方法を説明します。

6

はがきを印刷しよう



注意

印刷結果は、お使いになるプリンタの機種や設定によって変わる場合があります。印刷位置がずれてしまう場合は、文字の位置、大きさ、文字間隔を調整してみてください。

6.4.1 差出人の情報を入力する

1. ウィンドウの左下に差出人の郵便番号を入力します。
道具パネルのステンシル[㊦]をクリックし、カーソルを郵便番号欄に合わせてクリックします。
7 桁の数字を上 3 桁と下 4 桁に分けて入力します。
2. 道具パネルの選択指マーク[㊦]をクリックして、郵便番号を選択します。
道具パネルの文字マーク [字] をプレスして文字の大きさを、書式マーク [書] をプレスして行間隔や文字間隔を調整します。

ここでは以下のように設定しています。

郵便番号：文字サイズ 10、行間隔 3/4 行あき、文字間隔 1/8 行あき、横書き

3. 差出人の郵便番号欄の上にカーソルを移動してクリックします。
道具パネルの書式マーク [書] をプレスし、[縦書き] を選びます。
4. 道具パネルのステンシル[㊦]をクリックし、差出人の住所を入力します。

5. 道具パネルの選択指マークをクリックして、住所を選択します。
道具パネルの文字マーク [字] をプレスして文字の大きさを、書式マーク [書] をプレスして行間隔や文字間隔を調整します。
ここでは以下のように設定しています。

住所：文字サイズ 10、行間隔 1/4 行あき、文字間隔 1/8 行あき、縦書き

6. 道具パネルのステンシルをクリックし、差出人の氏名を入力します。
7. 道具パネルの選択指マークをクリックして、住所を選択します。
道具パネルの文字マーク [字] をプレスして文字の大きさを、書式マーク [書] をプレスして行間隔や文字間隔を調整します。
ここでは以下のように設定しています。

氏名：文字サイズ 14、行間隔 1/4 行あき、文字間隔 1/8 行あき、縦書き

これで、差出人の入力は終わりです。

6.4.2 宛先の情報を入力する

「住所録」のカードに入力した宛先を、はがきに印刷できるように入力します。

マイクロカードのデータから情報を呼び出すときは、「%」のあとに項目名を () で囲んで入力します。
まず、宛先の郵便番号を入力しましょう。



補 足

特殊文字

レイアウト図形実身に記述する%で始まる文字枠を**特殊文字**とよびます。%で始まる特殊文字は、カード内のデータに置き換えられるので、宛先を 1 枚ずつ入力する手間が省けます。

文字枠を重ねて配置することもできるので、文字背景色（描画パレット）は透明に設定しておくともよいでしょう。

詳しくは、取扱説明書の〈目次〉－〈マイクロカードをつかう〉－〈印刷する〉－〈印刷内容をデザインする〉をご覧ください。

1. 道具パネルのステンシルをクリックし、カーソルを郵便番号欄に合わせてクリックします。
2. 「%（郵便番号 1）」と入力し、道具パネルの選択指マークをクリックします。
入力した「%（郵便番号 1）」が選択枠で囲まれます。

3. 道具パネルの文字マーク [字] をプレスして、[14（3/2 倍）] を選びます。
4. 道具パネルの書式マーク [書] をプレスして、行間隔 [3/4 行あき]、文字間隔 [1/4 行あき] を選びます。
5. 道具パネル右上隅の描画パレットをプレスして、一番下の行の左から 4 番目を選びます。
「%（郵便番号 1）」の背景が透明化されます。
6. 「%（郵便番号 1）」の右下隅をつまんで、「%（郵便）」までが上の段に表示されるように、選択枠を左下方向にドラッグします。

これで「郵便番号 1」（上 3 桁）のレイアウトが設定されました。

7. 「%（郵便番号 1）」の枠の隣りに、「郵便番号 2」（下 4 桁）のレイアウトを設定します。
文字サイズや間隔は「郵便番号 1」と同じです。
「%（郵便）」までが上の段に表示されるように、選択枠をドラッグします。

続いて、宛先の住所と氏名を入力しましょう。

1. 道具パネルのステンシルをクリックし、カーソルを「郵便番号 2」の下に合わせてクリックします。
2. 書式 [書] をプレスして、[縦書き] を選んでから、「%（住所）」と入力します。
「%（住所）」を選択して、文字サイズ 14、行間隔 1/4 あき、文字間隔 1/4 あきに設定します。
選択枠の右下隅をつかんで、選択枠を用紙枠の直前までドラッグして伸ばします。



注 意

カードに入力された文字数が選択枠に収まる文字数よりも多い場合、はみ出す文字は印刷されません。文字サイズや文字間隔を調整したり、カードの項目を分けたりして調整してください。

3. 「%（住所）」の左側に「%（建物名）」と入力します。
文字サイズ 14、行間隔 1/4 あき、文字間隔 1/4 あきに設定します。
選択枠の右下隅をつかんで、選択枠を用紙枠の直前までドラッグして伸ばします。
4. 「郵便番号 1」の下に「%（氏名）様」と入力します。
文字サイズ 29、行間隔 1/4 あき、文字間隔 1/4 あきに設定します。
選択枠の右下隅をつかんで、選択枠を用紙枠の直前までドラッグして伸ばします。

5. 文字 [字] をプレスして、「書体設定」を選びます。
書体設定パネルが現れるので、「GT 書体」を選び、
[確認] スイッチを押します。



宛名に GT 書体の文字を使用していない場合は、この操作は
しなくてもかまいません。

6

はがきを印刷しよう

6. 宛先の住所と氏名の設定が終わりました。
ピクトグラムをダブルクリックして、「はがき用
宛名書き」のウィンドウを閉じます。
現れたパネルで、[保存] スイッチをクリックし
ます。

7. 「住所録レイアウト」のウィンドウも閉じます。

これで、レイアウト図形実身の作成が終わりました。

5 はがきを印刷する

それでは、いよいよ住所録で作成した宛名をはがきに印刷してみましょう。

6.5.1 作成したレイアウトをカードに設定する

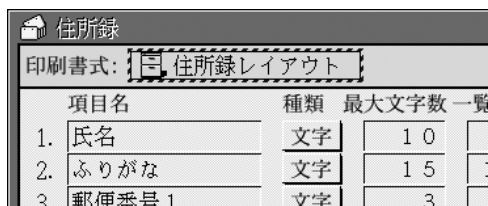
作成したレイアウトキャビネットを、マイクロカー
ドに読み込ませます。

1. 「住所録」のウィンドウで [画面] メニューの [設
計画面] を選びます。
設計画面に切り替わります。
2. 「住所録レイアウト」の仮身を、印刷書式欄の右
側（網掛け部分）に複写ドラッグします。



仮身の複写についての詳しい説明は「基本操作編 7.3.1
仮身の複写」(p.39) をご覧ください。

3. 印刷書式欄に「住所録レイアウト」の仮身が複
写されます。



4. 画面右上にある [設定] スイッチをクリックし
ます。
カードウィンドウに切り替わります。

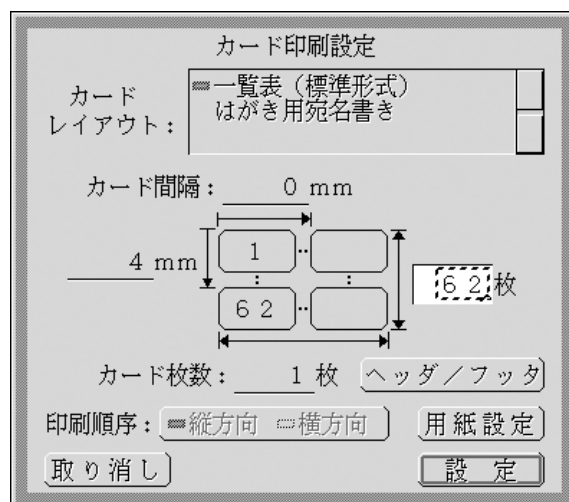
6.5.2 印刷設定を選ぶ

1. 「住所録」のウィンドウで [印刷] メニューの [印
刷設定] を選びます。

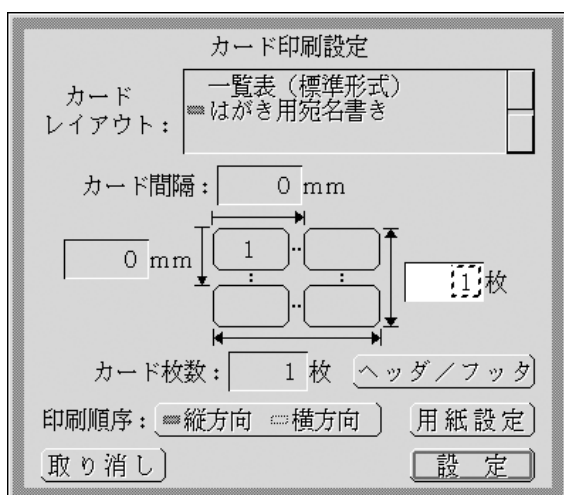
カード印刷設定パネルが現れます。

〈カードレイアウト〉欄には、[一覧表 (標準形式)]
と [はがき用宛名書き] が表示されています。

[一覧表 (標準形式)] は、標準のレイアウトです。
一覧ウィンドウと同じ形式で印刷します。[はがき
用宛名書き] は、6.4 で作成したレイアウト図形実身
(p.134) を指しています。



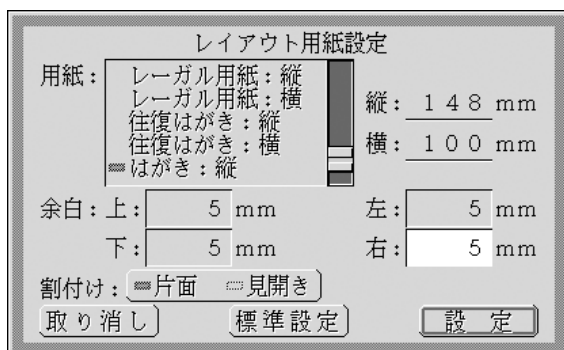
2. [はがき用宛名書き] をクリックします。
インジケータがON (■) になり、カード間隔欄の表示が変わります。



3. 画面右下の [用紙設定] スイッチをクリックします。
レイアウト用紙設定パネルが現れます。

4. <用紙> の一覧で [はがき：縦] を選び、<余白> は上下左右とも「5mm」に設定します。

補足 用紙の設定については「応用編 6.3.2 レイアウト図形実身を設定する」(p.132) を参照してください。



5. [設定] スイッチをクリックします。
カード印刷設定パネルに戻ります。
6. [設定] スイッチをクリックします。
カード印刷設定パネルが消えます。

6.5.3 印刷する

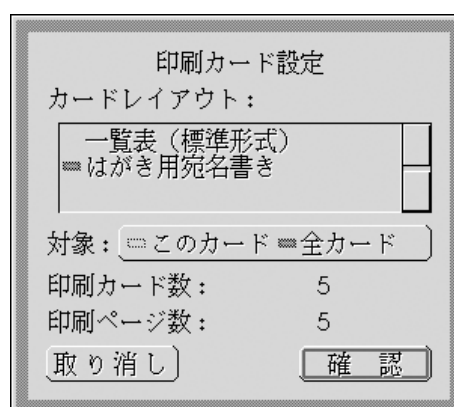
1. プリンタがパソコンに接続され、印刷可能な状態になっていることを確認します。
また、Windows のタスクバーに「超漢字 V サービス」のアイコンが表示されていることを確認します。
(→基本操作編 8.4 Windows に接続されたプリンタで印刷する：p.56)

2. はがき（もしくは試し印刷の用紙）をセットします。

補足 実際のはがきに印刷する前に、試し印刷をすることをお勧めします。

補足 プリンタによっては、はがきを印刷するためにプリンタ側で設定が必要な場合があります。詳しくは、プリンタに付属する取扱説明書をご覧ください。

3. 「住所録」のウィンドウで、[印刷] メニューの [印刷] を選びます。
印刷カード設定パネルが現れます。

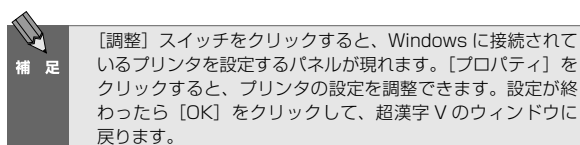


4. <カードレイアウト> 欄で [はがき用宛名書き] が選ばれていることを確認します。
対象とするカードを選びます。
[このカード] を選ぶと、カード画面に表示されているカードを 1 枚だけ印刷します。
[全カード] を選ぶと、住所録に入力されているすべてのカードを印刷します。
ここでは [全カード] を選びます。

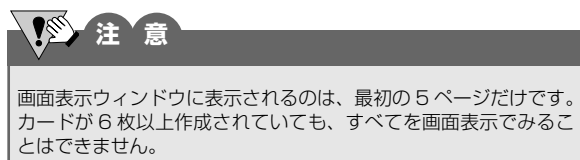
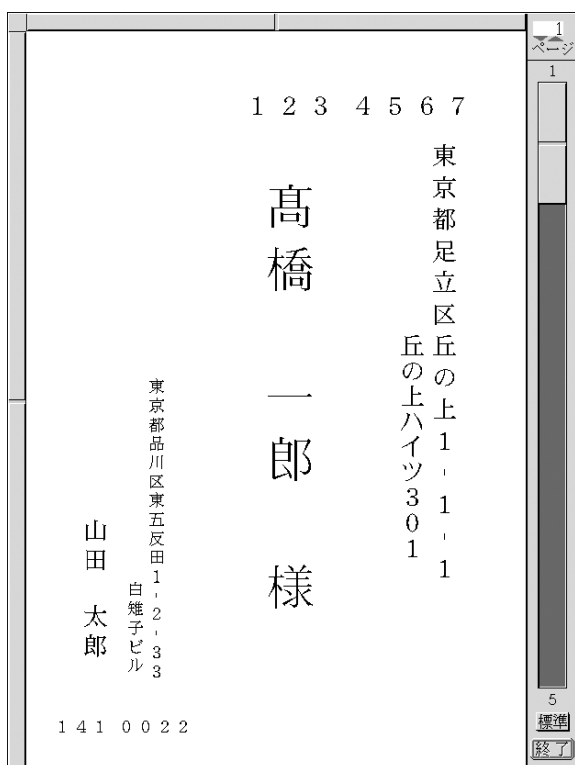
5. [確認] スイッチをクリックします。
印刷設定パネルが現れます。



6. 〈プリンタ〉欄で [Windows プリンタ] が選ばれていることを確認します。



7. [画面表示] スイッチをクリックします。
作成したレイアウト図形実身にカードの内容を反映させた画面が表示されます。



8. 入力した住所や名前の配置が合っているか、途中で途切れていないか、などを確認します。
右下隅の [終了] スイッチをクリックすると、画面表示ウィンドウが閉じます。
ここでレイアウトを修正したい場合は、印刷設定パネルで [終了] を選び、6.5.1 (p.136) で設計画面に設定した「住所録レイアウト」の中の「はがき用宛名書き」の仮身を開いて修正します。
9. [印刷] スイッチをクリックすると、はがき印刷を開始します。

以上で、はがき印刷は終了です。

この章で使用したマイクロカード、基本図形編集にはまだまだ紹介できなかった機能がたくさんあります。詳しくは取扱説明書の〈目次〉－〈マイクロカードをつかう〉および〈図形を描く〉をご覧ください。

7

7

小遣い帳を作ろう



以下のような、小遣い帳を作ってみましょう。ただ買い物などの記録を取るだけでなく、使い道のメモや反省などを記入できるようにします。

[illegible]

来月の予定：
2006/11/03 文化祭
2006/11/23 紅葉狩り

1 記録シートを作る

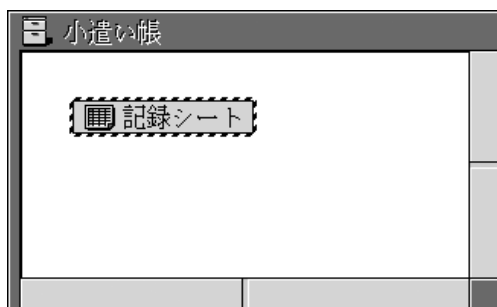
基本表計算は、マス目が並んだウィンドウの中に、数字や文字を入力し、それらの間でさまざまな計算をするためのアプリケーションです。このマス目の集まりをシートとよんでいます。小遣いの使いみちを記録するシートを作りましょう。

7

小遣い帳を作ろう

7.1.1 計算用紙を用意する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「計算用紙」という原紙が入っています。
2. 「計算用紙」をほかのウィンドウへドラッグし、リリースします。
ここでは「小遣い帳」のウィンドウにドラッグしています。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れますので、「記録シート」とします。
ウィンドウに「記録シート」の仮身が現れます。

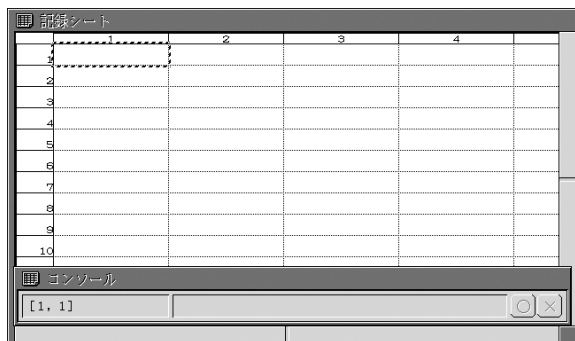


4. ここで忘れずに、実身「記録シート」を「小遣い帳」の中に保存しておきましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

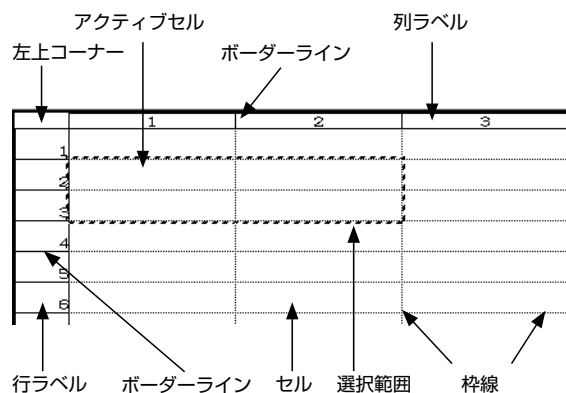


左 [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してもかまいません。

5. 「記録シート」の仮身をダブルクリックします
基本表計算のウィンドウが開きます。



7.1.2 基本表計算の画面

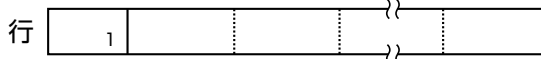


セル

マス目1つをセルとよびます。この中に数字、文字、式、仮身などのデータを入れられます。

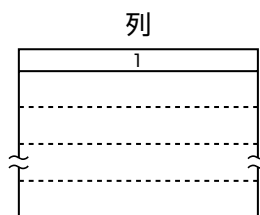
行ラベル

1～8192の行番号が表示されています。横に並んだセルの集まりを行とよびます。



列ラベル

1～256の列番号が表示されています。縦に並んだセルの集まりを列とよびます。



枠線

セルとセルの境界に描かれている直線を枠線とよびます。

ボーダーライン

行／列ラベルの中で、番号と番号の間を分ける境界線をボーダーラインとよびます。ボーダーラインをドラッグして、セルの大きさを変更できます。

7.1.3 セルの座標と範囲

シートの中では、セルの位置を指し示すときに、座標を使います。座標はいわばセルの住所のようなものです。座標には2つの表現方法があります。

絶対座標

セルの位置を行／列ラベルの番号を使って指定する方法です。[行番号, 列番号] の形式で表現します。

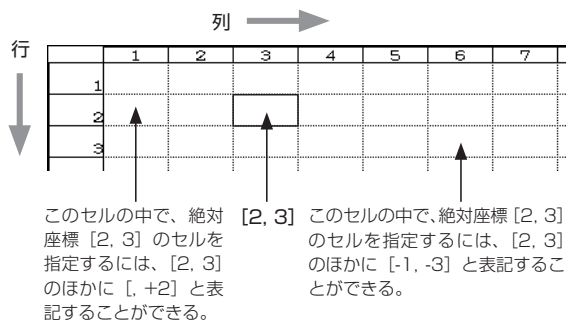
行番号と列番号の間にはカンマ (,) が入ります。たとえば、[1,1] は1行1列、つまりシート左上隅のセルを指定します。[10,8] は10行8列の位置にあるセルを指定します。

相対座標

シート上にある任意のセルに注目し、そのセルから見た位置で指定する方法です。[±行数, ±列数] の形式で表現します。

行数と列数の間にはカンマ (,) が入ります。たとえば、位置が [10,10] のセルに注目すると、[+1, -1] は1行下 (11行目)、1列左 (9列目) のセルを指定します。

「行数」と「列数」が0のとき (つまり注目しているセルと同じ行／列番号のとき) は、+や-、さらに0そのものを省略できます。たとえば、[+1] と指定すれば、右隣のセルを指定します。



2 記録シートを設定する

シートの中で、小遣いの記録に使う範囲に罫線を引いたり、日付や金額の表示方法などを設定しましょう。

まず、記録シートの大きさを決定します。ここでは30件分の項目を用意します。また1行目をタイトル用として使うので、計31行となります。

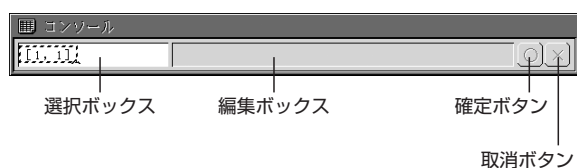
次に記入する内容は、「記入日付」「適用」「金額」「累積金額」の4項目とします。こうすると記録シートは31行×4列の範囲になります。

セルや範囲の選択にはコンソールを使うと便利です。

7.2.1 記録シートの大きさを決める

1. コンソールの選択ボックスをダブルクリックします。

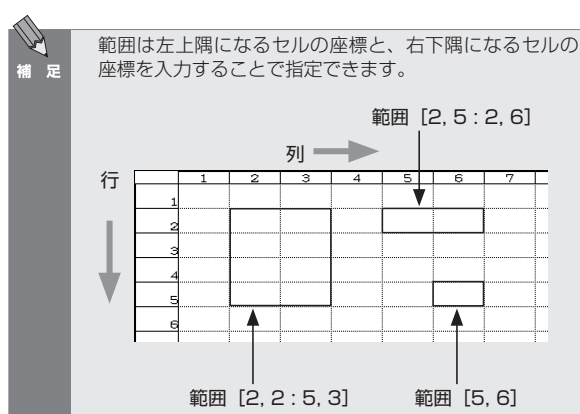
選択ボックスの中の「[1,1]」が選択枠で囲まれます。



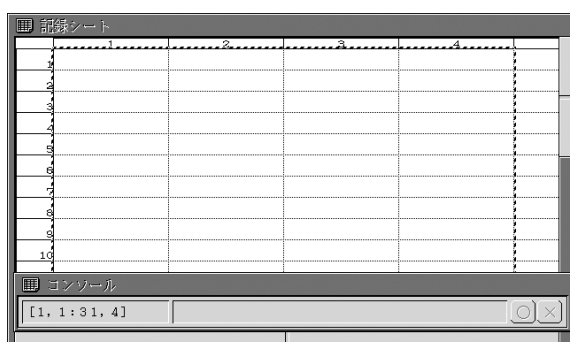
2. [英数] キーを押して、英数入力モードにします。画面右下隅の入力モードの表示が[a]にかわります。

3. 記録シートの範囲を入力します。「[1,1:31,4]」と入力して、[Enter] キーを押します。

補足 1と31の間にはコロン(:)が入ります。



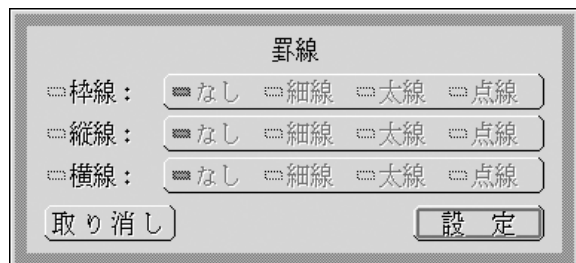
4. シートの中で[1,1:31,4]の範囲が選択されます。



7.2.2 罫線を引く

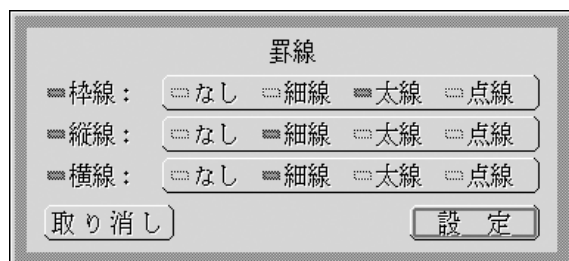
シートの中には、セル間を区切る枠線が描かれています。この線はセルの境界がわかりやすいように画面にだけ表示されるものです。罫線を印刷したい場合は、別に罫線を引く必要があります。

1. [セル] メニューの[罫線]を選びます。
罫線を設定するパネルが現れます。



枠線: 選択範囲のいちばん外側を囲む四辺です。
縦線: 選択範囲内部で、セル間にある縦の境界線です。
横線: 選択範囲内部で、セル間にある横の境界線です。

2. まず、〈枠線〉をクリックして、次に「太線」をクリックします。
同様に〈縦線〉をクリックして、「細線」をクリックします。
最後に〈横線〉をクリックして、「細線」をクリックします。



3. [設定] スイッチをクリックします。
設定した罫線が表示されます。

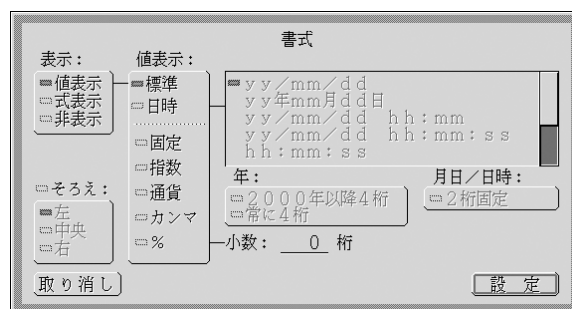
記録シート			
	1	2	3
1	記入日付	適用	金額
2	2006/10/01		
3			
4			
5			
6			

7.2.3 日付の表記を設定する

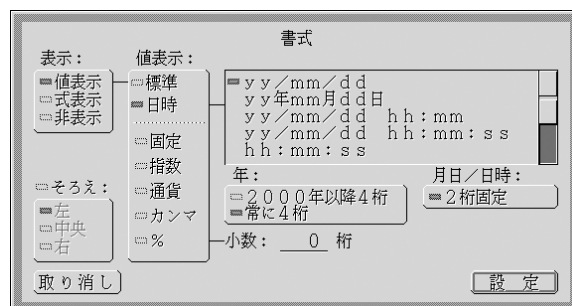
次に日付の表記の設定します。日付は「yyyy / mm / dd」(y:年、m:月、d:日)とします。金額は3桁ごとにカンマ(,)が入るようにします。

1. 日付の範囲をコンソールから指定します。
選択ボックスをダブルクリックして、「[2,1:31,1]」と入力し、[Enter] キーを押します。
シートの中で、[2,1:31,1] の範囲が選択されます。

2. [セル] メニューの[書式]を選びます。
書式を設定するパネルが現れます。



3. 〈値表示〉欄は[日時]、〈年〉欄は[常に4桁]、〈月日/日時〉欄は[2桁固定]、と順番にクリックしてインジケータをON(■)にします。



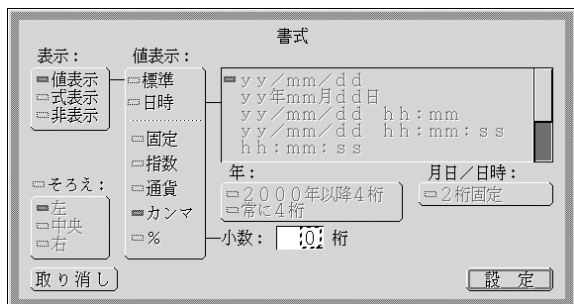
4. [設定] スイッチをクリックします。
パネルが消えます。

7.2.4 金額の表記を設定する

1. 金額の範囲をコンソールから指定します。
選択ボックスをダブルクリックして、「[2,3:31,4]」と入力し、[Enter] キーを押します。
シートの中で、[2,3:31,4] の範囲が選択されます。

2. [セル] メニューの[書式]を選びます。
書式を設定するパネルが現れます。

3. 〈値表示〉欄で「カンマ」をクリックしてインジケータを ON (■) にします。

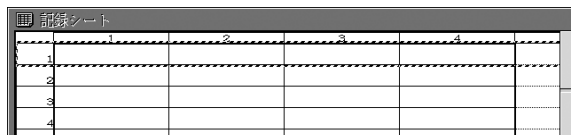


4. 「設定」スイッチをクリックします。
パネルが消えます。まだシートにデータを入力していないので、ウィンドウの中に変化はありませんが、選択した範囲のセルには、日付と金額の書式が設定されています。

7.2.5 タイトルを固定する

1 行目はタイトルに使用します。このタイトルを固定することで、スクロールしても常にタイトルがシートの上に表示されているようにできます。

1. 「記録シート」のウィンドウで、1 行目が表示されるようにスクロールします。
2. 行番号 1 の行ラベルをクリックします。
1 行目全体が選択されます。



3. 「シート／印刷」メニューの「タイトル設定」を選びます。
1 行目が固定されたことを示す目印が、行番号 1 の行ラベルの左端に現れます。



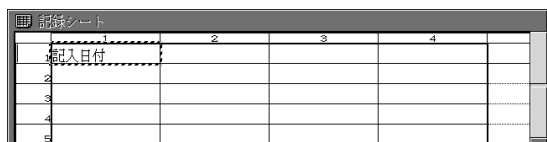
3 記録シートに値を入力する

記録シートに値を入力してみましょう。コンソールの編集ボックスを使います。

7.3.1 列のタイトルを入力する

まず各列のタイトルから入力します。

1. コンソールの選択ボックスをダブルクリックして、「[1,1]」と入力し、[Enter] キーを押します。
位置 [1,1] のセルが選択されます。
2. 「記入日付」と入力します。
コンソールの編集ボックスに「記入日付」と入力されます。
3. [Enter] キーを押します。
[1,1] のセルに、「記入日付」と入力されます。



4. [→] キーを押します。
位置 [1,2] のセルが選択されます。
5. この操作を繰り返して、位置 [1,2] のセルに「適用」、位置 [1,3] のセルに「金額」、位置 [1,4] のセルに「累積金額」と入力します。



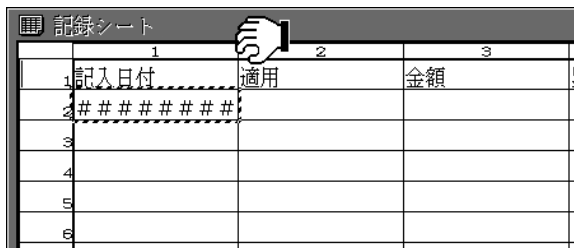
7.3.2 セルに値を入力する

次にセルの表記が正しく設定されていることを確認するため、2行目、3行目に値を入力してみます。

1. [↓] キーと [←] キーを押して位置 [2,1] のセルを選択します。
2. 日付を入力します。
ここでは、例として「2006/10/01」と入力します。
3. 位置 [2,1] のセルに、「#####」と表示されます。
これは、このセルが「2006/10/01」を表示するには幅が足りないことを示しています。
標準ではセルの桁数は8桁なので、10桁の「2006/10/01」を表示するには2桁分足りません。そこでセルを長くして10桁分表示できるようにしてみましょう。
セルの大きさはボーダーラインを使って変えられます。

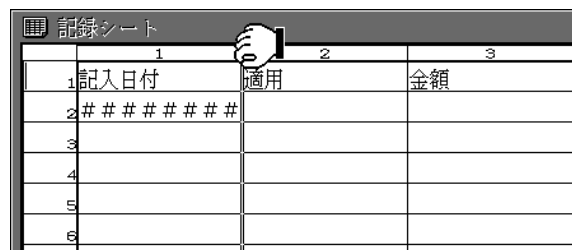


4. 列ラベルで、1列目と2列目の境界となっているボーダーラインにポインタを合わせると、ポインタが変形手に変わります。



5. プレスして、セルが長くなるよう右向きにドラッグします。

ポインタはつまみに変わります。



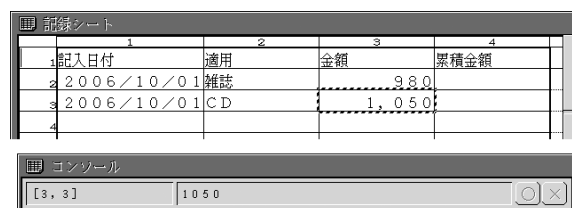
6. 2桁分長くなったところでリリースします。
1列目のセルが長くなるとともに、「#####」の表示が「2006/10/01」に変わります。



7. 続いて、以下の図のように、2行目、3行目にも値を入力してみます。

セルの移動には、矢印キーを使います。

「記入日付」と「金額」の列が7.2の設定どおりに表示されるか確認してください。



4 計算式を入力する

「累積金額」の列には、それまでの金額を累積した合計を入れます。このような計算を必要とする場合は、セルに計算式を入力します。

式は必ず "=" で始まります。言い換えれば、基本表計算では "=" から始まる値は式とみなします。

計算式では四則演算 (+, -, *, /) のほかに関数が利用できます。基本表計算では、数学関数、文字関数、日付時刻関数、財務関数、統計関数などが用意されています。関数は関数名の後ろに必ず "(" と ")" を対で記述します。



基本表計算の関数の詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉―〈表計算をつかう〉―〈関数〉をご覧ください。

7.4.1 計算式を考える

では「累積金額」に入れる式を考えてみましょう。

1. 「累積金額」には、1つ上の「累積金額」と1つ左の「金額」を加算した値を表示する。
2. ただし、1つ左の「金額」に値が入力されていない場合は、「-----」と表示する。

1の式は「=[, - 1] + [- 1,]」となります。「[, - 1]」は1つ上を、「[- 1,]」は1つ左の位置のセルを指定します。

2は1つ左のセルに値が入力されているか、またはいないか(空セル)により、表示する内容が変わります。

このようにある条件で結果が変わるときには、関数 IF を使います。関数 IF は以下のように表記します。〈条件〉が正しいときは〈値 A〉、間違いのときは〈値 B〉になります。

IF (〈条件〉, 〈値 A〉, 〈値 B〉)

〈条件〉は「左のセルは空セルか?」と考えることにします。

セルの値が空セルかどうかを判断するには、関数 ISBLANK を使います。〈値〉が空セルを指定しているかどうかを調べ、空セルなら正しい、空セルでないなら間違いとなります。

ISBLANK (〈値〉)

以上から「累積金額」に入力する式は以下のようになります。

左のセルが空セルならば「-----」と表示し、値が入っていれば「[, - 1] + [- 1,]」の計算結果を表示します。

IF(ISBLANK([, - 1]), "-----", [, - 1] + [- 1,])

なお「累積金額」のいちばん上(位置 [2,4] のセル)は、1つ上がタイトルとなっているので、1つ左のセルの値をそのまま表示するようにしておきます。

IF(ISBLANK([, - 1]), "-----", [, - 1])

7.4.2 計算式を入力する

では実際に式を入力してみましょう。

1. コンソールの選択ボックスをダブルクリックして「[2,4]」と入力し、[Enter] キーを押します。位置 [2,4] のセルが選択されます。
2. 「=IF(ISBLANK([, - 1]), "-----", [, - 1])」と入力して、[Enter] キーを押します。



基本表計算のコンソールでは、トレーを使った文字列の複写操作およびドラッグによる複写操作を利用できません。計算式はキーボードを使って入力してください。



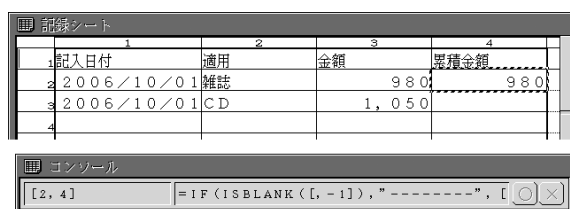
注意

入力に間違いがあると「式に誤りがあります」と書かれたパネルが現れます。[確認] スイッチを押してパネルを消し、入力に間違いがないか再度確認してください。

特に (), [] が正しく対になっているか注意してください。

3. 位置 [2,4] のセルに「980」と表示されます。コンソールの編集ボックスには、式が表示されたままです。

これは、セルの中に式を入力して、その結果がセルに表示されているためです。



4. [↓] キーを押して、位置 [3,4] のセルを選択します。

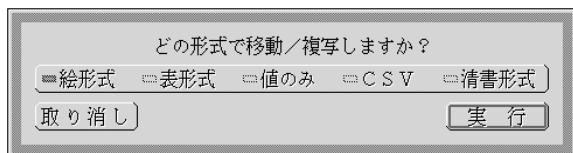
5. 「=IF(ISBLANK([, - 1]), "-----", [, - 1] + [- 1,])」と入力して、[Enter] キーを押します。

位置 [3,4] のセルに「2,030」と表示されます。

7.4.3 計算式を一度に入力する

7.4.2 の操作の繰り返しで、「累積金額」の列にあるセルに式を入力していくこともできますが、一度に入力する方法があります。

1. [編集] メニューの [トレーへ複写] を選びます。
以下のパネルが現れます。



2. [表形式] をクリックしてインジケータを ON (■) にし、[実行] スイッチをクリックします。
これで位置 [3,4] のセルに入力した式がトレーに複写されました。



トレーの詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈トレー〉をご覧ください。

3. コンソールの選択ボックスをダブルクリックして、「[4,4:31,4]」と入力し、[Enter] キーを押します。
[4,4] から [31,4] までの範囲が選択されます。
4. [編集] メニューの [トレーから複写] を選びます。
選択された範囲に式が複写されます。



以上で記録シートの設定ができました。

7.4.4 入力した値を削除する

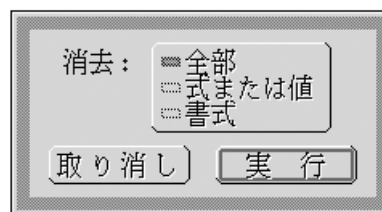
終了する前に、確認のため2行目、3行目に入力したデータを削除しておきましょう。

1. コンソールの選択ボックスをダブルクリックして、「[2,1:3,3]」と入力し、[Enter] キーを押します。
[2,1] から [3,3] の範囲が選択されます。

2. [Delete] キーを押します。
消去する内容を確認するパネルが現れます。



[編集] メニューの [消去] を選んでもかまいません。



3. [式または値] をクリックしてインジケータを ON (■) にし、[実行] スイッチをクリックします。
[2,1] から [3,3] までの範囲に入力された値が消えます。
同時に「累積金額」の表示が「-----」となります。



4. これで記録シートの作業は終了しました。
ピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。
現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。



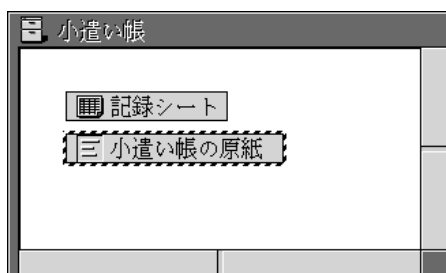
左 [Ctrl] キーを押しながら [E] キーを押してもかまいません。

5 小遣い帳を作る

基本表計算は表を作ったり計算をしたりするのに便利ですが、文章の入力、編集には基本文章編集が適しています。そこで、基本文章編集で元となる小遣い帳を作り、そこに前節で作成した記録シートを埋め込んでリンクを貼ります。このリンクには、実身／仮身の機能を使います。

7.5.1 原稿用紙を用意する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「原稿用紙」という原紙が入っています。
2. 「原稿用紙」をほかのウィンドウへドラッグし、リリースします。
ここでは「小遣い帳」のウィンドウにドラッグします。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れますので、「小遣い帳の原紙」と入力します。
ウィンドウに「小遣い帳の原紙」の仮身が現れます。



4. ここで忘れずに保存しておきましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

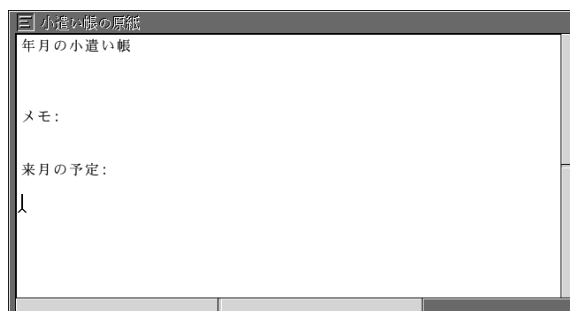
7.5.2 小遣い帳の雛型を作成する

1. 「小遣い帳の原紙」の仮身をダブルクリックします。
「小遣い帳の原紙」のウィンドウが開きます。
2. 「小遣い帳の原紙」のウィンドウに以下のように文章を入力します。

年月の小遣い帳
メモ:
来月の予定:



ここでは小遣い帳の雛型を作るだけです。具体的な年月はあとで入力します。



3. [表示] メニューの[詳細モード]を選びます。
表示モードが清書モードから詳細モードに変わります。



4. 1行目の「年月の小遣い帳」を選択します。
文字列「年月の小遣い帳」が選択枠で囲まれます。
5. 文字列「年月の小遣い帳」を整形します。
[書体]メニューの[SS丸ゴシック体]を選びます。
[文字サイズ]メニューの[19(2倍)]を選びます。
[書式／印刷]メニューの[行そろえ]を選び、さらに[中央そろえ]を選びます。



6. これで、小遣い帳の元となる文章ができました。
[保存]メニューの[元の実身へ]を選び、編集した内容を保存します。
現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

6 文章の中に記録シートを貼り込む

次に、文章の中に記録シートを貼り込んでみましょう。

7.6.1 小遣い帳の原紙に記録シートを複写する

7

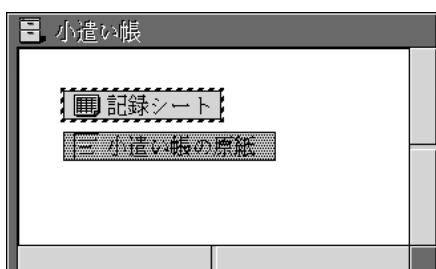
小遣い帳を作ろう

1. [ウィンドウ] メニューで [小遣い帳] を選びます。
「小遣い帳」のウィンドウがいちばん前に現れます。



「小遣い帳」ウィンドウの一部が画面上に見えているときは、それをクリックしてもかまいません。

2. 「小遣い帳」のウィンドウにある「記録シート」の仮身をクリックします。
「記録シート」の仮身が選択枠で囲まれます。



3. [編集] メニューの [トレーへ複写] を選びます。



トレーの詳しい内容については、取扱説明書の〈目次〉→〈基本項目〉→〈トレー〉をご覧ください。

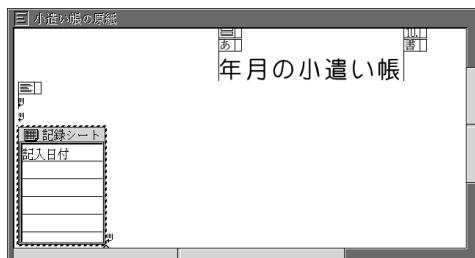
4. [ウィンドウ] メニューで [小遣い帳の原紙] を選びます。
「小遣い帳の原紙」のウィンドウがいちばん前に現れます。
5. 「小遣い帳の原紙」のウィンドウで、3行目にある改段落 ㄱ の前に、ポインタの人指し指の先端を合わせてクリックします。
クリックした位置に、カーソルが移動します。

6. [編集] メニューの [トレーから移動] を選びます。
カーソルの位置に、「記録シート」の仮身が挿入されます。



7.6.2 開いた仮身を表示する

1. 「記録シート」の仮身が選択されている状態で、[仮身操作] メニューの [開く] を選びます。
「記録シート」の仮身が下方方向に伸びます。



ポイント

開いた仮身
仮身を開くという操作をすると、その仮身から開いたウィンドウの内容を見ることができます。この状態の仮身を開いた仮身とよびます。

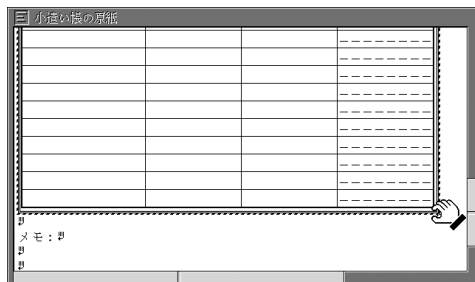
2. まだ記録シートの一部しか見えていないので、さらに仮身を大きくして、記録シートの全体が見えるようにしてみましょう。
仮身の右下端にポインタを合わせ、ポインタの形が変形手 ㇿ になったことを確認してから、プレスします。
ポインタの形がつまみ ㇿ に変わります。

3. 右下方方向にドラッグし、適当なところでリリースします。



ウィンドウのいちばん下までドラッグしてきたら、ポインタをスクロールバーの上に重ねます。ウィンドウが自動的に、一定の幅ずつ上方向にスクロールします。

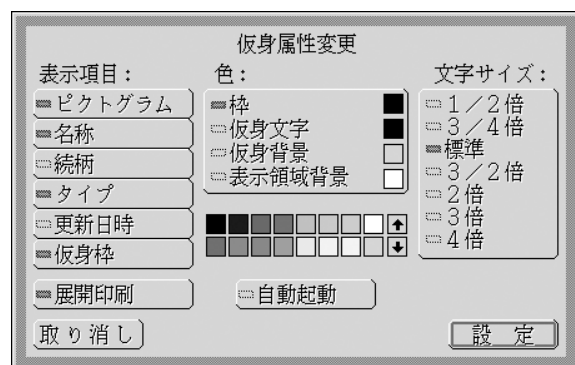
4. 「記録シート」の開いた仮身が変形します。
記録シートの全体が見えるようになるまで繰り返します。



7.6.3 仮身の表示を変える

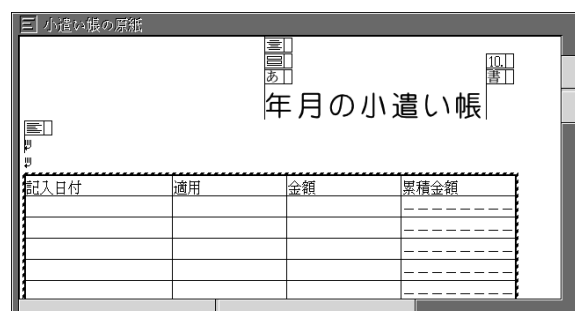
「記録シート」の仮身に表示されている余分な情報を消したり、文章の中での位置をそろえたりして、形を整えましょう。

1. 「記録シート」の仮身を選択した状態で、[仮身操作] メニューの [属性変更] を選びます。
仮身属性変更パネルが現れます。



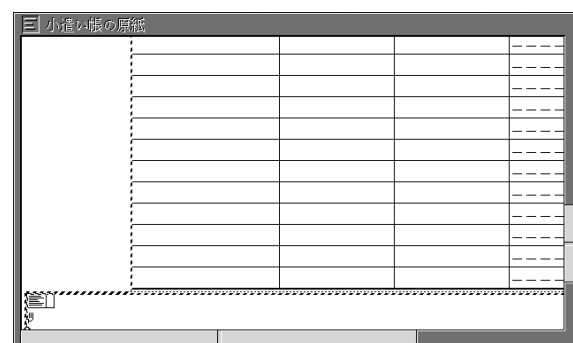
2. <表示項目> の [ピクトグラム] [名称] [タイプ] [仮身枠] をそれぞれクリックして、インジケータを OFF (■) にします。最後に [設定] スイッチをクリックします。

3. 仮身からタイトルバーと仮身枠の表示が消えます。



補足 仮身属性の詳細い内容については、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈文書管理〉―〈外観〉―〈外観を変える〉をご覧ください。

3. 「記録シート」の仮身を選択して、[書式／印刷] メニューの [中央そろえ] を選びます。
「記録シート」が画面の中央に移動します。



4. 整形が終わりました。
[表示] メニューの [清書モード] を選びます。

5. 表示モードが詳細モードから清書モードに変わります。



6. これで、小遣い帳の作成が終わりました。
ピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。
現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

7 小遣い帳を利用する

小遣い帳の元となる、オリジナルの原紙ができました。原紙箱に登録して利用できるようにしてみましょう。



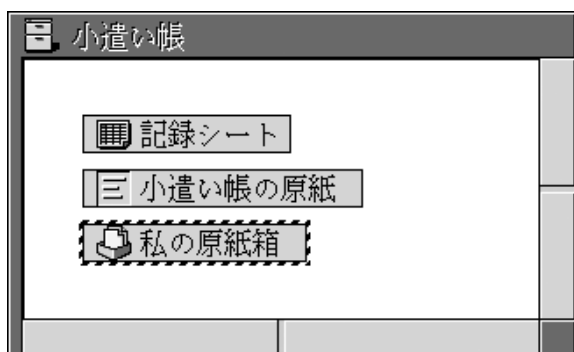
自分の使いやすいようにカスタマイズした文書の雛形を原紙箱に登録しておくことができます。この文書の雛形をユーザ原紙とよびます。ユーザ原紙の詳細は、取扱説明書の〈索引〉―〈ゆ〉―〈ユーザ原紙〉をご覧ください。

7

小遣い帳を作ろう

7.7.1 原紙箱を作成する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「原紙箱」という原紙が入っています。
2. 「原紙箱」をほかのウィンドウヘドラッグし、リリースします。
ここでは「小遣い帳」のウィンドウにドラッグします。
3. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れるので、「私の原紙箱」と入力します。
ウィンドウに「私の原紙箱」の仮身が現れます。

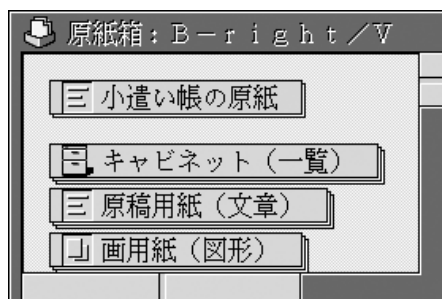


4. ここで忘れずに保存しておきましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

7.7.2 原紙箱に登録する

「私の原紙箱」に「小遣い帳の原紙」を追加してみましょう。

1. 「私の原紙箱」の仮身をダブルクリックします。
原紙箱のウィンドウが起動します。
2. 「私の小遣い帳」のウィンドウにある「小遣い帳の原紙」の仮身を、「私の原紙箱」のウィンドウヘドラッグします。
私の原紙箱の中に「小遣い帳の原紙」が追加されます。



7.7.3 小遣い帳に記入する

では小遣い帳に記入してみましょう。

1. 「私の原紙箱」のウィンドウにある仮身「小遣い帳の原紙」を、「小遣い帳」のウィンドウヘドラッグし、リリースします。
2. 新しい実身の名称を入力するパネルが現れるので、「2006 / 10」と入力します。
ウィンドウに「2006 / 10」という仮身が現れます。
3. ここで忘れずに保存しておきましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。
4. 仮身「2006 / 10」をダブルクリックします
「2006 / 10」のウィンドウが開きます。
内容は7.6 までで作成した「小遣い帳の原紙」と同じです。



5. 1 行目に記録する年月を入力します。また必要に応じて、「メモ」や「来月の予定」に記入します。

6. ウィンドウの真ん中に表示されている開いた仮身の「記録シート」をダブルクリックします。
基本表計算のウィンドウが開きます。



7. 小遣いの記録を入力します。
入力が完了したら、「記録シート」のウィンドウを閉じます。

以上で小遣い帳の作成は終了です。

この章で使用した基本表計算、基本文章編集にはまだまだ紹介できなかった機能がたくさんあります。詳しくは、取扱説明書の〈目次〉－〈表計算をつかう〉および〈文章を書く〉をご覧ください。

マイクロスクリプトにチャレンジ

8

マイクロスクリプトにチャレンジしてみましょう。

作品の製作には、基本図形編集、基本文章編集を使います。作品の実行にはマイクロスクリプトを使います。



本章では、ウィンドウを閉じる操作をピクトグラムをダブルクリックする方法で説明しています。メニューやキーボードを使った操作でもウィンドウを閉じることができます。詳しくは「基本操作編 第4章 メニュー操作」(p.25)をご覧ください。



本章で使用している画面のサンプルと完成品を、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際に役立ててください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」－「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

1 マイクロスクリプトとは？

マイクロスクリプトは、超漢字上で動作するプログラミング言語です。

プログラミング言語としてさまざまな機能を備えています。特に画面に表示されるビジュアルな処理を得意とします。たとえば、画面にウィンドウを出し、そのウィンドウの内容をスライドのように次々と変えたり、ウィンドウの中で図形を動かしたり、マウスやペンで図形をクリックすることで決められた作業をするといった処理を簡単に記述できます。

マイクロスクリプトは、以下のような用途に適しています。

プレゼンテーション

視覚に訴えることが有効なプレゼンテーションに最適です。

ウィンドウの画面を紙芝居のように次々と変えたり、その中に絵を出したり消したり動かしたりするためのプログラミングが自由自在にできます。

特定用途アプリケーション

画面上に関連した操作だけではなく、文字や数値を操作したり演算したりする機能も豊富に備えています。

データの入力、集計、加工、表示などに関する各種の特定用途向けのアプリケーションを短期間に作成することができます。

家電製品の制御

RS-232C を経由して外部機器の制御が簡単にできます。制御の対象となるのは、赤外線リモコンで操作できる家電製品や AV 機器です。学習リモコンをつなげて、このような機器を自由自在に制御できます。

その他

マクロ定義、数値演算、条件判断、繰り返し、手続き、変数(局所・大域・共有・保存の4種類)などの機能を備えています。さらに、イベント駆動型の手続きやマルチタスクの記述も可能です。マイクロスクリプトは、厳選された単純な機構の上に豊富な機能を搭

載し、言語としての奥が深く、使い方次第で多くの用途に応用できます。

では、マイクロスクリプトはどうやって使うのでしょうか。マイクロスクリプトを使って1つの作品(プログラム)を作る過程を、わかりやすく芝居にたとえてみましょう。

8.1.1 台本

芝居は、全体の進行が書かれている台本に沿って演じられます。マイクロスクリプトでは、台本に相当するものをスクリプトとよびます。台本と同じようにスクリプトでも、演じる内容を順番に書いていきます。たとえば、こんな台本があったとします。

例1 台本

猫を登場させる。

その猫を、右に100、下へ50移動する。

同じ内容をスクリプトでは、マイクロスクリプトのプログラミング言語を使って次のように書きます。

スクリプトは、基本文章編集を使って書きます。

例2 スクリプト

APPEAR 猫

MOVE 猫:100,50

8.1.2 役者・舞台

芝居では、台本に沿って演じる役者が登場します。例1の台本では猫が役者でした。マイクロスクリプトでも、ウィンドウの中に現れる図形（芝居では小道具に相当する図形も含めて）のことを役者とよびます。例2のスク립トでは、猫と名づけられた図形が役者になります。

例1の台本では記述していませんが、猫が現れる舞台（背景）をセットする必要があります。マイクロスクリプトでも、ウィンドウの中で役者の背景になる絵を舞台とよんでいます。

役者や舞台となる図形や絵は、基本図形編集を使って描きます。

8.1.3 裏方

芝居では観客から見えないところで、裏方とよばれる人たちが、舞台や小道具の用意や役者の衣装の手配など、忙しく働いています。マイクロスクリプトでも、スク립トの指示に従って、舞台を交換したり、役者を動かしたりしているものがあります。これをマイク

ロスクリプトのエンジンとよびます。

マイクロスクリプトでは、単に台本や役者を用意しただけでは芝居は始まりません。マイクロスクリプトのエンジンを実行することによって、はじめて芝居が始まります。

8.1.4 まとめ

マイクロスクリプトの動作のしくみをまとめます。

1. スクリプト(台本)を基本文章編集を使って書きます。
2. 役者や舞台を基本図形編集を使って描きます。
3. マイクロスクリプトのエンジンを実行して、スク립トに従って役者や舞台を動かします。

1と2の作業を、マイクロスクリプトのプログラミングとよび、でき上がった作品をマイクロスクリプトのプログラムとよびます。マイクロスクリプトのプログラムは、3を実行させることで動作します。

2 プログラムの下準備

マイクロスクリプトのプログラムを作ってみましょう。

作成するのは、ウィンドウに猫の絵を表示させ、次にその絵を移動させるプログラムです。プログラム作成の過程を、順を追って詳しく解説します。

それでは、実際にマイクロスクリプトのプログラミングを始めましょう。

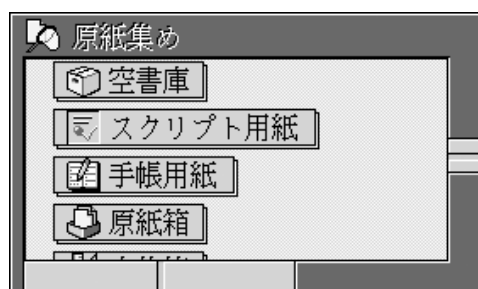
まずは作成の下準備から取りかかります。



ここでは猫の絵を使いますが、マイクロスクリプトでは役者となる図形や絵の交換は簡単にできるので、いろいろな図形や絵で試してみてください。

8.2.1 スクリプト用紙を用意する

1. [小物] メニューの[原紙集め]を選びます。
「原紙集め」のウィンドウが現れます。その中に「スクリプト用紙」という原紙が入っています。



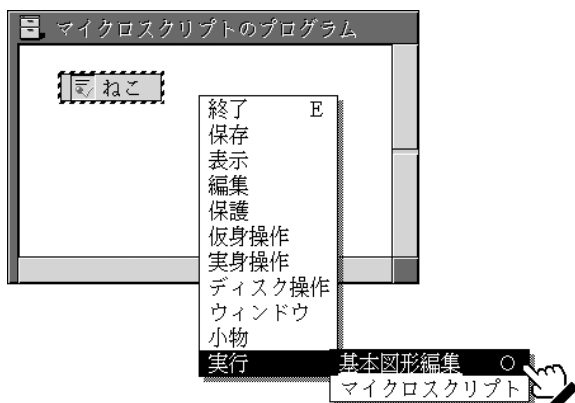
2. 「スクリプト用紙」をほかのウィンドウヘドラッグします。作成する実身の名前は「ねこ」とします。
ウィンドウに「ねこ」の仮身が現れます。



3. ここで忘れずに「ねこ」の実身を保存しましょう。
[保存] メニューの[元の実身へ]を選び、現れたパネルで[保存]スイッチをクリックします。

4. 「ねこ」の仮身をクリックして、[実行] メニューを表示します。

[実行] メニューの子メニューには、[基本図形編集] と [マイクロスクリプト] が並んでいます。[基本図形編集] を選びます。



5. 「ねこ」のウィンドウが開きます。

画面は基本図形編集と同じ状態になっています。

補 足

実行機能付せん

超漢字では、実身に対するアプリケーションの対応付けを実行機能付せんという機能を使って行っています。

実行機能付せんにはアプリケーションの起動に必要な情報が入っています。実行機能付せんが実身に関連付けられることによって、ファイルの内容に応じた適切なアプリケーションを起動させることができるようになっています。

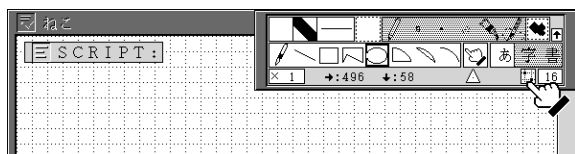
1つの実身に対して複数の実行機能付せんを貼り込むこともできます。[実行] メニューで使いたいアプリケーションに対応するメニュー項目を選ぶとそれが起動します。画面例では、作成したばかりの実身「ねこ」に基本図形編集とマイクロスクリプトの2つの「実行機能付せん」が貼られていることを意味しています。

ここでは [実行] メニューの [基本図形編集] を選んでください。基本図形編集が起動して、仮身「ねこ」がウィンドウに開きます。このウィンドウでは、基本図形編集の機能を使って、役者や舞台となる図形や絵を描くことができます。

6. 「ねこ」ウィンドウを今後の作業がしやすいように調整しておきます。

道具パネルの格子点表示マークをプレスし、[格子点拘束] を選びます。

「ねこ」ウィンドウの中に格子点が表示されます。格子点は、図形や絵の位置を揃えるのに便利です。

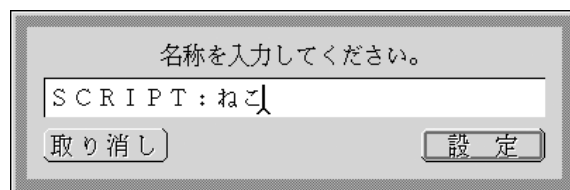


8.2.2 スクリプト（台本）を用意する

次にスクリプト（台本）を用意します。スクリプトは「ねこ」ウィンドウには直接書きません。ウィンドウの左上にある「SCRIPT:」の仮身をウィンドウに開き、スクリプトを記述した文章実身を作ります。この文章実身をスクリプト実身とよびます。

実身名は標準で「SCRIPT:」となっていますが、これから作成する台本に合わせた名前に変更しておきましょう。

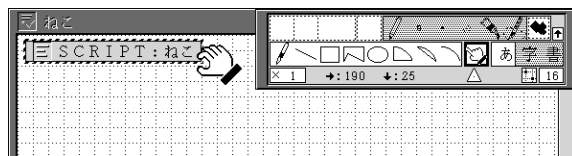
1. 「SCRIPT:」の仮身をクリックして選択枠で囲みます。
2. [実身操作] メニューの [実身名変更] を選びます。名称を入力するパネルが現れるので、スクリプトの名称を入力します。
ここでは「SCRIPT: ねこ」と入力します。



注 意

スクリプトの実身名は、必ず「SCRIPT:」で始まる必要があります。

3. [設定] スイッチをクリックします。
4. 「SCRIPT: ねこ」の仮身の右下隅をつまみ、実身名が表示される長さに広げておきます。



8.2.3 スクリプト（台本）を起動する

1. 「SCRIPT: ねこ」の仮身をダブルクリックして、ウィンドウを開きます。
このウィンドウに、スクリプトを書きます。
2. 「SCRIPT: ねこ」のウィンドウを、今後の作業がしやすいように調整しておきます。
[表示] メニューの [座標パネル表示] を選びます。
座標パネルが現れます。



これで「SCRIPT:ねこ」の下準備が終わりました。

3. ピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。
現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

4. 「ねこ」のウィンドウを、いったん閉じます。
ピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。
現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

これでプログラムの下準備は終わりです。

3 ウィンドウに猫の絵を表示する

まず、ウィンドウの中に猫の絵を表示してみます。



注意

以降の解説には、マイクロスクリプトのプログラミングで必ず守らなければならない約束事がいくつか出てきます。この約束事を守らないと、マイクロスクリプトのプログラムは正しく動きませんので、しっかりと覚えましょう。

8.3.1 役者を用意する

役者作りの基本は、登場させたい図形や絵を用意し、それに名前をつけることです。具体的には、役者の名前を文字枠に書き、図形や絵と一緒にグループ化します。

役者の名前は重要です。台本（スクリプト）の中では役者は名前で記述されるため、名前のついていない役者は芝居に登場できません。役者の名前の先頭には必ず@をつけるのも、マイクロスクリプトの約束事の1つです。

では、役者を作りましょう。最初の目標は「ウィンドウに猫の絵を表示する」でした。つまりウィンドウに表示される猫の絵が役者となります。



補足

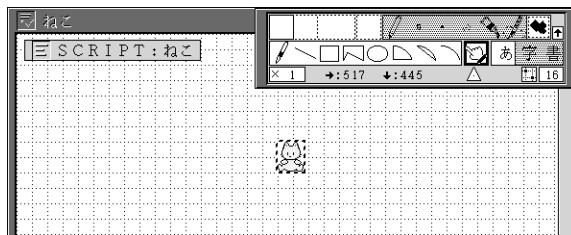
ここでは猫の絵を役者としていますが、基本図形編集を使って描いたほかの図形であってもかまいません。

1. 「ねこ」の仮身をクリックして選択し、[実行]メニューの[基本図形編集]を選びます。
「ねこ」のウィンドウが現れます。
2. 猫の絵を、「ねこ」ウィンドウの中ほどに複写します。



補足

猫の絵のサンプルを、製品中の「超漢字サンプル集」—『操作ガイド』サンプル文書に収録しています。スクリプトを完成させたあとに役者を変更させることもできます。あとから役者を用意したい場合は、円や長方形などの簡単な図形をこの場で作っておき、それを使ってスクリプトを作成するとよいでしょう。



3. 役者に名前をつけます。ここでは役者を「猫」と名づけます。
道具パネルのステンシル[あ]をクリックしたあと、「ねこ」ウィンドウで猫の絵の下あたりをクリックします。
4. 文字枠が現れます。
役者の名前に@をつけて「@猫」と入力します。



注意

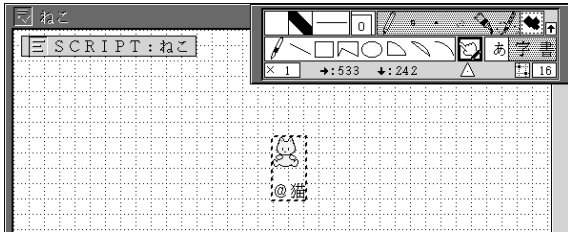
役者の名前を文字枠に入力するときには、名前の先頭に必ず@をつける必要があります。



ポイント

名前には漢字、ひらがな、カタカナ、英数字などが使えます。名前を見ただけで、役者が何であるかを思い浮かべられるような名前をつけるのがコツです。また、マイクロスクリプトのプログラミング言語と一目で区別できるように、日本語の名前をつけることをお勧めします。

5. 道具パネルの中で選択指  をクリックします。
6. 猫の絵と文字枠「@ 猫」を同時に選択します。
7. 猫の絵と文字枠「@ 猫」をグループ化します。
[編集] メニューの [グループ化] を選びます。
猫の絵と文字枠「@ 猫」が1つの選択枠で囲まれます。



8. ここで忘れずに役者「猫」を保存しておきましょう。
[保存] メニューの [元の実身へ] を選び、現れたパネルで [保存] スイッチをクリックします。

これで、役者「猫」の準備ができました。

8.3.2 台本を作る

今度は、役者を動かすスクリプト(台本)を作ります。
ここでは台本とスクリプトの関係を以下のように決めておきます。

スクリプト 1: 猫を登場させる。
スクリプト 2: その猫を、右に 100、下へ 50 移動する。

まず、スクリプト 1 から作成します。ウィンドウに猫の絵を表示させるためのスクリプトです。

実際にスクリプト実体「SCRIPT:ねこ」にスクリプト 1 を書き込んでみましょう。

1. 「SCRIPT:ねこ」の仮身をダブルクリックして、ウィンドウを開きます。
2. 「SCRIPT:ねこ」ウィンドウの 1 行目から、スクリプトを順に入力していきます。
1 行目に「VERSION 3」と入力して、[Enter] キーを押します。
続いて、2 行目には「PROLOGUE」、3 行目に「APPEAR 猫」、4 行目に「END」と入力します。3 行目は「APPEAR」の前に空白を入力しています。



補 足

スクリプトを書くときの約束事

スクリプトの中で、英字で書かれている部分は、マイクロスクリプトへ動作を指示する部分です。命令または文とよびます。たとえば、VERSION 文とか PROLOGUE 文などといいます。

命令は英大文字で入力します。[Shift] キーを押しながら [英数] キーを押すと、英字を大文字で入力できます。

いっぽう、日本語になっているのは、役者の名前です。役者の名前はスクリプトを書く人が自由に決められます。例題のスクリプト 1 では、3 行目にある「猫」がそうです。もちろん必ずしも日本語にする必要はありません。「猫」の代わりに「cat」としてもかまいません。しかし、役者の名前は日本語で表記することをお勧めします。スクリプトエンジンへの命令とそうでない部分が一目で区別でき、読みやすさが格段に増すためです。

スクリプトの 1 行は、改段落  を入力することで終了します。

1 行目の「VERSION」と「3」の間、または 3 行目の「APPEAR」と「猫」の間のように、単語の間にある空白には、1 つ以上の空白文字、またはタブ文字が入っている必要があります。

3 行目は、ほかの行に比べて 1 文字分、字下げしてあります。これはスクリプトを見やすくするために、字下げをしてもしなくてもスクリプトの動作には影響ありません。

では、スクリプトを 1 行ずつ見ていきましょう。

1 行目「VERSION 3」

VERSION 文はスクリプトの先頭に書きます。約束事として、スクリプトの先頭に必ず書くようにしてください。VERSION 文を忘れると、マイクロスクリプトで利用できる機能が制限されてしまいます。

VERSION 文のあとには、空白に続いてマイクロスクリプトのバージョンを指定します。「3」を指定してください(2006 年 10 月現在)。

2 ~ 4 行目「PROLOGUE 文 ~ END 文」

2 行目の PROLOGUE 文と 4 行目の END 文は対になっています。PROLOGUE 文を書いたら、対になる END 文を必ず書きます。

PROLOGUE 文は、マイクロスクリプトでウィンドウを開いたときに、自動的に一度だけ実行される文を指定する働きがあります。逆に、スクリプトの中に PROLOGUE 文 ~ END 文がないと、ウィンドウを開いたときに何も実行されません。

スクリプト 1 では、3 行目の「APPEAR 猫」がウィンドウを開いたときに実行されます。

3 行目「APPEAR 猫」

APPEAR 文は、役者や舞台をウィンドウに表示させる働きがあります。表示する役者は、APPEAR 文のあとに、空白に続けて名前を書くことで指定します。「APPEAR 猫」は、先に作成した役者「猫」をウィンドウに表示させる命令になります。

3. スクリプトの入力が終わったら、ピクトグラムをダブルクリックしてウィンドウを閉じます。
現れたパネルで「保存」スイッチをクリックします。

これで、スクリプトの準備はできました。

8.3.3 プログラムを実行する

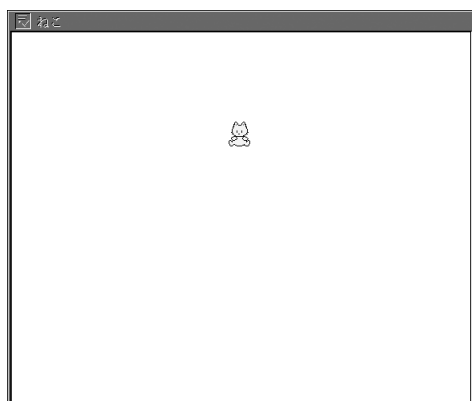
「ねこ」ウィンドウを見てみましょう。

ウィンドウの中ほどには役者「猫」があります。ウィンドウの左下にはスクリプトを記述したスクリプト実身を指す仮身「SCRIPT:ねこ」があります。これで、ウィンドウに猫の絵を表示するマイクロスクリプトのプログラム「ねこ」ができあがりました。

では、さっそくプログラム「ねこ」を実行してみましょう。

プログラム「ねこ」を実行するには、「ねこ」の仮身をマイクロスクリプトでウィンドウに開く必要があります。

1. 「ねこ」ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックし、ウィンドウを閉じます。
2. 「ねこ」の仮身をクリックして選択します。
3. 「実行」メニューの「マイクロスクリプト」を選びます。
「ねこ」の仮身がマイクロスクリプトでウィンドウに開きます。「ねこ」ウィンドウの中ほどには、役者「猫」が表示されています。



ここでマイクロスクリプトのプログラムがどのように実行されているか見てみましょう。

- ① マイクロスクリプトのエンジンが、スクリプトを解釈します。
- ② 1 行目に「VERSION 3」の命令があるので、マイクロスクリプトのすべての機能が使用できます。
- ③ 2 行目に PROLOGUE 文があります。これは「PROLOGUE 文の次の行から END 文の直前の行までの命令を自動的に実行しろ」という命令です。そのため、マイクロスクリプトのエンジンは 3 行目の命令を実行します。
- ④ 3 行目の命令は「APPEAR 猫」です。これは「名前が『猫』の役者をウィンドウの中に表示しろ」という命令です。マイクロスクリプトのエンジンは、文字枠「@ 猫」を探し、この文字枠とグループ化されている図形を表示します。
- ⑤ 4 行目は END 文です。命令の自動実行はここで終わりです。
- ⑥ スクリプトの解釈は終了しました。マイクロスクリプトのエンジンは、新しい命令があるまで待機します。

4. 「ねこ」ウィンドウのピクトグラムをダブルクリックして、ウィンドウを閉じます。
マイクロスクリプトのプログラム「ねこ」が終了します。

これで、スクリプト 1 の「猫を登場させる」スクリプトは完成しました。

4 ウィンドウの中で猫の絵を移動する

8.3 では、ウィンドウの中に猫の絵を表示させました。

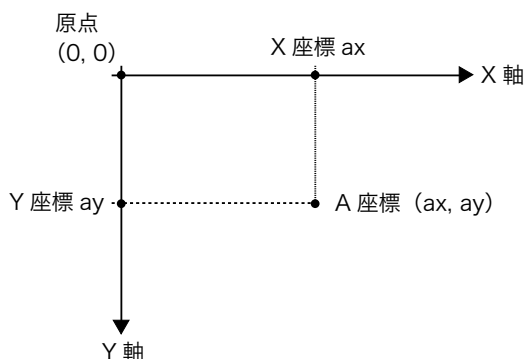
次は、これを一歩進めて、表示された猫の絵をウィンドウの中で移動させてみましょう。

役者は前節で作成したものをそのまま使います。プログラムはスクリプト 1 に、猫の絵を移動する命令を追加します。プログラムの追加／修正ができるように、「ねこ」の仮身をウィンドウに開いておきましょう。

8

8.4.1 座標位置を指定する

猫の絵を移動させるには、「どこかに移動しろ」という具合に、移動先の位置を指定する必要があります。この「どこか」を表すのに座標を使います。マイクロスクリプトでは、以下の座標系を使用します。



座標は原点を (0,0) とする、(X 座標,Y 座標) と表記します。たとえば、A の位置の座標は (ax,ay) となります。

この座標系を、ウィンドウ内側（ウィンドウ枠を含まない）の左上隅が原点となるようにして当てはめたものを、**絶対座標**とよびます。左上隅の原点から水平に右方向を X 軸の正方向、垂直に下方向を Y 軸の正方向とします。単位はドットです。

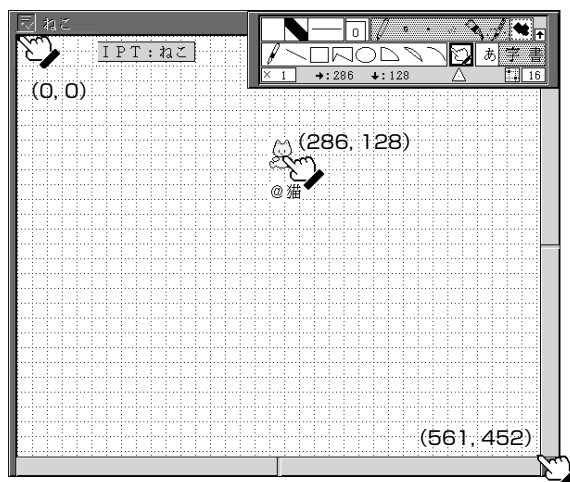
基本図形編集の道具パネルに表示されている座標も絶対座標です。

この絶対座標を実際に確認してみましょう。「ねこ」ウィンドウの中でポインタを動かしながら、道具パネルの最下段中央に注目してください。

→と↓の右にポインタ（正確には人さし指の先）の座標が表示されています。→の右にある数字が X 座標を、↓の右にある数字が Y 座標を表します。この機能を使って、ウィンドウ内部の座標を調べてみましょう。

画面例では、座標は以下の値になっています。

「ねこ」ウィンドウ内側の左上隅は (0,0) となります（原点）。
「ねこ」ウィンドウ中ほどの役者「猫」は、だいたい (286,128) 前後の位置にあります。
「ねこ」ウィンドウ内側の右下隅は、だいたい (561,452) となります。



また、位置を指定するのに、スクリプトの役者を基準にして「どこかに移動しろ」と指定したほうが便利な場合があります。

役者を原点とする座標を**相対座標**とよびます。たとえば相対座標 (100,50) は、原点となる役者から見て「X 軸方向（右）に 100 ドット、Y 軸方向（下）に 50 ドット」の位置を意味します。

座標は役者や舞台を操作するために、頻繁に使用します。しっかりと覚えてください。

8.4.2 猫の絵を移動する

プログラム「ねこ」のスクリプトを修正して、猫の絵が移動するようにします。

新しい命令を追加するたびに、プログラムを実行して、その効果を確認していきましょう。

まず、「ねこ」ウィンドウの中にある「SCRIPT:ねこ」の仮身をダブルクリックして、ウィンドウに開きます。

「SCRIPT:ねこ」ウィンドウの中にはスクリプト 1 が記述されています。このスクリプトに「役者『猫』をウィンドウの中で移動させる」という命令を出すスクリプト 2 を追加してみましょう。

スクリプト 2 は、「APPEAR 猫」と「END」の間に挿入します。

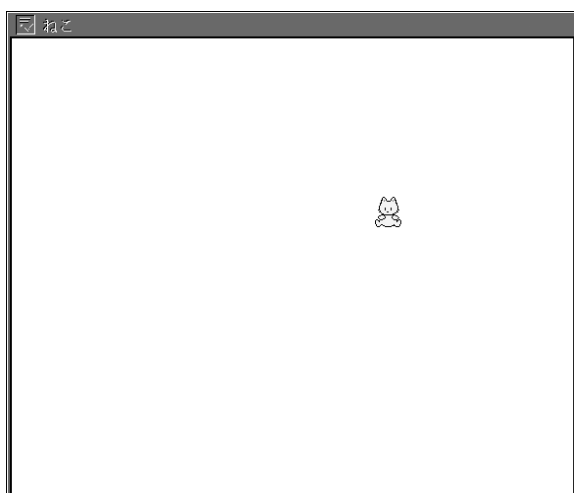
役者（図形）を移動するには MOVE 文を使います。MOVE 文は役者を指定された位置に移動します。

位置の指定には座標を使います。

1. 「APPEAR 猫」のうしろにカーソルを移動して、[Enter] キーを押します。



2. 役者「猫」を相対座標 (100,50) に移動する命令を入力します。
4行目に、「MOVE 猫:100,50」と入力します。
「MOVE」の前と、「MOVE」と「猫」の間には空白が入ります。「猫」と「100」の間にはコロン(:)が、また「100」と「50」の間にはカンマ(,)が入ります。
3. ピクトグラムをダブルクリックして、「SCRIPT:ねこ」のウィンドウを閉じます。
続いて「ねこ」のウィンドウも閉じます。
4. 「ねこ」の仮身を選択した状態で、[実行]メニューの[マイクロスクリプト]を選びます。
「ねこ」がマイクロスクリプトでウィンドウに開きます。
5. 猫の絵が相対座標 (100,50) に移動します。



これで、スクリプト2の「その猫を、右に100、下へ50移動する。」が完成しました。

8.4.3 猫の絵を絶対座標を使って移動する

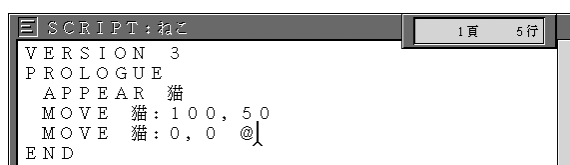
ここからは応用編として、同じ手順で、「SCRIPT:ねこ」に役者「猫」を絶対座標 (0,0) に移動する命令を追加してみましょう。

1. 「ねこ」の仮身を[実行]メニューの[基本図形編集]を選んでウィンドウを開きます。
続いて「SCRIPT:ねこ」のウィンドウを開きます。
2. 役者「猫」を絶対座標 (0,0) に移動する命令を入力します。
5行目に「MOVE 猫:0,0 @」と入力します。
「0」と「@」の間には空白が入ります。最後の@は、座標の指定が絶対座標であることを意味します。

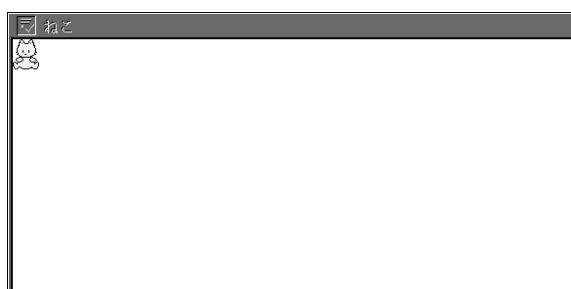
MOVE 猫:0,0 @



8.4.2で入力した「MOVE 猫:100,50」のように、@がつかないMOVE文では、座標の指定は相対座標になります。



3. 8.4.2の手順3から4、と同様に、「SCRIPT:ねこ」の内容を保存して、「ねこ」の仮身をマイクロスクリプトで開きます。
4. 猫の絵が絶対座標 (0,0) に移動します。



実際には、猫の絵は起動した直後に相対座標 (100,50) に移動し、そのあとで絶対座標 (0,0) に移動していますが、通常、スクリプトの実行は非常に高速なため、1つ1つの命令結果を目で追うことができません。例のようにMOVE文を連続して実行した場合、間をおかずに瞬時に次々と実行するため、経過を目で追うことはほとんどできません。

そこで、命令と命令の間に休み（待ち時間）を入れて、MOVE文の経過を追えるようにしてみましょう。

8.4.4 待ち時間を指定する

猫の絵が動く様子が見えるように、命令と命令の間に休み（待ち時間）を指定します。

待ち時間を指定するには SLEEP 文を使います。SLEEP 文は指定された時間の間だけ待ち、指定された時間が経過した後、SLEEP 文の次の行にある命令が実行されるようにします。

時間はミリ秒単位（1000 ミリ秒が 1 秒になります）で指定します。

1. 「SCRIPT：ねこ」のウィンドウを開きます。「APPEAR 猫」のうしろにカーソルを移動して、[Enter] キーを押して改段落します。
2. 猫の絵が相対座標（100,50）に移動するまでに、3 秒（3000 ミリ秒）の待つ命令を入力します。4 行目に「SLEEP 3000」と入力します。「SLEEP」と「3000」の間には空白が入ります。
3. この状態で「SCRIPT：ねこ」を保存して、「ねこ」をマイクロスクリプトで実行すると、起動してから 3 秒後に猫の絵が相対座標（100,50）に移動します。
4. 同じように、「MOVE 猫：100,50」と「MOVE 猫：0,0 @」の間にも「SLEEP 3000」と入力します。
これで、猫の絵が相対座標（100,50）に移動してから 3 秒後に、絶対座標（0,0）に移動します。

```

SCRIPT：ねこ
VERSION 3
PROLOGUE
APPEAR 猫
SLEEP 3000
MOVE 猫：100, 50
SLEEP 3000
MOVE 猫：0, 0 @
END

```

それでは、新しく追加した 4 行目から 7 行目について、まとめてみましょう。

- ① 4 行目「SLEEP 3000」は「3 行目の命令が実行してから 3 秒待って 5 行目を実行しろ」という命令です。
- ② 5 行目「MOVE 猫：100,50」は「役者『猫』を相対座標（100,50）に移動しろ」という命令です。
- ③ 6 行目「SLEEP 3000」は「5 行目の命令が実行してから 3 秒待って 7 行目を実行しろ」という命令です。
- ④ 7 行目「MOVE 猫：0,0 @」は「役者『猫』を絶対座標（0, 0）に移動しろ」という命令です。

これでスクリプトは完成です。実行してみましょう。スクリプト 2 では待ち時間を 3 秒としましたが、この待ち時間は長く感じられたでしょうか。それとも、短く感じられたでしょうか。最適な待ち時間を見つけるには、何度か SLEEP 文に指定した待ち時間の長さを変えて試してみてください。

また、MOVE 文の座標位置を変えてみたり、SLEEP 文と MOVE 文を追加して猫の絵がウィンドウのあちこちに移動するようにスクリプトを変えてもよいでしょう。

5 マイクロスクリプトのまとめ

本章ではマイクロスクリプトを使って「ウィンドウに猫の絵を表示した後、その絵を移動させるプログラム」を作成しました。最後に、スクリプトの編集作業について要点をまとめてみましょう。

スクリプトの入力

1. 「ねこ」の仮身を [実行] メニューの [基本図形編集] を選んで、ウィンドウを開きます。
2. 「SCRIPT：ねこ」ウィンドウをクリックして、最前面に出します。
3. スクリプトを入力します。
4. スクリプトの入力が終了したら、「SCRIPT：ねこ」ウィンドウ、「ねこ」ウィンドウと順番にウィンドウを閉じます。

プログラムの実行

1. 「ねこ」の仮身を [実行] メニューの [マイクロスクリプト] を選んで、マイクロスクリプトでウィンドウを開きます。
2. プログラムの実行結果を確認します。
3. 「ねこ」ウィンドウを閉じます。

マイクロスクリプトにはまだまだ多くの機能があります。詳しくは取扱説明書の〈目次〉－〈マイクロスクリプトをつかう〉をご覧ください。

世界文字入力を使おう

9

「世界文字入力」小物を使うと、通常のかな漢字変換では入力できない世界各国の文字を、キーボードを使って入力することができます。

注意

世界文字入力では、初期設定ガイドランスの「かな漢字変換のキー割り当て」の項で [Windows] を選択していても、[空白] (スペース) キーによる変換と [Enter] キーによる確定の操作はできません。[変換] / [無変換] キーで変換し、右 [Ctrl] キーで確定します。



本章で使用している画面のサンプルと完成品を、「超漢字サンプル集」に収録しています。実際に操作して練習する際に役立ててください。詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」- 「『操作ガイド』サンプル文書」をご覧ください。

9

世界文字入力を使おう

1 世界文字入力を起動する

1. [小物] メニューの [世界文字入力] を選びます。
世界文字入力のウィンドウが現れます。



2. 標準では [システム] [欧州文字] [中国語 (簡体字)] [韓国語] が登録されています。

使いたい言語をクリックすると、ウィンドウに表示されているキーボードの表示が変わります。たとえば、[韓国語] をクリックすると、キーボードにハングルの字母が表示されます。



ウィンドウ上のキーボードはキー配列を示しています。画面をクリックしても入力できません。



ウィンドウ上のキーボードの右上にある [↑] スイッチをクリックすると、キーボードが消えます。



3. 超漢字の画面右下隅のメッセージエリアには、選択されている言語が表示されます。

システム (VJE)

通常のかな漢字変換です。メッセージエリアには何も表示されません。

欧州文字

修飾記号付きのアルファベットを入力できます。

中国語 (簡体字)

簡体字をピンインで入力できます (単漢字変換)。

韓国語

2 ボル式でハングルと韓国漢字を入力できます。



ポイント

[拡張+変換] スイッチを ON (ON) にしておくと、キーボード操作で登録されている言語を選ぶことができます。世界文字入力のウィンドウを閉じていても、言語を切り替えることができます。

[Alt] キーを押しながら [変換] キーを押すと、言語が順番に切り替わります。

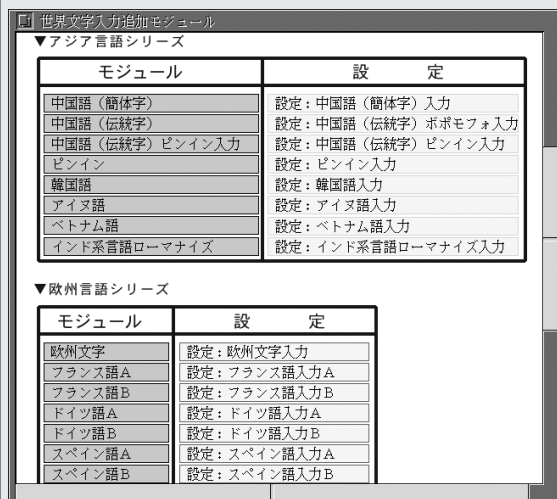
切り替えキー:

拡張+変換

世界文字入力追加モジュール

「超漢字サンプル集」— [多漢字・多文字入力の支援] 内の「世界文字入力追加モジュール」には、あらかじめ登録されている言語以外にも、アジア各国や欧州文字の言語モジュールが収録されています。

利用したい言語モジュールの仮身を「世界文字入力」のウィンドウにドラッグして登録してください。



アジア言語シリーズ

中国語（簡体字）：あらかじめ登録されています。
中国語（伝統字）
中国語（伝統字）ピンイン入力
ピンイン
韓国語：あらかじめ登録されています。
アイヌ語
ベトナム語
インド系言語ローマナイズ

欧州言語シリーズ

欧州文字：あらかじめ登録されています。
フランス語入力 A フランス語入力 B
ドイツ語 A ドイツ語 B
スペイン語 A スペイン語 B
イタリア語 A イタリア語 B
ロシア語 A ロシア語 B
アイスランド語 デンマーク語
スウェーデン語 フィンランド語
ハンガリー語 ポーランド語
チェコ語 スロベニア語
トルコ語 ギリシア語
エスperanto語 A エスperanto語 B

その他

ホツマ文字



フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、エスperanto語には、2 種類の入力方法があります。

A：ネイティブと同じ環境で入力できます。
B：日本語キーボードの配列で入力できます。

2 修飾記号付きアルファベットを入力する

世界文字入力を使って、原稿用紙にヨーロッパのあいさつを入力してみましょう。

9.2.1 フランス語を入力する

フランス語の「Ça va?」（元気？）を入力します。

1. [欧州文字] をクリックします。
画面右下隅のメッセージエリアに「欧州文字」と表示されます。
2. [英数] キーを押して、英数入力モードに切り替えます。
3. [Shift] キーを押しながら [C] キーを押します。
「C」が入力されます。「C」は未確定の状態です。



4. [変換] キーを 3 回押します。
「Ç」が白黒反転して表示されます。

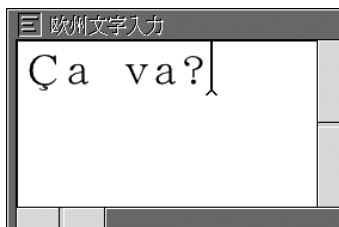


5. 「a」「」（空白）「v」「a」「?」を順に入力します。



「C」や「a」のように、変換候補がある文字は未確定状態で入力されます。「v」は変換候補がないので、入力するとただちに確定されます。

6. 右 [Ctrl] キーを押して確定します。
「Ça va?」が入力されました。



7. [Enter] キーを押します。

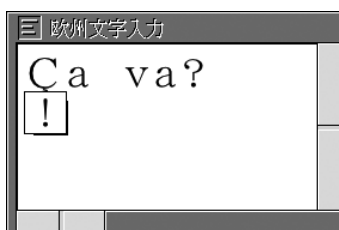


「超漢字サンプル集」の「フランス語入力 A」のモジュールを登録すると、ネイティブと同じキー配列でフランス語を入力できます。

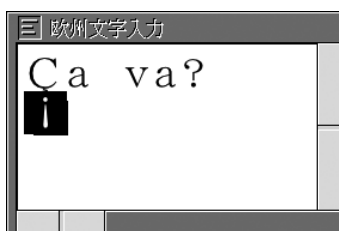
9.2.2 スペイン語を入力する

スペイン語の「¡Adiós!」(さようなら!)を入力します。

1. [Shift] キーを押しながら [1] キーを押します。
「¡」が入力されます。「¡」は未確定の状態です。

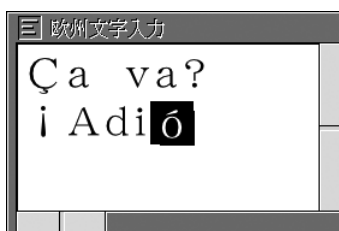


2. [変換] キーを 1 回押します。
「¡」が白黒反転して表示されます。

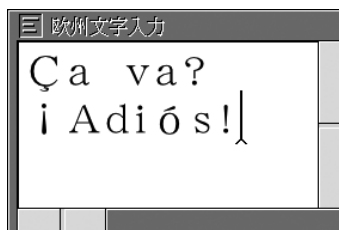


3. 「A」「d」「i」「o」を順に入力します。
「o」は未確定の状態です。

4. [変換] キーを 1 回押します。
「ó」が白黒反転して表示されます。



5. 「s」「!»を入力し、右 [Ctrl] キーを押して確定します。
「¡Adiós!」が入力されました。



6. [Enter] キーを押します。

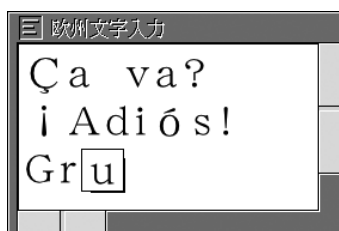


「超漢字サンプル集」の「スペイン語入力 A」のモジュールを登録すると、ネイティブと同じキー配列でスペイン語を入力できます。

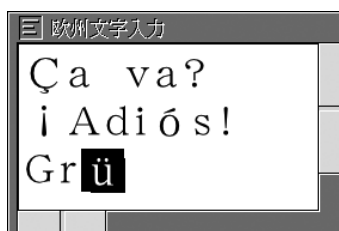
9.2.3 ドイツ語を入力する

ドイツ語の「Grüß dich!」(こんにちは!)を入力します。

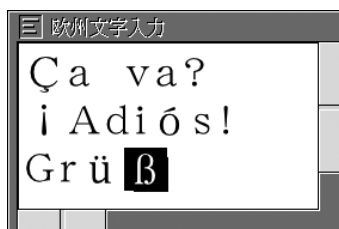
1. 「G」「r」「u」を順に入力します。
「u」は未確定の状態です。



2. [無変換] キーを 1 回押します。
「ü」が白黒反転して表示されます。

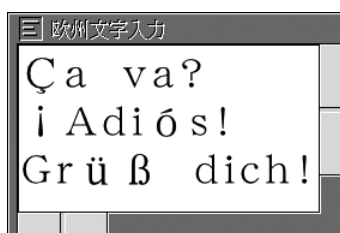


3. 「s」を入力し、[無変換] キーを 3 回押します。
「ß」が白黒反転して表示されます。



4. 「 」(空白)「d」「i」「c」「h」「!」を入力し、右 [Ctrl] キーを押して確定します。

「Gr ü ß dich!」が入力されました。



「超漢字サンプル集」の「ドイツ語入力 A」のモジュールを登録すると、ネイティブと同じキー配列でドイツ語を入力できます。



「書体」メニューの「SS 明朝体」を選ぶと、文字間を詰めて表示できます。



注意

〔変換〕キーと〔無変換〕キーでは、変換される候補が異なります。〔変換〕キーを押しても入力したい候補が現れない場合は、〔無変換〕キーを押してみてください。

変換候補の詳細は、製品中の「超漢字サンプル集」の「設定：欧州文字入力」をご覧ください。

3 中国語を入力する

中国の簡体字をピンインで入力して、変換してみましょう。
「你好」（こんにちは）を入力します。

1. 「中国語（簡体字）」をクリックします。
画面右下隅のメッセージエリアに「中国語（簡体字）」と表示されます。
2. 「英数」キーを押して、英数入力モードに切り替えます。
3. 「n」「i」「3」と入力し、〔変換〕キーを 1 回押します。
「你」が白黒反転して表示されます。



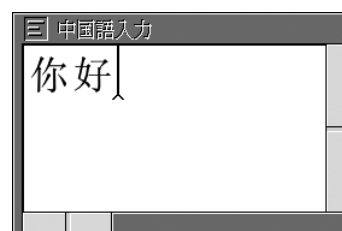
四声は 1 ～ 5 の数字で指定します。5 は轻声です。



4. 「h」「a」「o」「3」と入力し、〔変換〕キーを 1 回押します。
「好」が白黒反転して表示されます。



5. 右 [Ctrl] キーを押して確定します。
「你好」が入力されました。

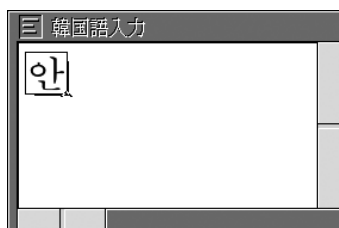


ピンイン表記に使われる「ü」は、「u:」と入力します。ピンインそのものを入力したい場合は、「超漢字サンプル集」の「ピンイン入力」のモジュールを登録します。

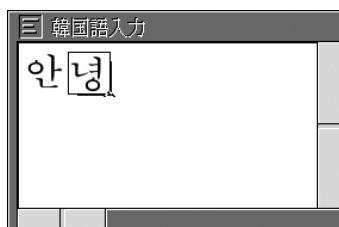
4 韓国語を入力する

韓国語を入力してみましょう。入力は 2 ボル式です。
「안녕 하십니까?」(こんにちは)を入力します。

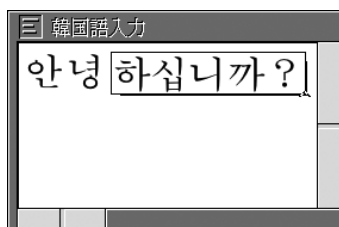
1. 「韓国語」をクリックします。
世界文字入力のキーボードにハングルの字母が表示されます。
画面右下隅のメッセージエリアに「韓国語」と表示されます。
2. [英数] キーを押して、英数入力モードに切り替えます。
3. [d] [k] [s] キーを順に押します。
ハングルの字母が組み合わさり「안」が入力されます。



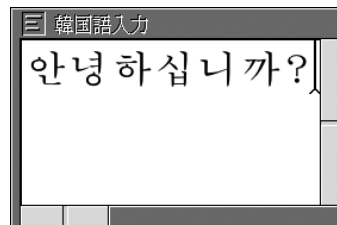
4. 続けて [s] [u] [d] キーを順に押します。
「녕」が入力されます。



5. [g] [k] [t] [l] [q] [s] [l] [Shift] + [r] [k] [Shift] + [/] キーを順に押します。



6. 右 [Ctrl] キーを押して確定します。
「안녕 하십니까?」が入力されました。



[d] [k] [s] キーを順に押した状態で [変換] キーを押すと、「安」「岸」など「안」と読む漢字が変換候補に現れます。[無変換] キーを押すと逆変換で変換候補を表示します。

各言語の入力方法やキー配列については、「超漢字サンプル集」の「世界文字入力追加モジュール」に詳しい説明がありますので、そちらをご覧ください。また、取扱説明書の〈索引〉— 〈せ〉— 〈世界文字入力〉もあわせてご覧ください。

超漢字Ⅴ 解説編

多漢字を使おう

1

超漢字の大きな特長の1つは、日本語などの言語にとって重要なたくさんの漢字を使える多漢字の機能です。本章では、「多漢字」の意味とその重要性について説明します。また、超漢字で使える漢字の種類やそれを利用する際の注意点を説明します。

1 使える漢字と使えない漢字

コンピュータはどれだけの漢字を使えるか

社会や生活のいろいろな場面でコンピュータが広く普及していますが、コンピュータ上で扱える漢字について不満やもの足りなさを感じたことはないでしょうか。もちろん、現代の日常会話、手紙、ビジネス文書の範囲であれば、ほとんど困ることはないでしょう。しかし、身近なものでは人名や地名などの固有名詞、そして旧字体で書かれた貴重な書物を考えると、コンピュータ^{注1}で扱えない漢字がたくさん出てきます。

注1 ここでは、JIS第1水準・第2水準（JIS X 0208）相当の合計6879字程度が扱えるコンピュータを指しています。

最近のWindowsではUnicodeという文字コードを採用しており、コンピュータで利用できる文字数も増えています。また、Windows上で書体（フォント）を切り替えることにより、擬似的にたくさんの漢字を利用できるようなくみを用意しているものもあります。しかし、アプリケーションによっては対応していなかったり、正しく表示できなかったりする問題があります。

人名や地名に使われる漢字

コンピュータで表示できない漢字の代表的な例には、通称「ハシゴ高」といわれている「高」という漢字があります。「高橋」「高田」のように、「高」（クチ高）と比較すると上半分の「口」の左右の棒が上下に突き抜けてハシゴのようになっています。Windowsではこの「ハシゴ高」を「外字」を使って表現しているため、「高橋」や「高田」の名前を入力した文章をメールで送受信したり、インターネットで公開したい場合は、「高」で代用しているのが実情です。

しかし「高」で代用するのがごく一般的ということではありません。テレビ、雑誌、書籍などで気をつけてみると、「高」と「𨳊」は区別して表記されていることも多く、こうした例はほかにも「山崎」と「𨳊崎」、「吉田」と「𨳊田」などにみられます。「崎」や「吉」などはコンピュータでは正確な字形で表現できない場合があります。

ほかにも、中国の最高実力者であった「鄧小平」氏の「鄧」、人気グループのメンバーである「草薨」さんの「薨」、中国の経済特別区の「深圳」の「圳」などの文字があります。いずれの文字も新聞、雑誌、テレビなどによく登場しますが、メールやインターネットを利用する際に正確な字形で表現するのが難しい漢字です。

コンピュータの字形と活字の字形

固有名詞以外の例を考えてみましょう。コンピュータで表示される字形と、新聞や小説、漢和辞典などで使われている字形が異なる場合があります。たとえば、「頰」という文字は、現代小説の中でも「頰」という活字が使われることが思い起こされます。同じように「蠟燭」は「蠟燭」、「顛末」は「顛末」、「蟬」は「蟬」という活字の方がそれぞれなじみがあるのではないのでしょうか。しかし、こうした字体は、コンピュータでは同じ漢字とみなして扱われてきました。

超漢字なら使える

超漢字では、いずれの文字も正確な字形を使って区別して表示させることができます。しかも、OSレベルで多漢字対応となっているので、文字を扱う場面であれば、どんな局面でもこうした漢字を利用できます。具体的には、文章作成はもちろんのこと、実身名の文字、データベースの項目名やデータ、表計算のセルの値など、さまざまな場所で多漢字が利用できます。

超漢字なら、多漢字利用の可能性が広がるのです。

2 超漢字での多漢字

文字コード

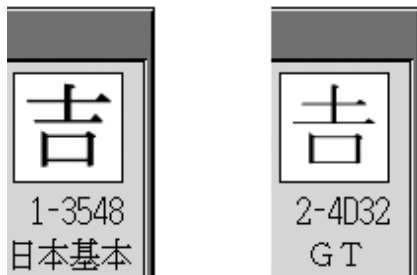
コンピュータで文字を扱うしくみについて考えてみましょう。コンピュータでは、取り扱う文字にそれぞれ番号を割り当てて、区別をしています。文字の形そのものではなく、たとえば「あ」という文字を「2422番」、「亜」という文字を「3021番」と定めています。

このように、文字や記号をコンピュータで扱うために、文字や記号の1つ1つに割り当てられた固有の数字を文字コードといいます。コンピュータには文字コードの表が内蔵されていて、文字を表示したり印刷したりするときには、番号と対応した書体を取り出されます。

複数の文字コード表（スクリプト）が使える

超漢字は複数の文字コード表を切り替えて使うことができます。超漢字では、文字コード表のことをスクリプトとよんでいます。

文字検索小物（p.89）の文字コードの欄をみましょう。“1-〇〇〇〇”というように“1-”から始まっている文字コードは、その文字が第1面のスクリプト^{注2}であることを示します。おなじように、たとえば“2-”で始まっている文字コードは第2面の文字であることを示します。



注2 第1面のスクリプトを特別にシステムスクリプトとよびます。システムスクリプトには、各国語の表記に必要な基本文字が約3万文字含まれています。

スクリプトの切り替えとデータ量

超漢字は、スクリプトを切り替えることによりたくさんの文字を表現できます。スクリプトの切り替えは、超漢字が自動的に行うため、普段の利用では、スクリプトの切り替えを意識する必要はありません。しかし実身名の長さなど、入力できる文字数に制限がある場合は、その制限数より実際に目で見えている文字数が

少なくなることがあります^{注3}。

これは、文字と文字の間に表示されないスクリプト切り替えのデータが入っているためです。

スクリプト切り替えのしくみを説明しましょう。スクリプト切り替えは、文字と文字の間に言語指定コードとよばれるデータをはさむことによって行われます。言語指定コードのデータ量は、文字1字分と同じです。つまり、スクリプト切り替えを1回行うごとに、実質的にデータ量が1文字分増えることになります。

同じスクリプトの文字が続くときには、言語指定コードははさまれません。また言語指定コードがない場合は、システムスクリプトが指定されていることになります。

具体的な例として、「吉田さん」と「吉田さん」という文字列を表現したときのデータ量の違いをみてみましょう。まず、「吉田さん」という文字列です。「吉」「田」「さ」「ん」の4文字ともシステムスクリプトに属する文字ですので、言語指定コードは必要ありません。結局、目にみえるとおり

吉田さん

の4文字分になります。

「吉田さん」の場合はどうでしょう。「吉」は超漢字では第2面に属していますので、言語指定コードが必要です。言語指定コードを「指」で表すことにすると、

指-2吉指-1田さん

となりデータ量は合計6文字分になります。2番目の言語指定コードは、システムスクリプト（第1面）に戻すためのものです。

注3 たとえば、実身名は最大20字まで設定できますが、スクリプトの切り替えが発生すると、スクリプトを切り替えた分だけ設定できる文字数が減少します。

3 使える文字の種類

超漢字 V で使える漢字やその他の文字、記号の種類を紹介します。文字検索小物または区点入力パネルから使いたい文字を探して、入力します。コード番号はもちろんのこと、よみ、画数、部品などから漢字を検索できます。また、よく使う漢字や記号をユーザ辞書に登録しておけば、どんな文字でも通常のかな漢字変換の操作で入力できるようになります。



超漢字 V で利用できるすべての文字の一覧を製品中の「超漢字サンプル集」に収録しています。詳しくは「超漢字 V 収録文字リスト」をご覧ください。

1

多漢字を使う

超漢字 V 収録文字リスト	
JIS 第1・第2水準	亜弍漢あ。
JIS 第3・第4水準	丈崑巢ゝ♡
JIS 補助漢字	𠂔叁團掙顚
GT 書体フォント	世世世哥丕
大漢和辞典 大漢和重複漢字一覧	出岌岌岌岌
韓国漢字・ハングル	가암핀架齧
中国簡体字 中国拡張漢字一覧	哀包岛订红
中国伝統字	令郷譚覽贊
iモード絵文字	👉👈👉👈👉👈
点字	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
記号その他	(ア) △ ☯ ㊦ ㊧
トンパ文字	へ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩
Unicode Version 2.0	

JIS 第1水準・第2水準 (JIS X 0208 : 1997) : 6879 文字

システムスクリプトに収録されている、Windows などのコンピュータでも一般的に利用できる文字です。日常的に使用される漢字 6355 文字のほか、ひらがな、カタカナ、英数字、「a」「Ω」のようなギリシア文字、「Д」「И」のようなキリル文字、「□」「▲」「→」「♪」「∈」などの記号類、罫線が含まれます。

JIS 第3水準・第4水準 (JIS X 0213 : 2000) : 4344 文字

2000 年 1 月に制定された規格です。超漢字ではシステムスクリプトに収録しています。JIS 第1・第2水準で不足していた人名・地名用漢字、学術記号などが収録されています。「土」の異体字として使われる「𡗗」、「社」の旧字体「𡗗」、「㊦」などの丸囲み記号、「株」などの記号が含まれています。

JIS 補助漢字 (JIS X 0212) : 6067 文字

JIS 第1・第2水準の文字以外で日常使用されることの多い漢字や記号を補うために 1990 年に制定されまし

た。超漢字ではシステムスクリプトに収録しています。このうち「鄧小平」氏の「鄧」、「深圳」の「圳」などの文字は、JIS 第3・第4水準にも収録されています。

漢字のほかに、英語以外のラテン系各言語で利用される修飾記号付きのアルファベットなどの文字も含まれています。

韓国漢字・ハングル (KS X 1001) : 8224 文字

KS X 1001 (以前の呼称では KS C 5601) は韓国国内の文字セットの規格で、ハングルと韓国語圏で利用される漢字や記号が含まれます。超漢字ではシステムスクリプトに収録しています。

中国簡体字 (GB 2312) : 7445 文字

GB 2312 は中国国内の文字セットの規格で、簡体字 (Simplified Chinese) を中心に、中国本土で常用的に用いられている文字を集めたものです。超漢字ではシステムスクリプトに収録しています。

中国簡体字 (GB 18030) : 634 文字

GB 18030 は中国国内の文字セットの規格であり、その一部に対応しています。

中国伝統字 (CNS 11643-1986, Big5) : 13491 文字

CNS (あるいは Big5) とは、中国語のうち、主に香港や台湾で用いられている文字セットの規格です。伝統字あるいは繁体字 (Traditional Chinese) とよばれ、日本の旧字体に近い字形です。

点字 : 320 文字

点字用の文字も独立した文字コードを持っています。六点点字の 64 文字と八点点字の 256 文字が含まれます。超漢字ではシステムスクリプトに収録しています。

i モード絵文字：271 文字

NTT ドコモの携帯電話で利用されている i モード絵文字です。

GT 書体フォント：78675 文字

日本学術振興会の研究事業により 2000 年に生まれた新しい文字セットです。日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「マルチメディア通信システムにおける多国語処理の研究」プロジェクトの成果です。

「大漢和辞典」や「康熙字典」に収録されている文字を網羅しています。また、人名や地名に使われている異体字を多数収録しています。外字を使わなくても「高橋」と「高橋」、「葛飾」と「葛飾」などを区別して表記できます。

大漢和辞典：51053 文字

漢和辞典のバイブルともいえるべき諸橋轍次氏の「大漢和辞典」（修訂第二版に準拠）に収録されている文字をすべて収録しています。

大漢和番号順に収録しているので、文字検索小物を使えば、書籍版の大漢和番号と対応させて検索できます。

トンパ文字：1362 文字

トンパ（東巴）文字とは、中国雲南省のナシ（納西）族の間で使われている、世界唯一の生きている象形文字です。現在でもナシ族に伝わる教典や歴史書の表記に使われています。

濁点付きひらがな・カタカナ（略称：濁点仮名）：204 文字

マンガなどに見られる「あ」「め」などの文字です。

住民基本台帳収録変体仮名（略称：住基仮名）：168 文字

変体仮名は、現在使われているひらがなの前身にあたるものです。住基仮名は、住民基本台帳に収録されている変体仮名です。現在でも人名や地名に使われています。

変体仮名：545 文字

平安時代から使われてきたひらがなの種類です。

明治維新後に現在のひらがなの五十音図が作成されてからは利用される機会が少なくなりましたが、老舗旅館やそば屋の看板などに見ることができます。

Unicode Version 2.0（非漢字の一部）：6475 文字

Unicode とは、国際規格の 1 つです。本製品では、この規格に定義された文字セットのうち、一部のハングルを除いた部分を搭載しています。漢字圏以外の各国の言語（アラビア語、タイ語など）で使用される文字や記号類が多数含まれます。

序数記号：90 文字

見出しや箇条書きの連番に利用できる記号類です。

陰陽五行文字：86 文字

陰陽道で利用されていた文字や記号です。

ホツマ文字：154 文字

ホツマ文字は、「^{ホツマツタエ}秀真伝」の表記に使われている文字です。^{じんだいもし}神代文字の 1 つとされています。

アーヴ文字：39 文字

小説家森岡浩之氏による小説「星界シリーズ」の舞台で使用されるアーヴ文字の文字および数字のセットです。



アーヴ文字の利用には、本製品の「超漢字サンプル集」に収録されているアーヴ文字フォントを登録する必要があります。登録方法は「設定編 2.6 書体」（p.74）をご覧ください。

濁点付きひらがな・カタカナおよび住民基本台帳収録変体仮名の利用には、TRON 文字収録センターから書体をダウンロードおよび登録する必要があります。

TRON 文字収録センター
<http://charcenter.t-engine.org/>

超漢字シリーズからのデータ移行方法

2

今までに超漢字シリーズの製品で作成したデータや設定を、超漢字 V に移行する方法を説明します。
ここでは、超漢字シリーズから Windows 環境にデータをコピーする手段として、USB フラッシュメモリ (以下 USB メモリ) を使います。

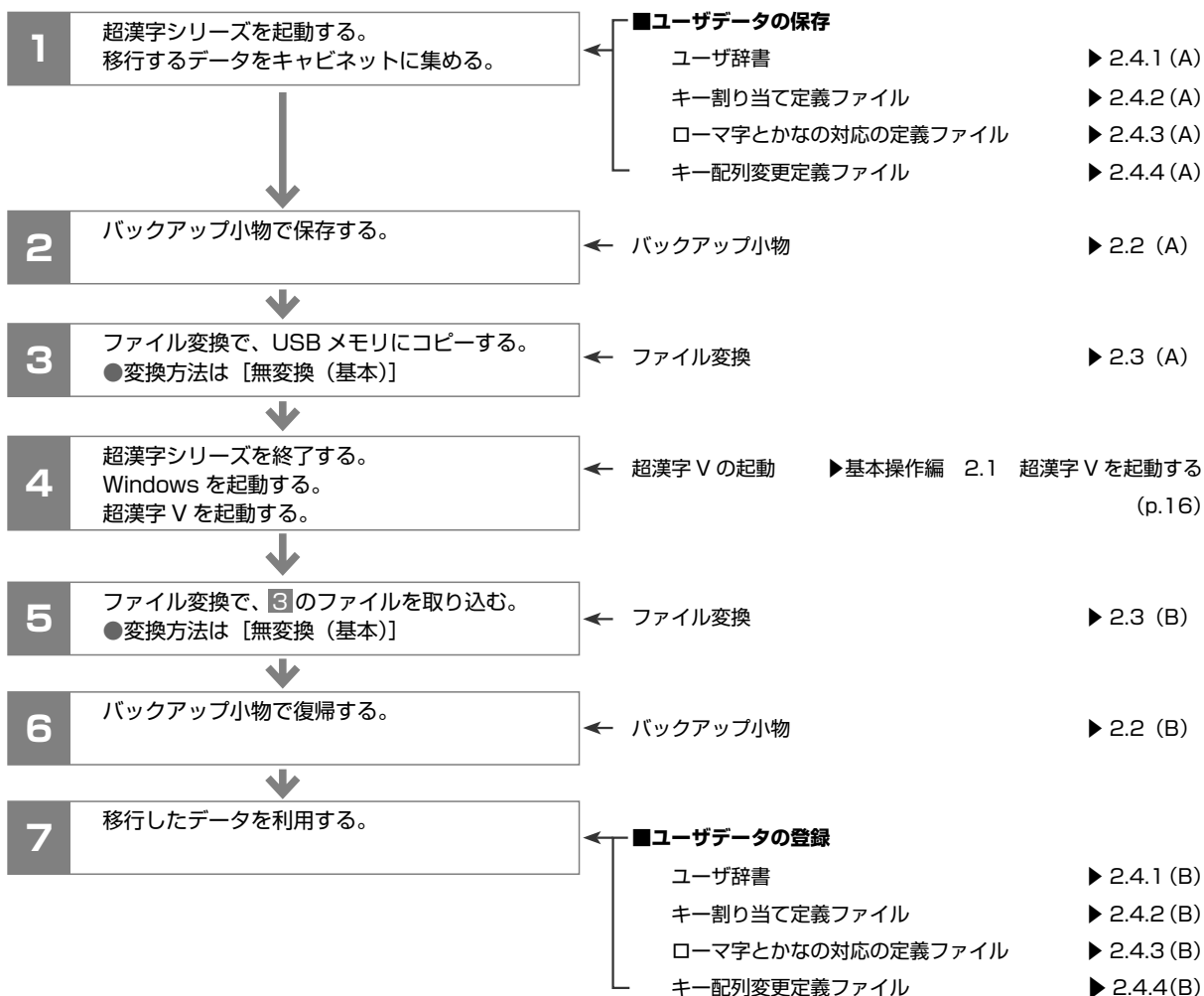


補 足

本章で解説している移行方法のほかにも、さまざまな方法でデータを移行することができます。「超漢字ウェブサイト」のユーザサポートのページでご紹介していますので、あわせてご覧ください。 <http://www.chokanji.com/support.html>

1 操作の手順

以下の手順に沿って、データ移行を進めます。
各項目の具体的な操作方法については、それぞれの章を参照してください。



- ネットワークの設定方法は、超漢字シリーズと超漢字 V では異なります。詳しくは「設定編 第3章 ネットワーク設定」(p.76)をご覧ください。
- プリンタの設定方法は、超漢字シリーズと超漢字 V では異なります。詳しくは「基本操作編 8.4 Windows に接続されたプリンタで印刷する」(p.56)をご覧ください。
- 超漢字 V 用のフリーソフト・フリーデータ集を製品中の「超漢字サンプル集」に収録しています。超漢字シリーズに収録していた作品も含まれておりますので、ご利用ください。

2 バックアップ小物の使い方

バックアップ小物を使うと、データサイズを圧縮した状態で保存したり移動したりできます。
バックアップ小物は、超漢字シリーズでも超漢字 V でも使い方は同じです。



バックアップ小物の詳細は、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈文書管理〉—〈バックアップ〉をご覧ください。

2.2 (A) バックアップファイルの保存

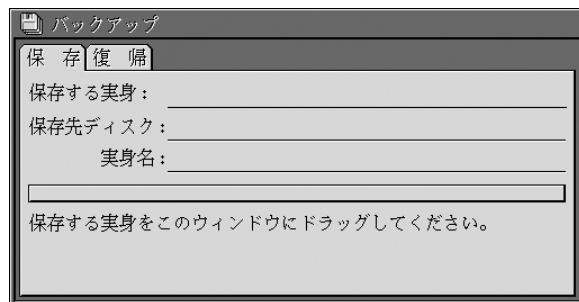
あらかじめ超漢字 V に移行したいデータをキャビネット（仮身一覧）に集めておきます。

USB メモリの容量に合わせて、ジャンルや作成時期などで分類しておくとういでしょう。



あらかじめ、バックアップファイルを保存するためのハードディスクの空き容量をご確認ください。複数のハードディスクの区画を利用している方は、空き容量のある区画にバックアップファイルを保存してもかまいません。

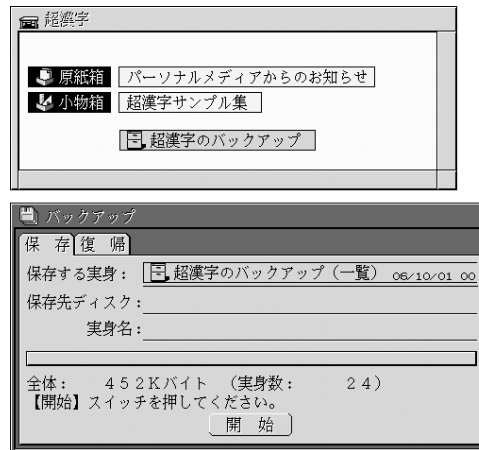
1. 保存したいデータを 1 つのキャビネットにまとめ、保存操作をしてウィンドウを閉じます。
2. [小物] メニューの [バックアップ] を選びます。
バックアップ小物が起動します。



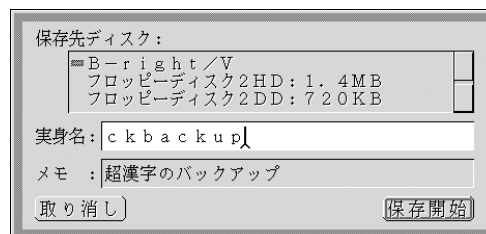
3. バックアップを作成するキャビネットの仮身を、〈保存〉の見出しにドラッグします。
〈保存する実身〉欄にドラッグしたキャビネットの仮身が現れます。
保存容量と実身数を確認して、[開始] スイッチをクリックします。



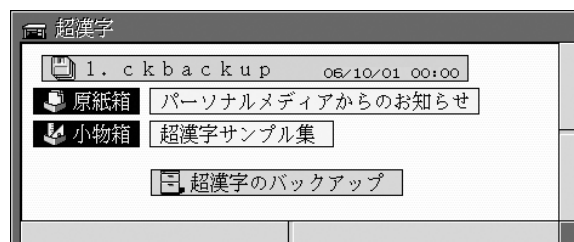
バックアップ実行中は、保存対象となる実身の内容は変更しないでください。



4. 保存先ディスクを指定するパネルが現れます。
[B-right/V] が ON (■) になっていることを確認します。続いて、実身名とメモを入力し、[保存開始] スイッチをクリックします。
ここでは実身名を [ckbackup] と入力しています。



5. 保存が終了したら、バックアップ小物のウィンドウを閉じます。
指定したハードディスクの区画にバックアップファイルの仮身が作成されています。



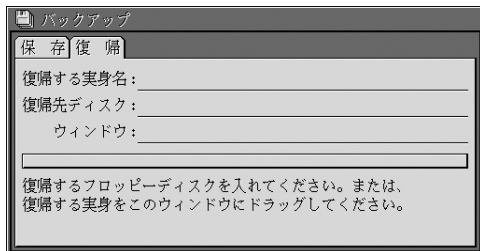
「2.1 操作の手順」(p.172) に従って、超漢字 V へ移行します。

2.2 (B) バックアップファイルの復帰

バックアップ小物で保存したファイルを元の状態に復帰させます。

バックアップファイルのピクトグラムはフロッピーディスクの形  をしていますが、ファイル変換や共有フォルダ参照を使って変換した場合は、バイナリデータのピクトグラム  に変わります。

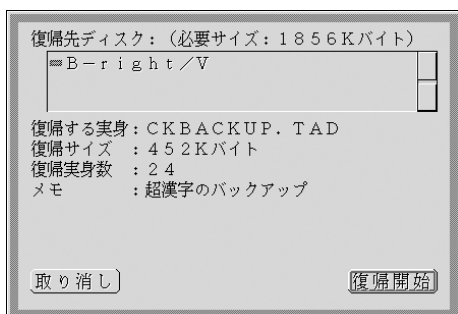
1. [小物] メニューの [バックアップ] を選びます。
バックアップ小物が起動するので、〈復帰〉の見出しを選びます。



2. バックアップ小物で圧縮された仮身をドラッグします。

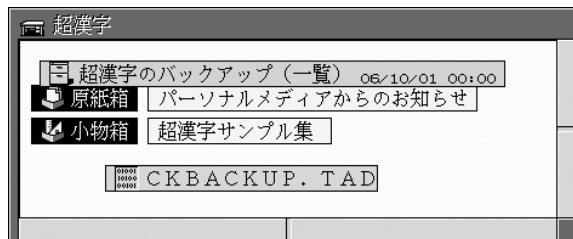


3. 復帰先ディスクを指定するパネルが現れます。
[B-right/V] が ON () になっていることを確認します。
[復帰開始] スイッチをクリックします。



4. 復帰が終了したら、バックアップ小物のウィンドウを閉じます。

初期ウィンドウに、展開されたバックアップファイルの仮身が作成されています。



補 足

書庫形式でファイルを移行する

キャビネットに格納されている実身数が 650 未満の場合は、書庫管理を使って、1 つの書庫形式の実身にまとめることができます。移行するデータが少ない場合は、書庫管理を使ってもらえません。

注意 書庫管理はフリーソフトです。書庫管理の利用については、原則としてサポート対象外となります。

(A) データの圧縮

1. [小物] メニューの [原紙集め] を選びます。
2. 「空書庫」をウィンドウにドラッグします。
パネルに実身名を入力して、[設定] スイッチをクリックします。
3. 書庫の仮身をダブルクリックします。
ウィンドウが開きます。
4. 書庫のウィンドウに、移行したいデータを集めたキャビネットをドラッグします。
パネルが現れ、実身の総数と総容量が表示されます。
5. [開始] スイッチをクリックすると、バック処理（書庫形式の圧縮）を開始します。
6. バック処理が終わると、画面左下のメッセージエリアに「バック処理を完了しました。」というメッセージが現れます。
書庫のウィンドウを閉じます。

(B) データの展開

1. 書庫の仮身をダブルクリックして、ウィンドウを開きます。
2. ウィンドウの中にある仮身（書籍）を、ほかのウィンドウにドラッグします。
パネルが現れ、実身の総数と総容量が表示されます。
3. [開始] スイッチをクリックすると、アンパック処理（書庫形式の展開）を開始します。
4. 画面左下のメッセージエリアに「アンパック処理を完了しました。」というメッセージが現れたら、書庫のウィンドウを閉じます。

3 ファイル変換

超漢字シリーズで作成したデータを Windows の区画にコピーする場合は、ファイル変換を使用します。
ここでは、Windows 用にフォーマットされた USB メモリにデータをコピーする方法を説明します。



注意

ファイル変換では、NTFS 形式でフォーマットされた区画を参照することができません。FAT 形式の区画をご用意ください。
Windows 用の USB メモリの多くは、あらかじめ FAT 形式でフォーマットされています。



補足

USB メモリの使い方については「設定編 2.3.2 USB フラッシュメモリを使う」(p.71) もあわせてご覧ください。

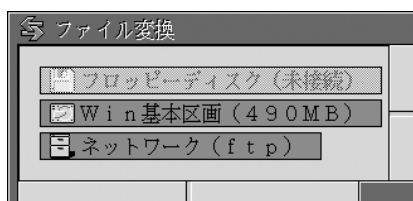


補足

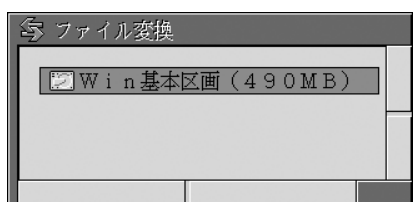
ファイル変換についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈システム〉―〈ファイル変換〉の各項目をご覧ください。

2.3 (A) ファイルの出力(超漢字シリーズの操作)

1. USB メモリをパソコンにセットします。
2. [小物] メニューの [ファイル変換] を選びます。
ファイル変換のウィンドウが開きます。



3. 「Win 基本区画」をダブルクリックします。
USB メモリに保存されているフォルダやファイルが表示されます。
フォルダやファイルが存在しない場合は、「Win 基本区画」とのみ表示されます。

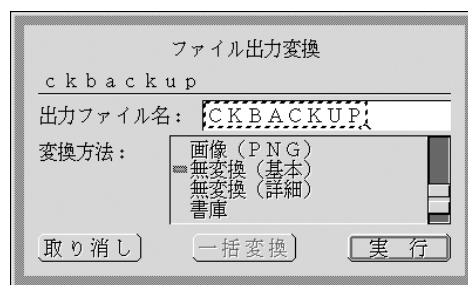


4. 作成したバックアップファイルの仮身をファイル変換のウィンドウにドラッグします。
ファイル出力変換パネルが現れます。



5. 出力ファイル名を入力します。
ファイル名は、かなと漢字は 4 文字まで、英数字は 8 文字まで入力できます。
ここではファイル名を [CKBACKUP] と入力しています。

〈変換方法〉欄で [無変換 (基本)] を選びます。



6. [実行] スイッチをクリックします。
ファイル名の末尾に「.TAD」という拡張子のついたファイルが作成されます。

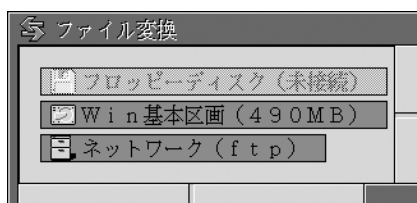


7. ファイル変換のウィンドウを閉じます。
USB メモリに超漢字シリーズで作成したデータがコピーされました。

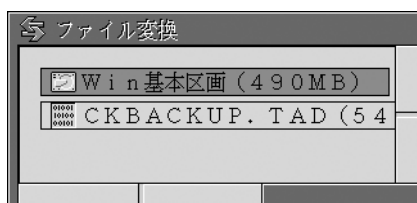
「2.1 操作の手順」(p.172) に従って、超漢字 V へ移行します。

2.3 (B) ファイルの入力 (超漢字 V の操作)

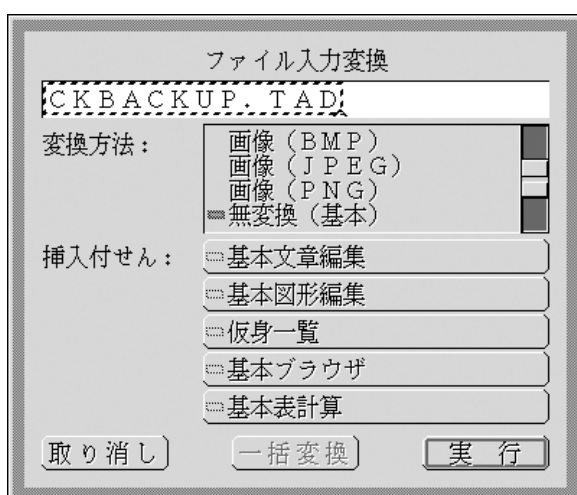
1. USB メモリをパソコンにセットします。
2. VMware Player のツールバーにある、USB デバイス接続のスイッチを押します。
3. [小物] メニューの [ファイル変換] を選びます。
ファイル変換のウィンドウが開きます。



4. 「Win 基本区画」をダブルクリックします。
USB メモリに保存されているフォルダやファイルが表示されます。



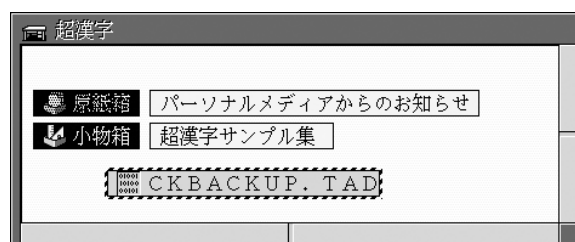
5. 作成したバックアップファイルの仮身を、ほかのウィンドウにドラッグします。
ここでは「CKBACKUP.TAD」を初期ウィンドウにドラッグしています。
ファイル入力変換パネルが現れます。



6. 実身名を入力します。
ここでは実身名は「CKBACKUP.TAD」のままとしています。

7. <変換方法> 欄で [無変換 (基本)] が選ばれていることを確認します。

8. [実行] スイッチをクリックします。
初期ウィンドウに「CKBACKUP.TAD」の仮身が現れます。



「2.2 (B) バックアップファイルの復帰」(p.174)に従って、バックアップファイルを復帰します。

4 設定ファイルの保存

1 ユーザ辞書



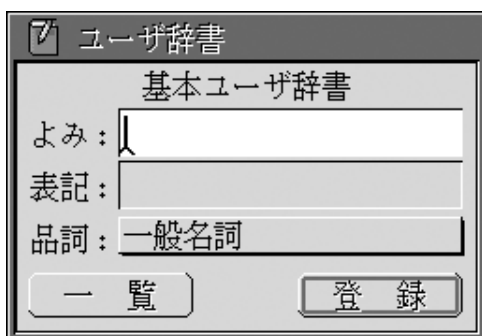
ポイント

ユーザ辞書小物に辞書や単語を追加している場合は、ユーザ辞書を保存しておく、超漢字Vでも利用できます。

2.4.1 (A)

データの保存（超漢字シリーズの操作）

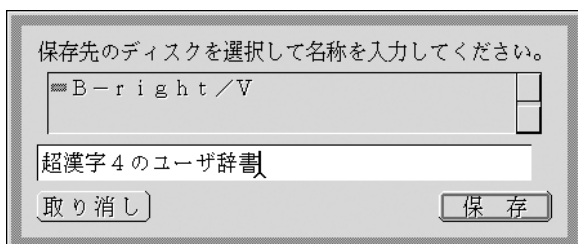
1. [小物] メニューの [ユーザ辞書] を選びます。
ユーザ辞書小物が起動します。



2. [辞書] メニューを選び、子メニューから移行したい辞書を選びます。



3. [保存] メニューの [新しい実身へ] を選びます。
4. 保存先と実身名を指定するパネルが現れます。
保存先のディスクを確認して、実身名を入力します。
ここでは「超漢字4のユーザ辞書」と入力しています。



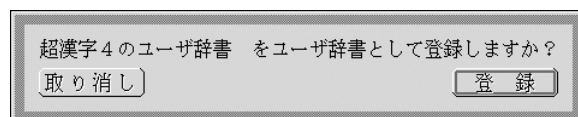
5. [保存] スイッチを押します。
初期ウィンドウにユーザ辞書の仮身が現れます。

6. 現れた仮身をキャビネットに移動します。

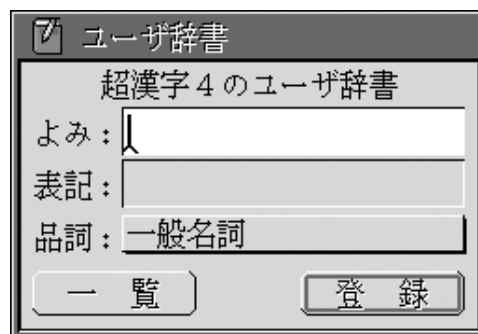
「2.1 操作の手順」(p.172)に従って、超漢字Vへ移行します。

2.4.1 (B) 登録（超漢字Vの操作）

1. [小物] メニューの [ユーザ辞書] を選びます。
ユーザ辞書小物が起動します。
2. 超漢字シリーズで保存したユーザ辞書の仮身を選び、ユーザ辞書のウィンドウにドラッグします。
3. ユーザ辞書の登録を確認するパネルが現れます。
[登録] スイッチをクリックします。



4. ユーザ辞書が登録されます。



補足

ユーザ辞書についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉—〈基本項目〉—〈ユーザ辞書〉をご覧ください。

2

超漢字シリーズからのデータ移行方法

2 キー割り当て定義ファイル



ポイント

キー割り当て定義ファイルをカスタマイズしている場合は、キー割り当て定義ファイルを保存しておく、超漢字 V でも利用できます。

2



注意

定義ファイルの変更は、原則としてサポート対象外となります。

2.4.2 (A)

データの保存（超漢字シリーズの操作）

1. [小物] メニューの [ユーザ環境設定] を選び、[かな漢字変換設定] をクリックします。
かな漢字変換設定のウィンドウが開きます。
2. 〈キー割当〉の見出しを選びます。
3. カスタマイズされたキー割り当て定義ファイルを選び、[保存] メニューの [新しい実身へ] を選びます。
4. 保存先と実身名を指定するパネルが現れます。
保存先のディスクを確認して、実身名を入力します。
5. [保存] スイッチを押します。
初期ウィンドウにキー割り当て定義ファイルの仮身が現れます。
6. 現れた仮身をキャビネットに移動します。

「2.1 操作の手順」(p.172) に従って、超漢字 V へ移行します。

2.4.2 (B) 登録（超漢字 V の操作）

1. [小物] メニューの [ユーザ環境設定] を選び、[かな漢字変換設定] をクリックします。
かな漢字変換設定のウィンドウが開きます。
2. 〈キー割当〉の見出しを選びます。
3. 超漢字シリーズで保存したキー割り当て定義ファイルの仮身を選び、〈キー割当〉の見出しにドラッグします。



注意

[BTRON] [BTRON-R1] [VJE-Delta-SP] [Windows] など、システムに標準で登録されている定義ファイルと同名の定義ファイルは登録しないでください。

4. カスタマイズされたキー割り当て定義ファイルが登録されます。
登録した入力方式はただちに有効になります。



補足

キー割り当て定義ファイルについての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈起動と終了〉―〈準備〉―〈キー割り当て定義ファイル〉をご覧ください。

3 ローマ字とかなの対応の定義ファイル



ポイント

ローマ字とかなの対応に関する定義ファイルをカスタマイズしている場合は、ローマ字辞書定義ファイルを保存しておく、超漢字 V でも利用できます。



注意

定義ファイルの変更は、原則としてサポート対象外となります。

2

超漢字シリーズからのデータ移行方法

2.4.3 (A)

データの保存（超漢字シリーズの操作）

1. [小物] メニューの [ユーザ環境設定] を選び、[かな漢字変換設定] をクリックします。
かな漢字変換設定のウィンドウが開きます。
2. 〈ローマ字〉の見出しを選びます。
3. カスタマイズされたローマ字辞書定義ファイルを選び、[保存] メニューの [新しい実身へ] を選びます。
4. 保存先と実身名を指定するパネルが現れます。
保存先のディスクを確認して、実身名を入力します。
5. [保存] スイッチを押します。
初期ウィンドウにローマ字辞書定義ファイルの仮身が現れます。
6. 現れた仮身をキャビネットに移動します。

「2.1 操作の手順」(p.172) に従って、超漢字 V へ移行します。

2.4.3 (B) 登録（超漢字 V の操作）

1. [小物] メニューの [ユーザ環境設定] を選び、[かな漢字変換設定] をクリックします。
かな漢字変換設定のウィンドウが開きます。
2. 〈ローマ字〉の見出しを選びます。
3. 超漢字シリーズで保存したローマ字辞書定義ファイルの仮身を選び、〈ローマ字〉の見出しにドラッグします。



注意

[BTRON-nn] [BTRON-n] [VJE] [Windows] など、システムに標準で登録されている定義ファイルと同名の定義ファイルは登録しないでください。

4. カスタマイズされたローマ字辞書定義ファイルが登録されます。
登録した入力方式はただちに有効になります。



補足

ローマ字辞書定義ファイルについての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈起動と終了〉―〈準備〉―〈ローマ字辞書定義ファイル〉をご覧ください。

4 キー配列変更定義ファイル



ポイント

キー配列変更定義ファイルをカスタマイズしている場合は、キー配列変更定義ファイルを保存しておく、超漢字 V でも利用できます。

2



注意

定義ファイルの変更は、原則としてサポート対象外となります。また、VMware Player の制限により、キー配列変更の設定が有効にならない場合があります。

2.4.4 (A)

データの保存（超漢字シリーズの操作）

1. 初期ウィンドウの「小物箱」をダブルクリックし、さらに、「キー配列変更」をダブルクリックします。
キー配列変更小物が起動します。
2. 「登録／保存」メニューの「実身に保存」を選びます。
3. 保存先と実身名を指定するパネルが現れます。
保存先のディスクを確認して、実身名を入力します。
4. 「保存」スイッチを押します。
初期ウィンドウにキー配列変更定義ファイルの仮身が現れます。
5. 現れた仮身をキャビネットに移動します。

「2.1 操作の手順」（p.172）に従って、超漢字 V へ移行します。

2.4.4 (B) 登録（超漢字 V の操作）

1. 初期ウィンドウの「小物箱」をダブルクリックし、さらに、「キー配列変更」をダブルクリックします。
キー配列変更小物が起動します。
2. 超漢字シリーズで保存したキー配列変更定義ファイルの仮身を選び、キー配列変更のウィンドウにドラッグします。
3. 新しいキー配列を登録することを確認するパネルが現れます。
「確認」をクリックします。
4. 「登録／保存」メニューの「システムへ登録」を選びます。
カスタマイズされたキー配列が登録されます。



補足

キー配列変更小物についての詳細は、取扱説明書の〈目次〉―〈基本項目〉―〈アクセサリ〉―〈キー配列変更〉をご覧ください。

かな漢字変換

超漢字 V で、かな漢字変換を使って記号を入力する方法と、ローマ字入力でかなに変換する方法を一覧にして説明します。

かな漢字変換

1 かな漢字変換を使った記号入力

かな漢字変換を使って、読みや名称から記号に変換することができます。

記号	読み
、	てん とうてん
。	くてん まる
、	かんま てん
・	ぴりおど まる
・	なかぐろ なかてん
：	ころん
：	せみころん
？	ぎもんふ くえすちよん くえすちよん くえっしょん はてな
！	えくすくらめーしょん びっくり びっくりまーく
＝	あんだーすこあ
//	おなじ どう
々	おなじ どう
メ	しめ
/	すらっしゅ
～	から より
・	あぼすとりふい あぼすとりふいー しんぐるくおーてーしょん しんぐるくおーと
"	だぶるくおーてーしょん
""	かっこ
()	かっこ
□	かっこ
	かっこ
◇	かっこ
◊	かっこ
「」	かっこ
『』	かっこ
【】	かっこ
(	([{ 「
)	)] } 」
[	([{ 「
]	)] } 」
{	([{ 「
}	)] } 」
<	([{ 「
>	)] } 」
《	([{ 「
》	)] } 」
「	([{ 「
」	)] } 」
『	([{ 「
』	)] } 」
【	([{ 「
】	)] } 」
+	たす ぶらす
－	はいふん ひく まいなす
±	ぶらすまいなす
×	かける まい

記号	読み
÷	わる
=	いこーる
#	ひとしくない ふとうごう
<	しょうなり ふとうごう
>	だいなり ふとうごう
≤	いか ふとうごう
≥	いじょう ふとうごう
∞	むげん むげんだい
∴	したがって ゆえに
♂	おす おとこ
♀	おんな めす
°	ど
'	ふん
″	びょう
℃	せっし ど どしー
¥	えん えんきごう
	えんさいん
\$	どる
¢	せんと
£	ぼんど
%	ばーせんと
#	しゃーぷ
&	あんど あんぱさんど
*	あすたりすく あすてりすく
@	あっとまーく
§	せくしょん
☆	しろほし ほし
★	くろほし ほし
○	まる
○×	まるぼつ
●	くろまる まる
◎	にじゅうまる まる
◇	しかく ひしがた
◆	くろひしがた しかく
	ひしがた
□	しかく
■	くろしかく しかく
△	さんかく
▲	くろさんかく さんかく
▽	さんかく
▼	くろさんかく さんかく
※	こめ こめじるし ほし
〒	ゆうびん
→	みぎや やじるし
←	ひだりや やじるし
↑	うえや やじるし
↓	したや やじるし
▽	なぶら
∴	なぜならば
∕	おんぐすとりーむ
‰	ばーみる
†	だがー
‡	だぶるだがー
∕	あるふぁ あるふぁー

記号	読み
B	べーた べーたー
Γ	がうす がんま がんまー
Δ	でるた
E	えぶしろん
Z	じーた
H	いーた
Θ	しーた てーた
I	いおた
K	かっぱ
Λ	らむだ
M	みゅー
N	にゅー
Ξ	くさい くしー
O	おみくろん
Π	ばい
P	ろー
Σ	しぐま
T	たう
Υ	ゆぶしろん
Φ	ふあい
X	かい
Ψ	ぶさい
Ω	おーむ おめが
α	あるふあ あるふぁー
β	べーた べーたー
γ	がんま がんまー
δ	でるた
ε	いぶしろん えぶしろん
ζ	じーた
η	いーた
θ	しーた てーた
ι	いおた
κ	かっぱ
λ	らむだ
μ	まいくろ みくろん みゅー
ν	にゅー
ξ	くさい くしー
ο	おみくろん
π	ばい
ρ	ろー
σ	しぐま
τ	たう
υ	ゆぶしろん
φ	ふあい
χ	かい
ψ	ぶさい

2 ローマ字変換表

ローマ字入力には、BTRON-nn 方式、BTRON-n 方式、VJE 方式、Windows 方式の 4 つの方式があります。



初期設定ガイドンスやユーザ環境設定小物を使って、ローマ字入力方式を変更できます。

3.2.1 BTRON-nn 方式／BTRON-n 方式

「ん」の入力形式によって、BTRON-nn 方式と BTRON-n 方式に分かれます。

「ん」は、以下のいずれかの方法で入力します。

- 「n」の次に「a」「i」「u」「e」「o」「A」「I」「U」「E」「O」「y」「x」「r」以外の文字を入力する。

BTRON-nn 方式：

「n」の次に入力した文字は「n」以外が有効になる。

「nn」は常に「ん」となる。

BTRON-n 方式：

「n」の次に入力した文字が有効になる。

- [Shift] + [n] キーを押す。
- 「x」「n」と入力する。
- 「n」「x」と入力する。
- 「n」「r」と入力する。

「っ」は、以下のいずれかの方法で入力します。

- [Shift] + [t] キーを押す。
- 次の子音を 2 つ続けて入力する。
- 「xtu」と入力する。
- 「xtsu」と入力する。

「ー」(長音)は、以下のいずれかの方法で入力します。

- [Shift] + [h] キーを押す。
- [-] (ハイフン) キーを押す。

「、」(読点)は、以下の方法で入力します。

- [,] (カンマ) キーを押す。

「。」(句点)は、以下の方法で入力します。

- [.] (ピリオド) キーを押す。

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
	yi	wu		
か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
ca	ci	cu	ce	co
		qu		
さ	し	す	せ	そ
sa	si	su	se	so
	shi			
た	ち	つ	て	と
ta	ti	tu	te	to
	chi	tsu		
な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	hu	he	ho
		fu		
ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
や		ゆ	い	え
ya		yu	ye	yo
ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
la	li	lu	le	lo
わ	ゐ		ゑ	を
wa	wi		we	wo
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	zi	zu	ze	zo
	ji			
だ	ぢ	づ	で	ど
da	di	du	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po

きゃ	きい	きゅ	きえ	きょ
kya	kyi	kyu	kye	kyo
しゃ	しい	しゅ	しえ	しよ
sya	syi	syu	sye	syo
sha		shu	she	sho
ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
tya	tyi	tyu	tye	tyo
cya	cyi	cyu	cye	cyo
cha		chu	che	cho
にゃ	にい	にゅ	にえ	にょ
nya	nyi	nyu	nye	nyo
ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
hya	hyi	hyu	hye	hyo
ふゃ		ふゅ		ふよ
fya		fyu		fyo
ふぁ	ふい		ふえ	ふお
fa	fi		fe	fo
	fyi		fye	
みゃ	みい	みゅ	みえ	みよ
mya	myi	myu	mye	myo
りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ
rya	ryi	ryu	rye	ryo
ly	lyi	lyu	lye	lyo
ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
gya	gyi	gyu	gye	gyo
じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
zya	zyi	zyu	zye	zyo
jya	jyi	jyu	jye	jyo
ja		ju	je	jo
ぢゃ	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
dya	dyi	dyu	dye	dyo
びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ
bya	byi	byu	bye	byo
びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ
pya	pyi	pyu	pye	pyo
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
va	vi	vu	ve	vo

ん				
N	nx	xn	nn ^{*1}	
てゃ	てい	てゅ	てえ	てょ
tha	thi	thu	the	tho
	tl			
たぁ		とう	てえ	とぉ
tA		tU	tE	tO
でゃ	でい	でゅ	でえ	でょ
dha	dhi	dhu	dhe	dho
	dl			
だぁ		どう	でえ	どぉ
dA		dU	dE	dO
つぁ	つい		つえ	つぉ
tSa	tsi		tse	tso
くわ	くい	くう	くえ	くお
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo
qwa	qwi	qwu	qwe	qwo
qa	qi		qe	qo
ぐわ	ぐい	ぐう	ぐえ	ぐお
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo
ぁ	い	う	え	お
xa	xi	xu	xe	xo
	xyi	xwu	xye	
A	I	U	E	O
	yl	wU	yE	
ゃ		ゅ		ょ
xya		xyu		xyo
yA		yU		yO
わ	うい		うえ	うお
xwa	xwi		xwe	xwo
wA	wl		wE	wO
っ ^{*2}		カ		ケ
xtu		xka		xke
xtsu				
T		kA		kE

※ 1 nn 方式の場合

※ 2 次の子音を 2 つ続けても入力可能

3.2.2 VJE 方式

「ん」は、以下のいずれかの方法で入力します。

- 「nn」と入力する。
- 「n'」と入力する。

「っ」は、以下の方法で入力します。

- 「xtu」と入力する。

「ー」(長音)は、以下の方法で入力します。

- 「-」(ハイフン)キーを押す。

「、」(読点)は、以下の方法で入力します。

- 「,」(カンマ)キーを押す。

「。」(句点)は、以下の方法で入力します。

- 「.」(ピリオド)キーを押す。



入力する文字に、大文字、小文字の区別はありません。大文字、小文字のどちらを入力しても同じ変換結果になります。

3

かな漢字変換

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
ca	ci			co
さ	し	す	せ	そ
sa	si	su	se	so
	shi			
			ce	
た	ち	つ	て	と
ta	ti	tu	te	to
	chi	tsu		
な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	hu	he	ho
		fu		
ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
や	い	ゆ	い	え
ya	yi	yu	ye	yo
ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
la	li	lu	le	lo
わ		う		を
wa		wu		wo
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	zi	zu	ze	zo
	ji			
だ	ぢ	づ	で	ど
da	di	du	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po
きゃ	き	きゅ	きえ	きょ
kya	kyi	kyu	kye	kyo
		cu		

しゃ	しい	しゅ	しえ	しよ
sya	syi	syu	sye	syo
sha		shu	she	sho
ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
tya	tyi	tyu	tye	tyo
cya	cyi	cyu	cye	cyo
cha		chu	che	cho
にゃ	にい	にゅ	にえ	にょ
nya	nyi	nyu	nye	nyo
ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
hya	hyi	hyu	hye	hyo
ふゃ		ふゅ		ふよ
fya		fyu		fyo
ふぁ	ふい		ふえ	ふお
fa	fi		fe	fo
	fyi		fye	
みゃ	みい	みゅ	みえ	みよ
mya	myi	myu	mye	myo
りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ
rya	ryi	ryu	rye	ryo
ly	lyi	lyu	lye	lyo
ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
gya	gyi	gyu	gye	gyo
じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
zya	zyi	zyu	zye	zyo
jya	jyi	jyu	jye	jyo
ja		ju	je	jo
ぢゃ	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
dya	dyi	dyu	dye	dyo
びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ
bya	b yi	byu	bye	byo
ぴゃ	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ
pya	pyi	pyu	pye	pyo
ゎ	ゎい	ゎ	ゎえ	ゎお
va	vi	vu	ve	vo
	v yi		vye	
ゎゃ		ゎゅ		ゎよ
vya		vyu		vyo
ん				
nn	n'			

てゃ	てい	てゅ	てえ	てよ
tha	thi	thu	the	tho
		twu		
でゃ	でい	でゅ	でえ	でよ
dha	dhi	dhu	dhe	dho
		どう		
		dwu		
つぁ	つい		つえ	つお
t	tsi		tse	tso
くぁ	くい	く	くえ	くお
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo
q	qi	qu	qe	qo
くゃ	くい	くゅ	くえ	くよ
qya	qyi	qyu	qye	qyo
ぐわ	ぐい	ぐ	ぐえ	ぐお
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo
あ	い	う	え	お
xa	xi	xu	xe	xo
	xyi		xye	
ゃ		ゅ		よ
xya		xyu		xyo
うぁ	うい	う	うえ	うお
wha	whi	whu	we	who
	wi		we	
わ				
xwa				
っ		カ		ケ
xtu		xka		xke

3.2.3 Windows 方式

「ん」は、以下のいずれかの方法で入力します。

- 「nn」と入力する。
- 「xn」と入力する。
- 「n'」と入力する。

「っ」は、以下のいずれかの方法で入力します。

- 「xtu」と入力する。
- 「ltu」と入力する。
- 「ltsu」と入力する。

「ー」(長音)は、以下の方法で入力します。

- 「-」(ハイフン)キーを押す。

「、」(読点)は、以下の方法で入力します。

- 「,」(カンマ)キーを押す。

「。」(句点)は、以下の方法で入力します。

- 「.」(ピリオド)キーを押す。



補足

入力する文字に、大文字、小文字の区別はありません。大文字、小文字のどちらを入力しても同じ変換結果になります。

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
	yi	wu		
		whu		
か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
ca		cu		co
		qu		
さ	し	す	せ	そ
sa	si	su	se	so
	shi			
	ci		ce	
た	ち	つ	て	と
ta	ti	tu	te	to
	chi	tsu		
な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	hu	he	ho
		fu		
ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
や		ゆ	い	え
ya		yu	ye	yo
ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
わ				を
wa				wo
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	zi	zu	ze	zo
	ji			
だ	ぢ	づ	で	ど
da	di	du	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po
きゃ	きい	きゅ	きえ	きょ
kya	kyi	kyu	kye	kyo

しゃ	しい	しゅ	しえ	しょ
sya	syi	syu	sye	syo
sha		shu	she	sho
ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
tya	tyi	tyu	tye	tyo
cya	cyi	cyu	cye	cyo
cha		chu	che	cho
にゃ	にい	にゅ	にえ	にょ
nya	nyi	nyu	nye	nyo
ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひょ
hya	hyi	hyu	hye	hyo
ふゃ		ふゅ		ふょ
fya		fyu		fyo
ふぁ	ふい	ふう	ふえ	ふぉ
fwa	fwi	fwu	fwe	fwo
fa	fi		fe	fo
	fyi		fye	
みゃ	みい	みゅ	みえ	みょ
mya	myi	myu	mye	myo
りゃ	りい	りゅ	りえ	りょ
rya	ryi	ryu	rye	ryo
ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎょ
gya	gyi	gyu	gye	gyo
じゃ	じい	じゅ	じえ	じょ
zya	zyi	zyu	zye	zyo
jya	jyi	jyu	jye	jyo
ja		ju	je	jo
ぢゃ	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢょ
dya	dyi	dyu	dye	dyo
びゃ	びい	びゅ	びえ	びょ
bya	byi	byu	bye	byo
ぴゃ	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴょ
pya	pyi	pyu	pye	pyo
ヴぁ	ヴい	ヴ	ヴえ	ヴぉ
va	vi	vu	ve	vo
	vvi		vve	
ヴゃ		ヴゅ		ヴょ
vya		vyu		vyo
ん				
nn	n'	xn		

くぁ	くい	くう	くえ	くぉ
qwa	qwi	qwu	qwe	qwo
qa	qi		qe	qo
kwa	qyi		qye	
くゃ	くい	くゅ	くえ	くょ
qya		qyu		qyo
ぐぁ	ぐい	ぐう	ぐえ	ぐぉ
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo
すぁ	すい	すう	すえ	すぉ
swa	swi	swu	swe	swo
つぁ	つい		つえ	つぉ
tsa	tsi		tse	tso
てゃ	てい	てゅ	てえ	てょ
tha	thi	thu	the	tho
とぁ	とい	とう	とえ	とぉ
twa	twi	twu	twe	two
でゃ	でい	でゅ	でえ	でょ
dha	dhi	dhu	dhe	dho
どぁ	どい	どう	どえ	どぉ
dwa	dwi	dwu	dwe	dwo
ぁ	い	う	え	ぉ
la	li	lu	le	lo
xa	xi	xu	xe	xo
	xyi		xye	
	lyi		lye	
ゃ		ゅ		ょ
lya		lyu		lyo
xya		xyu		xyo
うぁ	うい		うえ	うぉ
wha	whi		we	who
	wi		we	
わ				
xwa	lwa			
っ		カ		ケ
xtu		xka		xke
ltu		lka		lke
ltsu				

索引

BTRON (方式)
 キー操作 67
 キー割当 36, 66
BTRON-n (方式) 182
BTRON-nn (方式) 182
BTRON-R1 (方式) 66
BTRON 作法 82
CD-ROM 70, 72
 検出方法 72
Ethernet スイッチ 19, 76
GT 書体フォント 91, 99, 102, 129
Insert 33, 71
IP アドレス 50, 77
i モード 91, 99, 171
JIS 91, 99, 170
 第 1 水準 91, 99, 170
 第 2 水準 91, 99, 170
 第 3 水準 91, 99, 170
 第 4 水準 91, 99, 170
 補助漢字 91, 99, 170
PC カード 68
TAD 形式 52, 53, 124, 174
 変換する 53
TRON コード 90, 91
Unicode 91, 171
URL 入力 34, 117
USB フラッシュメモリ (USB メモリ) 19, 71, 172, 176
VJE (方式) 183
VJE-Delta-SP (方式) 66
VMware 72, 76, 77
 システム環境設定 72
 ネットワーク設定 76, 77
VMware Player 16, 19
 CD-ROM 接続 19, 72
 Google サーチバー 20
 USB デバイス接続 19, 71
 ウィンドウメニュー 19
 仮想マシン名 19
 画面 19
 最小化 19
 最大化 19, 69
 閉じる 19
 ネットワーク接続 19, 76
 フロッピーディスク接続 19, 71
 メッセージエリア 20
 メニュー 20
Windows (方式)
 キー操作 67
 キー割当 66
 ローマ字変換 184
Windows プリンタ 56, 73, 138
 再登録する 57, 73

Windows との連携機能
 Windows 用のファイル形式に変換する 52
 超漢字標準のファイル形式に変換する 53
 文字列を切り貼りする 46
 ユーザ登録辞書を交換する 54
Windows ホストアドレス 50, 77

あ

アーヴ文字 74, 171
アプリケーション 10
 起動 21
 強制終了 33
 原紙タイプ 10
 小物タイプ 10, 13
異体字 98
位置を調整する 115
移動 85
 拘束する 86
 スクロールする 86
 ほかのウィンドウへ 86
イネーブルウェア 64
色の変更 113
印刷 126, 137
 印刷設定 56, 138
 カード印刷設定 136
 画面表示 138
 調整 57, 138
インジケータ 26
 OFF マーク 26
 ON マーク 26
陰陽五行文字 171
ウィンドウ 18, 27
 いちばん後ろへ 29
 いちばん前に出す 29
 移動 29
 大きさを変える 30
 基本操作 29
 全画面表示 30
 操作の対象 18
 閉じる 27
 取り消し 28, 108
 開く 27
 保存 28, 108
 保存しない 28, 108
 元の大きさへ戻す 30
英数字の入力 106
大きさを変える 87
 拘束する 87

か

カード
→マイクロカード参照
カード用紙 11, 126
→マイクロカード参照
カードを設計する
一覧表示幅 127
項目名 127
最大文字数 127
種類 127
書体 127
仮身 18, 37
移動 41
削除 41, 42
作成 21
参照関係 38
実身を表示する 40
整頓 109
属性変更 149
長さを変える 40, 109
表示 149
開いた仮身 40, 148
複写 39, 40
仮身一覧 10
仮身参照 38
各国 (Unicode) 91, 99
かな漢字変換 181
BTRON 方式 36
Windows 方式 33
かな漢字変換設定 65
キー割当 65
動作モード 65
ローマ字 65
かな漢字変換のキー割り当て
BTRON 方式 65, 66
BTRON-R1 方式 65, 66
VJE-Delta-SP 方式 65, 66
Windows 方式 65
かな漢字変換の入力方式 65
かな入力 65
初期設定ガイダンス 33, 65
ローマ字入力 65
ローマ字入力に戻す 33
画面 18, 72
設定 74
画面印刷 14
画面サイズ 19
全画面で表示する 69
ディスプレイより大きい場合 69
ディスプレイより小さい場合 69
変更する 68
画面サイズ／色数 68
画面の設定 74
基本ブラウザ 118

書体 74
スクリーンセーバー 74
背景 74
配色 74
画用紙 11, 109, 132
→基本図形編集参照
空書庫 12
→書庫管理参照
韓国 (文字種) 91, 99, 170
韓国漢字 170
ハングル 170
韓国語の入力 165
漢字検索 92
画数を指定する 93
かけ算検索 95
カタカナや記号を使う 95
検索 92
検索キー 92
検索設定 92
構成部品 92
条件の絞り込み 95
部首一覧 92
マイナス検索 94
読み 92
漢字部首辞書 92
簡体字 (中国語) 164
関連字 98, 99
キー操作 67
キー配列変更定義ファイル 180
データの保存 180
登録 180
キーボード 32, 70
キーの名前 32
設定 70
キー割り当て定義ファイル 178
データの保存 178
登録 178
記号検索 96
検索 96
検索設定 96
構成部品 97
字種 96
部首一覧 96
部品入力欄 96
分類 96
名称入力欄 96
記号入力 181
起動 16
基本図形編集 11, 104
グループ化 155, 156
格子点 110
属性 113
テンプレート 110
道具パネル 110, 133
基本通信 12

基本表計算 11, 139
 アクティブセル 140
 値の入力 144
 行ラベル 140
 金額の表記 142
 計算式 145
 計算式を一度に入力する 146
 罫線 142
 コンソール 141
 書式 142
 セル 140
 選択範囲 140
 データの削除 146
 日付の表記 142
 ボーダーライン 140
 列ラベル 140
 枠線 140
基本ブラウザ 11, 116
 閲覧する 116
 画面の色を変える 118
 起動 116
 書体を変える 118
 接続できない場合 116
 閉じる 118
 文字の大きさを変える 118
 ユーザ設定 118
基本文章編集 10, 104, 139
 原稿モード 105
 詳細モード 105
 書体を変える 107
 図形を取り込む 114
 清書モード 105, 108
 内容を確認する 108
 表示モード 105
 文字の位置を変える 107
 文字の大きさを変える 107
逆変換 36
キャビネット 10
共有フォルダ参照 15, 49, 125
 Windows 側の設定 49
 格納する 51
 超漢字 V に取り込む 52
 超漢字 V の設定 50
 ネットワークで共有する 49
区点入力パネル 103
クリップボード 46, 47, 48
グループ化 155
計算用紙 11, 140
 →基本表計算参照
原稿用紙 10, 104, 147
 →基本文章編集参照
言語指定コード 169
原紙 10, 21
 ユーザ原紙 150
原紙集め 15

原紙一覧 12
原紙箱 12, 150
 作成 150
 自動起動を解除する 21
 登録 150
原紙を取り出す 10, 38
拘束する 86, 87
コード一覧 90
 TRON コード 90, 91
 テキスト形式 TRON コード 90
 文字コード 90, 169
 文字種 90
小物 13, 22
 起動 22
 小物一覧 12
 小物メニュー 22
 メニューに現れない小物 22
小物箱 12, 22
 →小物参照
コンソール 141
 確定ボタン 141
 選択ボックス 141
 取消ボタン 141
 編集ボックス 141
コンソール小物 67

さ

削除 88
座標
 基本図形編集 158-160
 セル（基本表計算） 141
座標位置 158
座標パネル 154
システム CD 78
システム環境設定 13, 68
 画面 68
 機器 68
 起動 68
 書体 68
 バージョン 68
 プリンタ 68
システムスクリプト 169, 170
システムの再登録 79
システムを復旧する 78
実行機能付せん 154
実身 37
 新しい実身へ保存する 44, 45
 作成 21, 38
 実身複製 42-43
 実身名 21, 39
 実身名を変更する 45
 元の実身へ保存する 43
実身仮身検索 38

実身／仮身モデル 38-43
 周辺機器
 設定 70
 終了 16
 ウィンドウの状態を保持したまま終了する 17
 住民基本台帳収録変体仮名 171
 ショートカット 38
 ショートカットキー 26
 初期ウィンドウ 16, 18
 初期設定ガイドンス 64
 書庫管理 12, 174
 書庫形式 174
 データの圧縮 174
 データの展開 174
 序数記号 171
 書体 74, 107
 基本文章編集 107, 147
 登録する 74
 マイクロカード 129
 新機能に関する設定 72
 スクリプト
 →マイクロスクリプト参照
 スクリプト（文字コード表） 169
 スクリプト実身 154
 →マイクロスクリプト参照
 スクリプトのデータ量 169
 スクリプト用紙 12, 153
 →マイクロスクリプト参照
 スクロール 31
 スクロールバー 28
 スペイン語の入力 163
 星界シリーズ 74, 171
 世界文字入力 14, 161
 アジア言語シリーズ 162
 欧州言語シリーズ 162
 その他 162
 起動 161
 追加モジュール 162
 セキュリティ対策 49
 絶対座標 141, 158, 159
 設定ファイル 177
 保存 177
 セル 140
 座標 141
 範囲 141
 全画面で表示する 69
 選択 82
 解除する 84
 クリックによる 82
 選択状態にある 82
 対象を変更する 83
 ドラッグによる 83
 選択枠 21, 82
 相似変形 87
 相対座標 141, 158, 160

属性（図形） 113
 その他（文字種） 91

た

大漢和辞典 91, 99, 171
 タイトルバー 28
 ダイアルアップ 76
 台湾 91, 99, 170
 多漢字 168
 濁点付きひらがな・カタカナ 171
 タブ 106
 中国（文字種）
 中国拡張 91, 99
 中国簡体字 170
 中国基本 91, 99
 中国伝統字 170
 中国語の入力 164
 超漢字 V サービス 56, 73
 超漢字シリーズからのデータ移行
 →データ移行参照
 超漢字の操作ができない 20
 超漢字メール 11, 119
 あとで送信 122
 個人設定 120
 受信 122
 すぐに送信 122
 送受信できない場合 122
 送信 122
 送信しない 122
 通信設定 120
 転送 124
 添付 124
 添付ファイル 124, 125
 添付ファイルの保存 125
 取り消し 122
 返信する 123
 保存しないで終了 122
 メール管理 119
 メール用紙の実身名 121
 読む 123
 中央そろえ 107, 115
 ちらつき枠 21, 82
 通信記録箱 12
 使える文字 170
 データ移行 172
 操作の手順 172
 バックアップ小物 172
 ファイル変換 172, 175
 ユーザデータの登録 172
 ユーザデータの保存 172
 テキスト形式 TRON コード 46, 90, 100
 手帳用紙 12
 電源管理 72

点字 92, 170
電子手帳 12
テンプレート 110, 112
ドイツ語の入力 163
道具パネル 110, 133
画材 110, 133
角属性パレット 110, 133
キャンパス 110, 133
格子点間隔マーク 110, 111, 133
格子点表示マーク 110, 111, 133
座標／変位 110, 133
サブパネル表示マーク 110, 133
三角点 110, 133
ステンシル 110, 113, 133
線種パレット 110, 111, 133
選択指 110, 113, 133
線パレット 110, 111, 133
テンプレート 110, 112
描画パレット 110, 133
表示倍率 110, 133
文字／書式 110, 133
特殊文字 135
取扱説明書 3, 4, 13, 58
HTML 形式 62
PDF 形式 62
ヘルプ形式 62
取扱説明書小物 58
起動 58
索引から調べる 60
終了 58
目次から調べる 59
履歴を呼び出す 61
トレー 14, 46-48
トレーとクリップボード 46, 72
トンパ文字 91, 99, 171

な

日本基本 91, 99
日本補助 91, 99
入力モード 18
ネットワーク 19, 76
Ethernet スイッチ 19, 76
接続 19, 76
ネットワーク設定 13, 76
VMware 76
VMware Player の設定 76
アドレス 76
ノブ 28

は

バージョン 75

背景 18, 28
バックアップ 15, 173
バックアップ小物 173
バックアップファイル 173
復帰 174
保存 173
ハングル 170
→韓国（文字種）参照
ハンドル 28
ピクトグラム 18, 28
表示モード 105
原稿モード 105
詳細モード 105
清書モード 105, 108
開いた仮身 40, 148
ピンイン 164
ファイルの出力 52
ファイルの入力 53
ファイル変換 15, 175, 176
アーカイブ 52, 53
画像 52, 53
書庫 52, 53, 174
ファイル出力変換 51
ファイル入力変換 53
文章 52, 53
無変換 52, 53
ファイル変換小物 71
フォーマット 71
複写 85
拘束する 86
スクロールする 86
ほかのウィンドウへ 86
複写ドラッグ 24, 39, 114
舞台 153
ブックマーク 117
登録する 117
ブラウザ
→基本ブラウザ参照
ブラウザ用紙 11, 116
→基本ブラウザ参照
フランス語の入力 162
フリーソフトを登録する 75
プリンタ 56
Windows に接続されたプリンタで印刷する 56
再登録 57, 73
設定 56, 73
プログラミング言語 T 12
プログラミング言語 T 開発環境 12
フロッピーディスク 71
検出方法 71
接続 19
変換
カタカナ 34
かなを漢字に変換する 35
候補が確定する 106

取り消し 36
文節の句切りを変更 35
文節を移動 36
変換候補 36
変形する 87
 大きさ 87
 相似変形 87
編集操作 82
編集メニューのキー割り当て
 BTRON 方式 67
 Windows 方式 67
変体仮名 91, 171
ポインタ 18, 23
 移動手 23
 修正選択指 23
 選択指 23
 つまみ 23
 握り 23
 プリメニュー 23
 変形手 23
 湯飲み 23
ホットポイント 23
ポップアップセレクト 110
ホツマ文字 171

ま

マイクロカード 126
 一覧ウィンドウ 127
 カードウィンドウ 126
 カードを入れ替える 131
 カードを追加する 130
 カードをめくる 131
 起動 126
 設計画面 127
マイクロスクリプト 12, 152
 起動 154
 スクリプト 152
 スクリプト実身 154, 156
 台本 152
 舞台 153
 文 156
 命令 156
 役者 153
 役者の名前 155
 約束事 156
マイクロスクリプトのエンジン 153
マイクロスクリプトのプログラミング 153
マイクロスクリプトのプログラム 153
マウス 24
 クリック 24
 クリックドラッグ 24
 クリックプレス 24
 操作性の調整 24

ダブルクリック 24
ドラッグ 24
複写ドラッグ 24
プレス 24
右クリック 24
メインボタン 24
メニューボタン 24
リリース 24
メール
 →超漢字メール参照
メール管理 11, 119, 121
 →超漢字メール参照
メール箱 11, 121
 →超漢字メール参照
メール用紙 11, 121
 →超漢字メール参照
メッセージエリア
 VMware Player 20
 超漢字 V 18
メニュー 25
 現れる時間を調整する 26
 親メニュー 26
 項目を選ぶ 25
 子メニュー 25
 表示 25
メニュー文字 26, 64, 67
文字検索 13, 89
 Windows に複写する 100
 ウィンドウの大きさ 90
 起動 89
 原稿用紙に保存する 102
 複写する 100
 文字一覧の表示サイズ 90
 ユーザ辞書に登録する 100
文字検索小物
 外部辞書スイッチ 89
 漢字検索 89
 記号検索 89
 コード一覧 89
 ページ移動スイッチ 89
 ページ数 89
 文字一覧エリア 89
 文字コード欄 89
 文字情報 89
文字コード 169
文字コード表 169
文字種 102
文字情報 98
 関連字エリア 98, 99
 同定字エリア 98, 99
 ほかのウィンドウの文字情報をみる 99
 マークの意味 99
文字入力 33
英数字 34, 106
英数字（大文字） 34

英数字（半角幅）	34
カタカナ	34
漢字	35
ひらがな	33
文字列を切り貼りする	
& T 表記の変換	46
1 バイト文字を半角修飾に対応づける	46
Windows → 超漢字 V	48
設定	46
超漢字 V → Windows	47
トレーとクリップボード	46

や

ユーザ環境設定	13, 64
PD 属性	64
音属性	64
キー操作	64
キー属性	64
起動	64
個人属性	64
表示属性	64
ユーザ原紙	150
ユーザ辞書	14, 100, 177
データの保存	177
登録	100, 177
ユーザ登録辞書を交換する	54

Windows に設定する	54
超漢字 V に設定する	54
郵便番号辞書	14, 131
あいまい住所検索	131
住所を調べる	131
郵便番号を調べる	131
曜日と時計	18

5

リンク	117
レイアウト（印刷）	132, 136
カードに設定する	136
レイアウトキャビネット	132
レイアウト図形実身	132
設定	132
ローマ字とかなの対応	66
ローマ字とかなの対応の定義ファイル	179
BTRON-n 方式	182
BTRON-nn 方式	182
VJE 方式	183
Windows 方式	184
データの保存	179
登録	179
ローマ字辞書定義ファイル	179
ローマ字変換表	182-184

補足見出し一覧

原紙箱の自動起動を解除するには	21
小物メニューに現れない小物	22
メニューが現れる時間を調整する	26
アプリケーションの強制終了	33
画面右下隅に [R] が表示されない場合	33
あとからカタカナに変換する	34
英数字の大文字を入力する	34
英数字を半角幅で入力する	34
逆変換	36
BTRON 方式のかな漢字変換	36
仮身の中に実身を表示する	40
トレーとクリップボード	46
ファイルの出力方法	52
ファイルの入力方法	53
Windows プリンタの再登録	57
イネーブルウェア	64
[BTRON - R1] 方式	66
ファイル変換小物	71
Unicode 番号の指定	91
漢字部首辞書	92
文字情報マークの意味	99
Windows のアプリケーションに複写する	100
英数字の入力	106
タブの入力	106
郵便番号辞書	131
カードの順番を入れ替える	131
道具パネル	133
特殊文字	135
開いた仮身	148
実行機能付せん	154
スクリプトを書くときの約束事	156
世界文字入力追加モジュール	162
書庫形式でファイルを移行する	174

超漢字 V クイックリファレンス

1 用語集

超漢字 V の用語集です。

実身と仮身 (p.18、p.37)

- 実身: データの本体です。Windows のファイルにあたります。
- 仮身: 実身を指すものです。Windows のアイコンやショートカットにあたります。

原稿用紙

初期ウィンドウ (p.18)

最初に開くウィンドウです。机のマークが付いています。



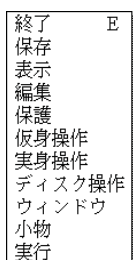
ウィンドウ (p.18)

ウィンドウの中身が実身です。アプリケーションの種類によって左上隅にあるピクトグラムが変わります。



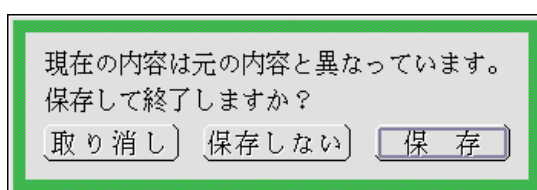
メニュー (p.25)

マウスを右クリックして表示します。操作を指示します。



パネル (p.17)

ユーザへの確認や問い合わせが必要なときに現れます。パネル表示中は、ほかのウィンドウの操作はできません。



カーソル (p.105)

文字を入力する位置を示します。



選択枠 (p.82)

ちらつき枠ともいいます。何かを選択している状態を示します。



ポインタ (p.23)

操作の状況によって形が変わります。



2 マウスの操作

超漢字 V のマウス操作は、Windows と同じ操作に加え、超漢字独自のマウス操作があります。
マウスの動きや反応の速度は、ユーザ環境設定で調整できます。(p.64)

クリック (p.24)

クリックは、左ボタンを押してすぐ離す操作です。Windows の左クリックと同じ操作です。普通に左ボタンを押す感覚で押せば、クリックになります。



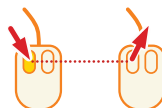
超漢字では、画面上に表示されている何かを選択したり、パネル上のスイッチを押したりする操作に使います。

ドラッグ (p.24)

ドラッグは、左ボタンを押したままマウスを移動し、目的の位置まできたら、左ボタンを離す操作です。Windows のドラッグと同じ操作です。



超漢字では、画面上に表示されている何かを移動する操作に使います。



ダブルクリック (p.24)

ダブルクリックは、左ボタンをすばやく 2 回続けてクリックする操作です。Windows のダブルクリックと同じ操作です。



超漢字では、ウィンドウを開いたり閉じたりする操作に使います。

スクロールマウスおよび 3 ボタンマウス
の場合は、中央のボタンを単にクリックし
てもかまいません。



右クリック (p.24)

右クリックは、右ボタンを押してすぐ離す操作です。Windows の右クリックと同じ操作です。



超漢字では、メニューを表示したり、表示したメニューを消したりするときに使います。

クリックドラッグ (p.24)

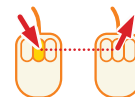
クリックドラッグは、クリックしてすぐにドラッグを始める操作です。Windows では使われない操作です。



超漢字では、実身複製 (F7 実身と仮身参照) の操作に
使います。



スクロールマウスおよび 3 ボタンマウスの場合、
中央のボタンを単にドラッグしてもかまいません。



複写ドラッグ (p.24)

複写ドラッグは、ドラッグを終えるときに、右ボタン
を押したままで左ボタンを離す操作です。Windows
では使われない操作です。



超漢字 V では、画面上に表示されている何かを複写 (コ
ピー) する操作に使います。



補 足

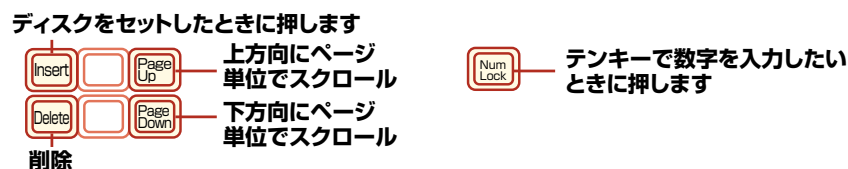
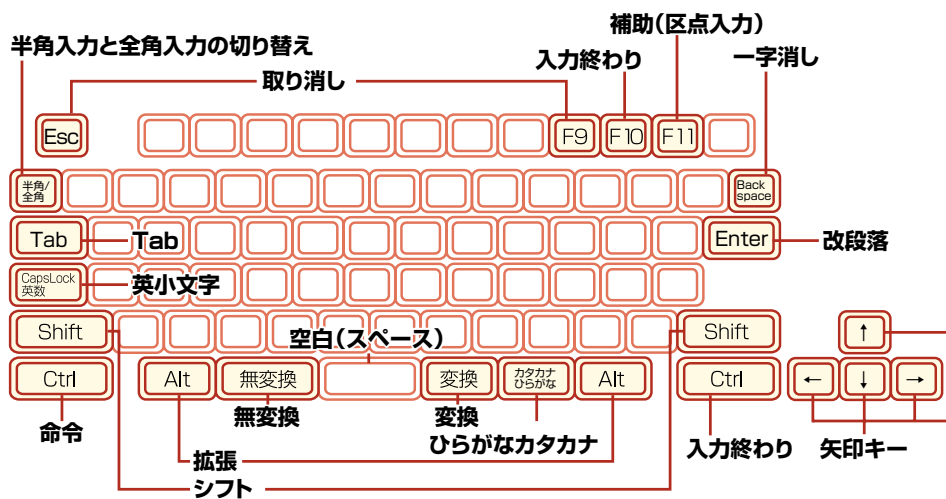
ボタンが 3 つあるマウスの使い方

3 ボタンマウスを使用すると、中央のボタンをクリックするだけでダブルクリックしたり、中央のボタンをドラッグするだけでクリックドラッグしたりできます。ホイールマウス (スクロールマウス) では、ホイールを回転させて、ウィンドウ内をスクロールできます。ホイールをクリックすると、3 ボタンマウスと同じように使うことができます。
(Windows 用のマウスのドライバ設定によっては、超漢字 V で 3 つボタンマウスの中央ボタンをクリックしても、ダブルクリックにならない場合があります。)



3 キーボードの操作

主なキーの名前 (p.32)

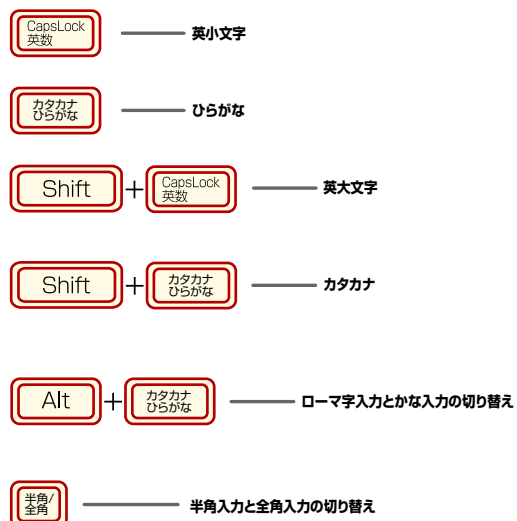


入力モード

以下のキーを押すと、入力モードが変わります。

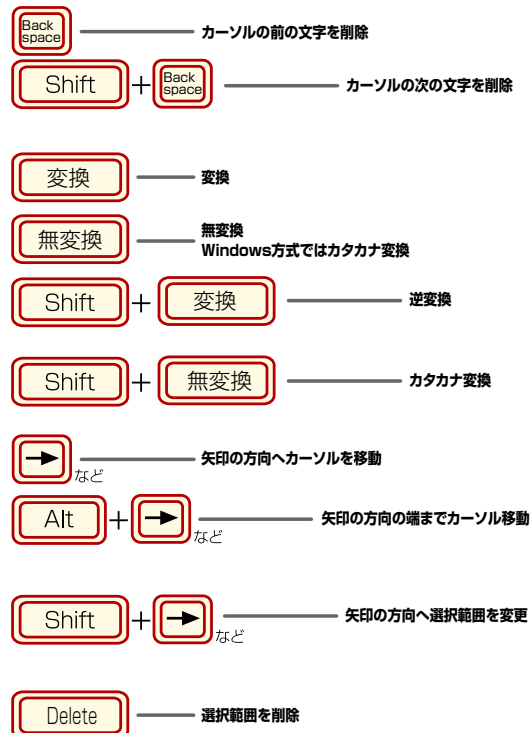


超漢字 V では、入力モードに関係なく、常に全角で入力される場合があります。



編集キー

入力した文字を修正・編集するには、以下のキーを使用します。



4 変換方法

漢字を入力するときは、ひらがなやローマ字で読みを入力してから、漢字に変換します。

BTRON 方式

① 読みの入力

〔ひらがなカタカナ〕キーを押してひらがなモードにしてから読みを入力します。カーソルの位置に読みが入力されます。

 わたしはいしゃです

② 変換

〔変換〕キーを押すと、読みが文節に区切られ、漢字に変換されます。

 私は医者です

正しく変換されていれば、⑦に進みます。

③ 区切り変更

文節の区切りが間違っている場合には、カーソルを移動して文節の長さを調節します。

私は医者です   私は医者です

 [↓] キーでもかまいません。

 [Shift] + [→] キー、または [↑] キーを押すと、右方向にカーソルが移動します。

 縦書き時は [Shift] + [↑] や [Shift] + [↓] を押して、文節の長さを調整します。

正しく変換されていれば、⑦に進みます。

④ 文節の選択

次の文節へ移動するには、[→] を押して、次の文節を白黒反転させます。

私は医者です  私は医者です

 [←] キーを押すと、前の文節を白黒反転させることができます。

 縦書き時は [↑] または [↓] を押します。

⑤ 変換

候補が正しくない場合は、正しい候補になるまで〔変換〕キーを押します。

私歯医者です  私敗者です

⑥ 候補一覧

さらに〔変換〕キーを何度か押すと、候補が一覧表示されます。その中から正しい候補を選びます。

 私歯医者です

1. 歯医者です
2. 敗者です
3. 配車です
4. 魔車です
5. 拝謝です
6. はいしゃです

△▽ 1/6

正しい候補を選んだら、⑦に進みます。

⑦ 確定

右 [Ctrl] キーを押すか、続けて次の読みを入力すると、候補が確定します。

 私歯医者です

① 読みの入力

〔ひらがなカタカナ〕キーを押してひらがなモードにしてから読みを入力します。カーソルの位置に読みが入力されます。

ひらがな わたしはいしゃです

② 変換

〔空白〕（スペース）キーを押すと、読みが文節に区切られ、漢字に変換されます。

私は医者です

正しく変換されていれば、⑦に進みます。

③ 区切り変更

文節の区切りが間違っている場合には、カーソルを移動して文節の長さを調節します。

私は医者です Shift + → 私歯医者です

補足 [Shift] + [→] キーを押すと、右方向にカーソルが移動します。

補足 縦書き時は [Shift] + [↑] や [Shift] + [↓] を押して、文節の長さを調整します。

正しく変換されていれば、⑦に進みます。

④ 文節の選択

次の文節へ移動するには、[→] を押して、次の文節を白黒反転させます。

私歯医者です → 私歯医者です

補足 [←] キーを押すと、前の文節を白黒反転させることができます。

補足 縦書き時は [↑] または [↓] を押します。

⑤ 変換

候補が正しくない場合は、正しい候補になるまで〔空白〕（スペース）キーを押します。

私歯医者です 私敗者です

⑥ 候補一覧

さらに〔空白〕（スペース）キーを何度か押すと、候補が一覧表示されます。その中から正しい候補を選びます。

私歯医者です

- 1. 歯医者です
- 2. 敗者です
- 3. 配車です
- 4. 魔車です
- 5. 拝謝です
- 6. はいしゃです

△ ▽ 1/6

正しい候補を選んだら、⑦に進みます。

⑦ 確定

[Enter] キーを押すか、続けて次の読みを入力すると、候補が確定します。

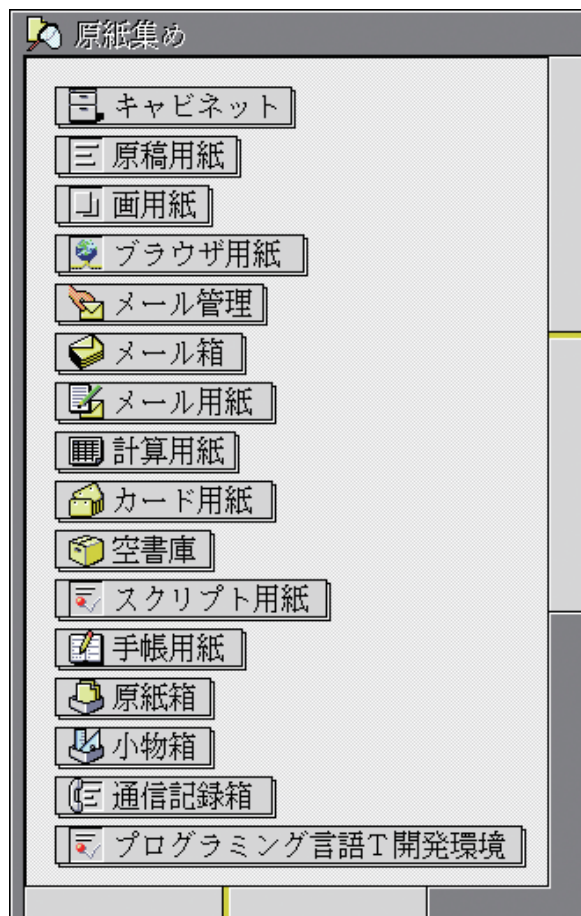
Enter 私歯医者です

5 アプリケーション（原紙）

アプリケーションは、仮身をダブルクリックして起動します。

アプリケーションを使うための新しい仮身は、原紙集めから取り出します。

〔小物〕メニューから〔原紙集め〕を選べると、原紙の仮身が並んだウィンドウが開きます。



原紙を選んでほかのウィンドウにドラッグすると、新しい実身とそれを指す新しい仮身ができます。その仮身をダブルクリックすると、アプリケーションのウィンドウが開きます。

補足 原紙集めにある原紙をダブルクリックすると、初期ウィンドウに仮身が作成され、ただちにウィンドウが開きます。

キャビネット《仮身一覧》(p.10)

仮身を保管したり整理したりできます。Windowsのフォルダにあたります。

原稿用紙《基本文章編集》(p.104)

文章を作成するためのワープロソフトです。多漢字を使った文章を入力し、印刷することができます。仮身や図形を埋め込むこともできます。

画用紙《基本図形編集》(p.104)

図形や画像を作成し、印刷することができます。仮身や文字を埋め込むこともできます。

ブラウザ用紙《基本ブラウザ》(p.116)

インターネット上のウェブサイトを開覧できます。基本ブラウザに表示されている文章や図形を、そのまま基本文章編集や基本図形編集のウィンドウにドラッグして利用できます。

補足 基本ブラウザはフリーソフトです。

補足 フレームには対応していません。

メール管理・メール箱・メール用紙 《超漢字メール》(p.119)

インターネットに接続して、メールを送受信したり、メールを読み書きしたりできます。

計算用紙《基本表計算》(p.139)

表計算のソフトです。表を作成したり、計算式に従って自動的に計算させることができます。セルの中に多漢字を含む文字列を入力したり、仮身を置いたりできます。

カード用紙《マイクロカード》(p.126)

カード型データベースソフトです。カードの中に多漢字を含む文字列を入力したり、仮身を置いたりできます。

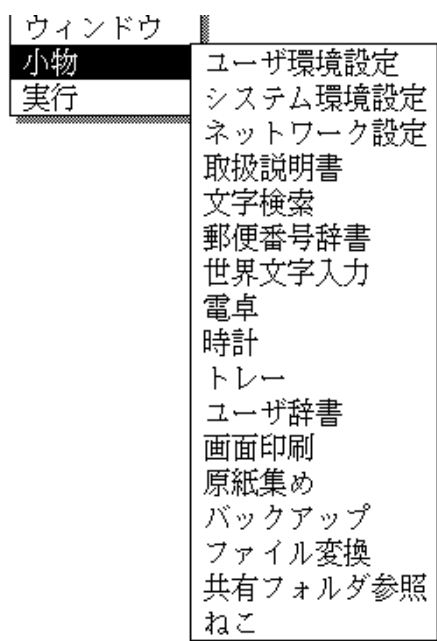
空書庫《書庫管理》(p.174)

超漢字上のデータを圧縮したり解凍したりできます。

補足 書庫管理はフリーソフトです。

6 小物

小物は、さまざまな機能の集まりです。[小物] メニューから簡単に起動できます。



ユーザ環境設定 (p.64)

文字の入力方式や、マウスの操作性、表示の設定などを調節できます。

システム環境設定 (p.68)

超漢字 V に接続されている機器の設定や、画面の設定を行います。また、アプリケーションや書体の登録や削除も行います。

取扱説明書 (p.58)

超漢字 V の機能を解説した電子マニュアルです。目次と索引から調べたい項目を探すことができます。仮身をダブルクリックして関連する項目を次々にたどることができます。

文字検索 (p.89)

超漢字 V に収録されているすべての文字の中から、目的の文字を探し出し、その文字の情報を閲覧できます。

郵便番号辞書 (p.131)

多漢字を使った郵便番号辞書です。住所から郵便番号を検索できます。逆に、郵便番号から住所を検索できます。

世界文字入力 (p.161)

通常のかな漢字変換では入力できない文字を入力するための小物です。その言語に対応したキー操作に切り替えて使うことができます。

トレー (p.14)

データを移動したり複写したりするときの一時的な格納場所です。この中には、文章、図形、仮身など、どんなデータでも複数格納できます。また、Windows との文章（文字列）の交換ができます。

ユーザ辞書 (p.100)

かな漢字変換に使うユーザ辞書を管理する小物です。複数のユーザ辞書を切り替えて利用できます。多漢字を使った人名や地名など、超漢字に収録されているあらゆる文字を使った単語を登録できます。

共有フォルダ参照 (p.49)

Windows の共有フォルダにファイルを保存したり、Windows とファイルを交換したりできます。

7 実身と仮身 (p.37)

実身は、作成したデータそのものを表します。

仮身は、実身を指すものです。実身の名前やピクトグラムなどを表示します。Windows のアイコンにあたります。

仮身は、いくつでも、どこにでも置けます。

原稿用紙 超漢字の特長は・・・

仮身複写

仮身を複写ドラッグすると、仮身だけを複写します。実身は複製されません。

Windows のショートカットのように、どちらの仮身を開いても、常に同じ実身がウィンドウに表示されます。



原稿用紙 超漢字の特長は・・・

原稿用紙 超漢字の特長は・・・

実身複製

仮身をクリックドラッグすると、まったく同じ内容の新しい実身を作成します。

Windows のファイルのコピーのように、それぞれの仮身からは、別々の実身を開くことになります。片方を変更しても、他方は元のままです。

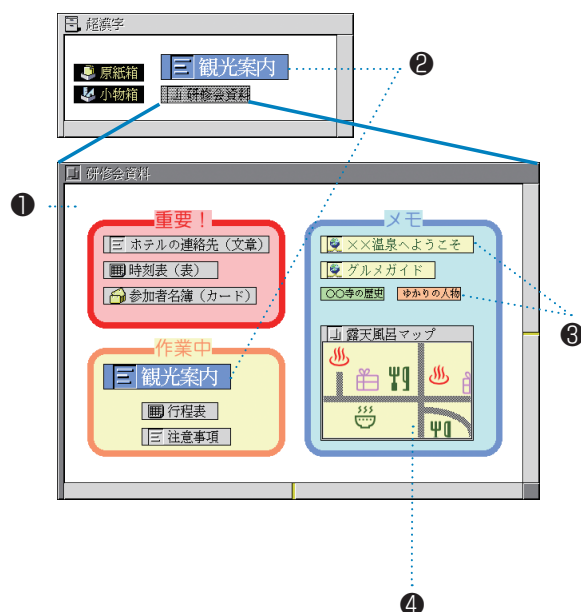


原稿用紙 超漢字の特長は・・・

原稿用紙 / 1 版 超漢字の特長は・・・

応用方法

- ① 仮身を基本図形編集で整理しています。
- ② よく使う仮身を初期ウィンドウに複写ドラッグしておくと、初期ウィンドウからも「研修会資料」のウィンドウからも、同じ内容を開けます。
- ③ 仮身の色や大きさを自由に変更できます。
- ④ 開いた仮身を使って、仮身の中に実身の内容を表示させておくことができます。



8 困ったときは

超漢字 V の操作について、わからないことがあったら、まずは「操作ガイド」と「取扱説明書」で調べてみると良いでしょう。「操作ガイド」は、超漢字 V の基本的な使い方や各種設定の方法をわかりやすく解説しています。「取扱説明書」は、超漢字 V のすべての機能について詳細に解説しています。

■「超漢字 V 操作ガイド」

Windows 用「操作ガイド」(PDF 形式) (p.4)

Windows 上で利用できます。

[スタート] — [すべてのプログラム] — [超漢字 V] —
[マニュアル] — [操作ガイド (PDF)]

■「取扱説明書」

取扱説明書小物 (p.58)

超漢字 V で利用できる取扱説明書です。

- (1) 超漢字 V のウィンドウ上で右クリックします。
- (2) [小物] メニューの [取扱説明書] を選びます。
- (3) 「目次」または「索引」から探したい項目を見つけて [表示] をクリックすると、該当する項目の説明を読むことができます。

Windows HTML ヘルプ (p.62)

Windows 上で利用できる取扱説明書です。

[スタート] — [すべてのプログラム] — [超漢字 V] —
[マニュアル] — [取扱説明書 (ヘルプ)]

PDF (p.62)

Windows 上で利用できる取扱説明書です。

[スタート] — [すべてのプログラム] — [超漢字 V] —
[マニュアル] — [取扱説明書 (PDF)]

HTML (p.62)

Windows 上で利用できる取扱説明書です。

[スタート] — [すべてのプログラム] — [超漢字 V] —
[マニュアル] — [取扱説明書 (HTML)]

ユーザサポート (『超漢字 V インストールガイド』 p.45)

超漢字ウェブサイト ユーザサポートページ

<http://www.chokanji.com/support.html>

パーソナルメディア株式会社 TRON サポートセンター

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル

E-mail tron-support@personal-media.co.jp (ご利用方法に関するお問い合わせ)

change@personal-media.co.jp (ユーザ登録内容の変更のご連絡)

FAX (03)5759-8306

超漢字 V 操作ガイド

2006 年 10 月 初版 1 刷発行

2007 年 3 月 初版 2 刷発行

2011 年 10 月 2 版 1 刷発行

発行：パーソナルメディア株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル

TRON サポートセンター

FAX：(03) 5759-8306

E-mail：tron-support@personal-media.co.jp

URL： <http://www.chokanji.com/support.html>

